

平成27年度佐賀県小・中学校学習状況調査〔12月調査〕
結果報告

平成28年2月1日(月)

佐賀県教育委員会

－ 目 次 －

I	調査の実施概要	1
II	教科に関する調査結果の概要	4
III	教科ごとの調査結果とその分析	13
	◎国語	
	1 小学校国語	14
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	2 中学校国語	28
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	◎社会	
	1 小学校社会	38
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	2 中学校社会	52
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	◎算数・数学	
	1 小学校算数	62
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	2 中学校数学	76
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	◎理科	
	1 小学校理科	86
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	2 中学校理科	100
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	
	◎英語	
	1 中学校英語	110
	(1) 各学年の調査結果	
	(2) 調査結果の分析	
	(3) 改善のポイント	

【補足資料】

○教科に関する調査についての各種グラフ

I 調査の実施概要

1 調査の目的

学習指導要領に示されている目標や内容の定着状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が連携・協力し、実施する。

※ [4月調査]及び[12月調査]における調査の目的を示している。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

2 調査実施日

小・中学校とも平成27年12月8日(火)、9日(水)

3 調査内容

- 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・小4、小5、小6 国語、社会、算数、理科
 - ・中1、中2 国語、社会、数学、理科、英語

4 調査方法

- 教科に関する調査
 - ・小学校 各教科とも45分 各学校で時間を設定して実施。
 - ・中学校 各教科とも50分 各学校で時間を設定して実施。

5 調査の成果指標

- 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注1、2〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の2つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」の基準を超えることを目指している。

6 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	162	第4学年	7,394
		第5学年	7,609
		第6学年	7,746
中学校	91	第1学年(県立中学校を含む)	7,562
		第2学年(県立中学校を含む)	7,770
特別支援学校	6	小学部第4学年	4
		小学部第5学年	4
		小学部第6学年	4
		中学部第1学年	3
		中学部第2学年	6
		計	38,102

※ 調査人数については、各教科の調査を受けた児童生徒数のうち、最大の数を調査人数として示しています。

〔注1〕到達基準について

佐賀県では、平成19年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較が可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法の考え方に沿って、小問毎に「期待正答率」を設定し、それを集約して設定している。「期待正答率」とは、問題の特性や難易度に応じて判断した、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、小問ごとに「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

○「十分達成」は、学習内容の習得が十分であると判断される基準

○「おおむね達成」は、最低限これを上回ることが必要であると判断される基準

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、この到達基準を基に、各学校においては、調査結果に基づいて自校の取組を検証し、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法について

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年で是非とも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■ 修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■ 校種別期待正答率

(注) 上段の数値は「十分達成」、下段の数値は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難
小学校	基礎的・基本的	(A) 0.85(85%) 0.65(65%)	(B) 0.80(80%) 0.60(60%)	
	発展的・応用的	(C) 0.75(75%) 0.55(55%)	(D) 0.70(70%) 0.50(50%)	(E) 0.65(65%) 0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A) 0.75(75%) 0.55(55%)	(B) 0.70(70%) 0.50(50%)	
	発展的・応用的	(C) 0.65(65%) 0.45(45%)	(D) 0.60(60%) 0.40(40%)	(E) 0.55(55%) 0.35(35%)

Ⅱ 教科に関する調査結果の概要

1 調査結果の概要

(1) 平成 27 年度[12 月調査]の結果

- 平成 27 年度[12 月調査]の到達状況を見ると、県で設定した到達基準(P2〔注1〕参照)に対して全ての学年・教科において「おおむね達成」の基準を上回っており、本県児童生徒の学習内容の習得状況は、おおむね良好であった。
- 中学 1 年生と中学 2 年生の英語が、「十分達成」の基準を上回っており、学習内容が十分習得されていた。

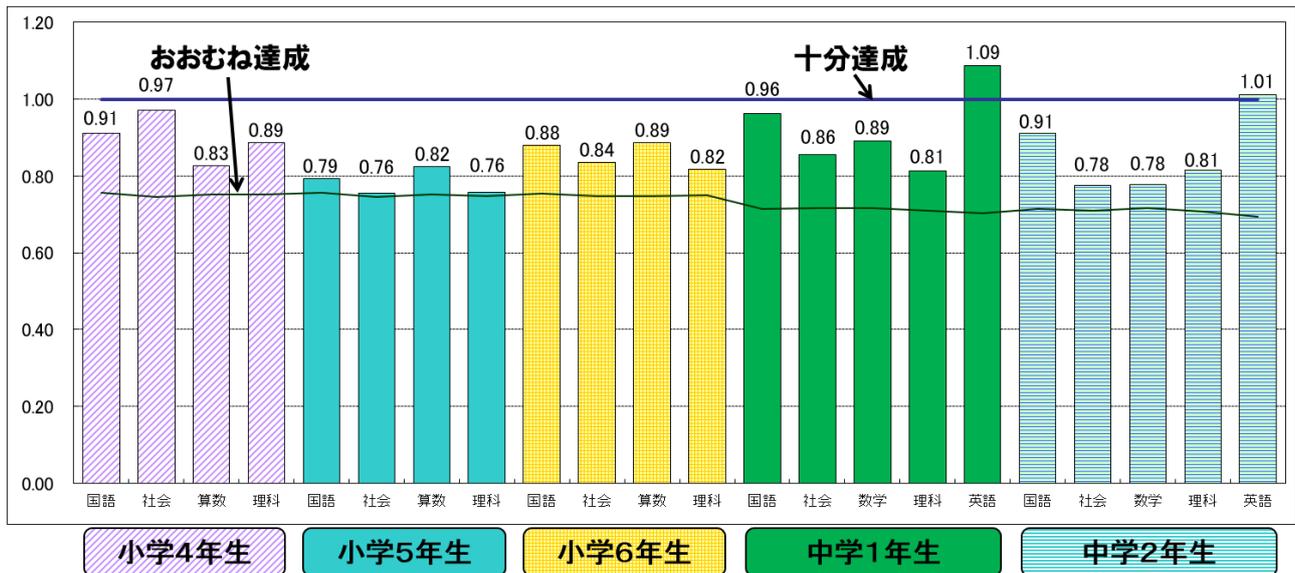
〔表 1〕各学年・教科の到達状況

教科	平成 27 年度[12 月調査]の到達状況				(参考)平成 26 年度[12 月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小4国語	74.7	81.9	61.9	0.91	67.6	78.9	58.9	0.86
小4社会	76.2	78.4	58.4	0.97	75.2	79.8	59.8	0.94
小4算数	66.8	80.8	60.8	0.83	71.9	81.2	61.2	0.89
小4理科	71.2	80.3	60.3	0.89	68.6	81.5	61.5	0.84
小5国語	64.9	81.9	61.9	0.79	73.4	79.2	59.2	0.93
小5社会	59.2	78.4	58.4	0.76	68.2	80.0	60.0	0.85
小5算数	66.3	80.4	60.4	0.82	66.8	80.6	60.6	0.83
小5理科	60.3	79.5	59.5	0.76	65.8	79.8	59.8	0.82
小6国語	71.3	81.0	61.0	0.88	72.9	79.3	59.3	0.92
小6社会	66.3	79.4	59.4	0.84	64.4	79.5	59.5	0.81
小6算数	70.3	79.3	59.3	0.89	68.8	79.4	59.4	0.87
小6理科	65.1	79.7	59.7	0.82	70.8	79.7	59.7	0.89
中1国語	67.5	70.2	50.2	0.96	72.7	71.0	51.0	※1 1.02
中1社会	60.2	70.3	50.3	0.86	46.9	69.5	49.5	0.67
中1数学	62.9	70.6	50.6	0.89	63.7	70.5	50.5	0.90
中1理科	56.0	68.8	48.8	0.81	54.2	70.1	50.1	0.77
中1英語	73.1	67.2	47.2	※1 1.09	74.3	67.0	47.0	※1 1.11
中2国語	63.6	69.8	49.8	0.91	69.7	69.7	49.7	1.00
中2社会	53.4	68.8	48.8	0.78	44.3	69.3	49.3	0.64
中2数学	54.7	70.3	50.3	0.78	56.2	70.0	50.0	0.80
中2理科	55.9	68.6	48.6	0.81	45.6	69.7	49.7	0.65
中2英語	66.2	65.4	45.4	※1 1.01	59.3	65.6	45.6	0.90

※1 網掛けは、「十分達成」に対する割合が 1.00 を上回っている教科を示している。

[グラフ1] 平成27年度[12月調査]各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する割合

(十分達成=1.00)



(2) 平成27年度[4月調査]との比較

- 「十分達成」に対する割合が、平成27年度[4月調査]の割合を上回ったものは、9教科中5教科であった。

[表2] 国語、算数・数学、理科における各学年・教科の到達状況(平成27年度[4月調査]との比較)

教科	平成27年度[12月調査]の到達状況				平成27年度[4月調査]の到達状況			
	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)	県正答率 (a)	到達基準		「十分達成」に 対する割合 (a/b)
		十分達成(b)	おおむね達成			十分達成(b)	おおむね達成	
小5国語	64.9	81.9	61.9	※ ² ↑ 0.79	62.3	80.5	60.5	0.77
小5算数	66.3	80.4	60.4	0.82	65.2	79.3	59.3	0.82
小6国語	71.3	81.0	61.0	※ ² ↑ 0.88	※ ³ 66.9	※ ⁴ 78.9	※ ⁴ 58.9	0.85
小6算数	70.3	79.3	59.3	※ ² ↑ 0.89	※ ³ 61.3	※ ⁴ 77.2	※ ⁴ 57.2	0.79
小6理科	65.1	79.7	59.7	※ ² ↑ 0.82	60.4	78.5	58.5	0.77
中1国語	67.5	70.2	50.2	※ ² ↑ 0.96	73.1	81.3	61.3	0.90
中1数学	62.9	70.6	50.6	0.89	71.2	79.1	59.1	0.90
中2国語	63.6	69.8	49.8	0.91	67.8	71.6	51.6	0.95
中2数学	54.7	70.3	50.3	0.78	57.2	69.7	49.7	0.82

平成27年度[4月調査]においては、該当学年の前学年までの内容(中学1年生は、小学6年生までの内容)を、また、平成27年度[12月調査]においては、各教科が定める出題範囲までの内容を調査対象としている。

※² [表2]にある「↑」は、「十分達成」に対する割合が、平成27年度[4月調査]と比較して上回っていることを示している。

※³ 平成27年度[4月調査]の小6国語、小6算数、小6理科については、全国調査問題を県独自の基準で採点し、小6国語、小6算数は、A問題とB問題とを合わせて正答率を示している。

※⁴ 平成27年度[4月調査]の小6国語、小6算数、小6理科については、全国調査問題を利用しているが、参考のために、県独自に到達基準を設定している。

2 各教科の概要・指導のポイント(詳細については、Ⅲ章「教科ごとの調査結果とその分析」を参照)

【国語】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。
- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、言語についての知識・理解・技能の定着は、概ね良好であった。
- ・ 小学校では、内容・領域「書くこと」において、明確にするために、理由や事例を挙げて書くことや、明確に表現するために、文章の構成を考えて書くことには課題が見られた。
- ・ 中学校では、中学1年生において、記述式において課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 内容・領域「書くこと」の授業においては、相手意識、目的意識を明確にして書くことを学習目標として設定し、実態に応じて単元を構成する。また、単元の導入において、設定した学習目標や目標を達成するための学習方法などを共有し、単元の見通しをもたせる。
- ◎ 内容・領域「読むこと」や「話すこと・聞くこと」の授業においても、「書くこと」を効果的に取り入れた学習活動を設定するなどして、普段から児童生徒が書き慣れるようにする。

【社会】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。
- ・ 内容・領域別に見ると、小学校においては、小学5年生の「国土の様子」「食料生産の様子」以外は概ね良好であった。中でも、小学4年生の「地域の生産や販売」「地域社会の歴史」は良好であった。中学校の地理的分野においては、中学2年生の「世界の諸地域」「日本の地域構成」以外は、概ね良好であった。中でも、中学2年生の「世界と比べた日本の地域的特色」においては、良好であった。歴史的分野においては、全ての内容・領域で概ね良好であり、平成26年度[12月調査]から改善が見られた。
- ・ 評価の観点別に見ると、小・中学校共に観察・資料活用の技能(中学校は資料活用の技能)の定着は概ね良好であった。中でも、小学4年生は良好であった。しかし、社会的な思考・判断・表現において、小・中学校共に、社会的事象の意味などについて考えたことを、条件に合わせて説明することには課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 問題解決的な学習を取り入れた単元計画を行い、単元を通して知識、概念や技能を繰り返し活用させることを通して、学習問題(課題)の解決を図っていくことができるように指導を行う。指導のポイントは以下の3点である。
 - i 学習問題(課題)を設定すること。
 - ii 学習問題(課題)を解決するために、資料から読み取った情報を基に考えをもたせ、交流させること。
 - iii 調べて分かったことや考えたことを、自分の言葉で説明させたり、レポートにまとめさせたりすること。以上のポイントを取り入れた指導を行うことで、問題解決的な学習が充実し、思考力・判断力・表現力の高まり、知識、概念や技能の定着、指導内容の理解の深まりが期待できる。

【算数・数学】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。

- ・ 評価の観点別に見ると、数量や図形についての技能(中学校は数学的な技能)の定着については全ての学年において概ね良好であった。
- ・ 小学校では、示された情報を基に、知識や技能を実生活などの様々な場面において活用して考えることに課題が見られた。
- ・ 中学校では、事柄が成り立つ理由や求め方などを数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 示された情報を図や表などにまとめて整理したり、問題を解決するためにはどのような情報が必要なのかを考えたりするなど、問題場面を把握し、解決の見通しをもつ活動の充実を図る。
- ◎ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて問題を解決したり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりするなど、数学的な表現を用いて説明し伝え合う活動の充実を図る。

【理科】

《概要》

- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、概ね良好であった。
- ・ 小・中学校共に、全ての学年において、自然の事物事象に関する知識・理解の定着は、概ね良好であった。
- ・ 小・中学校共に、評価の観点「科学的な思考・表現」において、観察・実験の結果を分析して解釈することには課題が見られた。
- ・ 小・中学校共に、学習した事項を使って、身の回りの事象について説明することに課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 授業の導入での事象提示を行い、問題意識をもたせることで、児童生徒が主体的に問題解決に取り組むことができるような学習指導を工夫する。
- ◎ 実験・観察の結果をレポートにまとめ、発表し合う学習活動の充実を図る。その際、観察・実験の結果と考察を区別し、考察では結果を根拠として、目的（学習問題）に対応する考えを表現することができるように指導する。
- ◎ 学習したことを基に事象の説明をしたり、学んだことと身の回りの事象を関連付けて説明したりする活動の充実を図る。

【英語】

《概要》

- ・ 全ての学年において、良好であった。
- ・ 全ての学年において、内容・領域「聞くこと」は良好であり、学習内容が十分習得されている。
- ・ 全ての学年において、一般動詞を含む疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くことには課題が見られた。

《指導改善のポイント》

- ◎ 文法については、コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けた指導の充実を図る。
- ◎ 関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、英語の特質を理解させるための効果的な指導の工夫を行う。
- ◎ 読みの段階に応じた発問構成の工夫を行う。

3 地域別の状況

○ 地域及び市町名

地域名	市町名
佐 城	佐賀市、多久市、小城市
三 神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵 西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤 津	鹿島市、嬉野市、太良町

(1) 国語

- 県内5地域の国語の各学年の教科全体正答率の対県比は[表3]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、4学年中2学年で、4月調査と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ2]

[表3] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(国語)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐 城	三 神	東松浦	杵 西	藤 津	
小学4年生	H27[12月]	0.99	1.02	0.97	1.01	1.03	0.06
	H27[4月]	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H27[12月]	1.00	1.00	0.95	1.03	1.03	縮 0.08
	H27[4月]	1.02	1.00	0.93	1.00	1.06	▲ 0.13
小学6年生	H27[12月]	1.00	1.01	0.97	1.01	1.01	縮 0.04
	H27[4月]	1.01	1.01	0.96	1.00	1.01	0.05
中学1年生	H27[12月]	1.01	1.02	0.97	0.99	0.98	拡 0.05
	H27[4月]	0.99	1.02	0.98	1.02	0.99	0.04
中学2年生	H27[12月]	1.00	1.03	0.94	1.01	1.01	拡 0.09
	H27[4月]	0.98	1.03	0.96	1.02	1.02	0.07

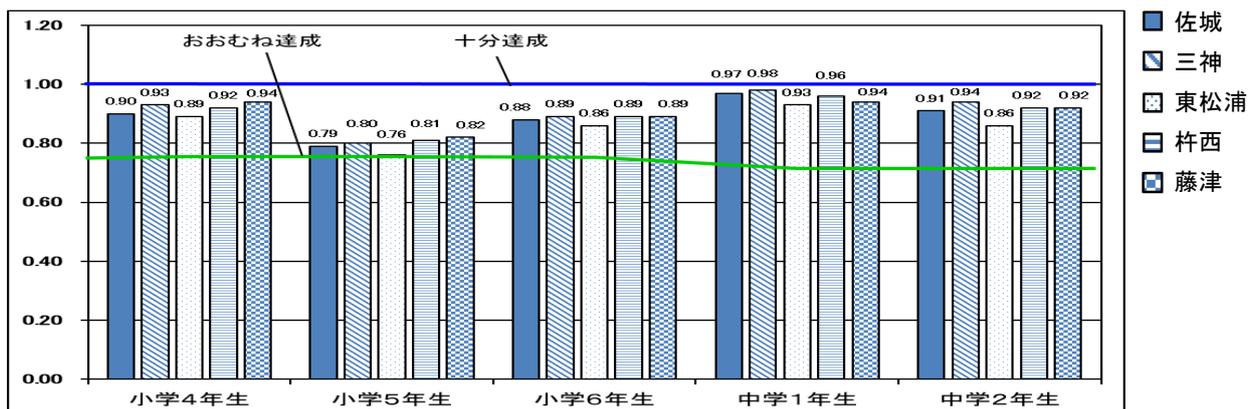
※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度[4月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ2] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(国語)
(十分達成=1.00)



(2) 社会

- 県内5地域の社会の各学年の教科全体正答率の対県比は[表4]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況は、4学年で、5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ3]

[表4] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(社会)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H27[12月]	0.99	1.01	0.99	1.01	1.02	拡 0.03
	H26[12月]	1.00	1.00	0.99	1.01	0.99	0.02
小学5年生	H27[12月]	0.99	1.02	0.96	1.01	1.04	縮 0.08
	H26[12月]	0.99	1.02	0.97	1.01	1.01	0.05
小学6年生	H27[12月]	1.01	1.00	0.98	1.00	1.02	縮 0.04
	H26[12月]	0.99	1.04	0.99	0.98	0.98	0.06
中学1年生	H27[12月]	1.00	1.04	0.92	1.00	1.08	▲ 拡 0.16
	H26[12月]	1.02	1.02	0.92	1.01	0.99	▲ 0.10
中学2年生	H27[12月]	0.99	1.05	0.93	1.01	1.00	▲ 拡 0.12
	H26[12月]	1.02	1.00	0.93	1.02	1.00	0.09

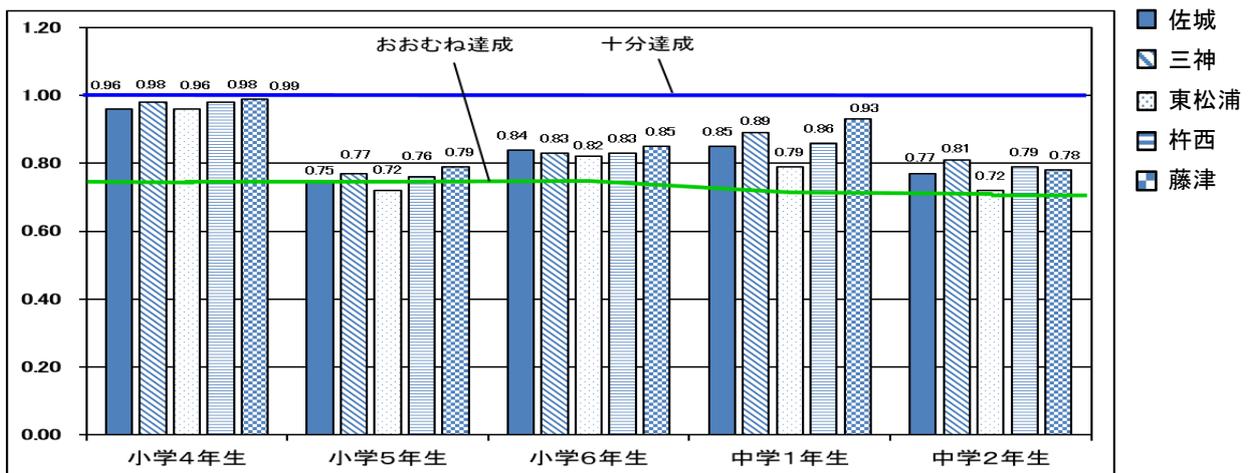
※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度[12月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ3] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(社会)
(十分達成=1.00)



(3) 算数・数学

- 県内5地域の算数・数学の各学年の教科全体正答率の対県比は[表5]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、4学年中3学年で、4月調査と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況は、4学年で、5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ4]

[表5] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(算数・数学)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H27[12月]	0.99	1.01	0.98	1.01	1.04	0.06
	H27[4月]	-	-	-	-	-	-
小学5年生	H27[12月]	1.01	1.00	0.95	1.01	1.03	縮 0.08
	H27[4月]	1.00	1.02	0.96	1.01	1.05	0.09
小学6年生	H27[12月]	1.00	1.00	0.99	0.99	1.03	拡 0.04
	H27[4月]	0.99	1.01	0.98	1.01	1.00	0.03
中学1年生	H27[12月]	1.01	1.03	0.94	0.98	1.03	拡 0.09
	H27[4月]	1.00	1.03	0.99	0.99	0.98	0.05
中学2年生	H27[12月]	1.02	1.02	0.89	1.03	0.99	▲ 拡 0.14
	H27[4月]	1.02	1.03	0.91	1.02	0.98	▲ 0.12

※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

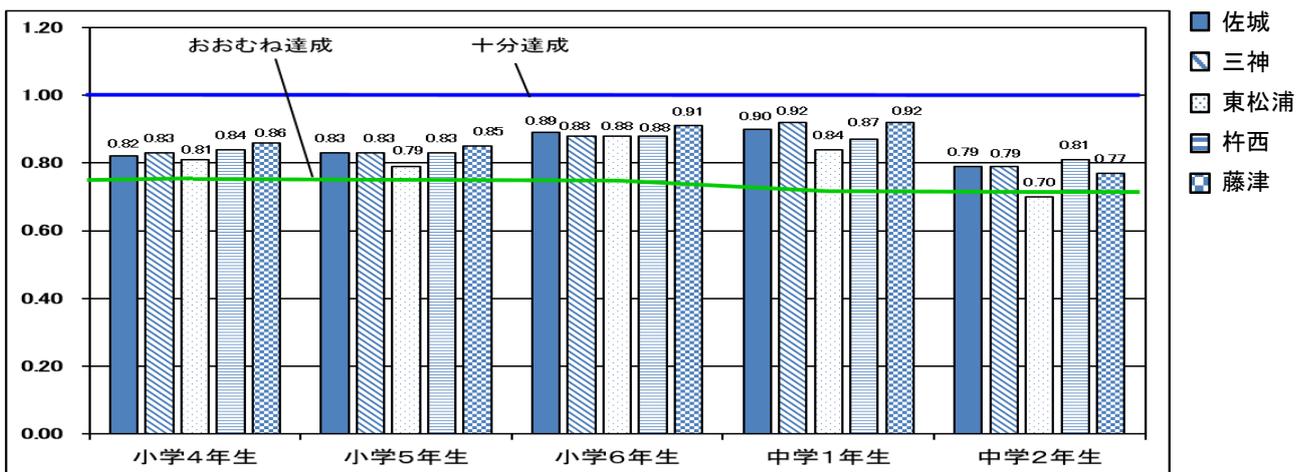
※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成27年度[4月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ4] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況

(算数・数学) (十分達成=1.00)



(4) 理科

- 県内5地域の理科の各学年の教科全体正答率の対県比は[表6]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、5学年中2学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する状況は、4学年で、5地域とも「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ5]

[表6] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(理科)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
小学4年生	H27[12月]	0.98	1.01	0.99	1.01	1.04	拡 0.06
	H26[12月]	1.01	1.00	0.98	1.02	0.99	0.04
小学5年生	H27[12月]	1.00	1.02	0.95	1.01	1.02	0.07
	H26[12月]	1.01	1.02	0.95	1.01	0.99	0.07
小学6年生	H27[12月]	1.01	1.01	1.00	0.98	0.99	縮 0.03
	H27[4月]	1.01	1.01	0.97	1.01	0.97	0.04
中学1年生	H27[12月]	1.01	1.06	0.96	0.97	0.99	▲ 縮 0.10
	H26[12月]	0.98	1.04	0.92	1.03	1.06	▲ 0.14
中学2年生	H27[12月]	1.00	1.06	0.91	1.00	1.03	▲ 拡 0.15
	H26[12月]	1.02	0.98	0.94	1.05	0.98	▲ 0.11

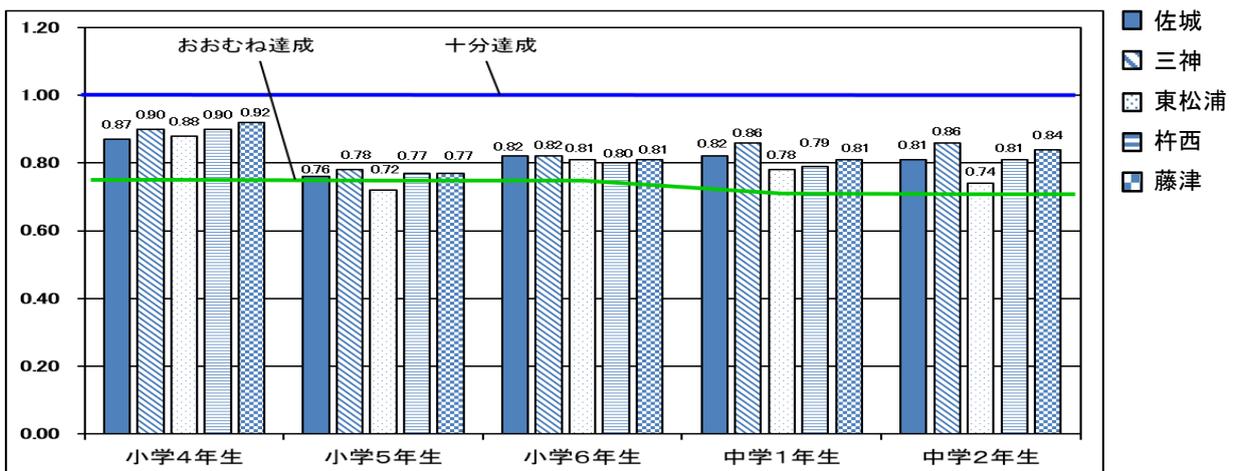
※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度[12月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ5] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(理科)
(十分達成=1.00)



(5) 英語

- 県内5地域の英語の各学年の教科全体正答率の対県比は[表7]のとおりで、依然として地域間の学力差が見られる状況にあり、中学1・2年生ともに地域差が0.10以上である。
- 各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域ともどちらの学年も「おおむね達成」の基準を上回り、中学1年生では、「十分達成」を上回った。[グラフ6]

[表7] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の対県比(英語)

学年	実施時期	対県比(地域別正答率/県正答率)					地域差
		佐城	三神	東松浦	杵西	藤津	
中学1年生	H27[12月]	1.00	1.05	0.95	0.98	1.00	▲ 縮 0.10
	H26[12月]	1.00	1.02	0.91	1.04	1.00	▲ 0.13
中学2年生	H27[12月]	0.99	1.04	0.90	1.04	1.06	▲ 拡 0.16
	H26[12月]	1.03	1.01	0.90	1.03	1.00	▲ 0.13

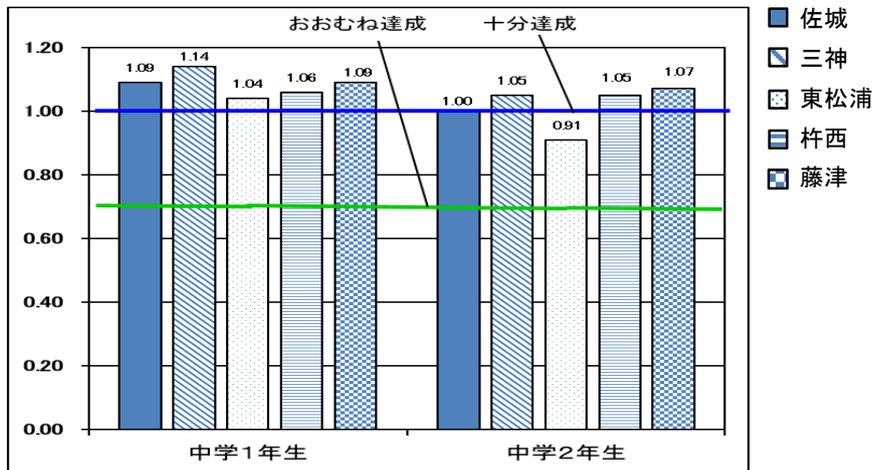
※ 「対県比」は、県正答率を1.00として算出

※ 「地域差」は、対県比の最大値と最小値の差を表す

※ 「▲」は、地域差が0.10以上の教科を示す

※ 「拡」は、平成26年度[12月調査]より地域差が拡大した教科を、「縮」は、縮小した教科を示す

[グラフ6] 県内5地域における各学年の教科全体正答率の「十分達成」に対する到達状況(英語)
(十分達成=1.00)



Ⅲ 教科ごとの調査結果とその分析

1 小学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化（読み）	伝統的な言語文化（書き）	伝統的な言語文化（知識）	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能							選択式
1	一	相手や目的に応じて適切な言葉遣いで話す	○				○				○			85.7	0.3	85	65	◎
1	二	聞き手を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方に気を付けて話す	○				○				○			87.5	0.3	85	65	◎
1	三	話の内容に関心をもって聞く	○				○				○			78.2	0.3	85	65	
1	四	話の内容に関心をもって聞き、分からない点や確かめたい点を質問する	○				○				○			83.7	0.5	80	60	◎
1	五	メモを基に、事例などを挙げながら話す	○				○				○	○		60.5	1.6	75	55	
2	一	相手や目的に応じて、計画を立てて新聞を書く		○				○			○			48.5	0.4	80	60	▼
2	二	目的に応じ、伝えたい事柄を分かりやすく書く		○				○			○			82.5	0.5	85	65	
2	三	書こうとすることの中心を明確にするために、理由や事例を挙げて書く		○				○			○			51.2	0.6	80	60	▼
2	四	間違いを正したり、よりよい表現に書き直したりするために推敲する		○				○			○			57.4	0.8	80	60	▼
2	五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして記事を書く		○				○				○		36.6	3.4	70	50	▼
3	一	登場人物の会話に即しながら読む			○				○		○			76.3	0.7	80	60	
3	二	行動、会話から登場人物の気持ちの変化を捉えて読む			○				○		○			79.2	0.7	85	65	
4	一	段落相互の関係を捉えて読む			○				○		○			68.4	1.2	80	60	
4	二	文章の内容を、中心となる文や語を捉えて読む			○				○		○			67.9	1.4	80	60	
4	三あ	中心となる語や文に注目して要点をまとめる			○				○		○			61.1	3.6	80	60	
4	三い	中心となる語や文に注目して要点をまとめる			○				○		○			73.9	4.1	80	60	
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「通る」				○				○	○			95.0	0.8	85	65	◎
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「笛」				○				○	○			96.3	1.0	85	65	◎
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「放送」				○				○	○			96.3	1.2	85	65	◎
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「茶色」					○			○	○			85.6	2.4	85	65	◎
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「決める」					○			○	○			81.8	3.0	85	65	
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「洋服」					○			○	○			65.0	3.1	85	65	
5	三	指示語の役割を理解する					○			○	○			94.1	1.2	80	60	◎
5	四	国語辞典の使い方を理解する						○		○	○			38.9	1.5	80	60	▼
5	五1	修飾と被修飾の関係を理解する						○		○	○			94.4	1.3	85	65	◎
5	五2	修飾と被修飾の関係を理解する						○		○	○			94.9	1.3	85	65	◎

② 小学5年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点				問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化(読み)	伝統的な言語文化(書き)	伝統的な言語文化(知識)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式						
1	一	話し手の意図を捉えながら聞く	○					○				○			70.0	0.2	85	65	
1	二	自分の立場を明確にして話す	○					○				○			85.0	0.2	85	65	◎
1	三	司会の役割に基づいて、話し合いを計画的に進める	○					○				○			46.2	0.4	85	65	▼
1	四	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する	○					○					○	○	44.6	4.7	75	55	▼
1	五	話し合いの意図を明確にしなが、計画的に話し合う	○					○				○			8.6	5.5	80	60	▼
2	一	目的や意図に応じて、見出しを書く		○					○			○			81.9	0.2	85	65	
2	二	文と文との意味のつながりを考え、接続語を使って書く		○				○				○			73.5	0.2	85	65	
2	三	書こうとするものの中心を明確にして書く		○					○			○			63.7	2.6	80	60	
2	四	自分の考えを明確に表現するために、文章の構成を考えて書く		○					○			○			62.7	0.8	85	65	▼
2	五	目的や意図に応じて、自分の意見を書く		○					○				○	○	58.7	3.7	65	45	
3	一	登場人物の相互関係を捉える			○					○		○			65.0	1.4	85	65	
3	二	優れた叙述に着目して、自分の考えをまとめる			○					○			○	○	43.5	6.5	65	45	▼
4	一	構成の仕方や叙述を捉える			○					○		○			35.6	2.4	85	65	▼
4	二	内容を的確に捉え、要旨をまとめる			○					○		○			33.0	2.8	85	65	▼
4	三	文章の内容を的確に捉え、表現の仕方に合わせてまとめる			○					○		○			52.5	3.6	80	60	▼
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「箱」				○						○	○		97.9	1.5	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「喜ぶ」				○						○	○		96.6	1.6	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「配管」				○						○	○		87.4	4.0	85	65	◎
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「列島」					○				○	○			45.4	12.7	85	65	▼
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「飛ぶ」					○				○	○			88.6	3.1	85	65	◎
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「観察」					○				○	○			64.1	6.2	85	65	▼
5	三	ことわざの意味を知り、適切に用いる						○			○	○			93.4	2.4	85	65	◎
5	四	漢字辞典を使い、読みや意味などを調べる						○			○	○			78.2	3.0	80	60	
5	五	文の構造を見て、二文に分ける						○			○	○			82.0	3.1	80	60	◎

③ 小学6年生

[表3]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況				
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化(読み)	伝統的な言語文化(書き)	伝統的な言語文化(知識)	話す・聞く能力	書く能力							読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式
1	一	話の要点をメモを利用し、明確に書き留める	○					○			○				47.0	0.1	85	65	▼
1	一	話の構成を工夫して話す	○					○			○				61.2	0.2	85	65	▼
1	二	進行の役割に基づいて、話し合いを計画に沿って進める	○					○			○				74.7	0.1	85	65	
1	三	話し手の意図を捉えて質問をする	○					○			○				65.2	0.1	80	60	
1	四	相手の発表を引用し、自分の考えをまとめて感想を話す	○					○				○	○		67.1	3.6	70	50	
2	一	目的や意図に応じて、記述の仕方について工夫する		○					○		○				85.4	0	85	65	◎
2	二	目的や意図に応じて、小見出しを書く		○					○		○				52.8	0.1	80	60	▼
2	三	文章の間違いを正し、よりよい表現にする		○					○		○				87.7	0.1	85	65	◎
2	四	自分の考えが明確に伝わるように、手紙を書く		○					○			○	○		40.5	5.0	65	45	▼
2	五	表現の曖昧さがないか文章を推敲する		○					○			○			58.5	2.8	80	60	▼
3	一	場面についての描写を捉える			○					○		○			59.7	2.1	85	65	▼
3	一	登場人物の行動を基に、場面についての描写を捉える			○					○		○			64.6	1.9	80	60	
3	二	優れた叙述について、自分の考えをまとめる			○					○		○	○		73.7	5.5	65	45	◎
4	一	構成の仕方や巧みな叙述などを捉える			○					○		○			74.6	2.0	85	65	
4	二	文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめる			○					○		○			50.9	2.6	80	60	▼
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「辺り」				○					○	○			92.8	1.2	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「常識」				○					○	○			93.8	1.9	85	65	◎
5	一	文脈に即して漢字を正しく読む「率いる」				○					○	○			96.1	1.6	85	65	◎
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「巢」					○				○	○			74.0	3.0	85	65	
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「混雑」					○				○	○			70.6	7.5	85	65	
5	二	文脈に即して漢字を正しく書く「群れる」					○				○	○			71.1	7.3	85	65	
5	三	慣用語の意味を理解する						○			○	○			85.8	2.4	80	60	◎
5	四	必要な語句について、辞書を利用して調べる						○			○	○			77.5	2.8	80	60	
5	五	敬語の使い方を理解する						○			○	○			86.7	2.8	80	60	◎

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 全ての学年の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1、グラフ8、グラフ16]
- 全ての学年において、評価の観点「言語についての知識・理解・技能」は、「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、小学4年生においては、正答率は84.3で、「十分達成」の基準84.0を0.3ポイント上回っている。[グラフ5、グラフ12、グラフ20]
- 内容・領域「書くこと」において、小学4年生の「明確にするために、理由や事例を挙げて書くこと」を問う設問、小学5年生の「明確に表現するために、文章の構成を考えて書くこと」を問う設問が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表1、表2]
- 平成27年度[4月調査]で課題として挙げられていた説明的な文章の設問については、小学校5年生では、全ての設問で「おおむね達成」の基準を下回っている。また、小学6年生でも「文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめること」を問う設問が「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。[表2、表3]

② 小学4年生

- 内容・領域「話すこと・聞くこと」において、「相手や目的に応じて適切な言葉遣いで話すこと」「聞き手を意識して、言葉の抑揚や強調、間の取り方に気を付けて話すこと」「話の内容に関心をもって聞き、分からない点や確かめたい点を質問すること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。[表1]
- 評価の観点「言語についての知識・理解・技能」において、「文脈に即して漢字を正しく読むこと」「指示語の役割を理解すること」「修飾と被修飾の関係を理解すること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。[表1]
- 内容・領域「書くこと」において、5問中4問で「おおむね達成」の基準を下回っている。特に「相手や目的に応じて、計画を立てて新聞を書くこと」「メモを基に、書こうとするものの中心を明確にして記事を書くこと」を問う設問が、「おおむね達成」の基準を10.0ポイント以上下回っており、課題が見られる。[表1]（4年生問2一、五）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問2 一	相手や目的に応じて、 計画を立てて新聞を書く (選択式)	新聞を作るときの順序に、正しく並べ替える。	48.5	0.4	80.0	60.0

- ・ 誤答・無回答の原因として考えられること
新聞作りの手順に対する理解が十分でなかったことや、新聞作りの手順を意識しないまま活動していることが考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
新聞作りの単元の導入の際に、学習をどのように進めていくのか、新聞にどのような内容を書いていくのかなど、児童に学習への見通しをもたせることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。
 - i 新聞作りの単元の導入の際に、課題設定、取材、構成、記述、推敲、交流といった学習の流れを説明し、学習への見通しをもたせる。その後、児童に新聞作りの計画を立てさせ

ることで、新聞作りの手順が理解できるようにする。さらに、学習の流れをいつでも確認することができるように、教室内に掲示しておく。

- ii 学習を進めていく中で、今、学習計画のどの位置にいるのか、次は何をするのかなど、進行状況を確認させながら計画的に授業を進めていくことで、学習の流れを常に意識させるようにする。
- iii 他教科等の学習において新聞作りをさせる際には、学習したことを振り返らせ、学んだことを活用させることで定着を図ることも考えられる。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問2 五	メモを基に、書こうとすることの中心を明確にして記事を書く (記述式)	メモを基に、条件に合わせて記事を書く。	36.6	3.4	70.0	50.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

新聞の様式に合わせて書くこと、メモから新聞記事へと書き換えることが十分ではなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

メモから必要な情報を取り出し、新聞記事の書き方に合わせて文章に書かせることが重要である。具体的には次のような指導が効果的である。

- i 授業を行う際に、書き直す前のメモと書き直した後の新聞記事のモデル文を示し、書き換える際に必要な観点「複数の内容を1つの文にして書く」「新聞記事にふさわしい書き方で書く」などを、全体で確認した上で、新聞記事を書かせるようにする。
- ii 完成した記事をグループで読み合い、観点に沿った記事になっているかどうかを相互評価させることで、自らが身に付けた力を実感させるとともに、友達の優れた表現の仕方を次の活動の参考にさせる。

③ 小学5年生

○ 評価の観点「言語についての知識・理解・技能」において、「文脈に即して漢字を正しく読むこと」「ことわざの意味を知り、適切に用いること」「文の構造をみて、二文に分けること」を問う設問は、全て「十分達成」の基準を上回っている。[表2]
● 平成27年度[4月調査]において課題として挙げられていた「聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問すること」を問う設問の正答率は44.6で、「おおむね達成」の基準55.0を10.4ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。[表2]（5年生問1四）
● 平成27年度[4月調査]において課題として挙げられていた説明的文章における設問では、全ての設問で「おおむね達成」の基準を下回っており、特に「構成の仕方や叙述を捉えること」を問う設問の正答率は35.6で、「おおむね達成」の基準65.0を29.4ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。[表2]（5年生問4一）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問1 四	聞いた事柄を基に、分からない点や確かめたい点を質問する (記述式)	友達の発表に対して、分からない点を質問する。	44.6	4.7	75.0	55.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

発表の内容を理解することができていても、発表された内容について自分の考えと比べ、共通点や相違点などを整理することができなかつたことが考えられる。

・ 改善・充実に向けて

相手の話の内容を十分聞き取らせること、話の内容について、自分の考えと比べ、共通点や相違点などについて整理させることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- i 話し手の目的や意図、伝えたい内容など、話を聞くときの観点を示すことで、聞き取る内容を明確にもたせるようにする。話を聞き終えた際には、話の内容を理解するうえで不十分と感じる内容について質問させるようにする。
- ii 話し合う際には、話合いのテーマに対する自分の考えを明確にするため、事前にノートなどに書かせておくことも効果的である。書いた内容と発表内容とを比べ、共通点や相違点などを整理させ、疑問に思ったことについて質問させるようにする。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問4 一	構成の仕方や叙述を捉える (選択式)	自分の考えを伝えるための筆者の表現の工夫を選択する。	35.6	2.4	85.0	65.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

表現の工夫についての理解が十分ではなかつたために、選択肢に示された工夫の1つ1つが、本文のどこに当たるのかを理解することができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

説明的な文章の指導においては、書かれている内容や意図を理解させるだけでなく、筆者の表現方法にまで目を向けさせていくことが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

- i 筆者の表現方法に対する気付きをノートなどに書いて発表させるだけでなく、グループで交流させ、筆者の多様な表現方法に触れさせることで、表現に対する考えを広げさせたり深めさせたりするような交流活動を取り入れる。
- ii 授業を進めていく際には、筆者が書いた別の本や同じテーマが書いてある本を準備したり、課題を調べるための本を準備したりする。さらに、授業中も本を読む時間を確保することで、児童が多様な表現方法に触れられるようにする。

④ 小学6年生

○ 内容・領域「書くこと」において、「目的や意図に応じて、記述の仕方について工夫すること」「文章の間違いを正し、よりよい表現にすること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。【表3】
○ 内容・領域「読むこと」において、「優れた叙述について、自分の考えをまとめること」を問う設問の正答率は73.7で、「十分達成」の基準65.0を8.7ポイント上回っている。【表3】
● 内容・領域「話すこと・聞くこと」において、「話の要点をメモを利用し、明確に書き留めること」を問う設問の正答率は47.0で、「おおむね達成」の基準65.0を18.0ポイント下回っており、課題が見られる。【表3】(6年生問1-1)
● 平成27年度[4月調査]において課題として挙げられていた、「文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめること」を問う設問の正答率は50.9で、「おおむね達成」の基準60.0を9.1ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。【表3】(6年生問4二)

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問1 -1	話の要点をメモを利用し、明確に書き留める (選択式)	発表の意図を捉えて、要点をまとめたメモを選択する。	47.0	0.1	85.0	65.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

日常の学習でメモを取ることは経験していると考えられるが、メモのよさや効果的なメモの取り方についての理解が十分ではなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

必要に応じて、調べたことの要点をメモし、メモを基に話合うことで、メモのよさや効果的なメモの取り方に気付かせる活動を行うことが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- i 説明や報告を聞くときなど、メモを取る活動を行う際に、メモを取るときの観点(話の要点、気付いたこと、連想したこと等)を明確にもたせてからメモを取らせることで、メモの取り方の自覚化を図る。
- ii メモを取った後に、児童同士でメモを取るときの観点を基によりよいメモとなるように話し合わせ、互いに助言をさせるようにすることで、互いにメモの内容を高め合わせる。
- iii 他教科や学校行事などでメモを取る機会を捉えて、メモを取る目的や、メモの取り方を確認し、書かれたメモを基に相互評価する活動を取り入れるなどして、定着を図ることも考えられる。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問4 二	文章の内容を的確に押さえて要旨をまとめる (選択式)	正しく書かれた文章の要旨を選択する。	50.9	2.6	80.0	60.0

・ 誤答・無回答の原因として考えられること

目的に応じ、文章の内容を適切に押さえながら要旨を捉えることが十分ではなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

要旨を捉えるには目的に応じて、何のために、どのようなことが必要なかを明確にした上で、文章の重要な点に即して的確に押さえ、求められている分量や表現の仕方などにまとめることが大切である。具体的には、次のような指導が効果的である。

- i 事実と意見を区別しながら読ませる発問、本文と資料などを比べながら読ませる発問、全体の構成を読ませる発問などを取り入れていくことで、文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方や巧みな叙述などに着目できるようにする。
- ii 多様な種類の文章を読み、要旨を捉える経験をくり返す。さらに、グループで交流させ多様な考えを知ることで、互いに要旨のまとめ方を高め合わせる。

(3) 改善のポイント

① 単元を通して言語活動を位置付ける授業を行っていくこと（４年生問２一）

- ・ 単元の指導計画を立案する段階で、教師が実際に言語活動を行ってみることが大切である。そうすることで、「身に付けたい力」がより具体的に明確になり評価計画等に生かすことができる。
- ・ 単元を設定する際は、単元を通して言語活動を位置付けるとともに、児童に学習課題の設定をさせたり学習計画を立てさせたりすることで、児童に目的意識をもたせることが大切である。

② 「書くこと」の授業の学習計画を児童と共に立てていくこと（４年生問２一、五）

- ・ 単元構成を考える際には、課題設定、取材、構成、記述、推敲、交流の学習の流れを、それぞれの学年や児童の実態に応じ、取り入れて組み立てていくことが大切である。
- ・ 学習課題を設定する際には、相手意識、目的意識を明確にした学習課題を設定することが大切である。そうすることで、伝える内容が明確になり、単元の最後の交流も学習課題が達成できているかという観点をもたせて、話合いを進めていくことができる。
- ・ 学習課題や単元計画は、児童との話し合いの中で立てていく。「書くこと」の単元の学習計画を児童と共に立てることで、児童が、書く相手や目的、方法を理解し、学習のゴールを見通して学習に取り組むことができる。

③ 「書くこと」に日常的かつ継続的に取り組ませること（４年生問２五）

- ・ 書くことを日常化させ、継続して取り組ませる際に、テーマを与えたり、書き出しや使える言葉を指定したりするなど、いろいろな文章の特徴に応じて、書くことができる力を付けるための計画的な指導が必要である。
- ・ 児童が書いた作品を、クラス全体に紹介したり授業の際のモデル文に使ったりするなどして、子どもたちの目に留まるようにする。そうすることで、児童がお互いによりよい表現を取り入れていけるようにする。

④ 児童が、自分の考えを広げたり深めたりする話合いを授業に取り入れること（４年生問２五、５年生問１四、問４一、６年生問１一、６年生問４二）

- ・ 話合いの際は、伝え合うだけの時間にならないように、「グループの考えを１つにするのか」「よいと思うものを１つ選ぶのか」「自分の考えに書き加えていくのか」など、話し合いの進め方を児童に理解させておくことが大切である。
- ・ 話合いの形態は、座席の近くで話し合わせたり、全員が自由に動いて話し合わせたりするなど、目的に応じて取り入れていくことが大切である。
- ・ 話合い活動は、話合いの内容を振り返らせる活動も大切だが、話合いの方法自体を振り返らせ、話合いの質を高める活動も大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

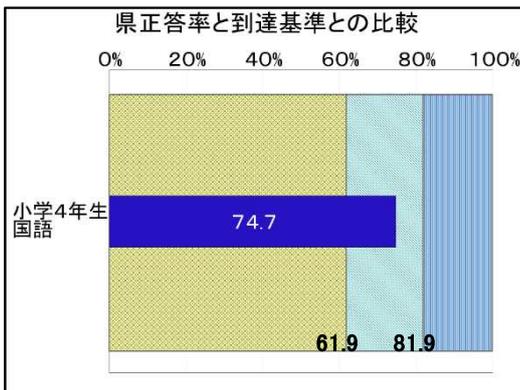
佐賀県教育センターでは、授業に役立つ実践研究として、国語科の「学習プリント」や「授業指導案」を提供しています。国語の授業や国語に関するスキルタイム、家庭学習などで使用することを目的としたプリントです。基礎・基本的な力を身に付けるプリントや、身に付けた知識・技能を学校生活や日常生活場面で活用する力を付けるためのプリントがあります。

３月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「読むこと」領域の授業改善について Web アップの予定です。ぜひ、ご活用ください。

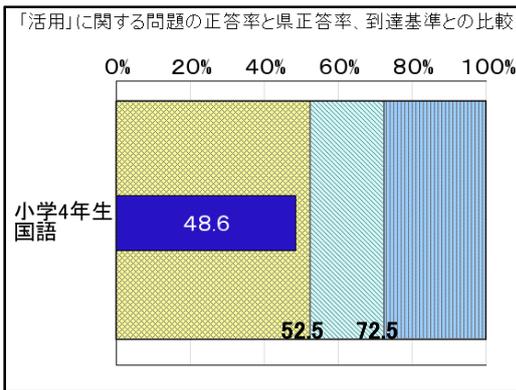
<資料>

① 小学4年生

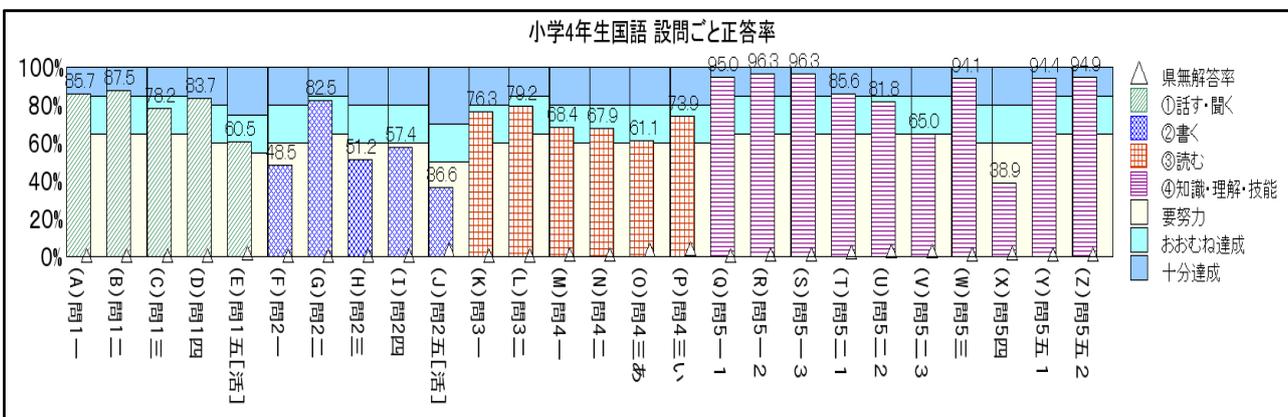
[グラフ1]教科全体正答率



[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



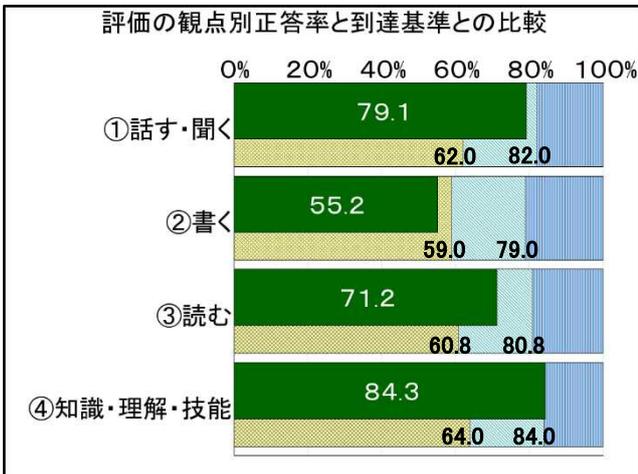
[グラフ3]設問ごと正答率



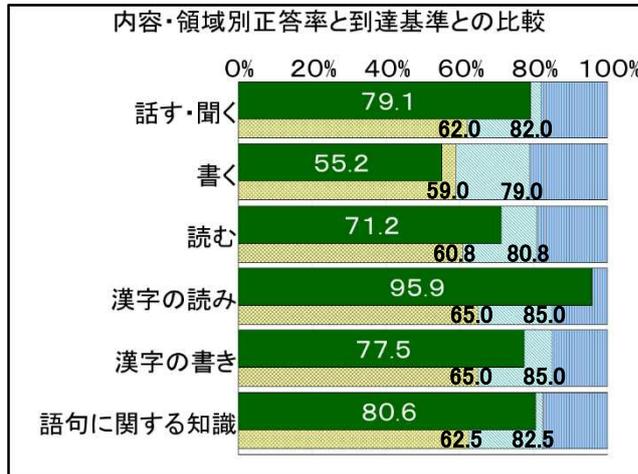
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率

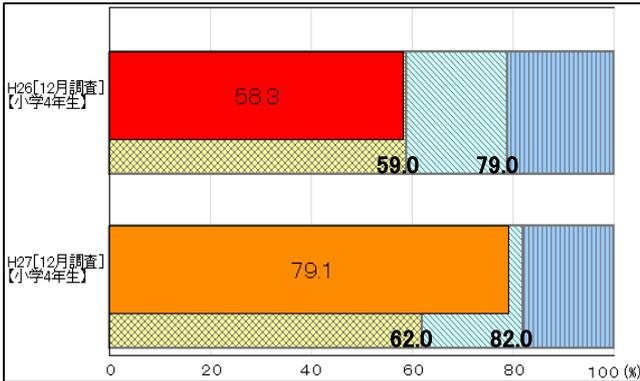


[グラフ6]内容・領域別正答率

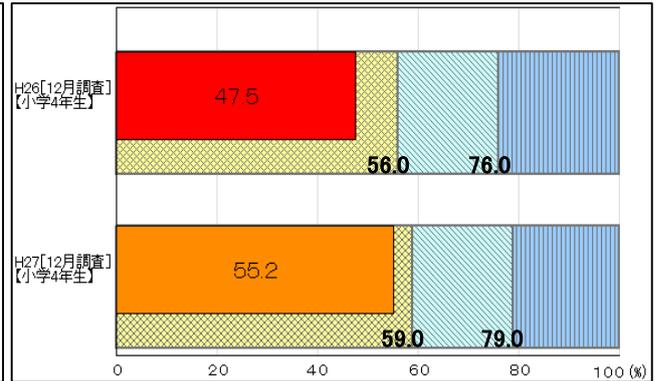


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

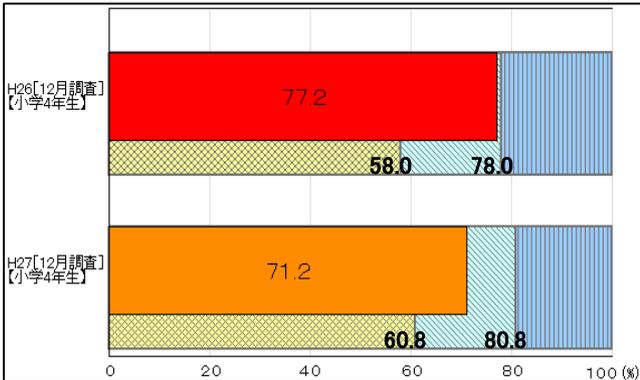
話す・聞く能力



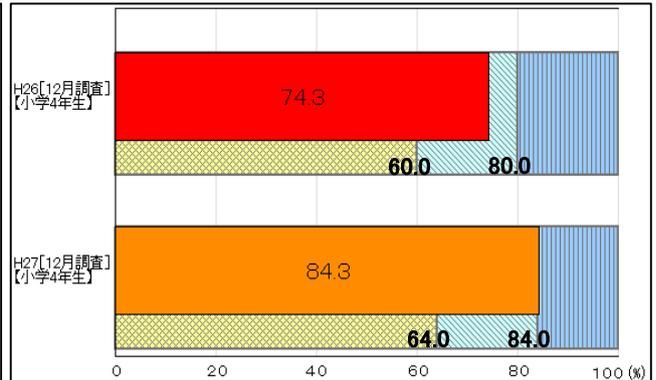
書く能力



読む能力

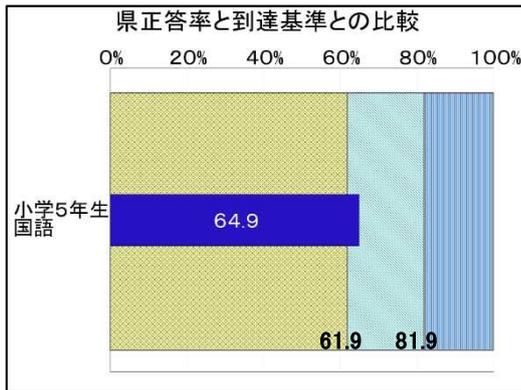


言語についての知識・理解・技能

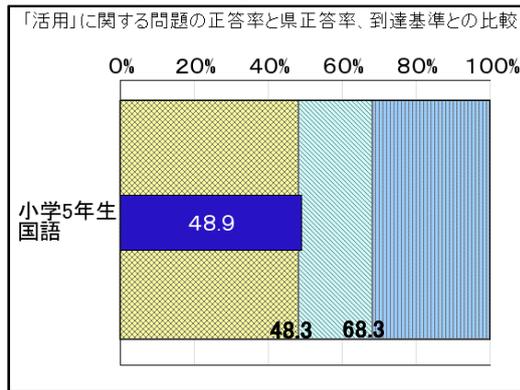


② 小学5年生

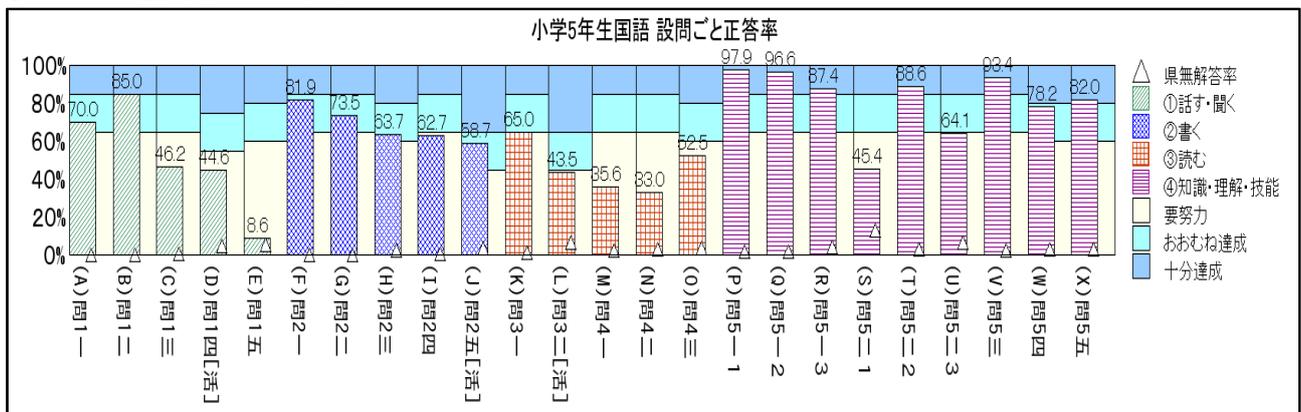
[グラフ8] 教科全体正答率



[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



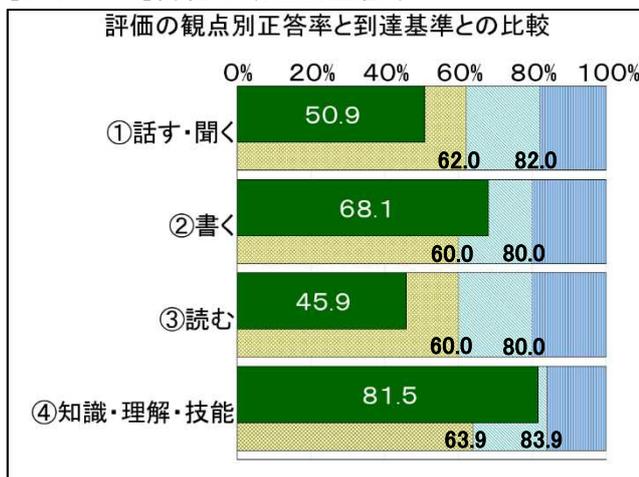
[グラフ10] 設問ごと正答率



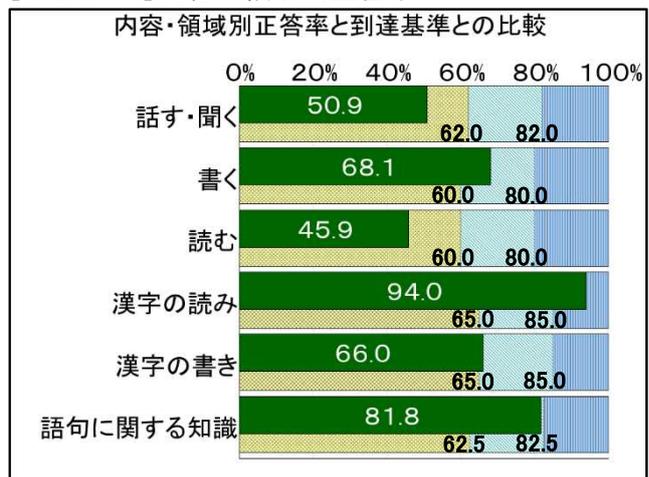
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 評価の観点別正答率



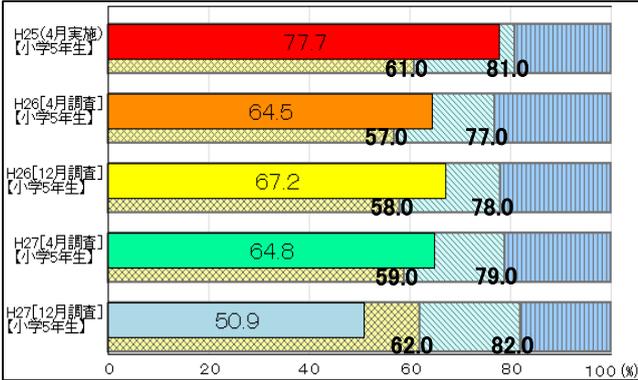
[グラフ13] 内容・領域別正答率



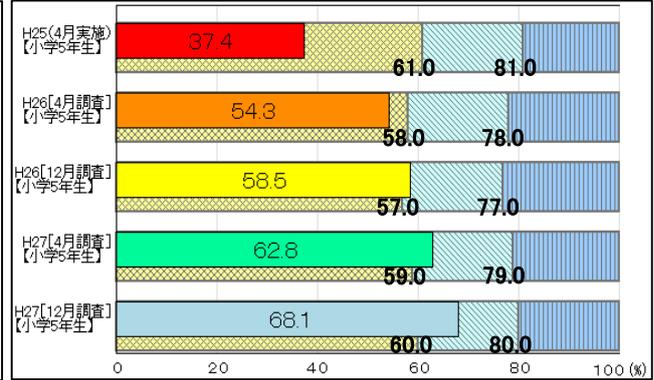
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、小学 4 年生までの内容で調査。

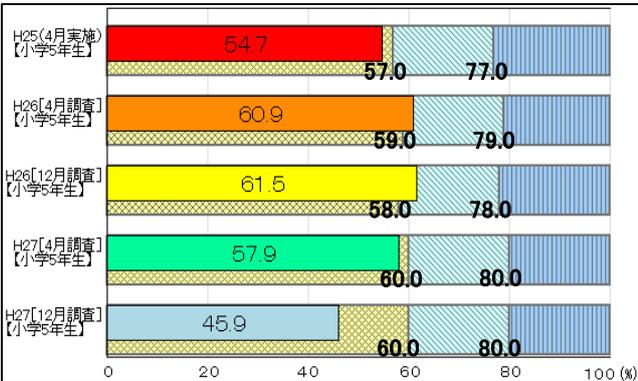
話す・聞く能力



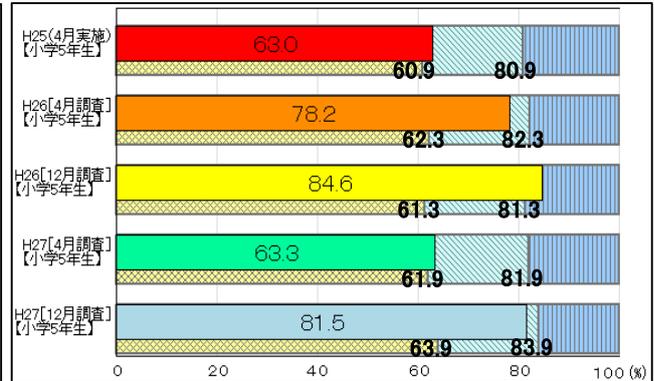
書く能力



読む能力



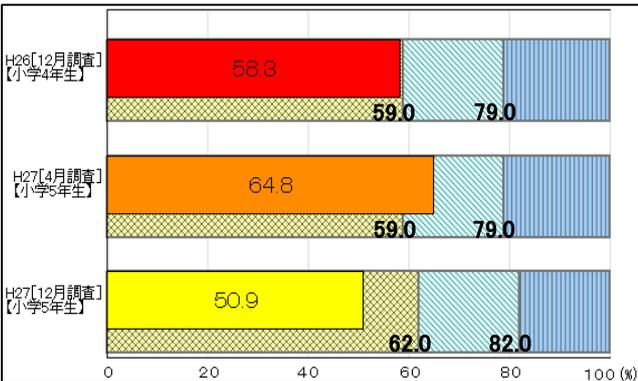
言語についての知識・理解・技能



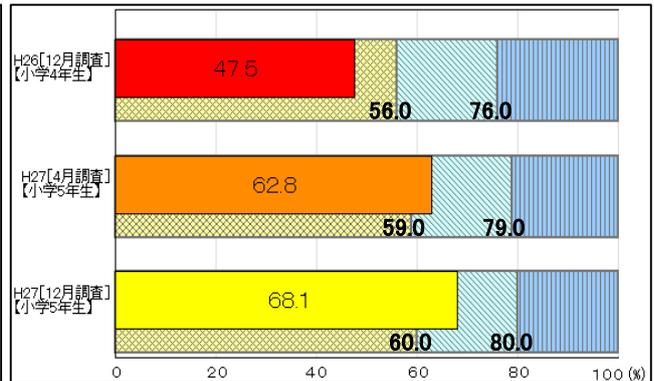
[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

※ 平成 27 年度[4 月調査]は、小学 4 年生までの内容で調査。

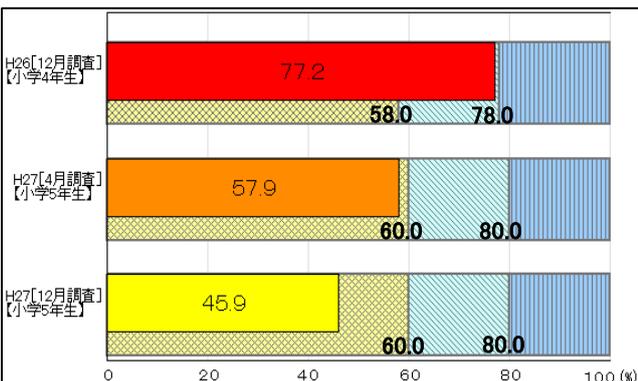
話す・聞く能力



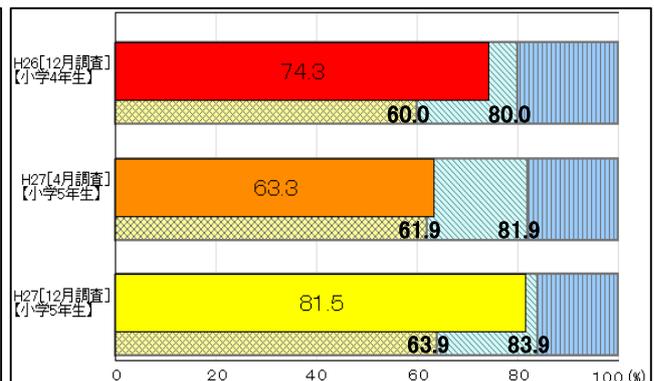
書く能力



読む能力

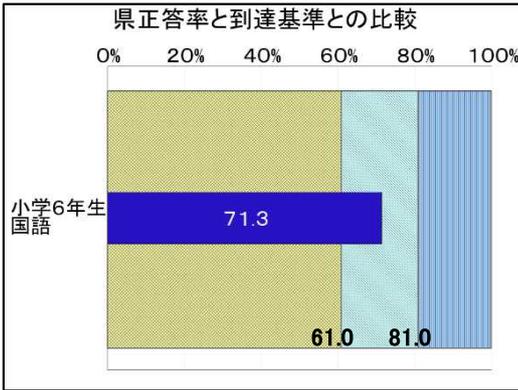


言語についての知識・理解・技能

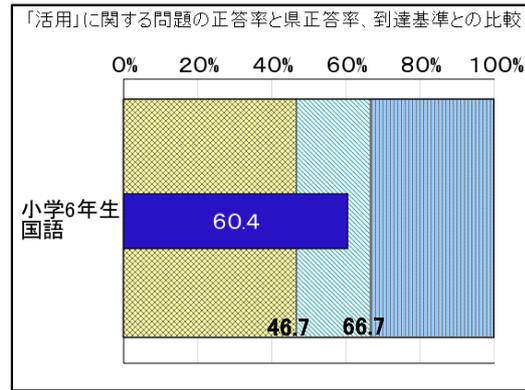


③ 小学6年生

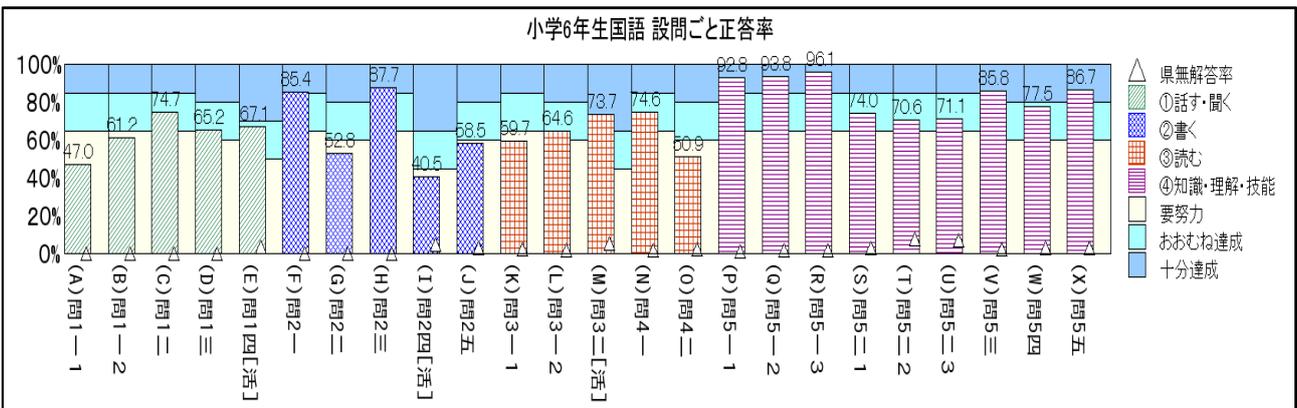
[グラフ16]教科全体正答率



[グラフ17]「活用」に関する問題の正答率



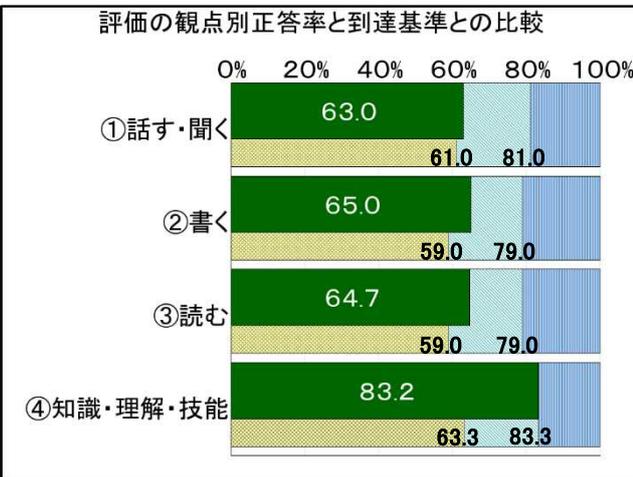
[グラフ18]設問ごと正答率



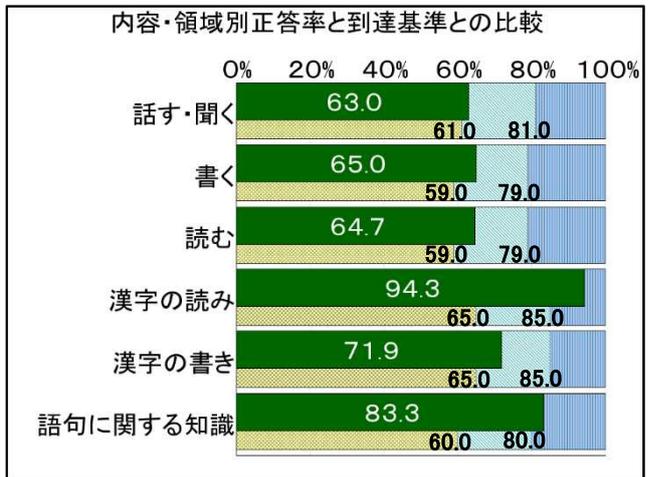
[グラフ19]教科正答数度数分布



[グラフ20]評価の観点別正答率



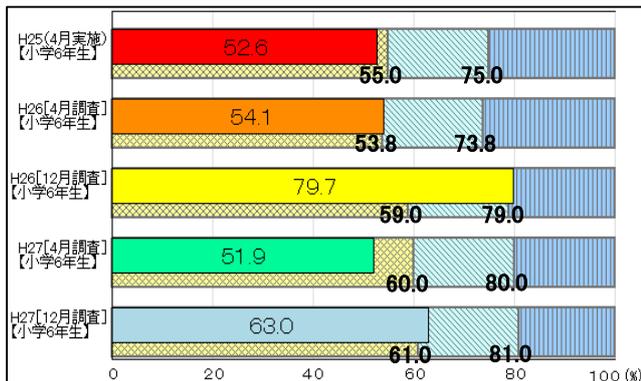
[グラフ21]内容・領域別正答率



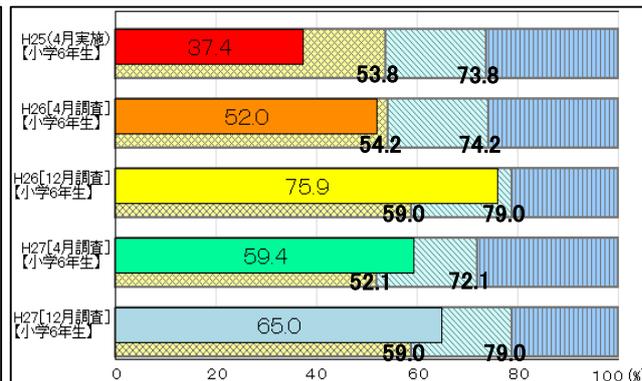
[グラフ 22] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、小学 5 年生までの内容で調査。

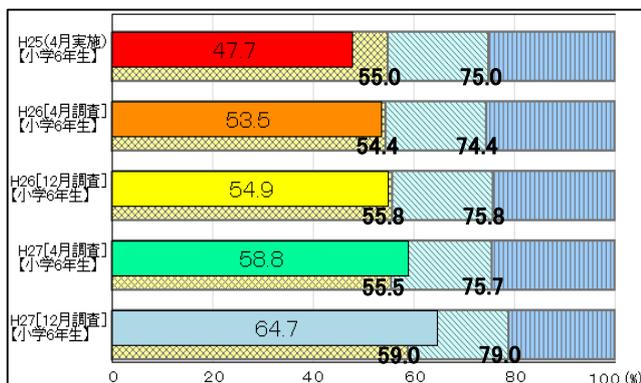
話す・聞く能力



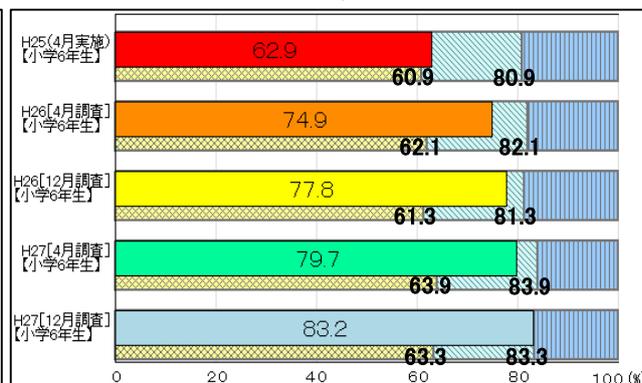
書く能力



読む能力



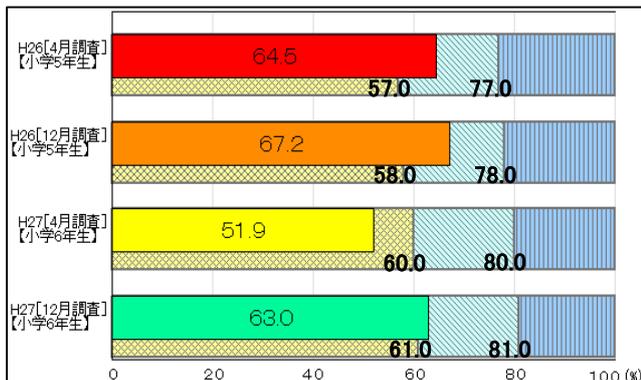
言語についての知識・理解・技能



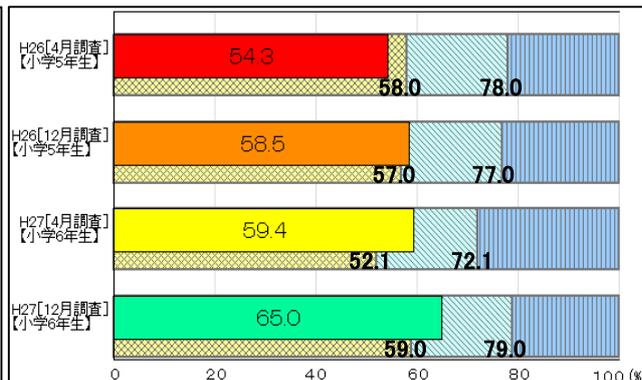
[グラフ 23] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

※ 平成 26 年度[4 月調査]は小学 4 年生までの内容、平成 27 年度[4 月調査]は小学 5 年生までの内容で調査。

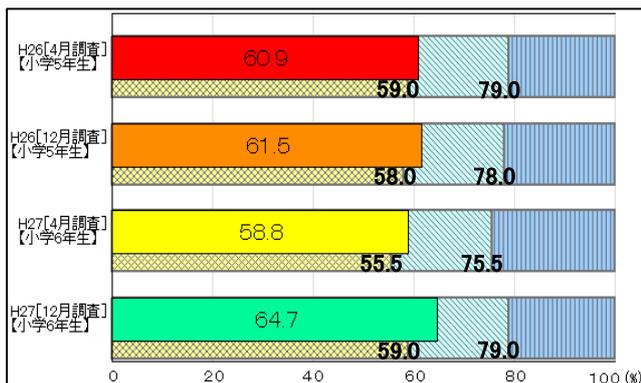
話す・聞く能力



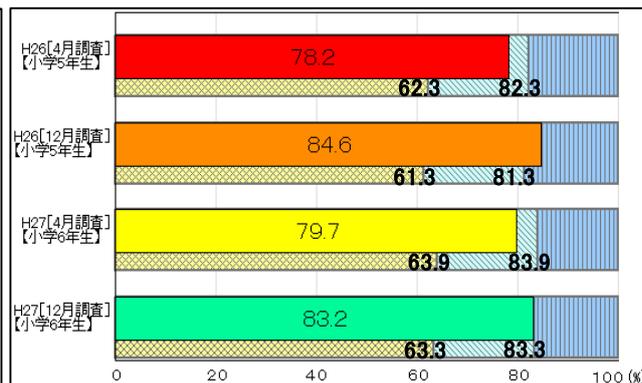
書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能



2 中学校国語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化（読み）	伝統的な言語文化（書き）	伝統的な言語文化（知識）	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式							短答式
1	一	話し手が伝えたいことを理由も含めてしっかりと聞く	○					○				○			68.8	0.3	70	50	
1	二	司会の役割を理解して進行する	○					○				○			89.3	0.2	75	55	◎
1	三	話合いの話題や方向を踏まえた上で話す	○					○				○			62.3	0.2	70	50	
1	四	伝えたいことを明確にし、筋道を立てて話す	○					○				○			85.4	0.2	70	50	◎
1	五	話し合ったことを整理して話を構成し、相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話す	○					○					○	○	37.0	7.0	60	40	▼
2	一	段落の役割を考えて文章を構成する		○					○				○		83.2	2.3	70	50	◎
2	二	表現の仕方についての助言を、自分の表現の参考にする		○					○				○		69.9	0.6	75	55	
3	一	自分の課題に合った材料を選ぶ		○					○				○		34.4	1.1	75	55	▼
3	二	伝えたい事柄について、自分の考えを根拠を明確にして書く		○					○				○	○	38.8	9.5	60	40	▼
3	三	語句の用法を確かめて、読みやすく分かりやすい文章にする		○					○						91.9	0.8	70	50	◎
4	一	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する			○					○			○		55.0	0.6	70	50	
4	二	文章の事実と意見などを読み分け、要旨を捉える			○					○			○		55.5	7.8	65	45	
5	一	描写に注意して読み、内容を理解する			○					○			○		86.5	1.3	75	55	◎
5	二	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			○					○			○		59.7	1.9	70	50	
5	三	情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつ			○					○			○	○	33.9	24.2	60	40	▼
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・日常生活)「徴収」				○						○		○	51.1	9.4	75	55	▼
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「傷む」				○						○		○	93.8	1.8	75	55	◎
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「削る」				○						○		○	95.0	1.5	70	50	◎
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語・他教科との関連)「定規」				○						○		○	86.5	1.4	70	50	◎
6	一	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「景色」				○						○		○	92.4	1.3	75	55	◎
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語・日常生活)「救急」					○					○		○	52.0	11.5	70	50	
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「預ける」					○					○		○	54.6	12.7	70	50	
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの熟語)「折れた」					○					○		○	82.0	11.0	70	50	◎
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「冷蔵庫」					○					○		○	49.7	10.3	70	50	▼
6	二	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「単純」					○					○		○	71.6	10.9	70	50	◎
6	三	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(言葉の単位)						○				○	○		79.8	1.3	70	50	◎
6	四	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解して書く						○				○	○		65.7	1.5	70	50	
6	五	故事成語の意味を文脈に即して理解している						○				○	○		73.4	2.2	75	55	
6	六	一	古典の作品について理解している					○				○	○		82.9	4.1	70	50	◎
6	六	二	歴史的仮名遣いについて理解している					○				○	○		43.5	2.0	70	50	▼

② 中学2年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況	
		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化(読み)	伝統的な言語文化(書き)	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式							記述式
1	一	話の構成や展開などを注意して聞く	○					○			○				59.9	0.3	75	55	
1	二	話合いの話題や方向を捉えて、自分の考えをまとめる	○					○			○				69.4	0.3	70	50	
2	一	資料を効果的に活用して説明する	○					○			○				70.3	0.5	70	50	◎
2	二	話の中心的な部分と付加的な部分などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す	○					○			○				71.6	0.6	70	50	◎
2	三	話の論理的な構成や展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する	○					○				○	○		51.7	5.1	65	45	
3	一	書くために必要な情報を集める		○					○		○				72.8	1.2	75	55	
3	二	意見が相手に効果的に伝わるように工夫して書く		○					○		○				81.6	1.6	75	55	◎
3	三	伝えたい事実や事柄を明確にして、文章の構成を工夫する		○					○		○				58.2	1.6	70	50	
3	四	書いた文章を読み返し、語句の使い方に注意して推敲する		○					○			○			36.8	13.0	70	50	▼
3	五	伝えたい事実や意見について、自分の考えを明確にして書く		○					○			○	○		40.8	17.8	60	40	
4	一	文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け、内容を理解する			○					○		○			24.7	4.0	65	45	▼
4	二	文章全体と部分との関係を考えて、内容を理解する			○							○	○		70.0	4.3	65	45	◎
5	一	場面の展開や登場人物の言動の意味を考えて、内容を理解する			○					○		○			75.5	1.8	70	50	◎
5	二	表現の仕方について、書き手の意図を考える			○					○		○			53.5	2.1	70	50	
5	三	文章に表れている考え方について、自分の考えをもつ			○					○			○	○	35.3	28.5	60	40	▼
6	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「放る」				○					○	○			68.8	6.5	70	50	
6	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「集う」				○					○	○			85.3	5.3	75	55	◎
6	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「一切」				○					○	○			96.6	0.9	70	50	◎
6	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「激励」				○					○	○			61.6	7.9	70	50	
6	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓)「今朝」				○					○	○			94.4	2.1	75	55	◎
6	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「優勝」					○				○	○			87.5	3.3	70	50	◎
6	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「降りる」					○				○	○			83.1	7.4	70	50	◎
6	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「責任」					○				○	○			83.2	6.6	70	50	◎
6	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「従う」					○				○	○			65.5	17.5	70	50	
6	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語・同音異義語)「衛星」						○			○	○			69.0	8.9	70	50	
6	三1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の関係)						○			○	○			27.2	1.7	75	55	▼
6	三2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(単語の分類)						○			○	○			49.8	1.7	70	50	▼
6	四	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(類義語)						○			○	○			22.3	1.7	70	50	▼
6	五	行書の基礎的な書き方を理解して書く						○			○	○			95.2	2.2	70	50	◎
6	六1	歴史的仮名遣いについて理解している						○			○	○			61.1	4.4	75	55	
6	六2	主語を補って読む						○			○	○			81.1	7.1	70	50	◎
6	六3	文語のきまりの知識を生かして、会話文と地の文を読み分ける						○			○	○			29.7	8.2	65	45	▼

(2) 調査結果の分析 (「○」は成果、「●」は課題、()内は関係する設問を示す。)

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ1、グラフ9]
- 中学1年生及び中学2年生共に、評価の観点別正答率の全てにおいて「おおむね達成」の基準を上回っている。特に、中学1年生の「言語についての知識・理解・技能」においては、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ5、グラフ13]
- 記述式の設問において、中学2年生は4問中3問で「おおむね達成」の基準を上回っているが、中学1年生は全ての設問で「おおむね達成」の基準を下回っている。[表1、表2]
- 「活用」に関する問題において、中学1年生の正答率は36.6で、「おおむね達成」の基準40.0を3.4ポイント下回っている。特に「情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつこと」を問う設問の無解答率は24.2ポイントである。中学2年生の正答率は49.5で、「おおむね達成」の基準42.5を7.0ポイント上回っているが、「文章に表れている考え方について、自分の考えをもつこと」を問う設問の無解答率は28.5ポイントである。[グラフ2、表1、グラフ10、表2]

② 中学1年生

- 評価の観点「話す・聞く能力」の正答率は68.5で、「おおむね達成」の基準49.0を19.5ポイント上回っている。「司会の役割を理解して進行すること」「伝えたいことを明確にし、筋道を立てて話すこと」を問う設問については、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ5、表1]
- 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、5問中2問が「十分達成」を上回っている。5問中3問が「おおむね達成」を下回っていた平成27年度[4月調査]と比較すると改善が見られる。[表1]
- 「読むこと」領域の「描写に注意して読み、内容を理解すること」を問う設問の正答率は86.5で、「十分達成」の基準75.0を11.5ポイント上回っており、平成27年度[4月調査]と比較すると改善が見られる。[表1]
- 「話すこと・聞くこと」領域の「話し合ったことを整理して話を構成し、相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話すこと」を問う設問の正答率は37.0で、「おおむね達成」の基準40.0を3.0ポイント下回っている。[表1] (1年生問1五)
- 「読むこと」領域の「情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつこと」を問う設問の正答率は33.9で、「おおむね達成」の基準40.0を6.1ポイント下回っている。[表1] (1年生問5三)

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問1 五	話し合ったことを整理して話を構成し、相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話す (記述式)	学級会の内容を知らない担任の先生に、司会が報告をする。	37.0	7.0	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

学級会の内容を知らない担任の先生に報告をするという場面設定と示された3つの条件を踏まえて書くことができなかったと考えられる。または、話し合いで出た二つの意見とそれぞれの理由を整理して書くことができなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

本設問は、「話すこと・聞くこと」についての場面設定であるので、①話し合いで出た意見とその理由を整理して話を構成すること、②相手や場に応じた言葉遣いに気を付けて話すことの2点を踏まえる必要がある。普段の授業においても、「話す内容やその構成」と「話し方」の両方を取り上げた学習活動を仕組み、条件に合った内容の選択や構成、話し方について、生徒自身が考えて学習活動に取り組むことができるようにすることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問5 三	情景描写に注意して読み、登場人物の心情を捉え、自分の考えをもつ (記述式)	「小さな、小さな、虹をつくった」という表現に表れるなっちゃんの気持ちを想像して、文章の内容を踏まえて、自分の考えを書く。	33.9	24.2	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

出題の趣旨に沿って、なっちゃんの気持ちを想像して書くためには、場面設定を理解し、「小さな、小さな、虹をつくった」という表現に込められている意味を読み取り、そこに表れる心情を読み解く必要がある。本設問では、表現に込められている意味を読み取ることができなかつたために、問いに合った自分の考えを書くことができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

文学的な文章の内容理解を図るためには、人物や情景の「描写」など、表現の特徴に着目して文章を読む機会を設けることが大切である。その際、「描写」という学習用語のもつ意味についての理解を図り、それを手掛かりとして生徒が主体的に読むことができるように学習活動を仕組む。また、読み取ったことをまとめる際には、条件を示し、書く内容を明確にするとともに、そのことについて、感想にとどまらず自分の考えを書くように指導することが必要である。

文章の読み取りを一斉指導で行うだけでは、生徒自身で読解する力は身に付きにくいので、読解から自分の考えをまとめるまでを一連の学習活動として、生徒主体で取り組ませるようにすることも大切である。

③ 中学2年生

○ 「活用」に関する問題の正答率は49.5で、「おおむね達成」の基準42.5を7.0ポイント上回っており、4問中1問が「十分達成」の基準を上回っている。【グラフ10、表2】
○ 文脈に即して漢字を正しく書く設問では、5問中3問が「十分達成」の基準を上回っていた。全ての設問で「十分達成」の基準を下回っていた平成27年度[4月調査]と比べると、改善が見られる。【表2】
● 「書くこと」領域の「書いた文章を読み返し、語句の使い方に注意して推敲すること」を問う設問の正答率は36.8で、「おおむね達成」の基準50.0を13.2ポイント下回っている。【表2】(2年生問3四)
● 「読むこと」領域の「文章に表れている考え方について、自分の考えをもつこと」を問う設問の正答率は35.3で、「おおむね達成」の基準40.0を4.7ポイント下回っている。無解答率も28.5ポイントである。【表2】(2年生問5三)

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問3 四	書いた文章を読み返し、 語句の使い方に注意し て推敲する (短答式)	文章の下書きを読み 直して、不適切な表 現を適切な表現に書 き直す。	36.8	13.0	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

「すごく」という話し言葉が生徒の日常会話で身近に用いられていることから、書き言葉として不適切であることに気付くことができなかつたためと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

日頃から、書き言葉を指導する際には、「なので」「やっぱり」「ちゃんと」といったような話し言葉を用いないことや文頭には使わない言葉の確認をすることなど、丁寧な指導を心掛けることが必要である。また、教師自身も、学級通信などの記述に細心の注意を払うなど、授業外も含めた日々のきめ細やかな指導の積み重ねが、適切な言語環境を整えることや、生徒の適切な語彙の獲得につながっていることに留意したい。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問5 三	文章に表れている考え 方について、自分の考 えをもつ (記述式)	「ぼくの気持ちは明 るくなった」という 部分から、「ぼく」 の「曲馬団の親方」 に対する気持ちを、 文章中に書かれてい る内容を根拠にして 書く。	35.3	28.5	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

曲馬団の親方を憎らしく思っていた気持ちに変化するという問題文中の場面設定の条件を読み取れていなかったため、「ぼく」の「曲馬団の親方」に対する気持ちに絞って書くことができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

普段の授業において、一問一答や即答できるような発問だけでなく、まとまった考えを述べさせるような発問を工夫する。その際、前提条件を踏まえた読みを行わせたり、発問に対して適切な答え方ができるようにさせたりするなどの指導が大切である。また、文章を読む際には、必要な情報に線を引くなどの習慣を身に付けさせると効果的である。

文章を読んで内容を理解したことを書くこと、文章を読んで感じたことや考えたことを書くことについては、改善の傾向が見られる。しかしながら、文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをまとめることには、依然として課題がある。生徒が、「根拠を明確に」して、自分の考えを書いたり発表したりする場面では、自分の考えの根拠となる段落や文などを明らかにさせるような指導を行う必要がある。

書き手のものの見方や考え方について、「知識や体験と関連付けて自分の考えをもつ」ことについては、これまで身に付けてきた知識や様々な体験と関連付けて、賛否を明らかにしたり、問題点を指摘したりするなど、具体的なものに基づいて自分の考えを形成させることが大切である。書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして読む場面をつくり、普段から自分の問題として捉え、考えるようにさせると効果的である。

(3) 改善のポイント

○ 文章に表れているものの見方や考え方を読み取り、条件に合わせて、自分の考えを書く活動の充実を図ること（1年間5三、2年間5三）

- ・ 文章を読ませる際には、文章に書かれている書き手のものの見方や考え方に共感すること、疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりするなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げさせていくことが大切である。
- ・ 文章を読ませ、感じたことや考えたことを書かせた後は、対話や討論等を通して、意見の交流をさせ、自分の考えを広げさせるような機会を設けることが有効である。
- ・ 文章を読ませ、条件に合わせて自分の考えを書かせる際には、条件の読み取りに重点を置いたり、読み取ったことをどのように書けばよかったのかを書いた後に振り返らせたり、書いたことが条件に合っているかどうか確認させたりするような指導が効果的である。

○ 相手や目的、状況に応じて分かりやすく話す活動の充実を図ること（1年間1五）

- ・ 話合いの話題や方向を捉えて的確に話すためには、「誰と」「何について」話し合っているのかということや、「何のために」話し合っているのかを理解し、それに応じた話し方ができることが大切である。普段から少人数での話合いやグループ学習などの際にも、このことを意識して取り組ませることが有効である。
- ・ 相手に分かりやすく話すためには、伝える事柄や事実と、それに対する自分の考えや感想などを区別して話す必要がある。報告は、知らせたり伝えたりして情報を共有することが主な目的である。その際、相手はどのような情報を既にもっているのかを意識して話すようにさせるとよい。そのためには、より具体的かつ実際的な学習場面を設定した授業をつくることが大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

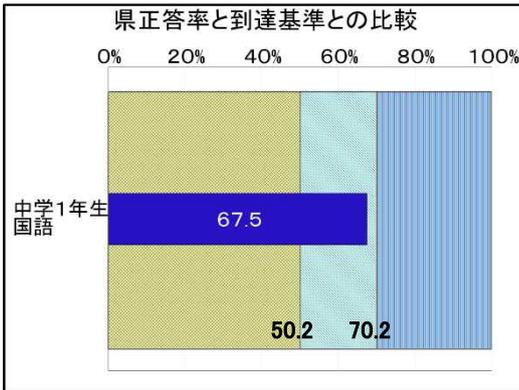
佐賀県教育センターでは、教育センターWeb ページにおいて、授業に役立つ実践研究として「学習プリント」を提供しています。プリントは、①基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせるための「知識・技能プリント」②学習したことが身に付いたかどうか確かめる「確認プリント」の2種類です。生徒の実態に合わせて、授業で取り扱ったり、家庭での自学自習用の教材として使ったりすることができます。関連の「手引き」（「生徒用手引き」に同じ）も提供しています。中学1年生から中学3年生まで生徒の実態に応じて適宜選択して、いろいろな場面でお使いください。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「読むこと」領域（文学的文章）の授業改善について、Web アップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

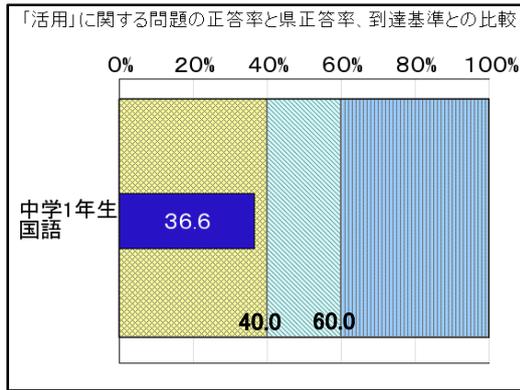
<資料>

① 中学1年生

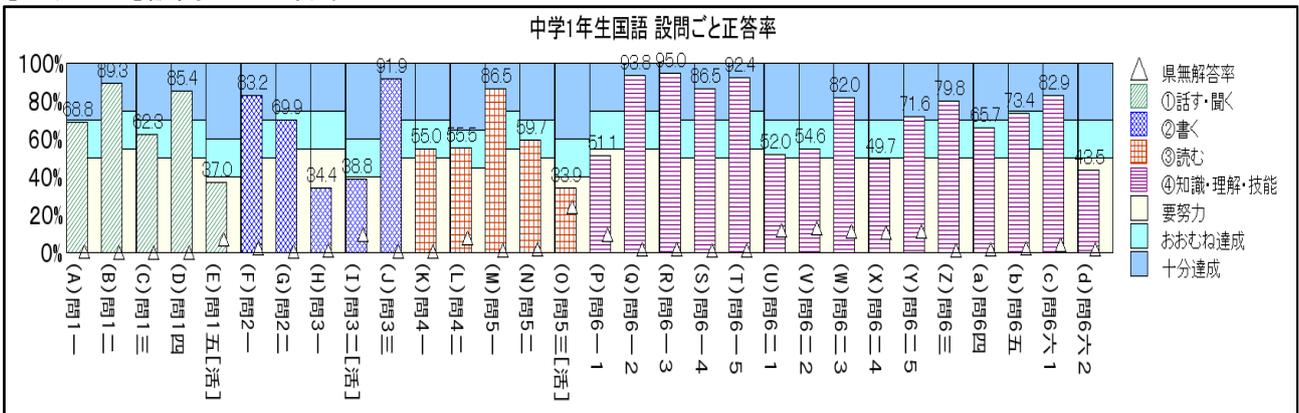
[グラフ1]教科全体正答率



[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



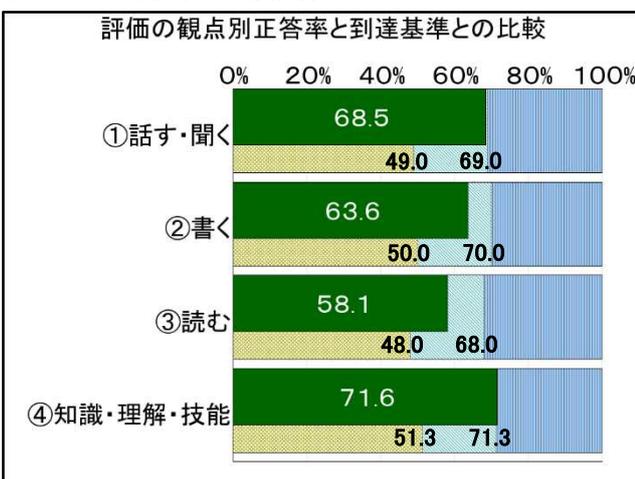
[グラフ3]設問ごと正答率



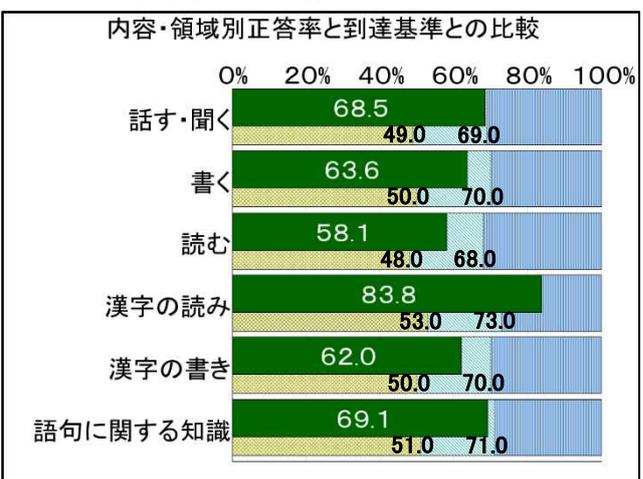
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率



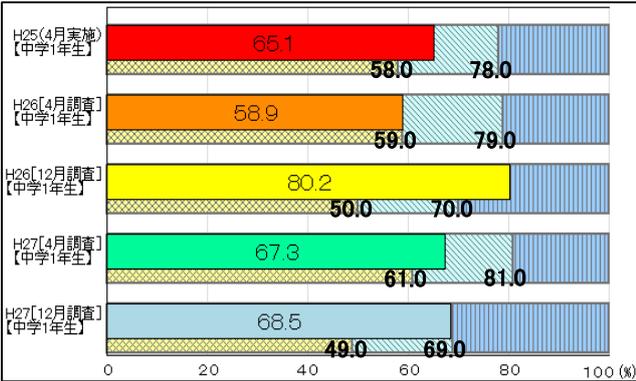
[グラフ6]内容・領域別正答率



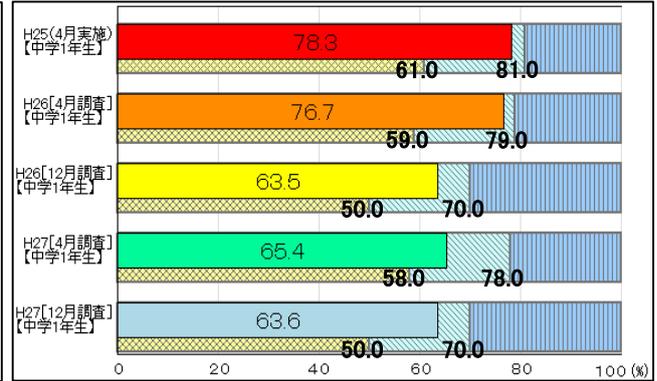
[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までと平成27年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

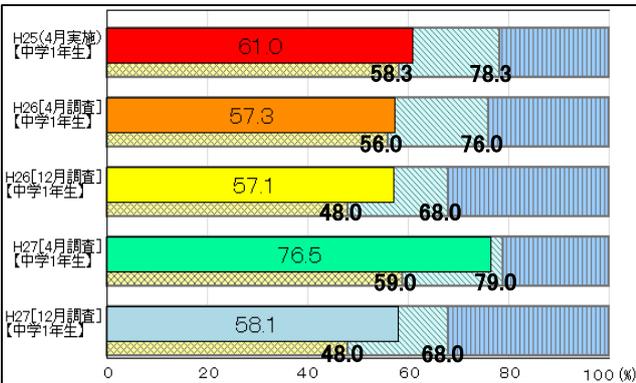
話す・聞く能力



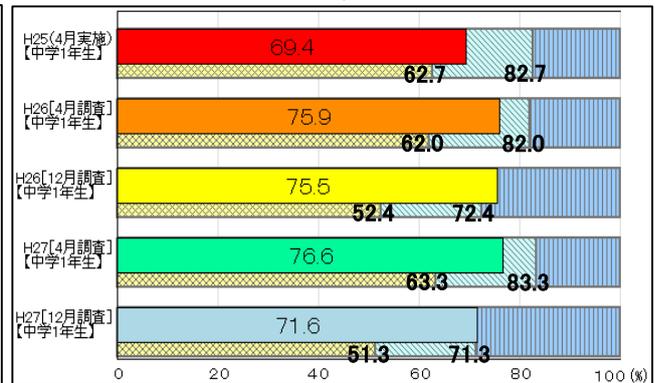
書く能力



読む能力



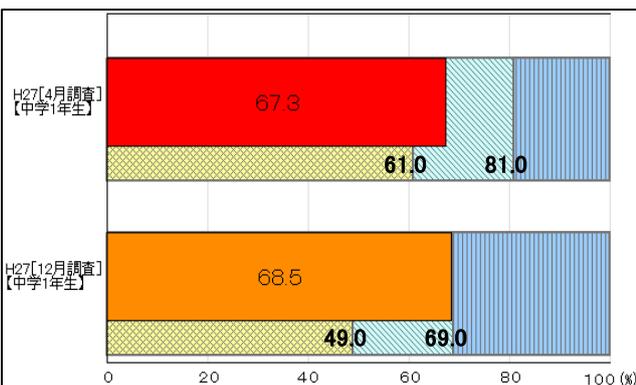
言語についての知識・理解・技能



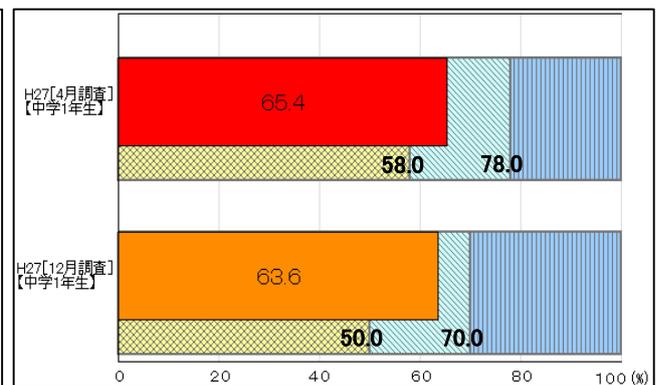
[グラフ8] 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

※ 平成27年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

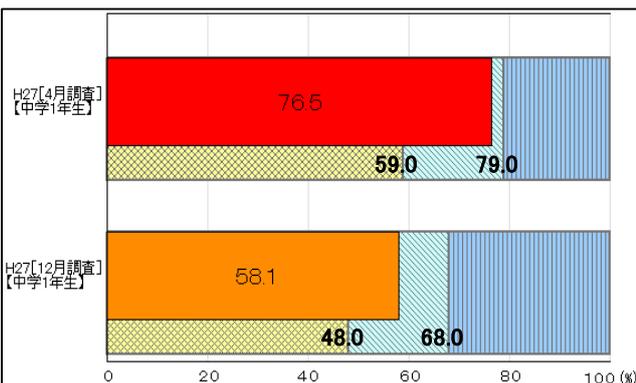
話す・聞く能力



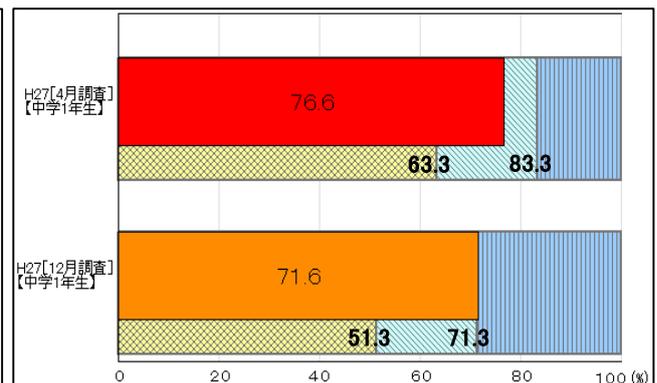
書く能力



読む能力

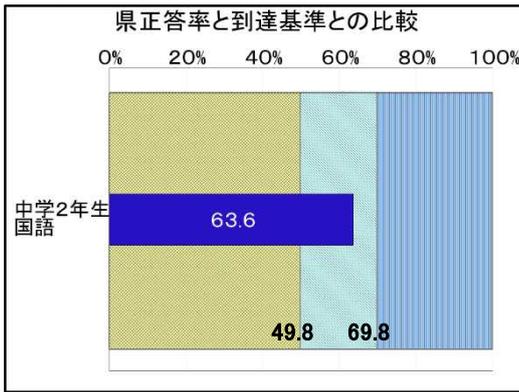


言語についての知識・理解・技能

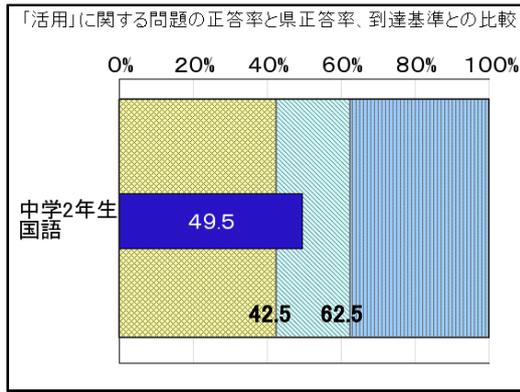


② 中学2年生

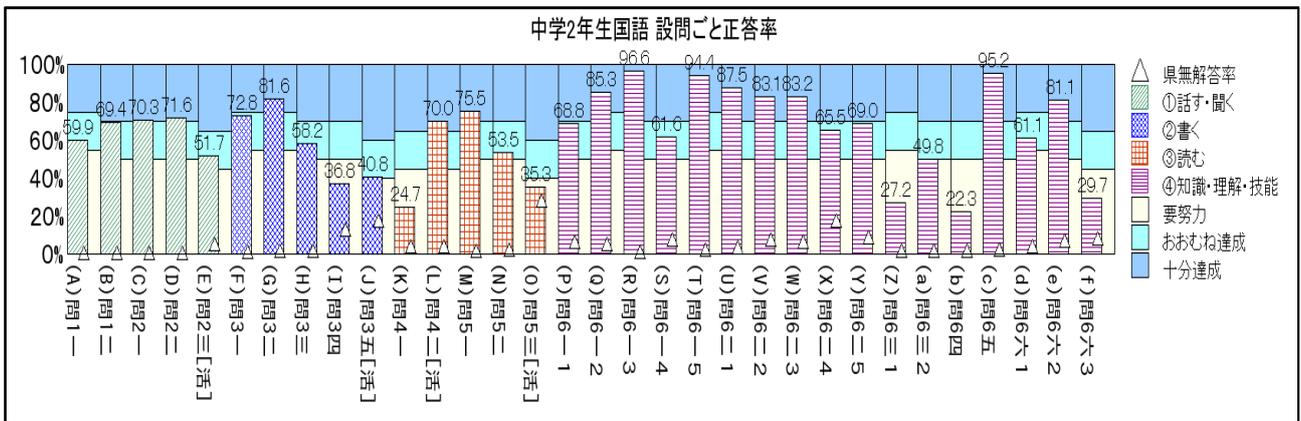
[グラフ9] 教科全体正答率



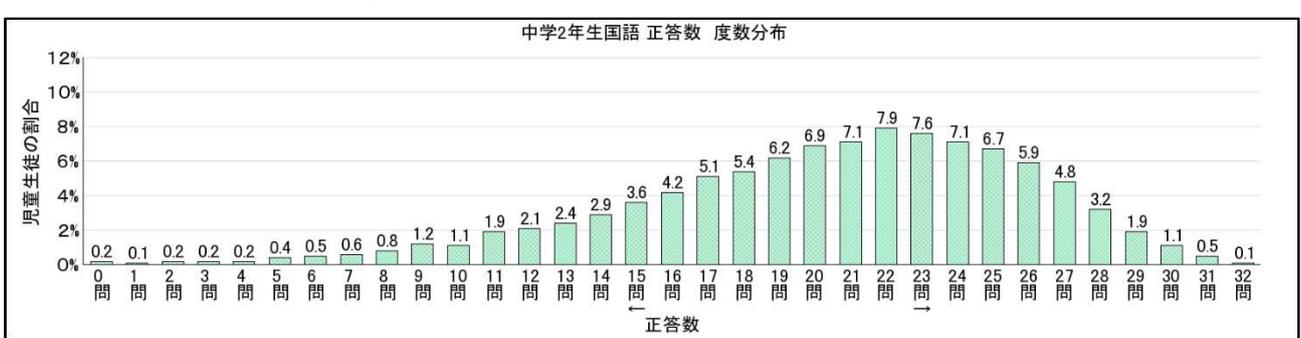
[グラフ10] 「活用」に関する問題の正答率



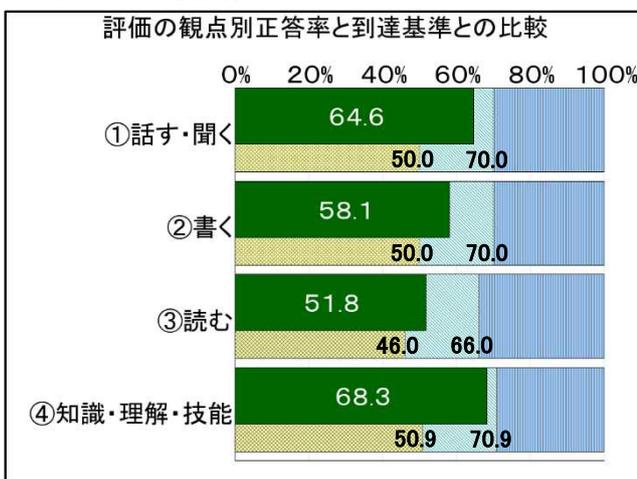
[グラフ11] 設問ごと正答率



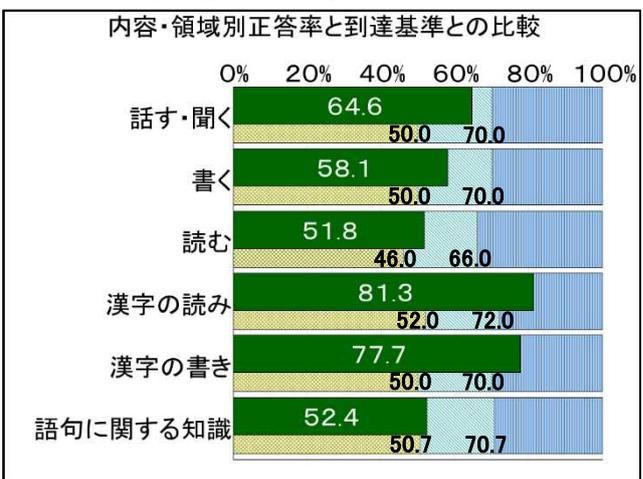
[グラフ12] 教科正答数度数分布



[グラフ13] 観点別正答率



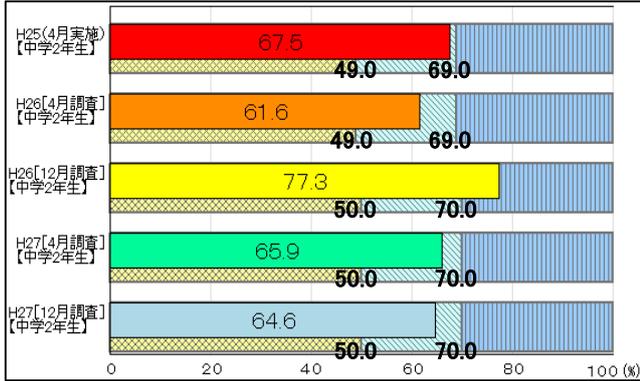
[グラフ14] 内容・領域別正答率



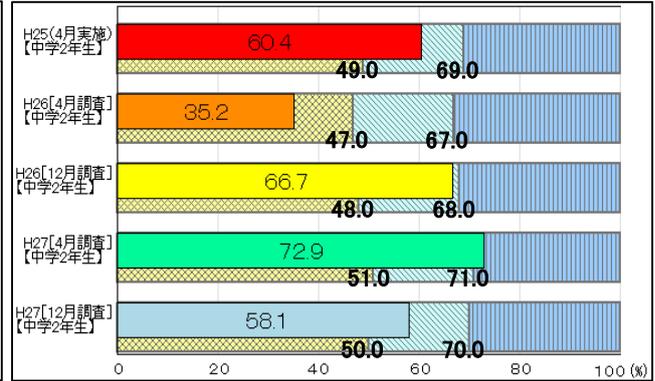
[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、中学 1 年生までの内容で調査。

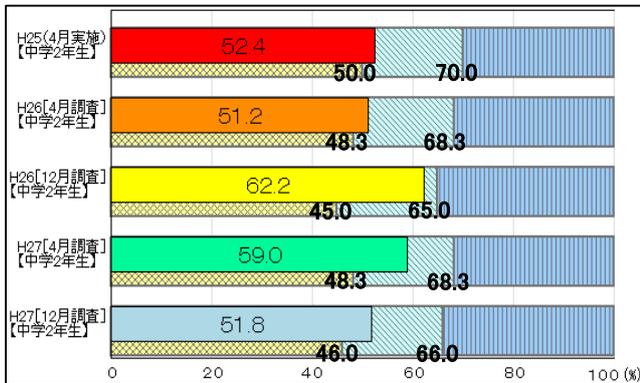
話す・聞く能力



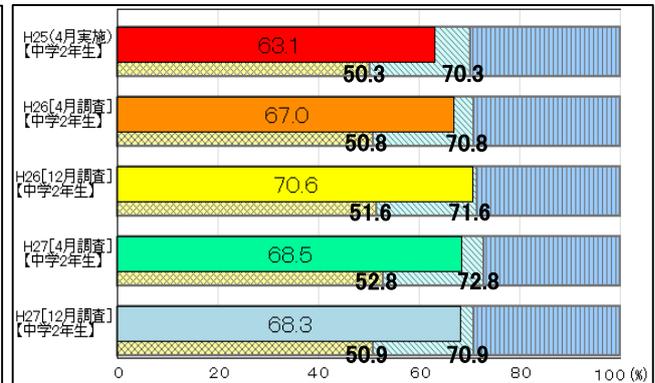
書く能力



読む能力



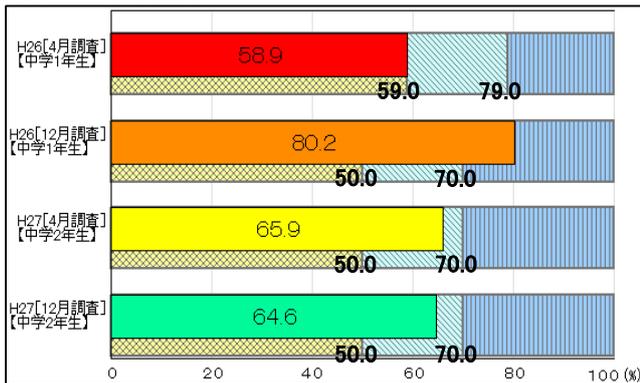
言語についての知識・理解・技能



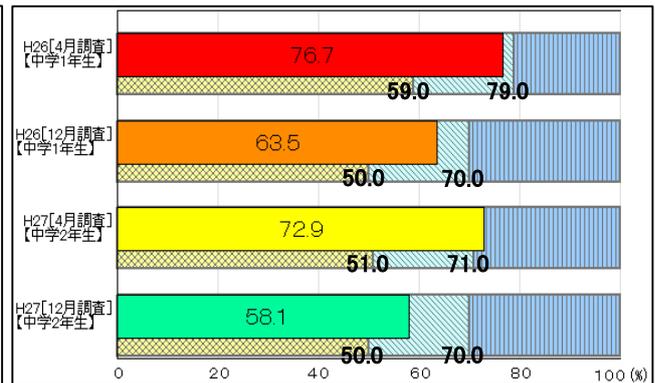
[グラフ 16] 評価の観点別正答率(同一生徒)

※ 平成 26 年度[4 月調査]は小学 6 年生までの内容、平成 27 年度[4 月調査]は中学 1 年生までの内容で調査。

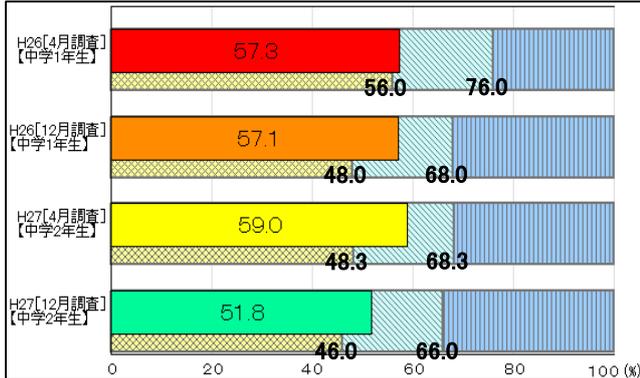
話す・聞く能力



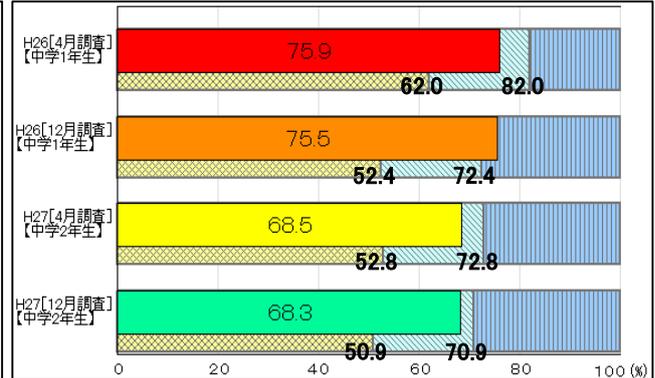
書く能力



読む能力



言語についての知識・理解・技能



1 小学校社会

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等					問題形式			正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況		
		身近な地域	地域の生産や販売	住みよいくらし	安全を守る	地域社会の歴史	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	社会的な事象についての知識・理解						選択式	短答式
1	(1) 地図から、東西南北の方位を読み取ることができる	○					○		○			81.2	0.3	85	65	
1	(2)ア 主な地図記号を理解している(消防署)	○						○	○			88.5	1.0	80	60	◎
1	(2)イ 主な地図記号を理解している(神社)	○						○	○			91.7	0.3	80	60	◎
1	(3) 地図から必要な情報を読み取り、条件に合わせて説明することができる	○					○			○	○	49.8	2.5	75	55	▼
2	(1) 資料1 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(駐車場の工夫)		○					○	○			93.9	0.1	80	60	◎
2	(1) 資料2 資料から、スーパーマーケットの集客の工夫を読み取ることができる(陳列の工夫)		○					○	○			92.4	0.2	80	60	◎
2	(2) 品物のシールから、情報を読み取ることができる		○					○	○			86.0	0.4	75	55	◎
2	(3) 販売の仕事に見られる工夫について、説明することができる		○				○			○	○	47.2	2.8	70	50	▼
3	(1) ごみの処理に関する疑問について、適切に調べることができる			○				○	○			74.4	0.6	80	60	
3	(2) 資料を基に、ごみの出し方について考えることができる			○			○			○		38.6	0.9	70	50	▼
3	(3)ア 清掃工場の仕組みを理解している(ごみピット)			○					○	○		74.9	0.9	80	60	
3	(3)イ 清掃工場の仕組みを理解している(中央制御室)			○					○	○		85.8	1.1	80	60	◎
4	(1)ア グラフから、水の使用量の変化について読み取ることができる			○				○		○		82.2	2.2	80	60	◎
4	(1)イ グラフから、水の使われ方について読み取ることができる			○				○		○		80.9	2.5	80	60	◎
4	(2)ア 浄水場の名称を、理解している			○				○		○		62.6	4.9	80	60	
4	(2)イ 浄水場の働きを、理解している			○				○		○		92.3	2.7	80	60	◎
4	(3) 学校でできる節水の方法を考えることができる			○			○			○	○	82.8	2.9	75	55	◎
5	(1) 事故や事件の防止に努める警察の働きを理解している				○				○	○		85.4	0.6	85	65	◎
5	(2) 資料を基に、事故を防ぐ施設の働きについて説明することができる				○		○			○	○	86.4	2.5	75	55	◎
5	(3) 資料を基に、地域で行っている子供の安全を守るための工夫について考えることができる				○		○			○		50.4	3.8	75	55	▼
6	(1)① 火事が起きたときに、連絡する電話番号を理解している				○				○	○		70.5	1.3	85	65	
6	(1)② 火事が起きたときに、通信指令室から警察署に連絡する理由について理解している				○				○	○		73.3	1.2	80	60	
6	(2) 資料を基に、学校における消火器設置の目的について考えることができる				○		○			○	○	72.9	3.6	70	50	◎
7	(1) ①② 道具の移り変わりを理解している					○			○	○		90.4	1.2	85	65	◎
7	(2) 昔と今の道具を示した資料を基に、人々のくらしの変化について説明することができる					○	○			○	○	70.6	3.4	75	55	

② 小学5年生

[表2] 設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		県の様子(3・4年)	国土の様子	食料生産の様子と国民生活	工業の様子と国民生活	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	社会的な事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式					
1	(1)	自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解している(※)	○				○	○				77.3	1.9	80	60	
1	(2)①	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(背振山地)	○				○	○				90.4	0.2	80	60	◎
1	(2)②	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(玄界灘)	○				○	○				57.5	0.3	80	60	▼
1	(2)③	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(佐賀平野)	○				○	○				82.3	0.3	80	60	◎
1	(2)④	地図から県内の特色ある地形の様子を読み取ることができる(有明海)	○				○	○				61.9	0.3	80	60	
1	(3)①	都道府県の名称と位置を理解している(大分県)	○					○	○			63.2	2.9	85	65	▼
1	(3)②	都道府県の名称と位置を理解している(宮崎県)	○					○	○			62.8	2.8	85	65	▼
2	(1)	世界の大陸の名称と位置を理解している		○				○	○			72.5	0.2	85	65	
2	(2)	日本の位置を地図から読み取ることができる		○				○	○			59.0	0.3	80	60	▼
2	(3)ア	日本が抱える領土問題を理解している(北方領土)		○				○	○			57.2	6.1	85	65	▼
2	(3)イ	日本が抱える領土問題を理解している(尖閣諸島)		○				○	○			35.1	7.1	80	60	▼
2	(4)	沖ノ鳥島が属する都道府県が東京都であることを理解している		○				○	○			32.4	8.1	80	60	▼
3	(1)	資料から、米作りの盛んな都道府県を読み取ることができる		○			○	○				79.9	0.3	80	60	
3	(2)	米作りの1年間の流れを理解している		○				○	○			84.1	0.5	80	60	◎
3	(3)	農業以外にも収入を得ている農家が兼業農家であることを理解している		○				○	○			18.1	12.2	80	60	▼
3	(4)	資料を基に、品種改良をする理由に着目した質問を考えることができる		○		○			○	○		42.0	8.4	75	55	▼
4	(1)	水深200mくらいまでの海底の傾斜がゆるやかな海が大陸棚であることを理解している		○				○	○			38.6	10.3	80	60	▼
4	(2)	資料から、日本の漁業別生産量の変化を読み取ることができる		○				○	○			62.3	0.8	80	60	
4	(3)	資料を基に、水産資源確保のための200海里水域について、領土と関連付けて説明することができる		○	○		○		○	○		39.7	11.9	65	45	▼
4	(4)	水産資源保護の取り組みについて理解している		○				○	○			49.5	4.5	75	55	▼
5	(1)	食料自給率と輸入額の変化の様子を表すグラフを選択することができる		○			○	○				58.1	1.1	80	60	▼
5	(2)	資料から、自給率の低い食料を読み取ることができる		○				○	○			69.0	2.9	80	60	
5	(3)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる		○			○		○	○		41.3	5.3	70	50	▼
5	(4)	地産地消の取り組みについて理解している		○				○	○			55.2	10.3	70	50	
6	(1)	自動車の生産に関する疑問について、適切に調べることができる				○		○	○			80.9	1.2	80	60	◎
6	(2)	自動車の生産過程を、資料から読み取ることができる				○		○	○			91.3	1.9	80	60	◎
6	(3)	資料を基に、運搬船で輸送する理由について説明することができる				○	○		○	○		28.6	5.6	70	50	▼
6	(4)	自動車の現地生産の目的について理解している				○		○	○			63.7	2.0	80	60	
6	(5)	資料を基に、これからの自動車工業の在り方について自分の考えを説明することができる				○	○		○	○		62.1	4.4	70	50	

(※) 平成24・25・26年度小学校第5学年調査と同一問題

③ 小学6年生

[表3]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			活用に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		国土の様子(5年)	我が国の歴史	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	社会的事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1 (1)あ	資料から、我が国の位置を読み取ることができる	○		○			○				89.2	1.1	85	65	◎
1 (1)い	資料から、我が国の位置を読み取ることができる	○		○			○				68.3	1.3	80	60	
1 (2)	日本の気候の特色を理解している	○				○	○				76.4	0	80	60	
1 (3)	資料を基に、那覇市や十日町市の気温と降水量の特徴について考えることができる	○		○			○				55.5	0.3	70	50	
2 (1)	縄文時代の人々が貝殻や骨などを捨てた場所の遺跡が貝塚であることを理解している		○			○		○			67.6	5.3	85	65	
2 (2)	資料から、縄文土器の特徴を読み取ることができる		○		○		○				90.2	0.1	85	65	◎
2 (3)	米づくりが始まったことによる人々の生活の変化を理解している		○			○		○			89.9	1.2	80	60	◎
3 (1)	冠位十二階の制度を定めたり、法隆寺を建立した人物が聖徳太子であることを理解している		○			○		○			94.5	1.3	85	65	◎
3 (2)	資料から、十七条の憲法が、役人が守るべききまりであることを読み取ることができる		○				○				49.6	0.1	80	60	▼
3 (3)ア	仏教の力によって、国づくりを進めた聖武天皇の考えについて理解している		○			○		○			80.4	1.2	80	60	◎
3 (3)イ	不安な世の中を国分寺や大仏造りによって、安定させようとした聖武天皇の願いについて理解している		○			○		○			85.5	2.4	80	60	◎
4 (1)	資料から、金閣を選ぶことができる		○		○		○				98.9	0.1	85	65	◎
4 (2)	資料から、書院造の特徴を読み取ることができる		○		○			○			75.5	1.0	80	60	
4 (3)	資料を基に、室町時代の文化の特色について考えることができる		○	○				○	○		78.6	3.8	75	55	◎
5 (1)	資料から、長篠の戦いで使用された武器が鉄砲であることを読み取ることができる		○		○			○			94.5	0.5	80	60	◎
5 (2)	資料を基に、検地と刀狩が社会に与えた影響について説明することができる		○	○				○	○		26.6	6.1	65	45	▼
5 (3)④⑤	安土・桃山時代から江戸時代初期までの出来事について理解している		○			○	○				48.8	0.3	85	65	▼
6 (1)	発言の内容を基に、伊能忠敬の業績についての学習問題を考えることができる		○	○				○	○		34.1	2.2	70	50	▼
6 (2)①	国学の発展に貢献した人物が本居宣長であることを理解している		○			○	○				78.2	0.3	85	65	
6 (2)②	解体新書を記した人物の一人が杉田玄白であることを理解している		○			○	○				89.3	0.2	85	65	◎
6 (2)③	歌舞伎や人形浄瑠璃の作者が近松門左衛門であることを理解している		○			○	○				80.0	0.2	85	65	
6 (3)	踏絵を行った目的について理解している		○			○		○			70.3	4.9	80	60	
7 (1)アイ	資料を基に、岩倉使節団と遣隋使や遣唐使の共通の目的について考えることができる		○	○				○			23.9	17.9	75	55	▼
7 (2)	資料を基に、ノルマントン号事件の問題点について説明することができる		○	○				○	○		34.9	5.5	65	45	▼
7 (3)③	不平等条約改正に力を尽くした陸奥宗光について理解している		○			○	○				57.5	0.4	80	60	▼
7 (3)④	不平等条約改正に力を尽くした小村寿太郎について理解している		○			○	○				57.9	0.8	80	60	▼
7 (4)	資料を基に、明治政府の政策の目的について考えることができる		○	○				○			37.0	5.2	80	60	▼
8 (1)	資料から、満州の位置を読み取ることができる		○		○		○				74.8	0.4	80	60	
8 (2)	資料を基に、国民生活が制限された理由について説明することができる		○	○				○	○		25.6	4.9	70	50	▼
8 (3)	長崎とともに原爆を投下された場所が、広島であることを理解している		○			○		○			97.6	0.8	85	65	◎
8 (4)	終戦直前に、満州や樺太南部、千島列島にソビエト連邦が攻め込んできたことを理解している		○			○		○			25.1	2.0	80	60	▼

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 全ての学年において、教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1、グラフ8、グラフ16]
- 小学5年生及び小学6年生の評価の観点「観察・資料活用の技能」は、「おおむね達成」の基準を上回っており、小学4年生は「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ5、グラフ12、グラフ20]
- 小学5年生及び小学6年生の評価の観点「社会的な思考・判断・表現」は、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ12、グラフ20]
- 小学5年生及び小学6年生の評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」については、到達基準を1として正答率を算出し同一児童で経年比較をすると、平成26年度[12月調査]より共に下回っている。小学5年生は、全ての評価の観点が下回っている。[グラフ15、グラフ23]
- 全ての学年において、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えて説明する記述式の設問については課題が見られる。[表1、表2、表3]

② 小学4年生

- 評価の観点「社会的な事象についての知識・理解」の正答率は81.5で、「十分達成」の基準81.5と等しい値である。[グラフ5]
- 評価の観点「観察・資料活用の技能」の正答率は84.4で、「十分達成」の基準80.0を4.4ポイント上回っている。[グラフ5]
- 内容・領域別正答率については、全ての内容・領域において、「おおむね達成」の基準を上回っている。中でも、「地域の生産や販売」「地域社会の歴史」については、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ6]
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料活用の技能」について、到達基準を1として正答率を算出し同一学年で経年比較をすると、平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ7]
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「社会的な事象の特色や相互の関連について考え、説明すること」を問う設問の正答率は50.4で、「おおむね達成」の基準55.0を4.6ポイント下回っている。[表1]（4年生問5(3)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問5 (3)	資料を基に、地域で行っている子供の安全を守るための工夫について考えることができる (記述式)	「子供110番の家」と「子供110番の店」の設置状況と設置されている目的とを関連付けて考える。	50.4	3.8	75.0	55.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

児童の経験上、「子供110番の家」や「子供110番の店」が設置されている目的については理解していると思われる。設置されている目的と資料から読み取った情報とを関連付けて説明することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

「子供110番の家」や「子供110番の店」が設置されている目的を教師が最初に説明するのではなく、資料から「見えるもの(様子や事実)」を基にして解釈する活動を通して、児童の考えから目的を導き出すような指導が大切である。その際「なぜ、このようにたくさん設

置されているの？」といったような発問を通して、子供の安全を守るための工夫について考えさせる指導が効果的である。

③ 小学5年生

○ 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」において、「自分が通う小学校がある市や町の地理的な位置を理解していること」を問う設問の正答率は、同一学年で経年比較をすると、平成24年度調査から平成27年度[12月調査]にかけて増加している。[表2] (参考：平成24年度63.1、平成25年度65.2、平成26年度68.4、平成27年度77.3)
● 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」については、「おおむね達成」の基準を共に下回っている。[グラフ12]
● 内容・領域「国土の様子」「食料生産の様子」については、「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ13]
● 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「社会的事象の背景などを説明するために、知識・技能などを活用すること」を問う設問の正答率は42.0で、「おおむね達成」の基準55.0を13.0ポイント下回っている。[表2]（5年生問3(4)）
● 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「実生活の様々な場面において、知識・技能などを活用すること」を問う設問の正答率は41.3で、「おおむね達成」の基準50.0を8.7ポイント下回っている。[表2]（5年生問5(3)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問3 (4)	資料を基に、品種改良をする理由に着目した質問を考えることができる (記述式)	資料と農業試験研究センターの方からの答えを基に、質問した内容を考える。	42.0	8.4	75.0	55.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

資料から品種改良を経て「さがびより」ができたことを読み取ることはできるが、品種改良の過程と農業試験研究センターの方の答えに書かれている品種改良の目的とを関連付けて考えることに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

品種改良の資料を基に、「なぜ品種改良をするのだろう？」とその目的や理由について考えさせる指導が大切である。更に、児童の反応に対して「どの資料からそのように考えたの？」など、考えの根拠を問い直す発問をすることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問5 (3)	資料を基に、輸入に依存することの問題点について説明することができる (記述式)	資料を基に「輸入に依存すると困る」という考えの理由を説明する。	41.3	5.3	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

問5(1)「食糧自給率と輸入額の変化の様子を表すグラフを選択すること」を問う設問の正答率が58.1で、「おおむね達成」の基準60.0を1.9ポイント下回っていたことから、資料が

ら必要な情報を読み取ったり、必要な資料を選択したりすることが難しかったためと考えられる。更に資料から読み取った情報を「輸入に依存すると困る」という考えと関連付けて考えることに課題があったと考えられる。

・ **改善・充実に向けて**

資料から必要な情報を読み取り、その情報を基に考えをもたせる指導が大切である。読み取った情報と考えとを区別して、自分の言葉で記述させる指導が効果的である。例えば、「私は～だと考えます」の後に、「なぜなら資料を見ると、～ことが分かります。このことから～と考えるからです」と理由を付けて表現させる指導が考えられる。以上のような指導を、1つの資料から複数の資料へと段階的に行っていくことが大切である。

④ 小学6年生

- 平成25年度（4月実施）と平成26年度〔12月調査〕において課題として挙げられていた評価の観点「社会的事象についての知識・理解」の正答率は73.3で、「おおむね達成」の基準62.3を11.0ポイント上回っている。到達基準を1として正答率を算出し同一学年で経年比較をすると、平成25年度（4月実施）から平成27年度〔12月調査〕にかけて改善が見られる。〔グラフ20、グラフ22〕
- 評価の観点「社会的事象についての知識・理解」について、到達基準を1として正答率を算出し同一児童で経年比較をすると、平成26年度〔12月調査〕より上回っている。〔グラフ23〕
- 平成26年度〔12月調査〕において課題として挙げられていた評価の観点「社会的な思考・判断・表現」の正答率は39.5で、「おおむね達成」の基準51.3を11.8ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。〔グラフ20〕
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「学習問題を見いだすこと」を問う設問の正答率は34.1で、「おおむね達成」の基準50.0を15.9ポイント下回っている。〔表3〕（6年生問6(1)）
- 評価の観点「社会的な思考・判断・表現」において、「社会的事象の意味について考え、説明すること」を問う設問の正答率は37.0で、「おおむね達成」の基準60.0を23.0ポイント下回っている。〔表3〕（6年生問7(4)）

・ **課題が見られる設問について**

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
6年生 問6 (1)	発言の内容を基に、伊能忠敬の業績についての学習問題を考えることができる (記述式)	資料を基に、地図の正確さと地図をつくる方法に着目した学習問題を考える。	34.1	2.2	70.0	50.0

・ **誤答・無解答の原因として考えられること**

2つの地図を比較し、グループの会話の中に書かれている気付きや疑問、知識を関連付けて考えることができなかったためと考えられる。また、気付きや疑問を基に、単元の学習問題や本時のめあてを設定するという学習経験が不足していることも考えられる。

・ **改善・充実に向けて**

単元の学習問題や本時のめあてを設定する際に、資料を基に気付きや疑問をもたせることが大切である。資料を見比べさせ、「似ている」「正確だ」「どのようにしてつくったのだろう」など、気付きや疑問を出させながら、児童と共に単元の学習問題を設定することで、その後

の主体的な問題解決的な学習につながっていくと考える。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問7 (4)	資料を基に、明治政府の政策の目的について考えることができる (記述式)	明治政府の政策を総合的に捉え、明治政府がめざした国づくりについて考える。	37.0	5.2	80.0	60.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

複数の政策の目的を総合的に考えて説明することや解答の条件に合わせて記述することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

単元の学習問題や本時のめあてに対して考えをまとめ、自分なりの言葉で記述させる経験をさせていくことが大切である。まとめを記述させる際は、「どのような国をめざして、政策を進めたのだろうか」というめあての授業であれば、「〇〇な国」と整理してまとめさせるなど、問いに対応する記述をさせることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 児童の主体的な学びにするような指導の工夫を行うこと (6年生問6(1))

- 児童の主体的な学びにするためには、単元の学習問題や本時のめあてを児童と共に設定するような指導の工夫を行う必要がある。ポイントは、社会的事象に対する児童の気付きや疑問を基に、児童の言葉で単元の学習問題や本時のめあてを設定することである。単元の学習問題や本時のめあてを自分たちでつくったという意識をもたせることで、児童が自分の問題として捉えることができ、その後の追究意欲の高まりにつながっていく。

② 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えるような指導の工夫を行うこと (4年生問5(3)、5年生問3(4)、5年生問5(3)、6年生問6(1)、6年生問7(4))

- 児童が社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えるようにするためには、「なぜ(何のために)～しているのか」「どのように～しているのか」といった「why」や「how」の思考発問をすることが大切である。その際、児童の反応に対して、以下の3つの思考(比較、関連付け、総合)を促す問い返しをすると効果的である。
 - 「…よりも～」「同じところは～」「…が違う」など、いくつかの情報から分かったことを比べて考える(比較)。
 - 「…だから～」「なぜかという～」「それは～」「ということは～」など、いくつかの情報をつなげて予想したり、理由を考えたりする(関連付け)。
 - 「一言で言うと」「つまり～」「全部をまとめると～」など、いくつかの情報をまとめて考える(総合)。

③ 社会的事象について考えたことを表現し、理解を深める指導の工夫を行うこと (5年生問5(3)、6年生問7(4))

- 授業の終末に、本時のめあてについての考えを記述させることが大切である。その際、「今日の授業のキーワードを使って書きましょう」「〇字以内で書きましょう」と、キーワードの使用や字数の制限など、記述する条件を示すと更に効果的である。
- 単元の「調べる」過程においても、単元の学習問題について考える場面を取り入れる。「今日の授業で分かったことを基に、学習問題についての自分の考えを書きましょう」と、本時の授業で分かったことと単元の学習問題とを関連付けながら自分の考えを記述させる指導が効果的である。
- 社会的事象について理解を深めていくためには、調べて分かったことや考えたことを交流する場面を設定することが大切である。
- 相手に分かりやすく伝えるように指導することが大切である。「根拠を示して」「事実と考えを区別して」「立場を明確にして」書くように指導する。その際、「なぜなら」「このことから」「Aさんと似ていて(違って)」などの表現を取り入れるように指導すると効果的である。

◎ ぜひ ご活用ください! → [ここをクリック](#)

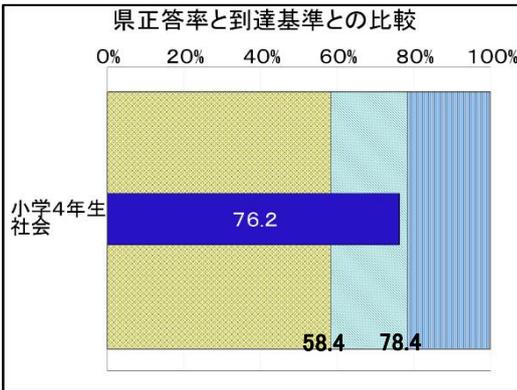
佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「社会的な問題に出会わせる手立て」を取り上げ、発問や板書、ワークシートの工夫を取り入れた実践事例などを紹介しています。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「児童と共につくる学習問題」をキーワードにした授業改善策について、Webアップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

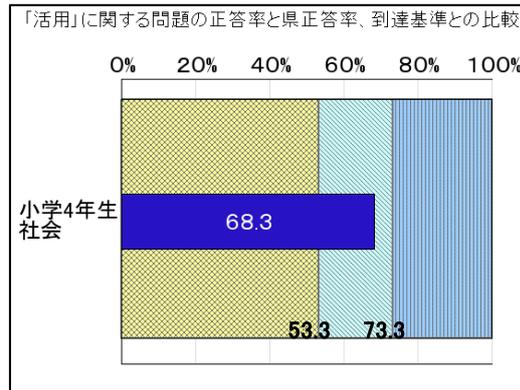
<資料>

① 小学4年生

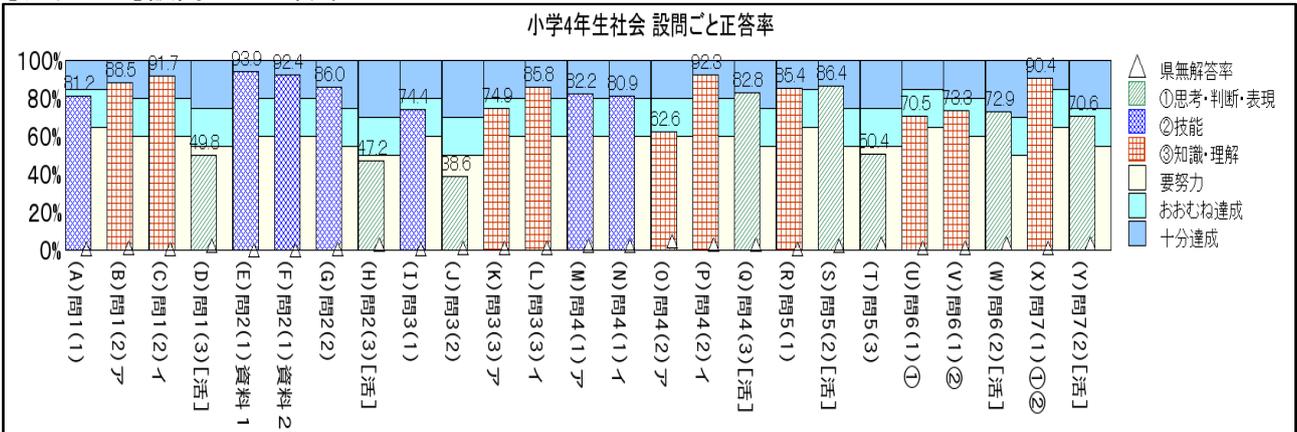
[グラフ1]教科全体正答率



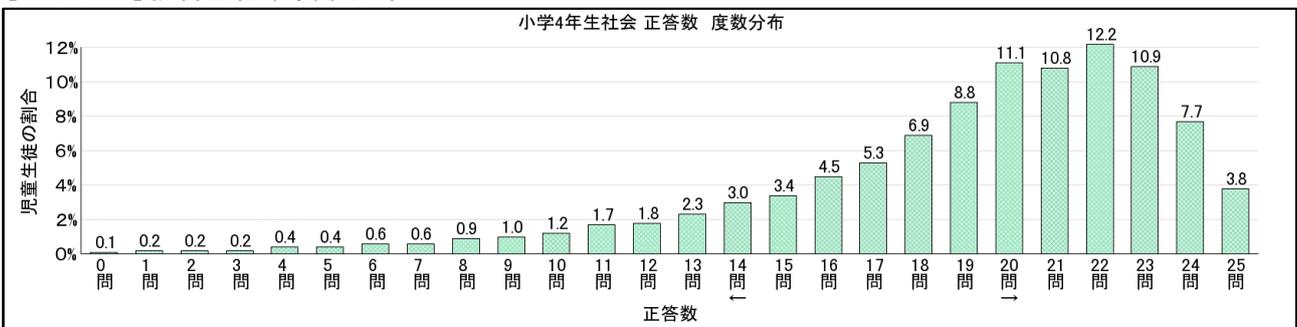
[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



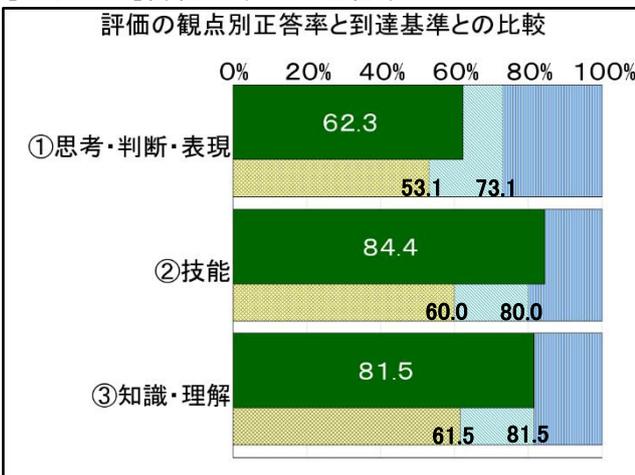
[グラフ3]設問ごと正答率



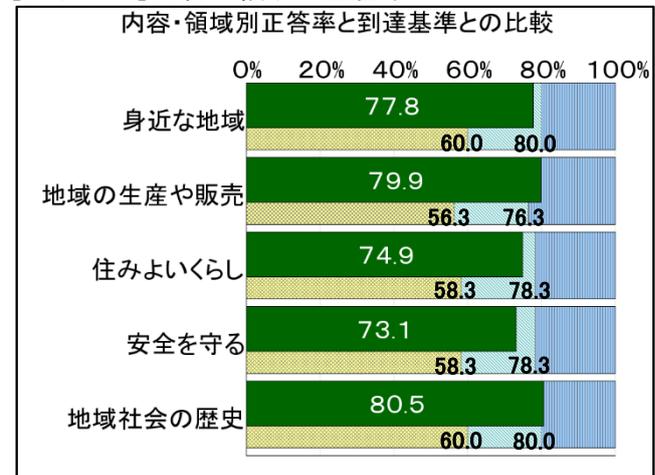
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率

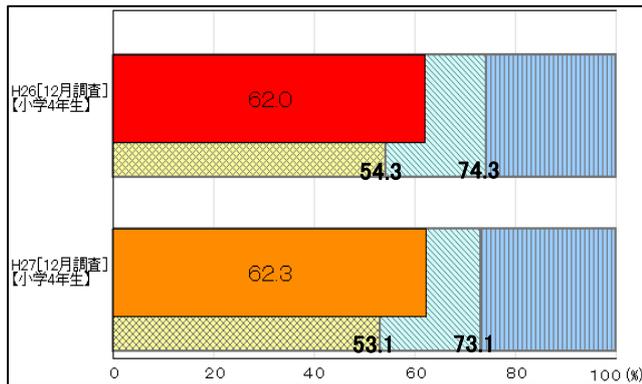


[グラフ6]内容・領域別正答率

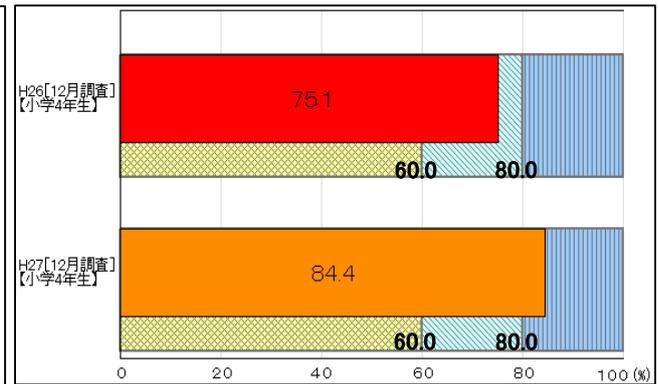


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

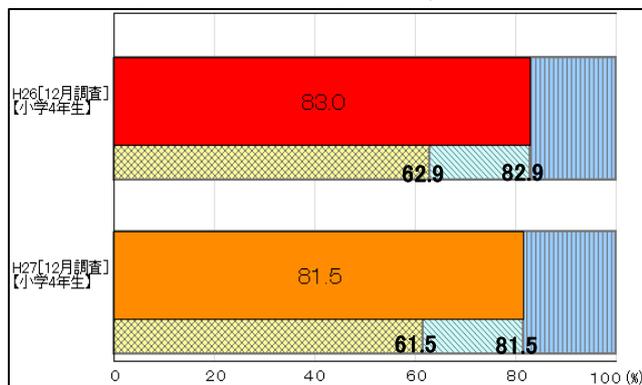
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

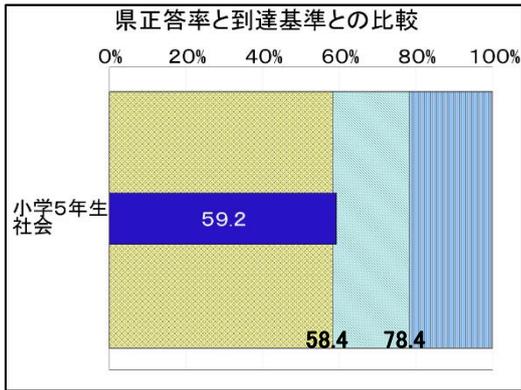


社会的な事象についての知識・理解

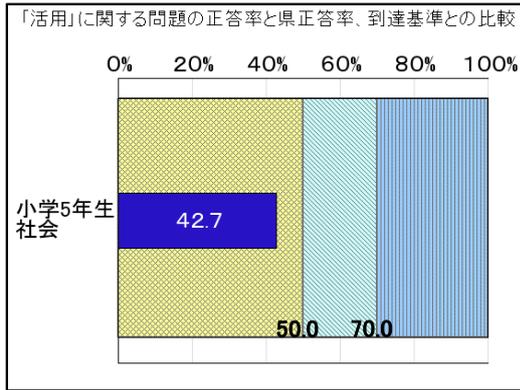


② 小学5年生

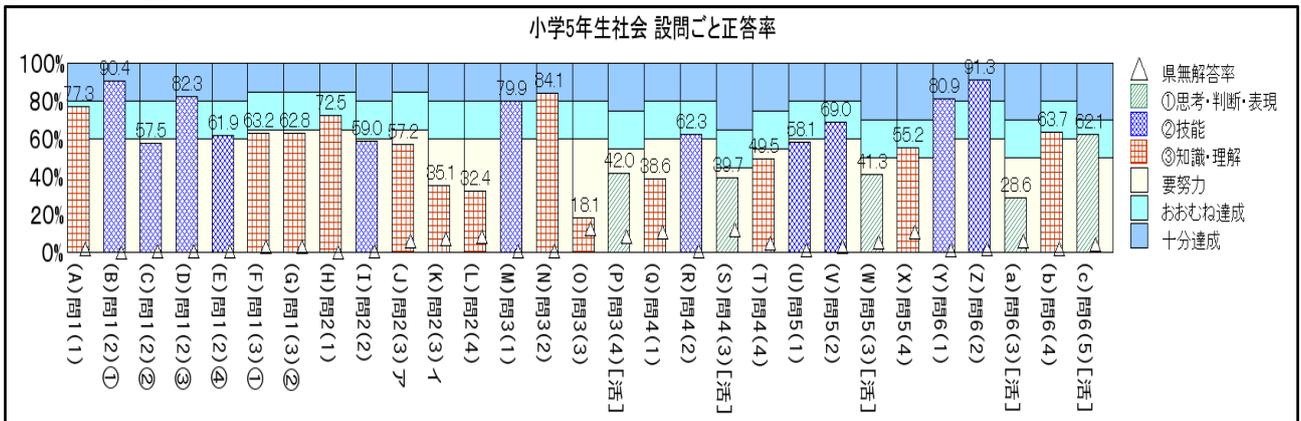
[グラフ8] 教科全体正答率



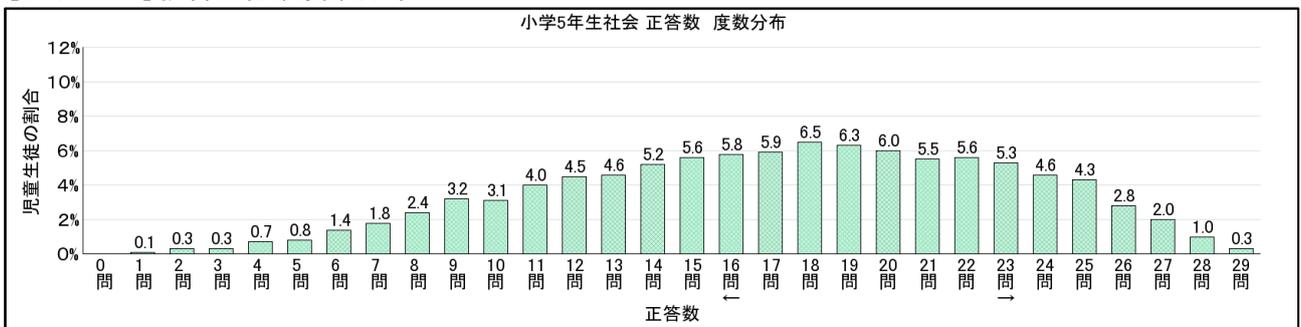
[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



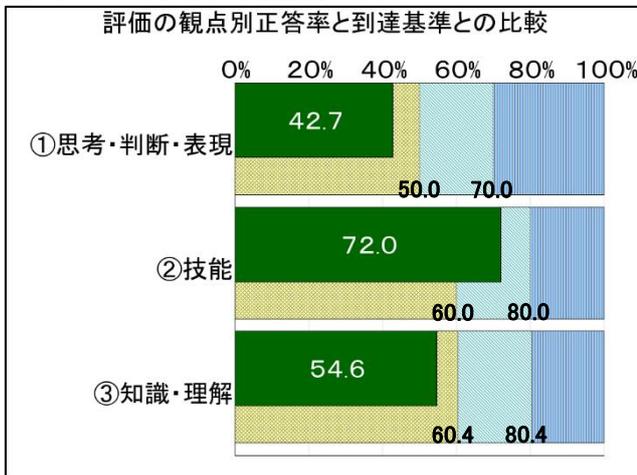
[グラフ10] 設問ごと正答率



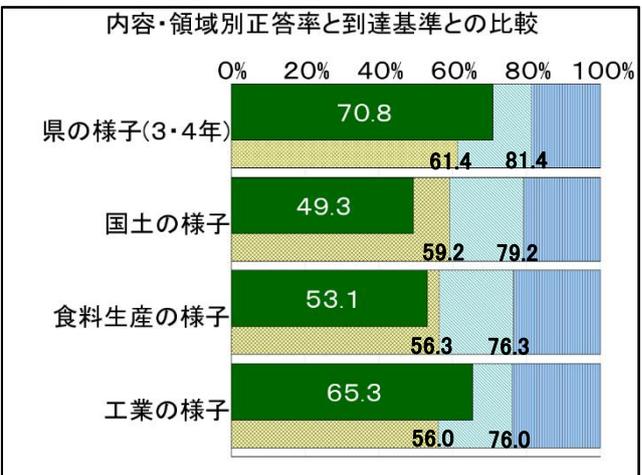
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 評価の観点別正答率



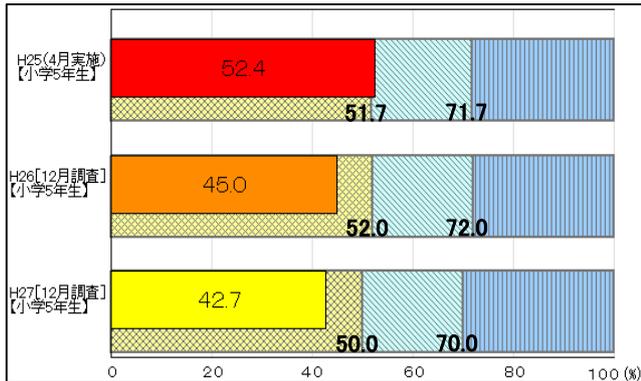
[グラフ13] 内容・領域別正答率



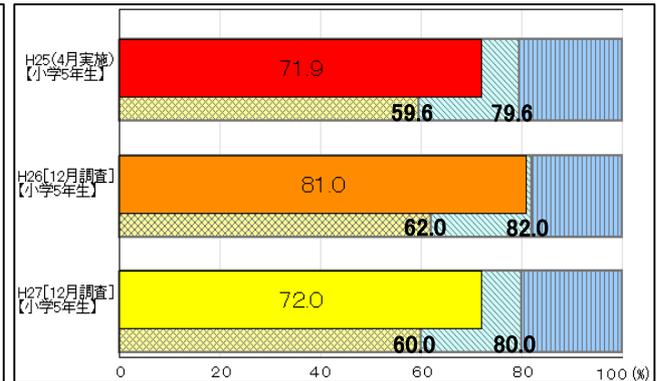
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 25 年度 (4 月実施) は、小学 4 年生までの内容で調査。

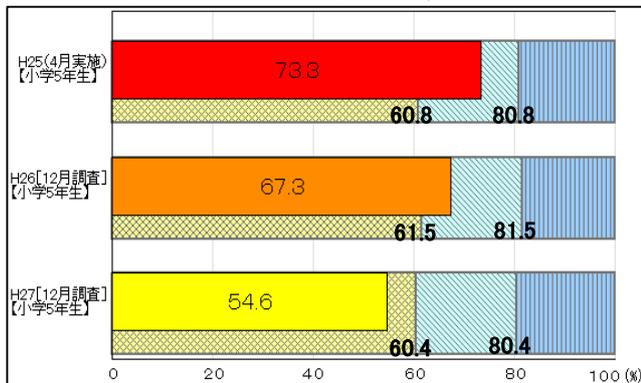
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

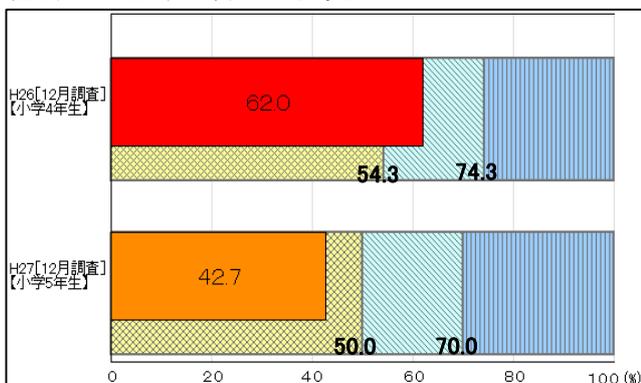


社会的事象についての知識・理解

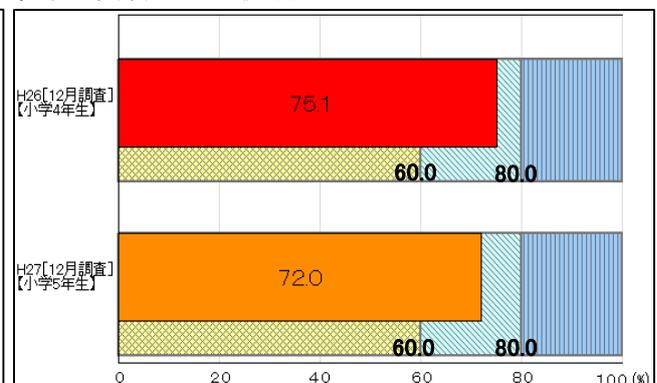


[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

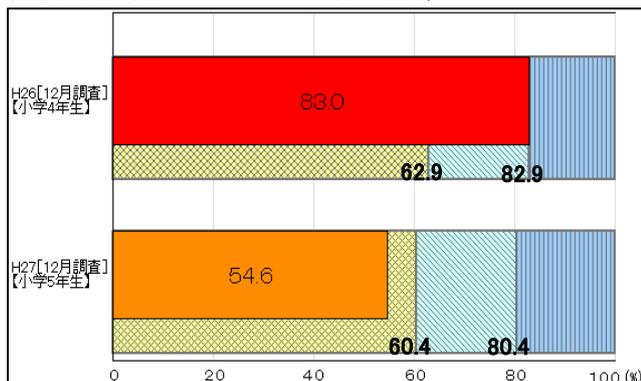
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

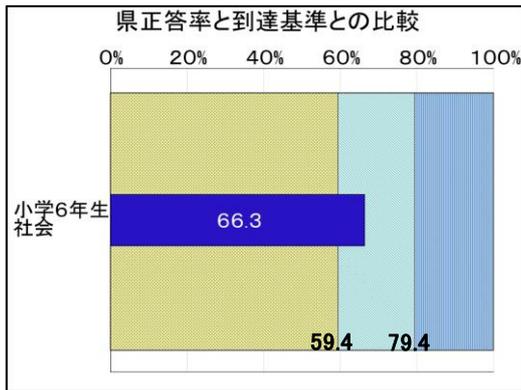


社会的事象についての知識・理解

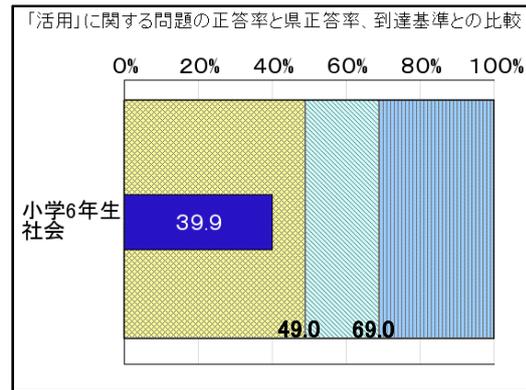


③ 小学6年生

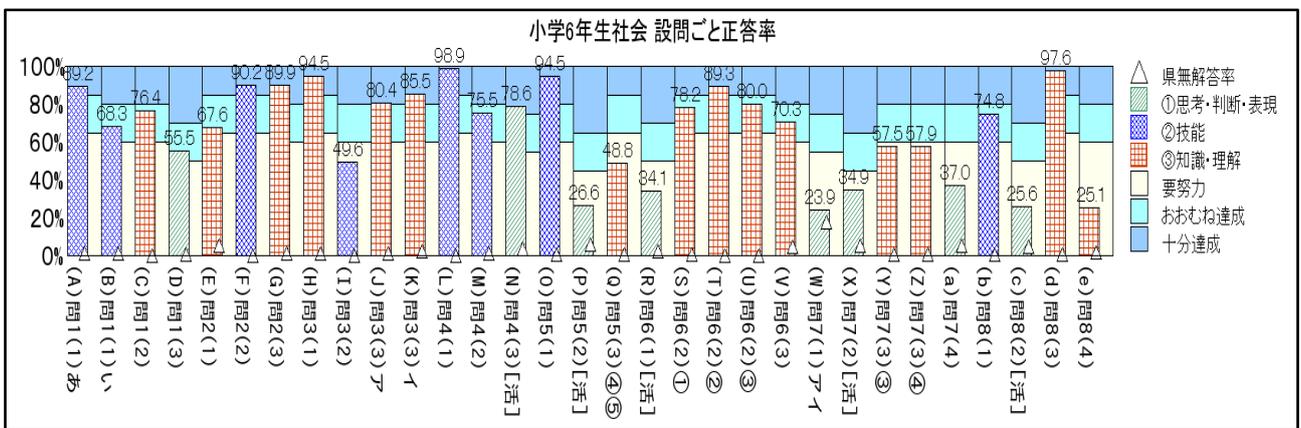
[グラフ16]教科全体正答率



[グラフ17]「活用」に関する問題の正答率



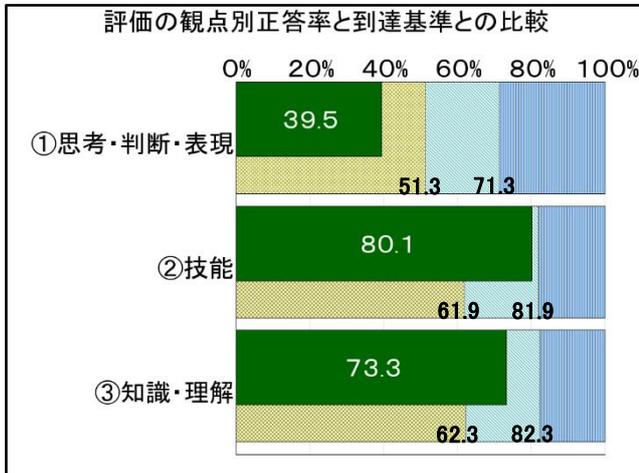
[グラフ18]設問ごと正答率



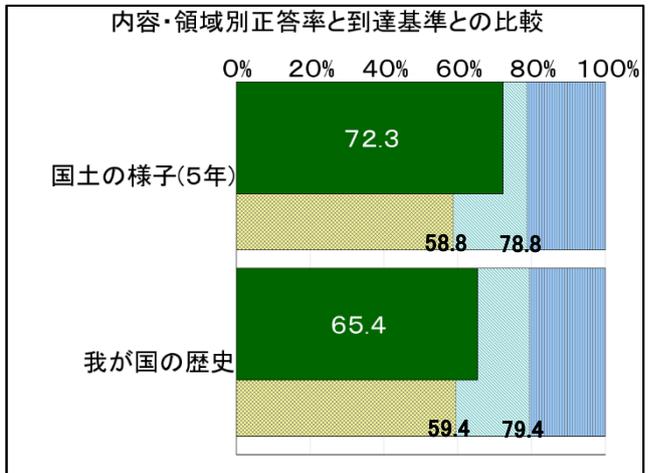
[グラフ19]教科正答数度数分布



[グラフ20]評価の観点別正答率



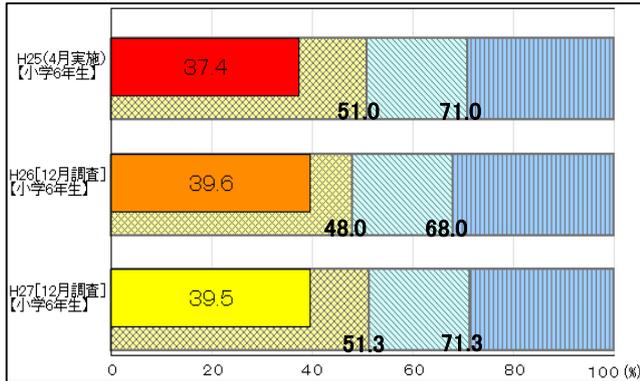
[グラフ21]内容・領域別正答率



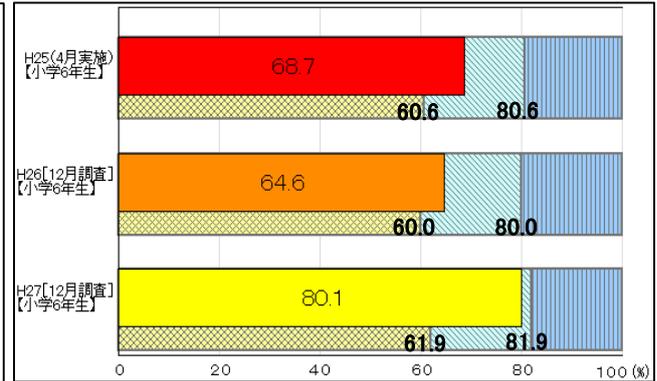
[グラフ 22] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 25 年度 (4 月実施) は、小学 5 年生までの内容で調査。

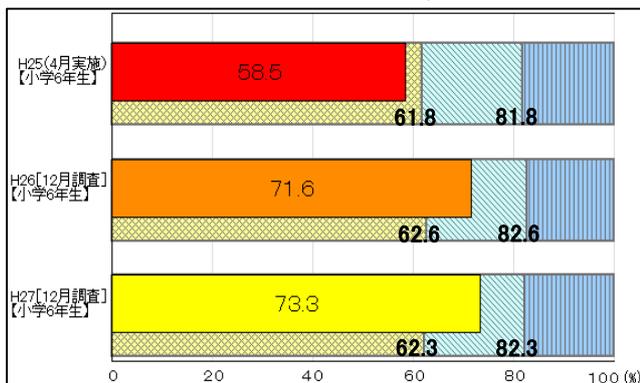
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能

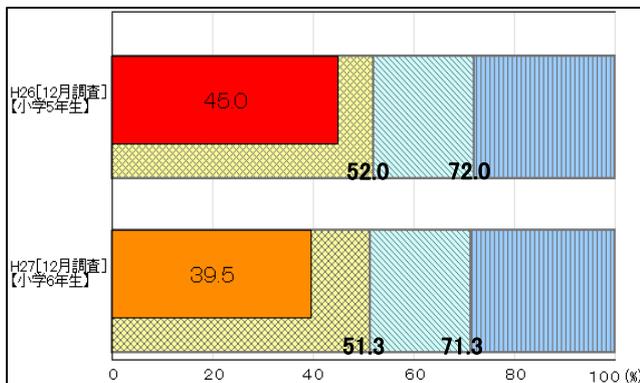


社会的な事象についての知識・理解

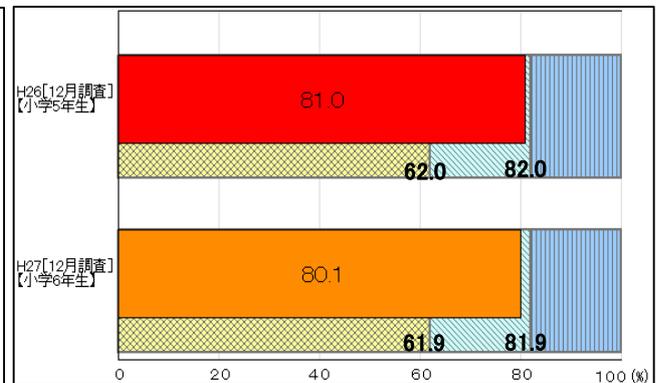


[グラフ 23] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

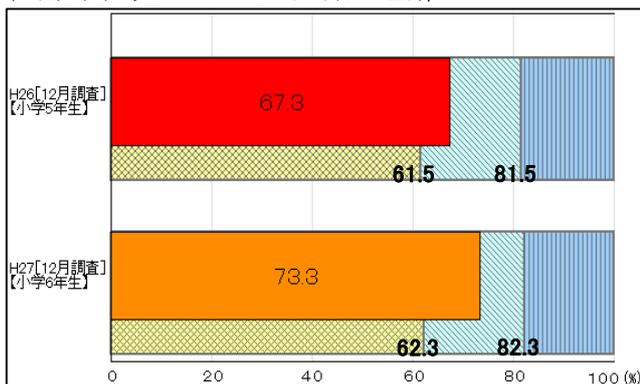
社会的な思考・判断・表現



観察・資料活用の技能



社会的な事象についての知識・理解



2 中学校社会

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果 (到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		世界の地域構成	世界各地の人々の生活と環境	世界の諸地域(アジア)	古代までの日本	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用	社会的現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1)	オセアニア州の位置と名称を理解している	○				○		○				64.3	2.8	75	55	
1	(2)	世界一面積の小さい国が、パチカン市国であることを理解している	○					○	○				75.1	12.3	75	55	◎
1	(3)	資料から、赤道にあるエクアドルの位置を読み取ることができる	○				○		○				59.0	0.7	70	50	
1	(4)①	経度0度の線が本初子午線であることを理解している	○					○	○				72.4	7.7	75	55	
1	(4)②	資料に示された地点の緯度と経度を読み取ることができる	○				○		○				53.8	1.2	70	50	
1	(5)	資料から、ユーラシア大陸の位置を読み取ることができる	○				○		○				78.3	0.8	70	50	◎
2	(1)	アンデス山脈の位置と名称を理解している	○					○	○				22.6	8.5	75	55	▼
2	(2)	標高の高い地域に住む人々の生活の特色について理解している	○					○	○				38.3	0.6	70	50	▼
2	(3)	乾燥帯の雨温図を読み取ることができる	○				○		○				58.2	0.7	70	50	
2	(4)	世界の宗教の分布と特色を読み取ることができる	○				○		○				79.6	1.0	65	45	◎
2	(5)	資料を基に、高床式の住居になっている理由を、永久凍土と関連付けて説明することができる	○				○			○	○		43.2	9.3	60	40	
3	(1)	アジア州を区分した東南アジアについて理解している		○				○	○				81.4	0.5	75	55	◎
3	(2)	季節風について理解している		○				○	○				65.0	0.6	70	50	
3	(3)	資料を基に、モンゴルで移動式住居が使用されている理由を、気候と農業の特色とを関連付けて説明することができる		○			○			○	○		35.6	16.3	60	40	▼
3	(4)	資料を基に、中国の大気汚染の原因を説明することができる		○			○			○			58.1	8.7	60	40	
3	(5)	資料を基に、タイの産業の変化を考えることができる		○			○		○				87.0	0.9	65	45	◎
4	(1)	資料を基に、人々が大型動物を追って日本に渡ってきた理由を説明することができる			○	○				○	○		30.7	11.2	60	40	▼
4	(2)	打製石器が使われた時代が、旧石器時代であることを理解している			○			○		○			50.3	7.9	75	55	▼
4	(3)	土偶が作られた目的について理解している			○			○	○				63.8	1.0	70	50	
4	(4)	青銅器について理解している			○			○		○			53.9	18.4	75	55	▼
4	(5)	資料を基に、古墳時代の日本の様子を考えることができる			○	○			○				70.2	1.4	65	45	◎
4	(6)	進んだ技術や文化を伝えた人々が、渡来人であることを理解している			○			○		○			76.3	8.4	75	55	◎
5	(1)①	平城京があった場所が、現在の奈良県であることを理解している			○			○		○			49.7	5.9	75	55	▼
5	(1)②	墾田永年私財法が制定された後の社会の変化について理解している			○			○	○				45.3	1.7	70	50	▼
5	(2)	中大兄皇子が行った政治改革が、大化の改新であることを理解している			○			○		○			65.9	15.7	75	55	
5	(3)	天皇が幼少や女性のときに天皇に変わって政治を行う役職が、摂政であることを理解している			○			○	○				76.5	1.4	70	50	◎
5	(4)	冠位十二階が、才能ある人物を役人として登用する目的であることを理解している			○			○	○				63.5	2.0	70	50	
5	(5)	古代の政治の流れについて理解している			○			○	○				34.1	2.1	70	50	▼
6	(1)	弥生時代を代表する遺跡である吉野ヶ里遺跡について理解している			○			○	○				64.5	1.3	70	50	
6	(2)	法隆寺について理解している			○			○		○			55.0	12.7	75	55	
6	(3)	はにわについて理解している			○			○		○			74.3	8.7	75	55	
6	(4)	仮名文字について理解している			○			○		○			72.5	8.7	75	55	
6	(5)	原始・古代の生活や文化の流れについて理解している			○			○	○				69.5	2.5	70	50	

② 中学2年生

[表2] 設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点		問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		世界の諸地域	日本の地域構成	世界と比べた日本の地域的特色	中世の日本	近世の日本	社会的な思考・判断・表現	資料活用・技能	社会的事象についての知識・理解	選択式						
1	(1)①	ブラジルの公用語が、ポルトガル語であることを理解している	○					○	○			48.9	0.5	75	55	▼
1	(1)②	アマゾン川の名称と位置を理解している	○					○		○		66.6	5.5	75	55	
1	(1)③	ブラジルでは、さとうきびの栽培が行われていることを理解している	○					○		○		65.9	10.2	70	50	
1	(1)④	熱帯の雨温図を読み取ることができる	○					○		○		66.6	1.1	70	50	
1	(2)①	オーストラリアで進んでいる多文化社会について理解している	○					○		○		18.0	25.0	70	50	▼
1	(2)②	資料から、オーストラリアの他地域との結び付きの変化を読み取ることができる	○					○		○		27.4	1.8	70	50	▼
2	(1)①	経度の違いから、時差を求めることができる	○					○		○		29.7	20.3	65	45	▼
2	(1)②	日本と世界各地との位置関係を理解し、日本との時差が一番小さい国を考えることができる	○					○		○		55.2	3.4	60	40	
2	(2)	日本の防災対策として、ハザードマップを作成していることを理解している		○					○	○		70.8	10.9	70	50	◎
2	(3)	資料から、インドと比較した日本の人口構成の特徴を読み取ることができる		○					○	○		89.0	1.3	70	50	◎
3	(1)	筑後川の名称と位置を理解している			○				○	○		75.2	10.8	75	55	◎
3	(2)	促成栽培について理解している			○				○	○		82.8	5.4	70	50	◎
3	(3)	北九州市の環境への取組について理解している			○				○	○		66.3	16.8	70	50	
3	(4)	資料から、火山の近くに多く分布している発電所が、地熱発電であることを読み取ることができる			○				○	○		60.1	4.9	70	50	
3	(5)	資料を基に、九州地方の南部で行われている農業の特徴を、シラスと関連付けて説明することができる			○			○			○	44.2	19.4	55	35	
4	(1)	時代区分の「中世」について理解している				○			○	○		69.7	1.1	70	50	
4	(2)	武士として初めて政権を握った人物が、平清盛であることを理解している				○			○	○		47.4	18.8	70	50	▼
4	(3)	将軍と御家人との関係が、御恩と奉公であることを理解している				○			○	○		35.7	16.7	70	50	▼
4	(4)	承久の乱が幕府に与えた影響について理解している				○			○	○		46.8	1.6	70	50	▼
4	(5)	元寇での元軍と幕府軍との戦いの様子について理解している				○			○	○		73.6	2.1	70	50	◎
4	(6)	資料を基に、技術面の進歩により、農業生産が高まった理由を説明することができる				○		○			○	41.3	20.0	60	40	
4	(7)	鎌倉時代の仏教について理解している				○			○	○		32.3	2.0	70	50	▼
5	(1)	ヨーロッパ人がアジアに進出した背景について理解している					○			○		46.4	1.4	75	55	▼
5	(2)①	豊田秀吉について理解している					○			○		59.2	15.4	75	55	
5	(2)②	兵農分離について理解している					○			○		41.3	22.7	70	50	▼
5	(2)③	朝鮮出兵のための城が、現在の佐賀県に築かれたことを理解している					○			○		33.7	13.0	70	50	▼
5	(3)	資料から、安土・桃山文化の特色を読み取ることができる					○		○	○		42.8	2.4	70	50	▼
5	(4)	資料を基に、参勤交代が大名に与えた影響を説明することができる					○	○			○	44.6	19.2	60	40	
6	(1)	資料を基に、大阪が「天下の台所」とよばれ、経済の中心として繁栄した理由を説明することができる					○	○			○	24.1	21.2	55	35	▼
6	(2)	公事方御定書について理解している					○			○		68.5	1.9	70	50	
6	(3)	江戸時代の産業の発展に大きく関わっていた株仲間について理解している					○			○		59.6	15.9	70	50	
6	(4)	寛政の改革について理解している					○			○		52.6	2.0	70	50	
6	(5)	百姓一揆や打ちこわしについて理解している					○			○		74.5	1.7	70	50	◎

(2) 調査結果の分析 (「○」は成果、「●」は課題、()内は関係する設問を示す。)

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ1、グラフ8]
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点別正答率は、全ての評価の観点で「おおむね達成」の基準を上回っている。平成26年度[12月調査]において課題として挙げられていた評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的な事象についての知識・理解」については、改善が見られる。[グラフ5、グラフ7、グラフ12、グラフ14]
- 中学1年生及び中学2年生の「活用」に関する問題の正答率は、「おおむね達成」の基準を下回っており、資料から適切な情報を読み取ったり社会的な事象の意味や意義を解釈したりしたことを、条件に合わせて説明することに課題が見られる。[グラフ2、グラフ9]

② 中学1年生

- 内容・領域別正答率については、歴史的な分野の内容・領域「古代までの日本」において、平成26年度[12月調査]では「おおむね達成」の基準を下回っていたが、平成27年度[12月調査]の正答率は59.8で、「おおむね達成」の基準51.5を8.3ポイント上回っており、改善が見られる。[グラフ6]
- 評価の観点別正答率については、到達基準を1として正答率を算出し、同一学年で経年比較をすると、全ての評価の観点で平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ7]
- 「活用」に関する問題の正答率は36.5で、「おおむね達成」の基準40.0を3.5ポイント下回っており、「資料を基に、社会的な事象の特色や事象間を関連付けて説明すること」「資料を基に、社会的な事象の意味や意義を解釈し、理由を説明すること」を問う設問で課題が見られる。[表1、グラフ2] (1年生問3(3)、問4(1))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問3 (3)	資料を基に、モンゴルで移動式住居が使用されている理由を、気候と農業の特色とを関連付けて説明することができる (記述式)	移動式住居と農業の様子、ウランバートルと東京の雨温図を基に、モンゴルで移動式住居が使用されている理由を条件に合わせて説明する。	35.6	16.3	60.0	40.0

- ・ 誤答・無解答の原因として考えられること
設問に示してある雨温図や写真から、雨が少なく乾燥しているモンゴルの気候の特徴と家畜とともに水や草を求めて移動する遊牧の特徴を読み取り、関連付けて考えることや条件に合わせて適切に説明することができなかつたと考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
アジア州の各地域の気候や生活(衣食住)の特色について、雨温図や写真などから読み取らせ、表にまとめさせる。次に、表にまとめた各地域の特色に着目させ、資料から読み取っ

たことを基に、共通点や相違点について考えさせる。その際、自然的条件や社会的条件と関連付けながら考えさせることで、世界の人々の生活や環境の多様性を理解させることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問4 (1)	資料を基に、人々が大型動物を追って日本に渡ってくる理由を説明することができる (記述式)	2万年前の日本列島と海面の変化の資料を基に、人々が大型動物を追って日本に渡ってくる理由を条件に合わせて説明する。	30.7	11.2	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

設問に示してある資料や写真から、当時の日本列島が氷河時代(氷期)であったことや気候が寒冷であったこと、そして、現在よりも海面が下がっていて、大陸と日本列島が陸続きになっていたことを読み取り、大型動物を追って、人々が日本に渡ってくる理由を、条件に合わせて適切に説明することができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

教科書などに掲載されている資料や写真から、今から2万年前の氷河時代(氷期)は、現在と異なり、海面が100mほど低く、陸地となっていたことや当時の人々が、狩猟や採集を中心とした移動生活を行っていたことを読み取らせる。その際、今から1万年前に氷河時代(氷期)が終わり、海面の上昇にともない、現在の日本列島が形成されたことについて読み取らせておくことも大切である。これらの読み取ったことを基に、移動生活をしていた人々が、大陸と陸続きになっていた日本にも獲物となる大型動物を追って、北方や南方から渡ってきたことを考えさせることが大切である。

③ 中学2年生

○ 内容・領域別正答率については、地理的分野の内容・領域「世界と比べた日本の地域的特色」において、正答率は79.9で、「十分達成」の基準70.0を9.9ポイント上回っている。

[グラフ13]

○ 評価の観点別正答率については、到達基準を1として正答率を算出し、同一学年や同一生徒で経年比較をすると、評価の観点「社会的な思考・判断・表現」「社会的事象についての知識・理解」で平成26年度[12月調査]より上回っており、改善が見られる。[グラフ14、グラフ15]

● 地理的分野の内容・領域「世界の諸地域」では、6問中3問で「おおむね達成」の基準を下回っている。特に、「オーストラリアで進んでいる多文化社会についての理解」を問う設問の正答率は18.0で、「おおむね達成」の基準50.0を32.0ポイント下回っており、課題が見られる。[表2](2年生問1(2)①)

● 「活用」に関する問題の「資料を基に、社会的事象の意味や意義を解釈し、理由を説明すること」を問う設問の正答率は24.1で、「おおむね達成」の基準35.0を10.9ポイント下回っており、課題が見られる。[表2](2年生問6(1))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問1 (2)①	オーストラリアで進んでいる多文化社会について理解している (短答式)	他の国の様々な文化や生活習慣を尊重し、共存を目指そうとする「多文化社会」を答える。	18.0	25.0	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

設問に示してある説明や写真から、他の国や他の民族の文化、生活習慣を尊重し、共存を図ろうとする多文化社会がどのような社会であるのか、また、どのような社会的な背景の基に形成されていったのかを理解できていなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

「なぜオーストラリアは、ヨーロッパに代わってアジアとの結び付きが強まったのだろう」という課題を設定するなどして、オーストラリアの原住民であるアボリジニー(アボリジニ)の生活や他地域からの移民の受け入れ、オーストラリアの貿易相手国の変化などについて資料や写真などから考えさせる。このような課題を解決する活動を通して、アジア諸国との結び付きを強めたオーストラリアで、多文化社会が進んでいる背景を理解させることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問6 (1)	資料を基に、大阪が「天下の台所」とよばれ、経済の中心として繁栄した理由を説明することができる (記述式)	江戸時代の商品流通のしくみと大阪の港のにぎわいの資料を基に、大阪が経済の中心として繁栄した理由を説明する。	24.1	21.2	55.0	35.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

設問に示してある資料から、大阪に全国の藩から米(年貢米)や特産物、生活物資などが運ばれ、貨幣と交換されたり、売買されたりしていたことや、各藩の蔵屋敷が置かれ、船便の往来が盛んだったことを読み取り、大阪が経済の中心として繁栄していた理由を適切に説明することができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

「三都の発展は、産業の発達や交通の整備とどのような関係があるのだろうか」という課題を設定するなどして、資料から、「江戸時代にどのような交通網があったか」について調べさせる。教科書などに掲載されている資料や写真を用いて、江戸を起点とする五街道などの陸上交通だけでなく、西廻り航路や東廻り航路などの海上航路が開かれていたことや江戸と大坂の間には、菱垣廻船や樽廻船などの定期船が往来する海上交通が整備されていたことを読み取らせる。次に、「当時、三都がどのような役割を担っていたのか」について調べ、三都の役割を政治・経済・文化の中心という面から比較させることが大切である。これらの活動を通して、交通網の発達が発展や物資の運搬に大きな役割を果たしていたことを確認させる。そして、当時の大阪が物流の拠点となっていたことと関連させながら、全国から米(年貢米)や特産品などが集まり、これらが売買される大商業都市であったことを捉えさせることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 基礎的・基本的な知識、概念を習得させ、活用させること（2年生問1(2)①）

- ・ 授業の導入段階で学習のめあてとともに、習得させる知識、概念をキーワードとして提示したりすることで習得させる知識、概念を明確にする。
- ・ 単元や授業の前後に小テストを実施するなどして、重要語句の一問一答形式の反復的な学習を設定するだけでなく、単元や授業のまとめの際に、その語句に関する社会的事象の関係性などを見付けさせ、習得した知識や概念を活用しながら説明させたり、レポートにまとめさせたりするなどの表現活動を行う。
- ・ 生徒の主体的な学習を促し、適切な課題の設定や課題を追究する調査活動、表現活動を行い、習得した知識や概念を繰り返し活用させる学習に取り組ませる。具体的には、作業的・体験的な学習からつかんだ事実や地図、新聞、読み物、統計などの資料から読み取った情報を基に、社会的事象の関連性を考えさせたり、説明させたりすることで、知識や概念の習得や定着を図る。

② 思考力、判断力、表現力を育む言語活動を充実させること

（1年生問3(3)、1年生問4(1)、2年生問6(1)）

- ・ 社会的事象の意味・意義を解釈したり、事象の特色や関連を説明したりする活動など、言語を使って考え、判断し、表現するという言語活動の充実が必要である。
 地理的分野では、世界の様々な地域の調査や身近な地域の調査において、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の考えを論述したり、意見を交換したりする学習に取り組ませる。
 歴史的分野では、学習した内容を活用してその時代を大観し、言葉や図で説明する活動や各時代の特色や時代の転換の様子を捉える学習を通して、自分の言葉でまとめたことを説明したり、論述したり、意見を交換したりする学習に取り組ませる。
 公民的分野では、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方をを用いて、政治、経済、国際関係に関する諸事象を捉えさせる。そして、習得した知識を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりする学習に取り組ませる。
- ・ 授業の中で、一問一答で重要語句を答えさせるような発問だけでなく、キーワードや資料を使い、事象の特色や事象間の関連を説明させる発問を行う。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

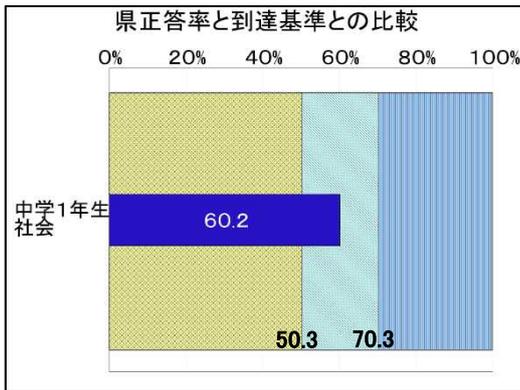
佐賀県教育センターでは、社会科における思考力・判断力・表現力の育成を目指して、「意思決定を取り入れた討論型の学習」を取り入れた授業を提案しています。指導のポイントとして、「社会的な問題に出会わせる手立て」などを取り上げ、発問や板書、ワークシートの工夫を取り入れた実践事例などを紹介しています。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ社会的な思考力・判断力・表現力を育成し、基礎的・基本的な知識や概念を身に付けさせるための授業改善について、Web アップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

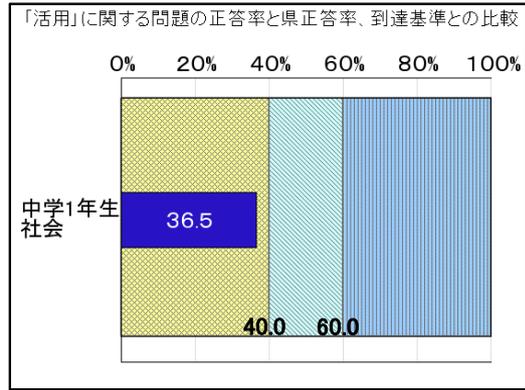
<資料>

① 中学1年生

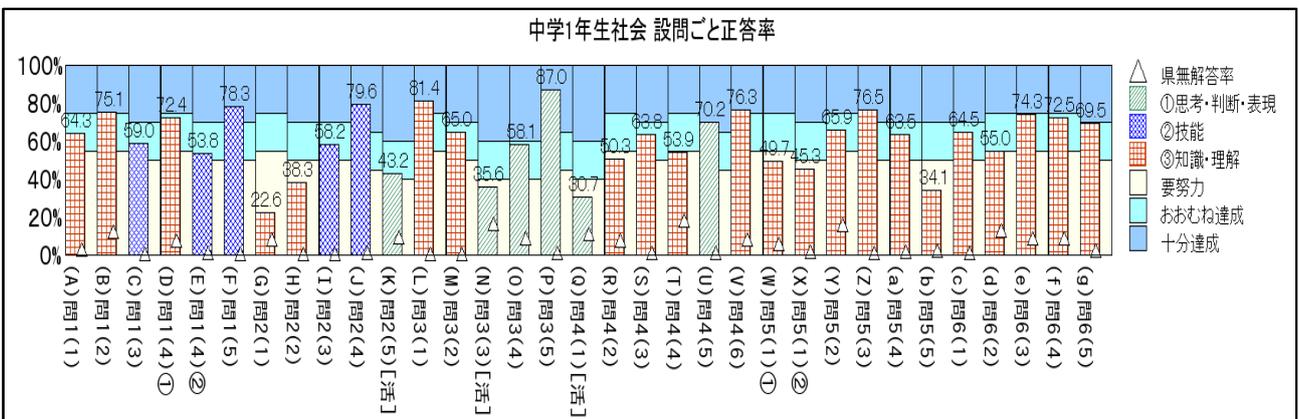
[グラフ1]教科全体正答率



[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



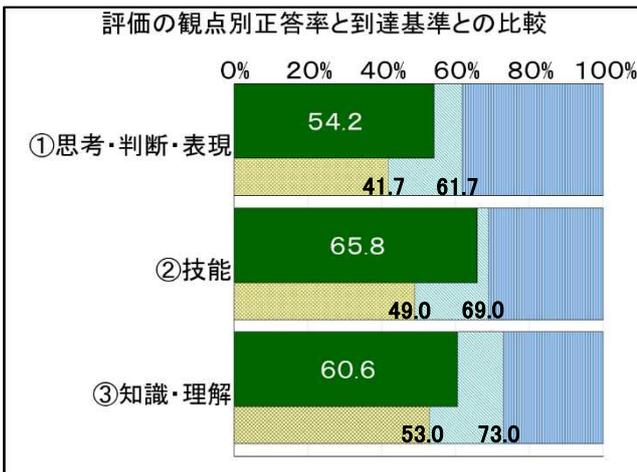
[グラフ3]設問ごと正答率



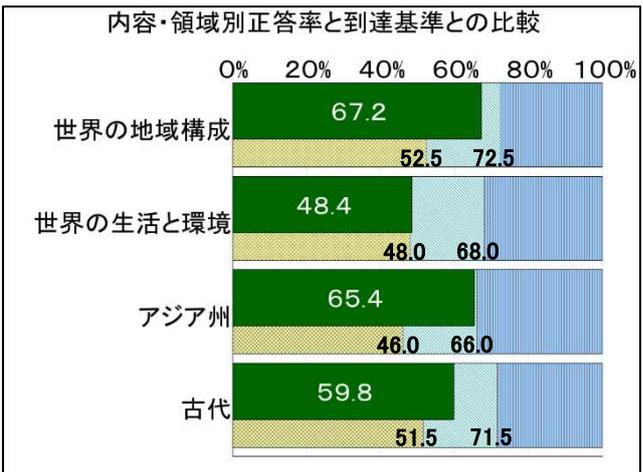
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率



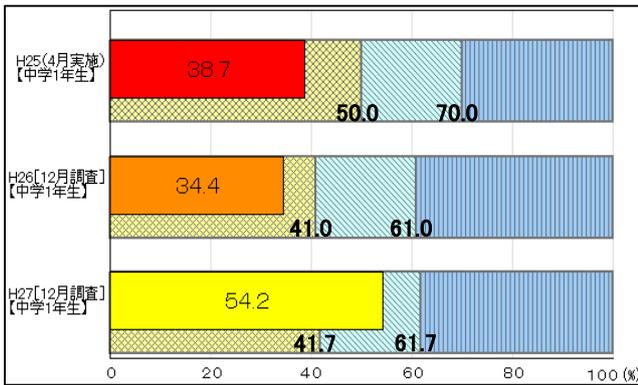
[グラフ6]内容・領域別正答率



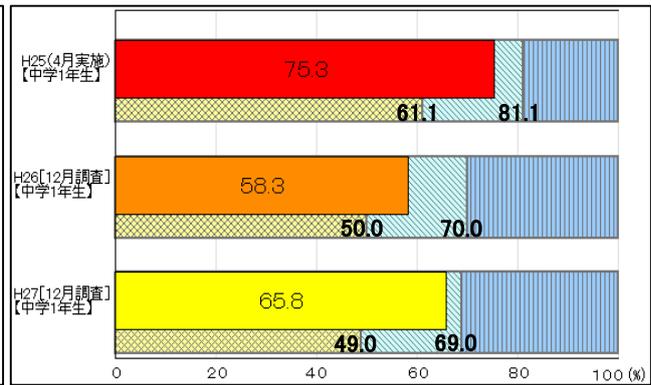
[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成25年度(4月実施)は、小学6年生までの内容で調査。

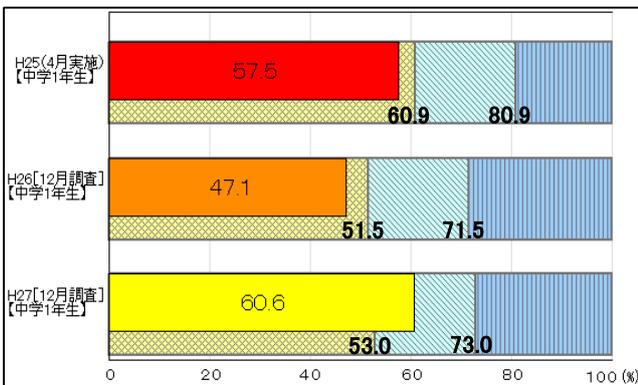
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能

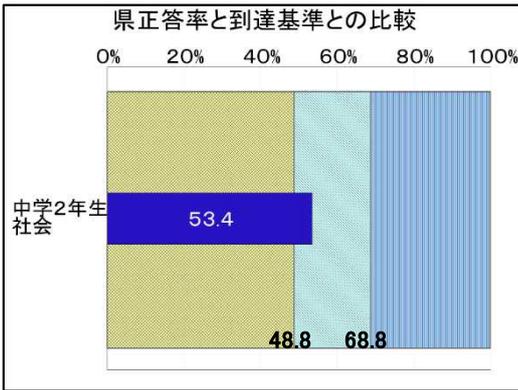


社会的事象についての知識・理解

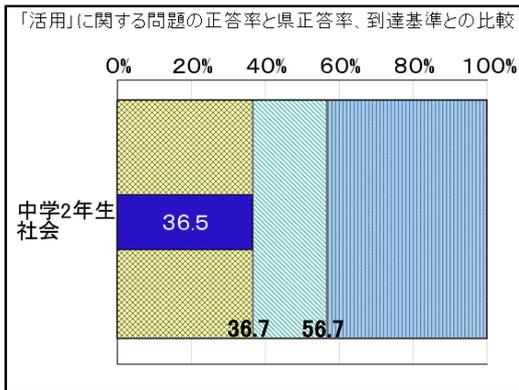


② 中学2年生

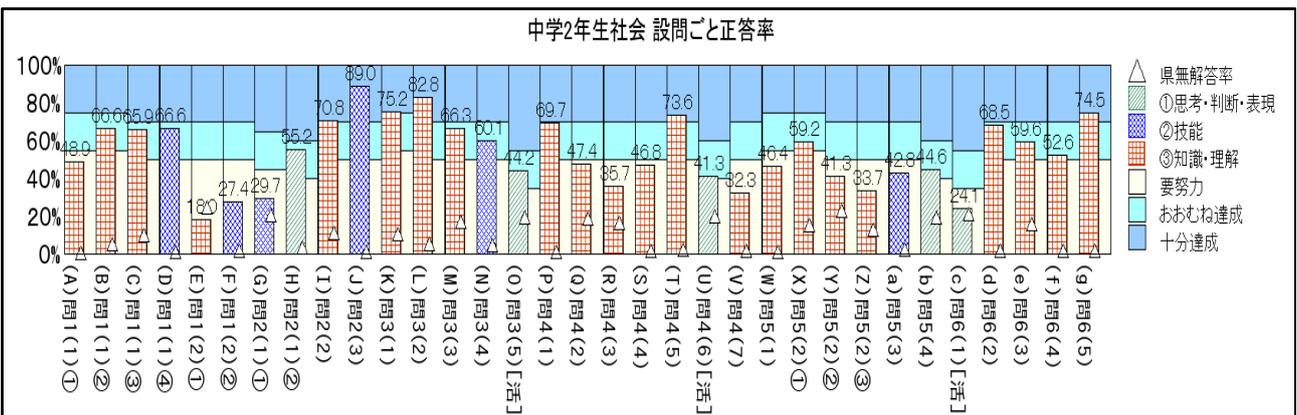
[グラフ8]教科全体正答率



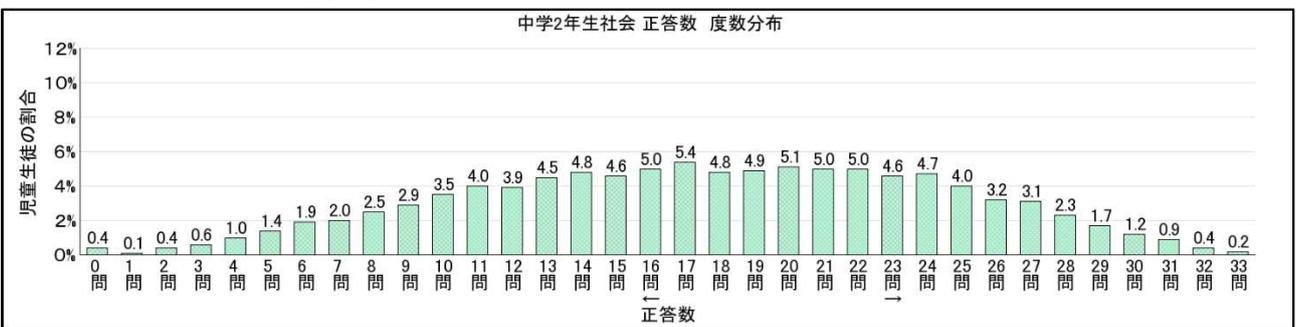
[グラフ9]「活用」に関する問題の正答率



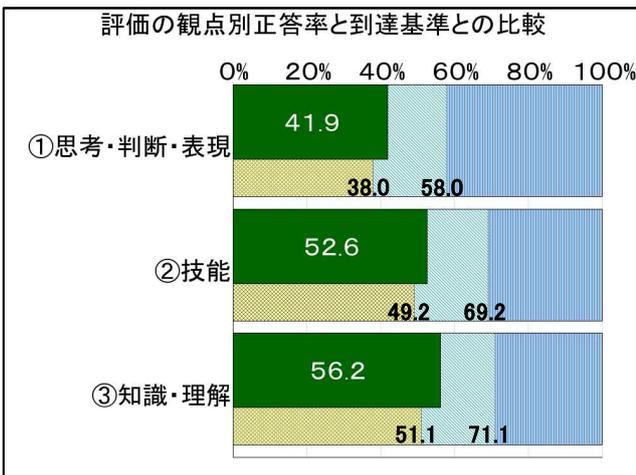
[グラフ10]設問ごと正答率



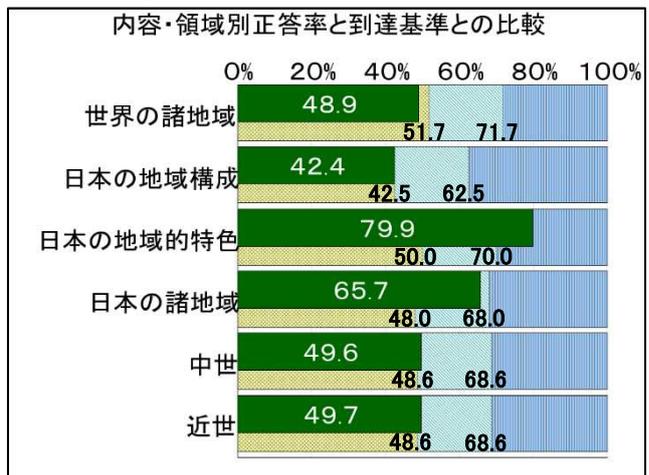
[グラフ11]教科正答数度数分布



[グラフ12]観点別正答率



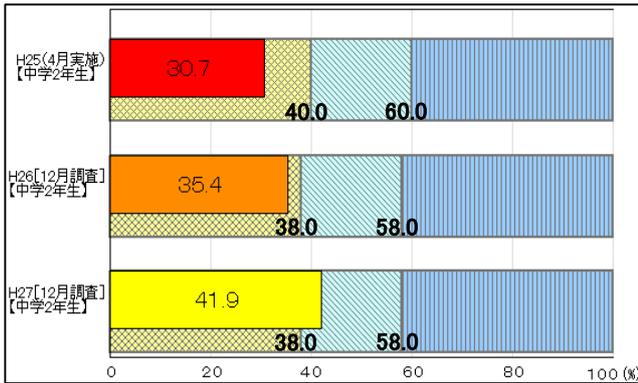
[グラフ13]内容・領域別正答率



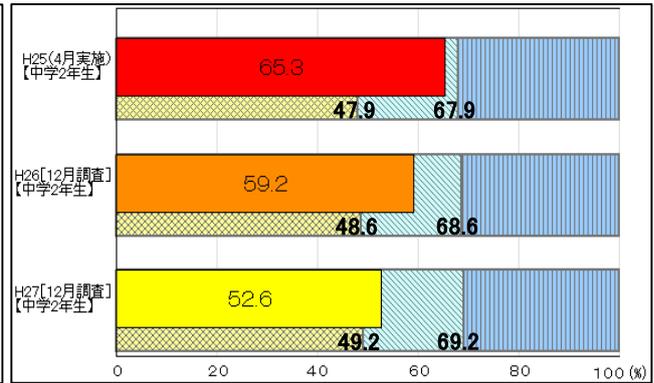
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成 25 年度(4 月実施)は、中学 1 年生までの内容で調査。

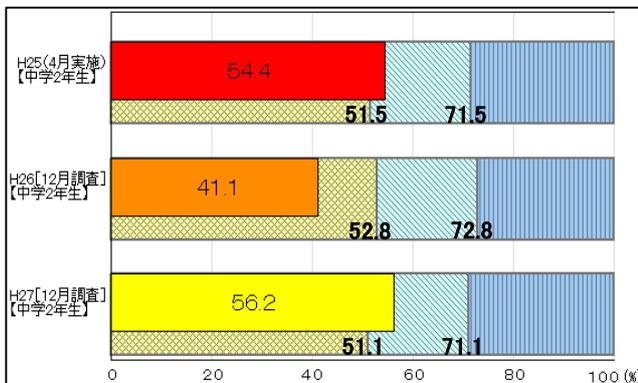
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能

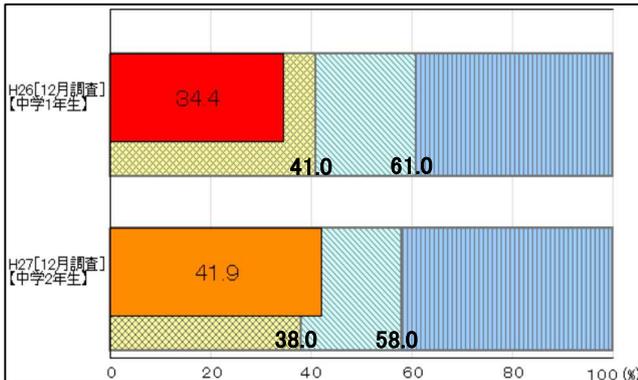


社会的事象についての知識・理解

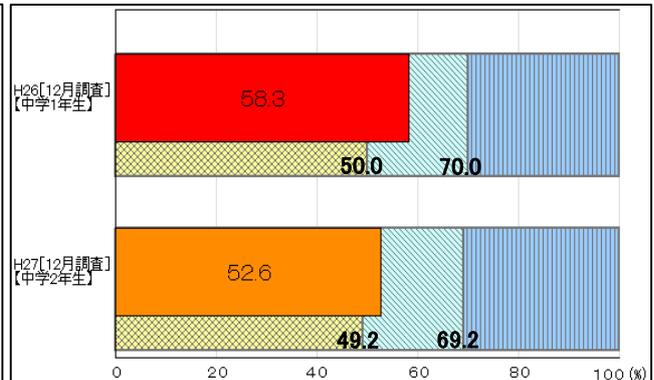


[グラフ 15] 評価の観点別正答率(同一生徒)

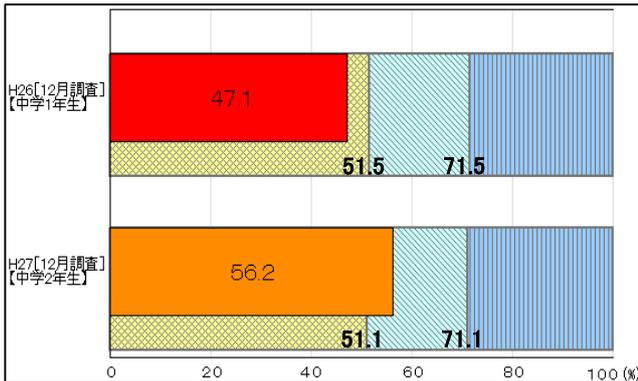
社会的な思考・判断・表現



資料活用の技能



社会的事象についての知識・理解



1 小学校算数

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1)	2位数×2位数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			85.4	0.2	85	65	◎
1	(2)	除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○				○			○			82.9	1.5	85	65	
1	(3)	1/10の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○			○			90.2	0.3	80	60	◎
1	(4)	()を用いた式の計算をすることができる				○	○			○			92.1	0.5	80	60	◎
2	(1)	未知の数量を口を用いて表現し、立式することができる				○	○		○				56.6	0.7	80	60	▼
2	(2)	日常生活の中で必要となる時刻を求めることができる		○			○			○			79.5	0.9	85	65	
2	(3)	示された位までの概数にする際、一つ下の位の数を四捨五入して処理する方法について理解している	○						○	○			82.3	0.2	80	60	◎
3	(1)	折れ線グラフから変化の様子を読み取ることができる				○	○			○			89.1	0.3	85	65	◎
3	(2)	折れ線グラフで表されていることを基に分かったことを説明することができる				○	○			○			52.5	0.5	75	55	▼
4	(1)	兆の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○						○	○			86.4	0.6	80	60	◎
4	(2)	数直線から1億より大きい数を読み取ることができる	○						○	○			54.1	2.1	80	60	▼
5		場面と図と式を関連付けて、二つの数量の関係を理解している				○			○	○			72.5	0.6	80	60	
6	(1)	分度器を用いて180°より小さい角の大きさを求めることができる		○					○	○			93.7	0.2	85	65	◎
6	(2)	分度器を用いて180°より大きい角の大きさを求めることができる		○					○	○			55.4	0.3	80	60	▼
7	(1)	長方形の面積の公式を理解し、面積と縦の長さから、横の長さの求め方を考えることができる				○	○			○			87.2	0.8	80	60	◎
7	(2)	複合図形の面積の求め方を考えることができる		○			○			○			63.3	1.6	75	55	
8	(1)	重さについての感覚を身に付けている		○					○	○			46.2	0.4	85	65	▼
8	(2)	長さについての感覚を身に付けている		○					○	○			69.8	0.5	85	65	
9		示された条件を基に、給食が始まる時刻を考えることができる		○			○			○	○		24.2	2.3	75	55	▼
10	垂直	直線の位置関係に着目し、垂直な2つの直線を見付けることができる		○			○			○			76.4	1.2	85	65	
10	平行	直線の位置関係に着目し、平行な2つの直線を見付けることができる		○			○			○			71.4	1.2	85	65	
11		用意した小麦粉を配ることができるかどうかを、はかりを適切に読み取って判断し、その理由を説明することができる		○			○				○	○	37.0	4.2	70	50	▼
12	(1)	平行四辺形の特徴を理解している		○					○	○			44.1	2.6	80	60	▼
12	(2)	対角線の意味と用語について理解している		○					○	○			50.3	7.2	85	65	▼
12	(3)	コンパスを用いて円を作図することができる		○			○			○			81.5	3.5	85	65	
13		示された情報を基に、長方形のタイルの面積を求め、その求め方を説明することができる		○			○				○	○	13.2	13.4	70	50	▼

② 小学5年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1)	被乗数, 乗数が共に小数の乗法の計算をすることができる	○				○		○				84.2	0.1	85	65	
1	(2)	整数と小数が混ざった乗法の計算をすることができる	○				○		○				84.4	0.3	80	60	◎
1	(3)	被除数, 除数が共に小数の除法の計算をすることができる	○				○		○				83.0	0.4	85	65	
1	(4)	被除数が整数, 除数が小数の除法の計算をすることができる	○				○		○				67.3	0.7	80	60	
1	(5)	減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる				○	○		○				73.6	0.4	85	65	
2	(1)	偶数の意味について理解している	○					○	○				86.6	0.3	85	65	◎
2	(2)	二つの整数の最大公約数を求めることができる	○				○		○				73.8	2.3	85	65	
2	(3)	二つの整数の最小公倍数を求めることができる	○				○		○				80.9	1.1	85	65	
2	(4)	整数と小数の相対的な大きさについて理解している	○					○	○				58.9	0.3	85	65	▼
2	(5)	余りのある除法において, 被除数を求める式について理解している	○					○	○				52.5	1.8	80	60	▼
3	(1)	測定値の平均を求めることができる		○			○		○				79.2	0.4	85	65	
3	(2)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解している		○				○	○				47.7	0.6	80	60	▼
4	(1)	帯分数の大きさについて理解している	○					○	○				71.6	1.0	85	65	
4	(2)	分数の大小について理解している	○					○	○				60.7	1.2	80	60	
5	(1)	場面と図を関連付けて, 二つの数量の関係を理解している	○					○	○				29.8	0.9	80	60	▼
5	(2)	1に当たる大きさを求めるために, 除法が用いられることを理解している	○					○	○				56.9	3.0	80	60	▼
6	(1)	立方体の体積を求めることができる		○			○		○				41.0	1.6	85	65	▼
6	(2)	立体の体積の求め方を考えることができる		○			○		○				65.3	1.9	75	55	
6	(3)	立方体の展開図の面の位置関係を理解している			○			○	○				92.8	0.7	80	60	◎
7	(1)①	合同な図形の対応する辺を判断することができる			○		○		○				82.3	0.6	80	60	◎
7	(1)②	合同な図形の対応する角の大きさを求めることができる			○		○		○				91.1	0.7	85	65	◎
7	(2)	合同な三角形をかくために必要な条件を理解している			○			○	○				66.7	0.9	80	60	
8		示された情報を基に, 2つの条件に当てはまる商品を選んだ理由を説明することができる				○	○			○	○		78.3	3.0	70	50	◎
9		4回目までのテストの点数の平均と, 5回目のテストの結果を基に, 5回目までのテストの点数の平均を考えることができる		○			○			○	○		41.2	4.3	70	50	▼
10		グラフの特徴を基に, 数量の変化の様子を捉えることができる				○	○			○	○		42.6	2.5	70	50	▼
11		資料を二つの観点から分類整理し, 表を用いて表すことができる				○	○			○			64.5	3.9	80	60	
12		示された考え方が正しいかどうかを, 問題集の問題数と3日間で解いた問題数を基に判断し, その理由を説明することができる	○				○			○	○		33.4	9.4	70	50	▼

③ 小学6年生

[表3]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式						
1	(1)	被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算をすることができる	○				○			○		95.2	0.2	85	65	◎
1	(2)	被除数が真分数、除数が仮分数の除法の計算をすることができる	○				○			○		91.1	0.4	85	65	◎
1	(3)	被乗数が真分数、乗数が帯分数の乗法の計算をすることができる	○				○			○		89.4	0.6	80	60	◎
1	(4)	小数及び分数を含んだ除法の計算をすることができる	○				○			○		71.4	1.7	80	60	
1	(5)	仮分数及び真分数を含んだ乗法、除法の混合計算をすることができる	○				○			○		81.3	1.1	80	60	◎
2	(1)	速さと長さから時間を求めることができる		○			○			○		95.7	0.5	85	65	◎
2	(2)	何倍かを求めるために、除法が用いられることを理解している	○					○		○		45.3	0.7	80	60	▼
3	(1)	場面と数直線を関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○					○	○			82.1	0.3	80	60	◎
3	(2)	1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解している	○					○	○			52.1	0.4	80	60	▼
4	(1)	円を4等分した形の面積を考慮することができる		○			○			○		72.7	0.6	75	55	
4	(2)	四角柱の体積を求めることができる		○			○			○		58.7	1.7	80	60	▼
4	(3)	三角形の面積を求める公式を理解している		○				○	○			77.8	0.2	80	60	
5		線対称な図形における対応する辺の位置関係を理解している			○			○		○		69.9	0.1	85	65	
6		コンパスを使った正方形のかき方について、用いられている正方形の特徴を理解している			○			○	○			77.9	0.1	80	60	
7		三角柱の展開図から、展開図を組み立ててできる三角柱の高さを考えることができる			○		○			○		81.0	0.3	75	55	◎
8		除数が分数である除法において、除数と商の大きさの関係について理解している	○					○	○			51.2	1.1	80	60	▼
9	(1)	x や y を用いて、数量の関係を式に表すことができる				○	○			○		40.2	0.4	80	60	▼
9	(2)	百分率の意味について理解している				○		○		○		62.6	1.7	80	60	
9	(3)	等しい比について理解している				○		○	○			67.0	0.3	80	60	
9	(4)	比例の関係を基に、未知の数量を求めて表に表すことができる				○	○			○		93.0	0.4	80	60	◎
10		示された情報を基に、割合が同じになる砂糖の重さを比を使って考えることができる				○	○			○	○	37.8	2.8	70	50	▼
11		示された情報を基に、ぼうしをより安く買う方法を判断し、その理由を説明することができる				○	○			○	○	49.3	3.7	70	50	▼
12		等分してできる部分の大きさを表すのに分数が用いられることを理解している	○					○	○			66.4	0.7	80	60	
13	(1)	拡大図の対応する角の位置関係を理解している			○			○		○		95.7	0.4	85	65	◎
13	(2)	拡大図の対応する辺の長さを求めることができる			○			○		○		73.9	0.5	85	65	
14		示された情報を基に、単位量当たりの大きさなどに着目して二つの量の関係を求め、その求め方を説明することができる		○			○			○	○	65.5	5.9	70	50	
15		示された表とグラフを基に、3000円分のガソリンで自動車が進む長さを考えることができる				○	○			○	○	53.2	3.4	70	50	

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 全ての学年において、教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1、グラフ8、グラフ16]
- 評価の観点「数量や図形についての技能」「数量や図形についての知識・理解」は、全ての学年において、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ5、グラフ12、グラフ20]
- 評価の観点「数学的な考え方」は、小学5年生、小学6年生において「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ12、グラフ20]
- 内容・領域「量と測定」は、小学4年生、小学5年生において「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ6、グラフ13]
- 「活用」に関する問題は、小学4年生、小学5年生において、「おおむね達成」の基準を下回っている。また、「活用」に関する問題は、小学6年生において、「おおむね達成」の基準を上回っているが、4問中2問が「おおむね達成」の基準を下回っている。[グラフ2、グラフ9、グラフ17、表3]

② 小学4年生

- 評価の観点「数量や図形についての知識・理解」において、「概数にする際の方法についての知識」「兆の単位と十進位取り記数法についての理解」を問う設問の正答率は、「十分達成」の基準を上回っている。[表1]
- 評価の観点「数量や図形についての技能」において、四則計算の基礎的な技能に関する設問は、4問中3問が「十分達成」の基準を上回っている。[表1]
- 評価の観点「数量や図形についての知識・理解」において、「対角線の意味と用語についての理解」を問う設問の正答率は50.3で、「おおむね達成」の基準65.0を14.7ポイント下回っており、課題が見られる。[表1]（4年生問12(2)）
- 「活用」に関する問題は、全ての設問で「おおむね達成」の基準を下回っている。「情報を基に長方形の面積を求め、説明すること」を問う設問の正答率は13.2で、「おおむね達成」の基準50.0を36.8ポイント下回っており、課題が見られる。[表1]（4年生問13）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問12 (2)	対角線の意味と用語について理解している (短答式)	四角形の向かい合った頂点を結んだ直線の名称を書く。	50.3	7.2	85.0	65.0

- ・ 誤答・無解答の原因として考えられること
対角線の意味と、対角線という用語についての理解が十分でなかったために、誤った言葉を書いたり、何も書くことができなかつたりしたと考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
指導に当たっては、教師が「向かい合う頂点を結んでできる直線を対角線という」などと意味を説明するだけでなく、「対角線とはどのような線のことだろう」などと問い、児童にその意味を考えさせたり説明させたりすることが大切である。また、対角線などの用語を指導した後も、学んだ用語を使いながら説明する活動を仕組むことで、知識の定着を図ることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問13	示された情報を基に、長方形のタイルの面積を求め、その求め方を説明することができる (記述式)	情報を整理して、図形の面積を求め、その求め方を説明する。	13.2	13.4	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

示された複数の情報を読み取り、整理して考えることができずに、問題解決の見通しをもつことができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

児童は、問題文の意味を十分に読み取らないまま、示された数字を感覚的に捉え、誤った立式をすることがある。指導に当たっては、「円の直径は24 cm」「正方形の一辺は6 cm」など、問題文に示された情報を、与えられた図に書き入れて、複雑な情報を整理しながら把握させることが大切である。問題文を読んで、分かったことを図に書き込んだり、簡単な図に表したりするなど、示された情報を整理する活動を仕組むなどして、複数の情報を整理させ、問題解決の見通しをもたせることが大切である。

③ 小学5年生

○	評価の観点「数量や図形についての技能」において、「整数と小数が混ざった乗法の計算をすること」「合同な図形の対応する辺を判断すること」「合同な図形の対応する角の大きさを求めること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。[表2]
○	「活用」に関する問題の「示された情報を基に、2つの条件に当てはまる商品を選択し、その理由を説明すること」を問う設問の正答率は78.3で、「十分達成」の基準70.0を8.3ポイント上回っている。[表2]
●	「示された場面の数量の関係を理解すること」を問う設問の正答率は29.8で、「おおむね達成」の基準60.0を30.2ポイント下回っており、課題が見られる。[表2]（5年生問5(1)）
●	「活用」に関する問題は、4問中3問が「おおむね達成」の基準を下回っている。「グラフの特徴を基に、変化の様子を捉えること」を問う設問の正答率は42.6で、「おおむね達成」の基準50.0を7.4ポイント下回っており、課題が見られる。[表2]（5年生問10）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問5 (1)	場面と図を関連付けて、二つの数量の関係を理解している (選択式)	問題文に示された二つの数量の関係を表している図を選択する。	29.8	0.9	80.0	60.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

問題文から、基準量と比較量、倍の関係を読み取ることができずに、誤った図を選択したと考えられる。また、図の表す数量の関係を十分に理解できなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

図を用いて表現したり、説明したりする活動において、児童は、図そのものの意味や図が表す数量の関係の読み取り方などを十分に理解できていないことがある。指導に当たっては、「赤いテープの長さは何cmか」「白いテープの長さは、赤いテープの長さの何倍か」などと問うことで、問題文から読み取った数量の関係を確かめながら順序よく図に表す活動を仕組むことが大切である。また、「図からどのようなことが分かるか」などと問い、図から分かることを話し合いながら、図に表されている数量の関係を読み取る活動を仕組むなど、図そのものを考察の対象として、数量の関係を的確に捉えさせる活動を仕組むことが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問10	グラフの特徴を基に、数量の変化の様子を捉えることができる (選択式)	グラフから読み取れることを、選択する。	42.6	2.5	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

複数の情報が示されたグラフのどの部分に着目して考えればよいのかが分からずに、グラフの値を正しく読み取ることができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

指導に当たっては、「それぞれの地区の人数の移り変わりについて調べよう」とグラフから値を読み取る目的を明確にした上で、グラフのどの部分に着目すればよいかを考える活動を仕組むなどして、グラフの値を読み取らせるだけでなく、グラフの値を読み取らせた上で、考えさせたり、判断させたりすることが大切である。

また、社会や理科など、算数以外の学習でグラフを扱う際に、算数で学習した知識を活用してグラフの値を読み取らせるなどして、定着を図ることも考えられる。

④ 小学6年生

○ 評価の観点「数量や図形についての知識・理解」において、「場面と数直線を関連付けた数量の関係の理解」「拡大図の対応する角の位置関係の理解」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。[表3]
○ 評価の観点「数量や図形についての技能」の分数の四則計算の基礎的な技能に関する設問は、5問中4問が「十分達成」の基準を上回っている。[表3]
● 「倍を求める際に除法を用いることの意味」を問う設問の正答率は45.3で、「おおむね達成」の基準60.0を14.7ポイント下回っており、課題が見られる。[表3]（6年生問2(2)）
● 「活用」に関する問題は、4問中2問が「おおむね達成」の基準を下回っている。「示された情報を基に、商品を安く買う方法を判断し、その理由を説明すること」を問う設問の正答率は49.3で、「おおむね達成」の基準50.0を0.7ポイント下回っており、課題が見られる。[表3]（6年生問11）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問2 (2)	何倍かを求めるために、 除法が用いられることを 理解している (短答式)	女子の人数が男子の 人数の何倍になるか を求めるための式を 立てる。	45.3	0.7	80.0	60.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

比較量と基準量を混同し、基準量÷比較量(30÷15)と立式したと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

児童は、何倍かを求める際に、除法を用いることは分かっているが、比較量と基準量を誤って捉えることがある。指導に当たっては、問題文を「男子の人数の□倍が女子の人数です」というように表現し直したり、「女子の人数＝男子の人数×□」など乗法の式に表現し、倍を求める式を考えたりする活動を仕組むなどして、問題文に表れている数量の関係を分かりやすい言葉や式に直し、正しく捉えさせることが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問11	示された情報を基に、ぼ うしをより安く買う方 法を判断し、その理由を 説明することができる (記述式)	値引きの仕方の違い を基に、安く商品 を買うことができる方 法を判断し、理由を 説明する。	49.3	3.7	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

「10%引き」など、生活の中で用いられる百分率の考え方を理解できずに、正しく処理することができなかつたと考えられる。また、数量の大小の判断の理由を、根拠を明確にして記述することができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

生活の中には「10%引き」や「30%増量」など、百分率が用いられる場面が多くある。生活の中で百分率が用いられている場面を基に、「10%引きの商品を買うとどれくらい安くなるのか」などと問い、生活の中の事象と百分率とを関連付けて考えたり、説明したりする活動を仕組むなどして、百分率の意味と処理の仕方についての理解を深めさせることが大切である。また、一人の児童に説明をさせて終わるのではなく、根拠が不足した説明や、途中までの説明を提示し、より良い説明にするために必要な事柄を学級全体で考えさせることで、根拠を明確にして説明する力を高めさせることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 必要な情報を考えたり、読み取った情報を整理したりするような活動を設定すること
(4年生問13)

- ・ 問題文を読み取り、問題解決に必要な情報が何かを児童に考えさせるために、条件不足や条件過多の問題を提示したり、問題文を途中まで提示して続きを考えさせたりするなどの問題提示の工夫をすることが大切である。
- ・ 示された情報を、簡単な絵や図にまとめさせたり、図に書き込ませたりするなど、問題に示されている情報を整理して把握し、解決の方法を考えさせるような指導を行うことが大切である。

② 身に付けた知識や技能を使って考え、表現する活動を設定すること
(4年生問12(2)、5年生問11)

- ・ 学んだ用語を用いて説明する活動や、グラフから読み取ったことを基に判断する活動など、算数に関する知識や技能を使って考え、表現する場面を設定し、知識や技能を確実に定着させることが大切である。

③ 思考力・表現力を高める言語活動を設定すること (4年生問13、6年生問11)

- ・ 一人の児童に途中まで説明させ、その続きを学級全体で考えさせたり、誤りのある説明や根拠が不足している説明を基に、よりよい説明に修正させたりするなど、特定の児童のみに説明させるのではなく、学級全体で考え、説明させるような指導を行うことが大切である。
- ・ 図や式のみを提示し、その考え方を説明させたり、図と式と言葉を結び付けて説明させたりするなど、複数の表現を関連付けて考えさせ、説明させるような指導を行うことが大切である。

④ 他の教科や日常生活においても、算数で学んだことを活用しようとする態度を育てること
(5年生問10、6年生問11)

- ・ 算数以外の教科等の指導においても、算数で学んだことが使われている場面を児童に意識させ、算数で学んだことを活用させることが大切である。
- ・ 算数で学んだことが日常生活の中で活用されている場面を紹介したり、日常生活の中の事象を問題に取り入れたりして、算数で学んだことが日常生活の中でも活用されていることに気付かせ、算数で学んだことを進んで活用しようとする態度を育てることが大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

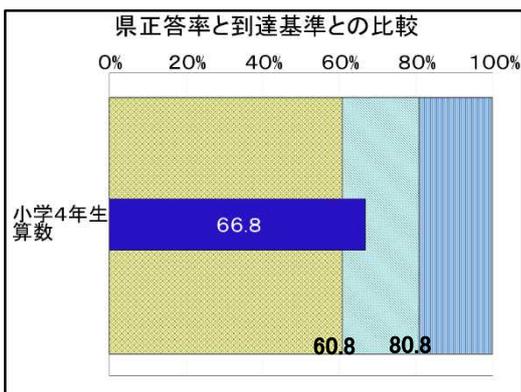
佐賀県教育センターでは、平成21年度から平成24年度に知識・技能の習得を図り、数学的な思考力・判断力・表現力を育む学習指導の在り方についてプロジェクト研究を行いました。教育センターWebページでは、算数的活動を効果的に取り入れた授業プランや、知識・技能の習得を図り、思考力・判断力・表現力を育む学習プリントを紹介しています。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ、「導入の段階の工夫」や「練り合いの段階工夫」などの授業改善について、Webアップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

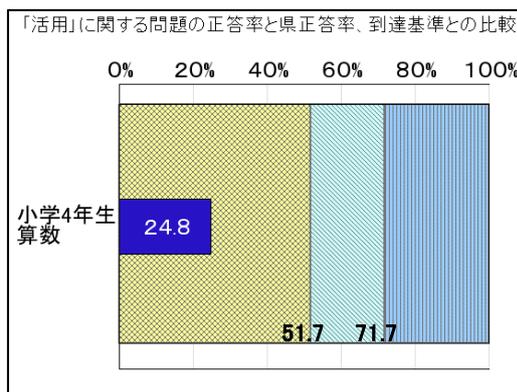
<資料>

① 小学4年生

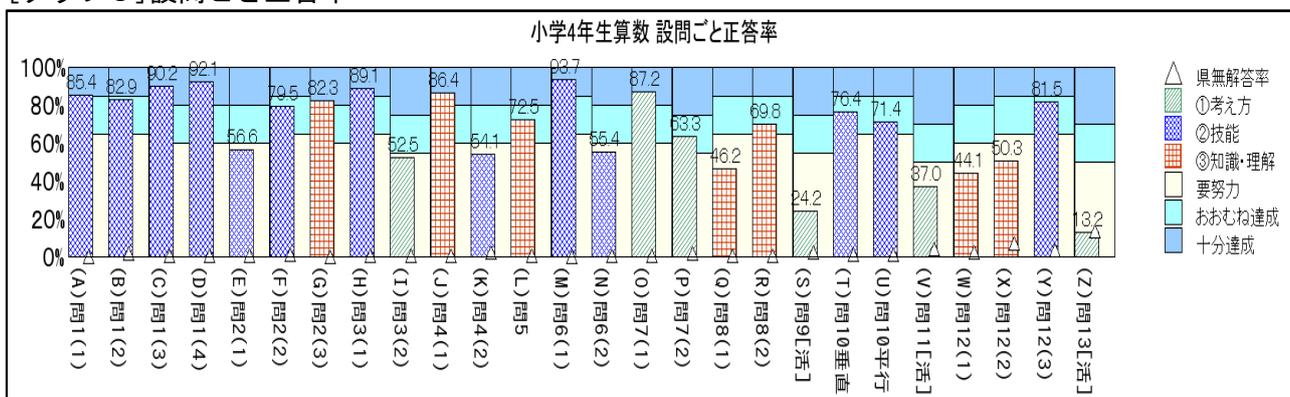
[グラフ1]教科全体正答率



[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



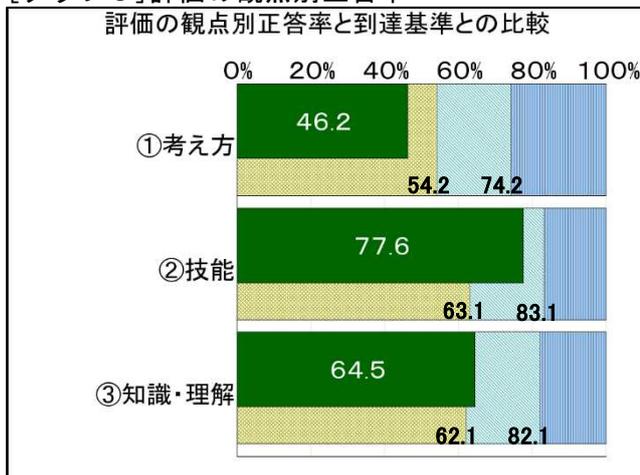
[グラフ3]設問ごと正答率



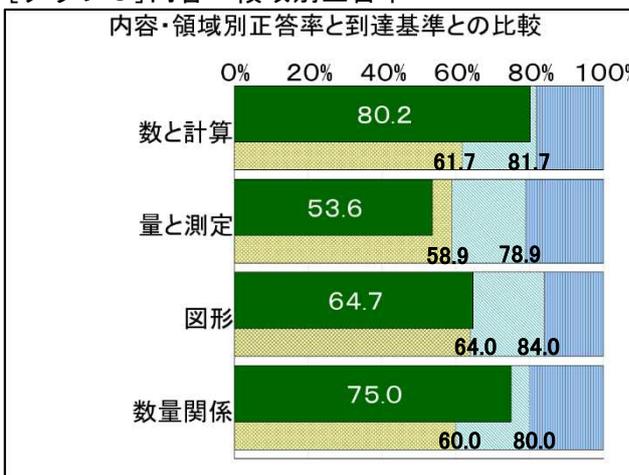
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率

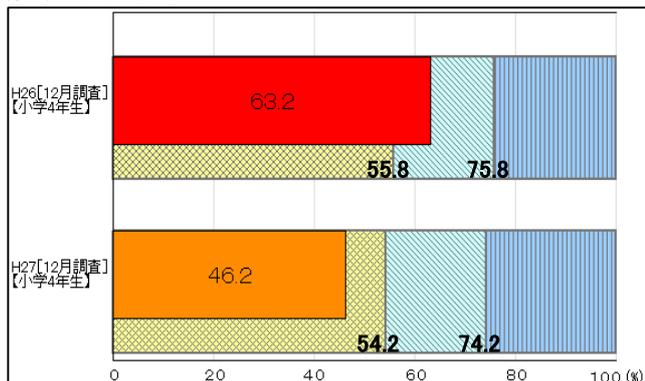


[グラフ6]内容・領域別正答率

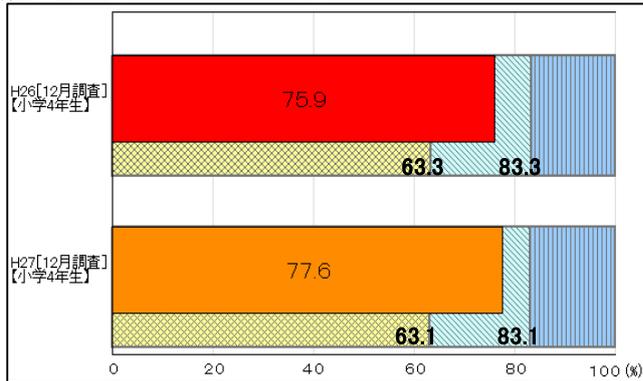


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

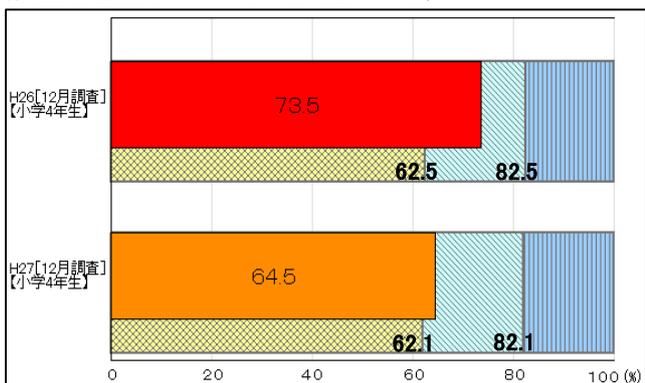
数学的な考え方



数量や図形についての技能

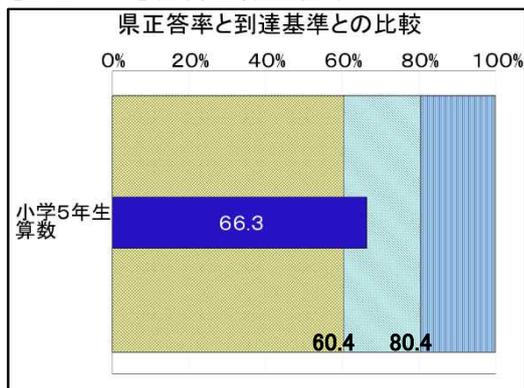


数量や図形についての知識・理解

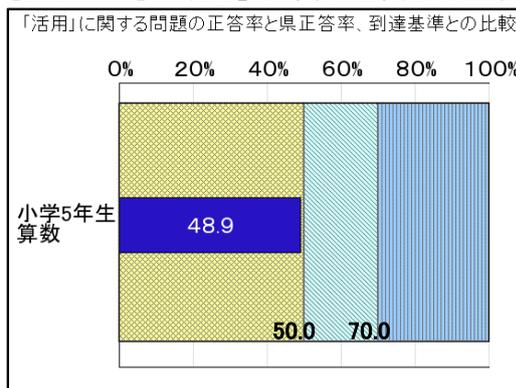


② 小学5年生

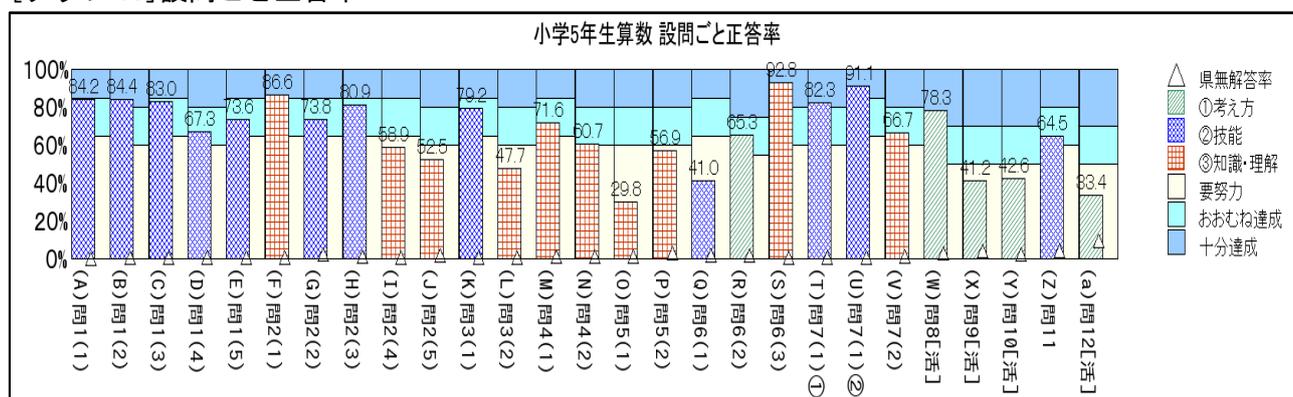
[グラフ8]教科全体正答率



[グラフ9]「活用」に関する問題の正答率



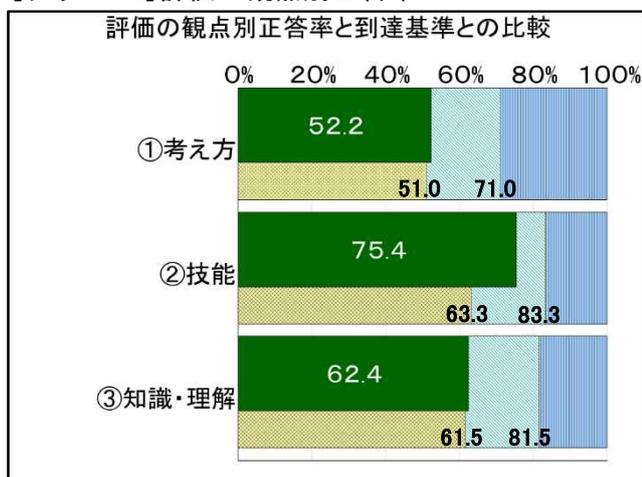
[グラフ10]設問ごと正答率



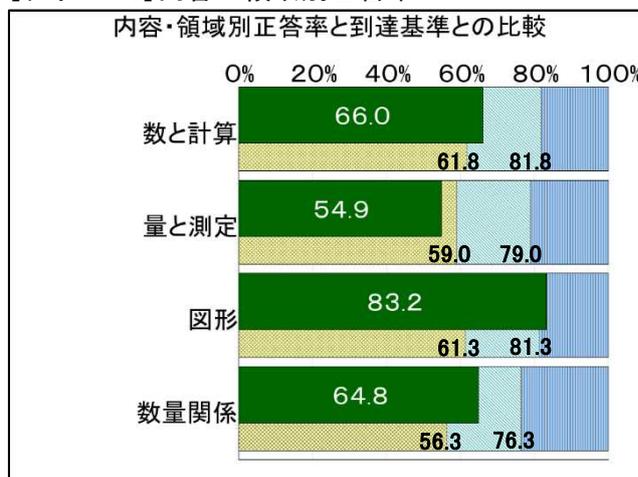
[グラフ11]教科正答数度数分布



[グラフ12]評価の観点別正答率



[グラフ13]内容・領域別正答率

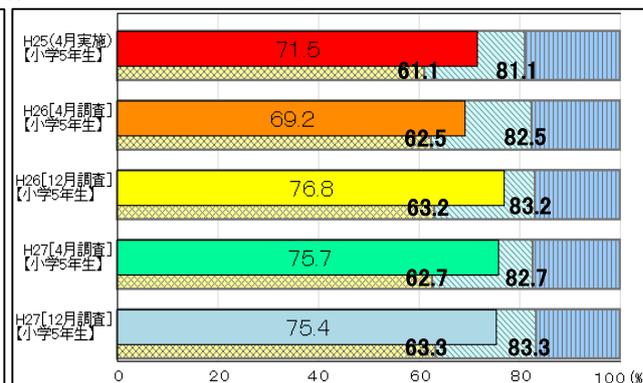
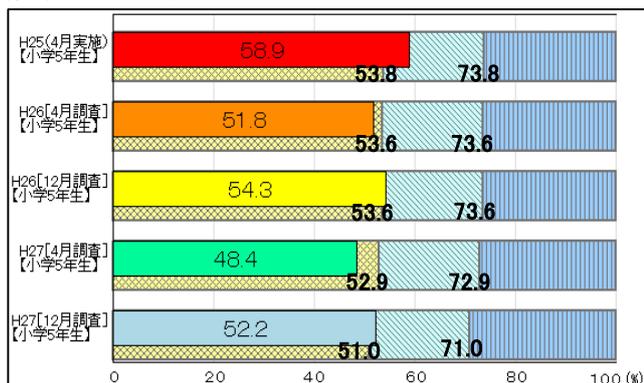


[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

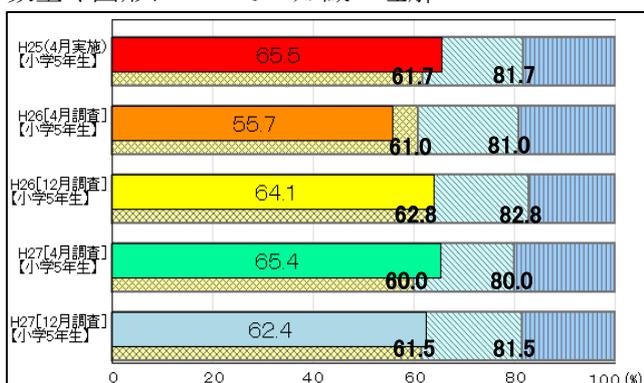
※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、小学 4 年生までの内容で調査。

数学的な考え方

数量や図形についての技能



数量や図形についての知識・理解

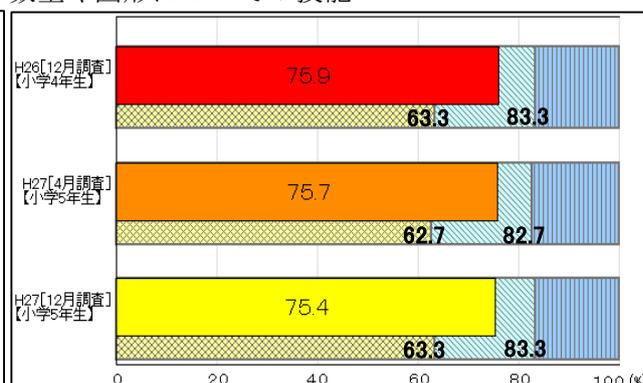
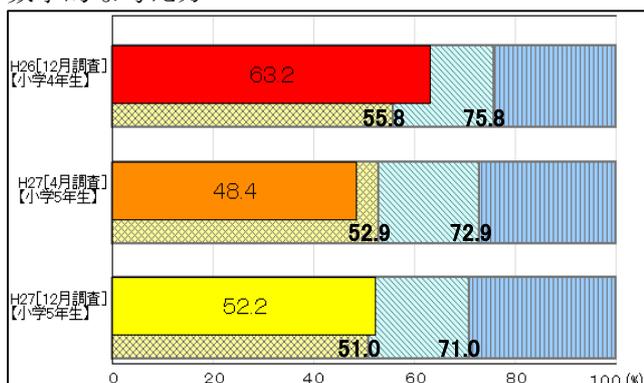


[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

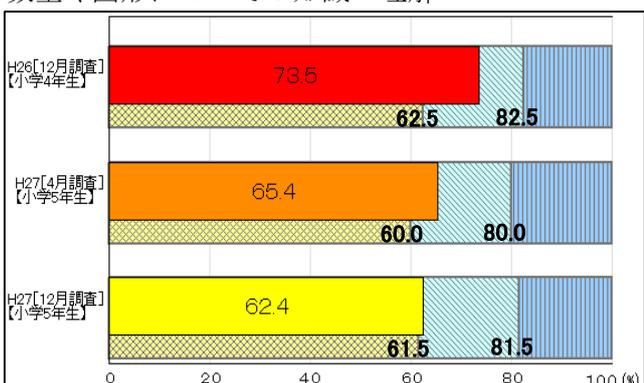
※ 平成 27 年度[4 月調査]は、小学 4 年生までの内容で調査。

数学的な考え方

数量や図形についての技能

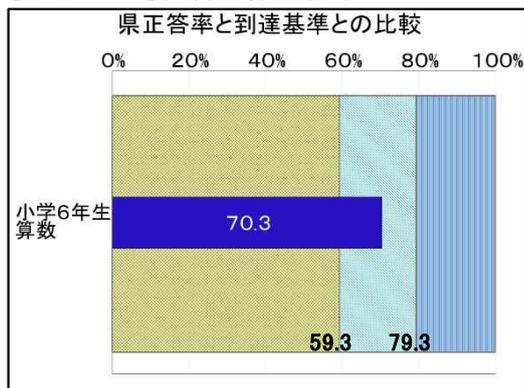


数量や図形についての知識・理解

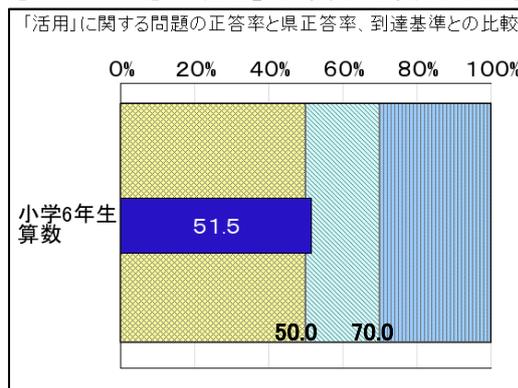


③ 小学6年生

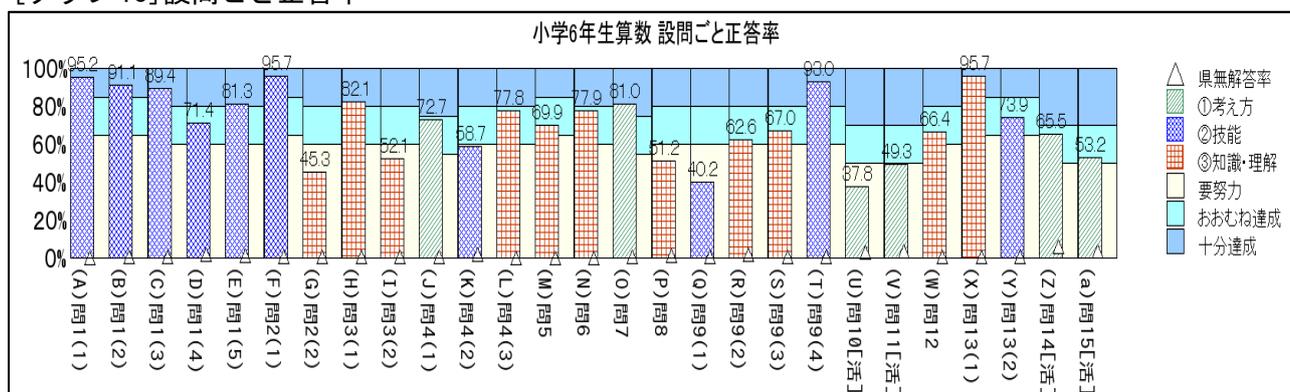
[グラフ16]教科全体正答率



[グラフ17]「活用」に関する問題の正答率



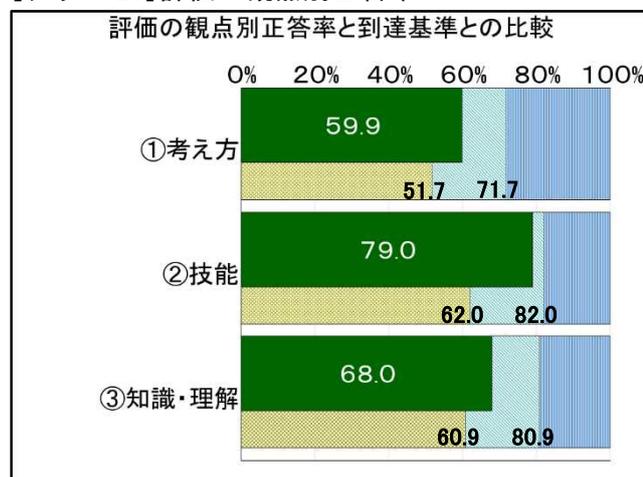
[グラフ18]設問ごと正答率



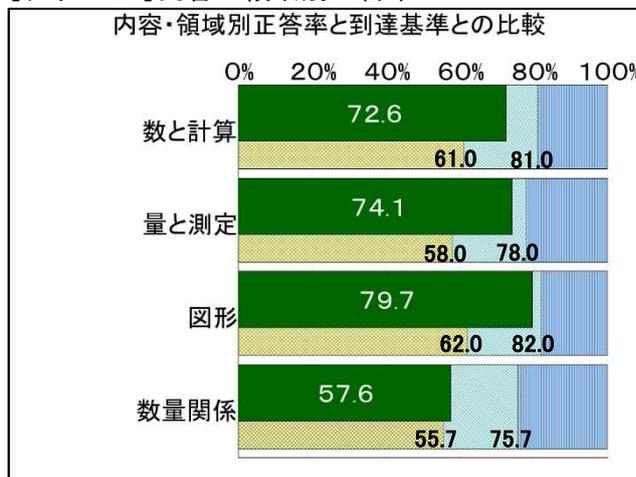
[グラフ19]教科正答数度数分布



[グラフ20]評価の観点別正答率



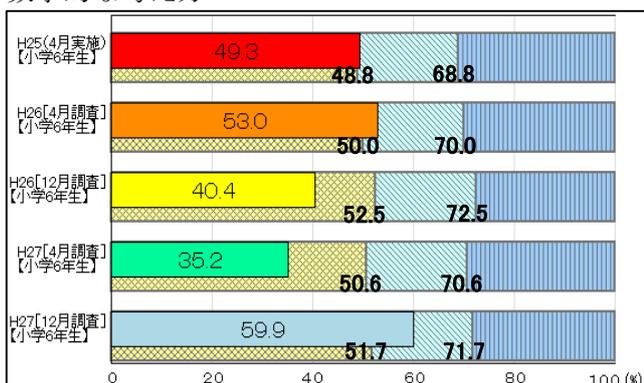
[グラフ21]内容・領域別正答率



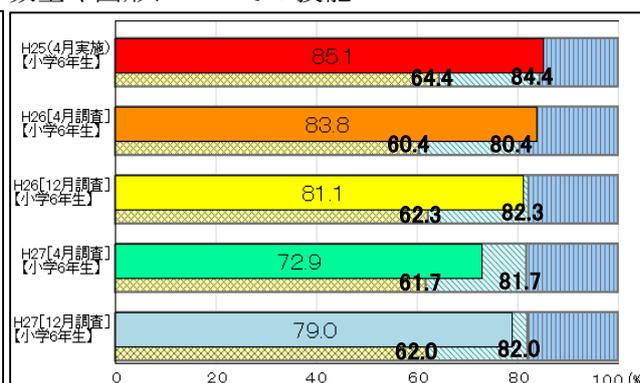
[グラフ 22] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、小学 5 年生までの内容で調査。

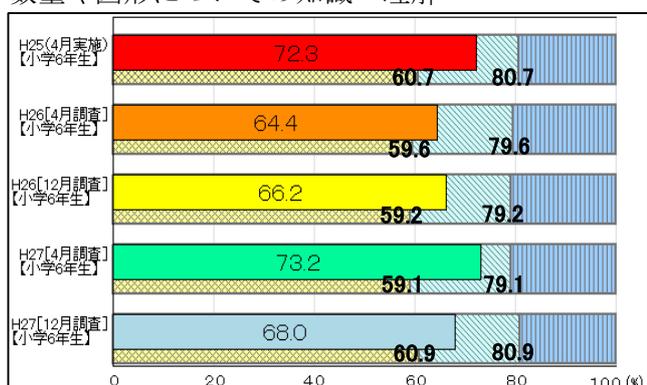
数学的な考え方



数量や図形についての技能



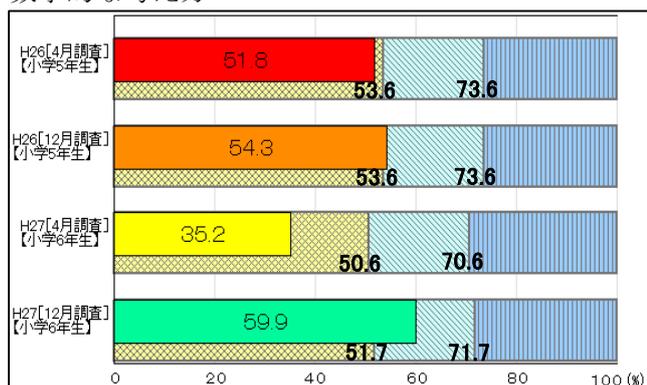
数量や図形についての知識・理解



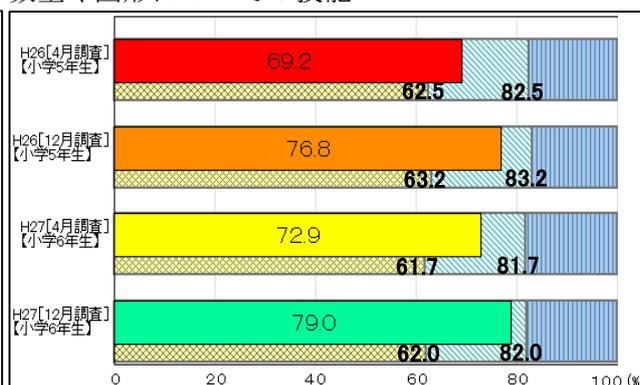
[グラフ 23] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

※ 平成 26 年度[4 月調査]は小学 4 年生までの内容、平成 27 年度[4 月調査]は小学 5 年生までの内容で調査。

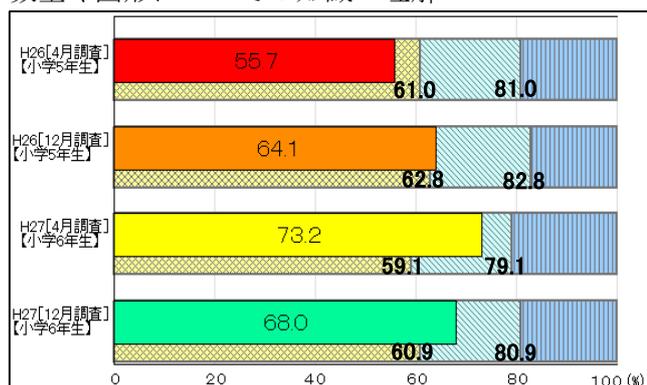
数学的な考え方



数量や図形についての技能



数量や図形についての知識・理解



2 中学校数学

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果 (到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		数と式	関数	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1 (1)	正の数と負の数の減法の計算をすることができる	○			○			○			85.3	0.4	75	55	◎
1 (2)	正の数と負の数の除法の計算をすることができる	○			○			○			81.4	4.6	75	55	◎
1 (3)	四則を含む正の数と負の数の計算をすることができる	○			○			○			62.6	1.7	70	50	
2 (1)	簡単な一次式の加法, 減法の計算をすることができる	○			○			○			64.4	4.3	75	55	
2 (2)	分配法則を用いて, 一次式の加法, 減法の計算をすることができる	○			○			○			51.4	5.8	70	50	
3 (1)	数直線上に示された負の整数を読み取ることができる	○			○			○			75.8	1.1	75	55	◎
3 (2)	負の数における2数の大小関係について理解している	○			○			○			64.2	0.8	75	55	
4 (1)	絶対値について理解している	○			○			○			43.2	3.4	70	50	▼
4 (2)	正の数と負の数の意味を実生活の場面に結び付けて理解している	○			○			○			74.4	2.5	70	50	◎
4 (3)	指数の計算の仕方を理解している	○			○	○					69.7	0.7	75	55	
4 (4)	文字式の意味を, 具体的な事象の中で読み取ることができる	○			○			○			58.3	1.0	70	50	
4 (5)	数の範囲を拡張することによって, 四則計算の可能性が拡大されることを理解している	○			○	○					44.6	1.8	70	50	▼
5 (1)	文字に数を代入して式の値を求めることができる	○			○			○			80.2	4.9	75	55	◎
5 (2)	一元一次方程式を解くことができる	○			○			○			74.9	5.3	75	55	
5 (3)	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○			○			○			33.6	16.3	70	50	▼
5 (4)	簡単な比例式を解くことができる	○			○			○			78.0	7.1	75	55	◎
6	具体的な事象の中の数量の関係を捉え, その大小関係を読み取り, 式に表すことができる	○			○			○			81.1	1.0	70	50	◎
7 (1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○			○			○			72.6	2.6	70	50	◎
7 (2)	事象と式の対応を的確に捉え, 事柄が成り立つ理由を説明することができる	○			○				○	○	29.4	22.1	55	35	▼
8 (1)	具体的な事象の中の数量の関係を捉え, 一元一次方程式をつくることができる	○			○			○			79.7	6.4	65	45	◎
8 (2)	方程式の中の文字の意味を考えることができる	○			○			○			42.7	2.3	65	45	▼
9 (1)	関数の意味を理解している		○		○	○					35.0	1.9	75	55	▼
9 (2)	点の座標の表し方を理解している		○		○	○		○			89.3	1.9	75	55	◎
9 (3)	変域の表し方を理解している		○		○	○					71.5	1.9	75	55	
9 (4)	比例のグラフ上にある点のx座標とy座標の値の組が, その式を満たしていることを理解している		○		○	○					57.9	1.9	75	55	
9 (5)	比例の式とグラフの関係について理解している		○		○	○					66.9	2.0	70	50	
10 (1)	反比例の関係を表す表から, 表中の値を求めることができる		○		○			○			77.2	3.2	75	55	◎
10 (2)	反比例について, 比例定数の意味を理解している		○		○	○					59.3	3.0	75	55	
11 (1)	事象における数量の関係を見だし処理することができる		○		○			○			77.0	7.3	65	45	◎
11 (2)	与えられた情報を基に, xとyの関係が比例であることを説明することができる		○	○					○	○	48.6	12.6	65	45	
12 (1)	グラフから必要な情報を読み取り, 事象を数学的に解釈することができる		○	○				○		○	59.9	6.5	65	45	
12 (2)	事象の変化を読み取り, グラフや式を基に, 求め方を数学的な表現を用いて説明することができる		○	○					○	○	22.7	31.2	55	35	▼

② 中学2年生

[表2] 設問別調査結果(到達状況の「○」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等				評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1)	同類項をまとめる計算をすることができる	○				○			○			87.1	1.6	75	55	◎
1	(2)	整式の加法, 減法の計算をすることができる	○				○			○			74.0	3.0	70	50	◎
1	(3)	指数を含む式の計算をすることができる	○				○			○			54.8	3.9	75	55	▼
1	(4)	単項式の乗法, 除法の計算をすることができる	○				○			○			45.8	8.8	70	50	▼
2	(1)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○			○			40.3	16.4	70	50	▼
2	(2)	等式を目的に応じて変形することができる	○				○			○			68.5	11.9	75	55	
3	(1)	連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○			65.5	7.9	75	55	
3	(2)	連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○			72.1	14.4	70	50	◎
4	(1)	文字を用いた式と具体的な事象とを関連付け, 数量の意味を読み取ることができる	○				○			○			72.3	3.5	70	50	◎
4	(2)	具体的な事象の中の数量の関係を捉え, 連立二元一次方程式をつくることができる	○				○			○	○		29.0	22.1	60	40	▼
5	(1)	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる	○				○			○			79.8	7.1	70	50	◎
5	(2)	発展的に考え, 事柄が一般的に成り立つ理由を説明することができる	○				○			○	○		43.2	34.3	60	40	
6	(1)	扇形の面積を求めることができる		○				○		○			42.7	20.6	70	50	▼
6	(2)	空間における直線と直線との位置関係を理解している		○					○	○			69.2	2.4	75	55	
6	(3)	平面図形の運動によって構成されている立体と日常生活の身近なものとを結び付けて捉えることができる		○			○			○	○		85.8	2.0	65	45	◎
7		底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している		○					○	○			27.2	2.0	70	50	▼
8		錯角の意味を理解している		○						○	○		60.5	1.5	75	55	
9		多角形の外角の意味を理解している		○						○	○		59.2	5.3	75	55	
10		三角形の合同条件を理解している		○						○	○		54.9	1.8	70	50	
11		証明の必要性和意味を理解している		○						○	○		22.0	3.5	70	50	▼
12		証明を見直して, 改善することができる		○			○			○	○		34.3	24.7	60	40	▼
13	(1)	一次関数の関係を表す表の特徴を理解している			○					○	○		51.6	3.8	75	55	▼
13	(2)	一次関数の表から, x が1増加したときの y の増加量を求めることができる			○			○			○		43.3	9.7	70	50	▼
13	(3)	一次関数のグラフから式を求めることができる			○				○		○		59.0	9.9	75	55	
13	(4)	一次関数の式について, x の値に対応する y の値を求めることができる			○				○		○		69.4	12.0	70	50	
13	(5)	連立二元一次方程式の解が, 2直線の交点の座標として求められることを理解している			○					○	○		57.5	10.4	70	50	
14	(1)	事象を数学的に解釈し, 表やグラフから必要な情報を読み取ることができる			○			○			○		62.1	9.0	70	50	
14	(2)	事象を数学的に解釈し, グラフや式を基に, 求め方を数学的な表現を用いて説明することができる			○			○			○	○	32.2	31.5	60	40	▼
15	(1)	度数分布表について理解している				○				○			77.9	9.5	75	55	◎
15	(2)	資料の傾向を捉えることができる				○	○				○		35.2	6.3	70	50	▼
16	(1)	最頻値について理解している					○				○		59.7	10.5	75	55	
16	(2)	ヒストグラムから相対度数を求めることができる					○	○			○		27.2	20.3	70	50	▼
17		有効数字の表し方について理解している					○				○		38.1	7.3	70	50	▼

(2) 調査結果の分析 (「○」は成果、「●」は課題、()内は関係する設問を示す。)

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ1、グラフ9]
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ5、グラフ13]
- 中学1年生及び中学2年生の「活用」に関する問題の正答率は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ2、グラフ10]
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点「数学的な見方や考え方」「数量や図形などについての知識・理解」については、到達基準を1として正答率を算出し同一生徒で比較すると、平成27年度[4月調査]より共に下回っている。[グラフ7、グラフ15]
- 内容・領域「数と式」において、中学1年生の「分数を含む一元一次方程式を解くこと」や中学2年生の「単項式の乗法、除法の計算」の分数に関わる設問については、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表1、表2]
- 中学1年生及び中学2年生の「活用」に関する問題において、平成27年度[4月調査]で課題として挙げられていた、事柄が成り立つ理由や求め方などを数学的な表現を用いて説明する記述式の設問については、「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。[表1、表2]

② 中学1年生

- 評価の観点「数学的な技能」については、到達基準を1として正答率を算出し同一生徒で比較をすると、平成27年度[4月調査]より上回っており、15問中9問が「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ8、表1]
- 評価の観点「数学的な見方や考え方」において、平成27年度[4月調査]で課題として挙げられていた「具体的な事象の中の数量の関係を捉え、一元一次方程式をつくること」を問う設問の正答率は79.7で、「十分達成」の基準65.0を14.7ポイント上回っている。[表1]
- 平成27年度[4月調査]で課題として挙げられていた「分数を含む一元一次方程式を解くこと」を問う設問の正答率は33.6で、「おおむね達成」の基準50.0を16.4ポイント下回っており、引き続き課題が見られる。[表1] (1年生問5(3))
- 「活用」に関する問題において、「事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明すること」「事象の変化を読み取り、グラフや式を基に、求め方を数学的な表現を用いて説明すること」を問う設問の正答率は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表1] (1年生問7(2))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問5 (3)	分数を含む一元一次方程式を解くことができる (短答式)	一元一次方程式 $(x-4)/2=x/3+1$ を解く。	33.6	16.3	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

分数を含む方程式を工夫して解くために、等式の性質を用いて両辺に6をかければよいことやその後の式の変形で特に、以下のような課題があったと考えられる。

- i 右辺の+1に6をかけていない。
- ii 右辺の分母の3と約分した2を+1にかけている。
- iii 左辺の分母の2と約分した3を-4にかけていない。

・ 改善・充実に向けて

分数を含む方程式を解く際に、等式の性質を適切に用いて、正しく解を求めることができ

ようにするために、方程式を解く過程やその結果を確かめる活動を取り入れることが大切である。

指導に当たっては、分数を含む方程式を解く際に、方程式の両辺に分母の公倍数をかけて分数を含まない簡単な式に変形して解くことができるようにする。等式の性質に基づいて簡単な形の方程式に変形して解くことができることを確認し、求めた数をもとの式に代入してその数が解であるかどうかを確かめる活動を取り入れることが必要である。また、確かめる活動を行った際、解が正しくない場合には解く過程を振り返って見直す活動を取り入れることも必要である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問7 (2)	事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる (記述式)	棒全部の本数を求める式が、 $4n - (n - 1)$ になる理由を説明する。	29.4	22.1	55.0	35.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

1つのまとまりの棒の本数が4本であり、同じまとまりが n 個あることや棒全部の本数が $4n$ 本より $(n - 1)$ 本少ない理由を説明することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

事象を数学的に考察できるようにするために、数量の関係や法則などを式に表したり、式の意味を具体的な事象の言葉や図などと結び付けて読み取ったりすることができるようにする。その上で、式を事象の言葉や図と結び付けて事柄が成り立つ理由を説明することができるようにすることが大切である。

指導に当たっては、囲み方の特徴から棒の本数を式に表したり、式から囲み方を見いだしたりする活動を取り入れることが考えられる。具体的には、設問のような囲み方の式 $4n - (n - 1)$ で、棒全部の本数を求められることを確認し、その囲み方と式 $4n - (n - 1)$ を比べて、式の「 $4n$ 」が「正方形の4つの棒を囲んでいて、その囲んでいるまとまりが n 個あり、このまとまりで考えた棒の本数」を意味することや「 $(n - 1)$ 」が「一番左端と右端以外の2回数えている棒の本数」を意味することなどを読み取る場面を設定することが考えられる。その上で、囲み方に即して、棒全部の本数を求められる理由を説明できるようにする必要がある。

③ 中学2年生

- 評価の観点「数学的な見方や考え方」については、到達基準を1として正答率を算出し同一学年で経年比較をすると、平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ15]
- 内容・領域「数と式」において、「同類項をまとめる計算」「整式の加法、減法の計算」「数量の意味を読み取ること」「問題場面における考察の対象を明確に捉えること」を問う設問は、「十分達成」の基準を上回っている。[表2]
- 平成27年度[4月調査]で課題として挙げられていた「扇形の面積を求めること」「証明の必要性と意味の理解」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。[表2]（2年生問11）
- 「活用」に関する問題において、「具体的な事象の中の数量の関係を捉え、連立二元一次方程式をつくること」「証明を見直して、改善すること」「事象を数学的に解釈し、求め方を数学的な表現を用いて説明すること」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表2]（2年生問14(2)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問 11	証明の必要性と意味を 理解している (選択式)	三角形の外角の和が 360° であることの 証明について正しい 記述を選ぶ。	22.0	3.5	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

実測や操作などの帰納的な方法による説明では、全ての図形について事柄が成り立つかどうかを調べ尽くすことができないことや、演繹的な推論による証明は、事柄がいつも成り立つことを明らかにする方法であることを理解することに課題があったと考えられる。また、証明するためにかかれた図は、全ての代表として示されていることを理解することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

証明の必要性と意味についての理解を深められるようにするために、帰納的な方法による説明と比較しながら、演繹的な推論による説明の役割を理解する場面を設定することが大切である。

指導に当たっては、いくつかの図について帰納的に事柄が成り立つことを確かめても、その事柄が成り立つことの信頼性は高まるが、全てを調べ尽くすことができないことから、演繹的な推論による説明が必要であることを理解できるようにする必要がある。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2年生 問 14 (2)	事象を数学的に解釈し、グラフや式を基に、求め方を数学的な表現を用いて説明することができる (記述式)	水の量が600m ³ になるのは、プール掃除を始めてから、何時間後であるかについて求め方を説明する。	32.2	31.5	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

プール掃除を始めてから、水の量が600m³になるまでの時間を求めるためには、グラフから水の量の変化の様子を読み取ることが求められる。グラフから給水口より水を入れる割合やグラフ上の座標などを読み取り、言葉や式を使って求め方を説明することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

グラフから具体的な事象を考察する場面では、グラフで表現されたものが、どのような意味をもっているかを理解できるようにする。その上で、一次関数の知識・技能を活用して説明することができるようにすることが大切である。

指導に当たっては、問題を解決する上でグラフに表した方が解決しやすい場面を設定し、具体的な事象とグラフとを対応させて考える活動を取り入れる。この設問のような場合は、グラフから水の量が一定であるところ、排水口から水を流し出しているところ、給水口から水を入れているところなどの変化や対応の様子を読み取る活動を設定することが考えられる。その上で、グラフの給水口から水を入れているところに着目し、水を入れる割合やグラフ上の座標を読み取り、一次関数の式に表し、目的に応じて求め方を説明することができるようにする必要がある。

(3) 改善のポイント

① 求めた結果が正しいかどうか確かめるような学習活動を充実させること（1年生問5(3)）

- ・ 求めた結果が正しいかどうかを確かめるための方法や手順について理解できるような場面を設定することが大切である。
- ・ 求めた結果が正しいかどうか確かめる活動を行わせたあとに、結果が正しくない場合には、解く過程を振り返って見直す活動を取り入れることが大切である。

② 証明の必要性和意味を理解できるような学習活動を充実させること（2年生問11）

- ・ 観察、操作や実験などの活動によって帰納的に導かれたものと演繹的に導かれたものの違いを理解できるような場面を設定することが大切である。
- ・ 証明は、命題が例外なしに成り立つことを明らかにする方法であることや証明をするためにかかれた図は、全ての代表として示されている図であることをはっきりさせる場面を設定することが大切である。

③ 数学的な表現を用いて説明し伝え合う学習活動を充実させること
（1年生問7(2)、2年生問14(2)）

- ・ 言葉や数、式、図、表、グラフなどを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく伝えたり、互いに自分の考えを表現し伝え合ったりする活動を取り入れることが大切である。
- ・ 予想を立て、それについて説明したり、答えを求める方法やその求め方を示したり、事柄が成り立つ理由を説明したりする活動を取り入れることが大切である。

④ 「おおむね達成」の基準に達していない生徒への指導の手立てを充実させること

- ・ 数や図形の性質や関係を式に表したり、式の意味を読み取ったりすることにつまずいている生徒の状況に配慮しながら工夫して指導を行う必要がある。そのため、事柄を調べる方法や手順を示したり、生徒のつまずきにに応じたヒントカードやキーワード、説明する際の参考になる例などを示したりして、数学的な表現を用いて説明できるようにすることが大切である。
- ・ 観察、操作や実験などを通して、試行錯誤したり、数学的内容を帰納的に考えたりして、数や図形の性質などを見だし、発展させる活動を充実させることが大切である。条件を変えて、発展的に考えさせる場合に、条件を変える前の内容を振り返らせるような指導を行うことも大切である。

◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、「すぐに役立つ！授業力UP！数学科学習指導のためのアイデア」で「知識・技能の習得を図り、数学的な思考力・判断力・表現力を育む学習指導の工夫－数学的活動の充実を通して－」という研究テーマで、平成24年度から全面実施となっている学習指導要領に対応した学習指導の在り方を紹介しています。

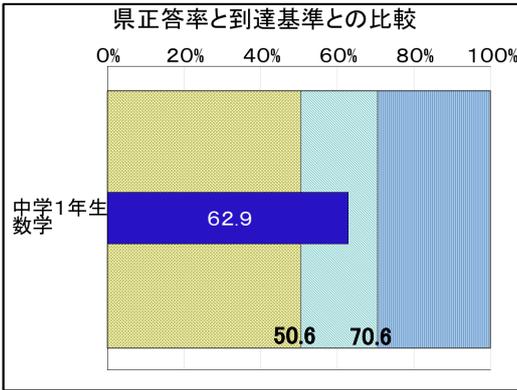
全学年の内容で、授業に生かせる授業展開案やワークシートと、宿題や長期休業中の課題にも利用できる学習プリントを紹介しています。

3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ1年生の「関数」、2年生の「図形」領域の授業改善について、Webアップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

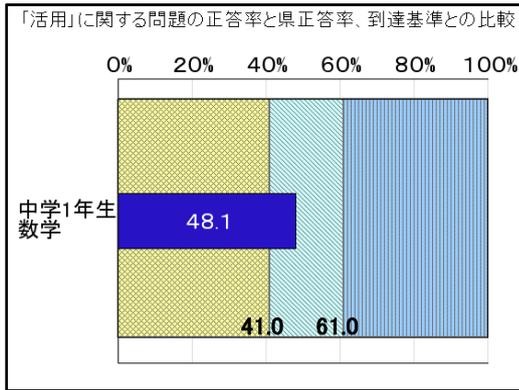
<資料>

① 中学1年生

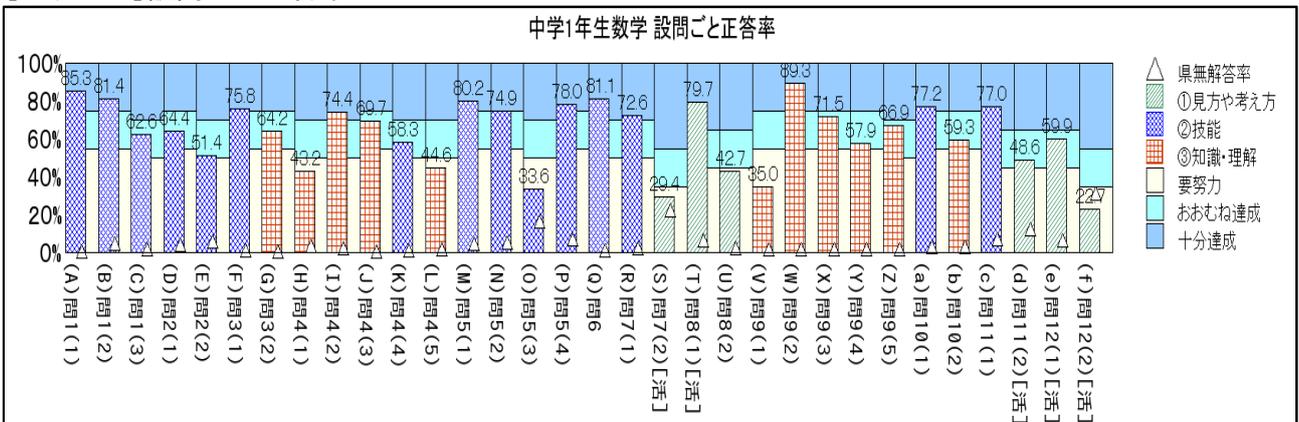
[グラフ1] 教科全体正答率



[グラフ2] 「活用」に関する問題の正答率



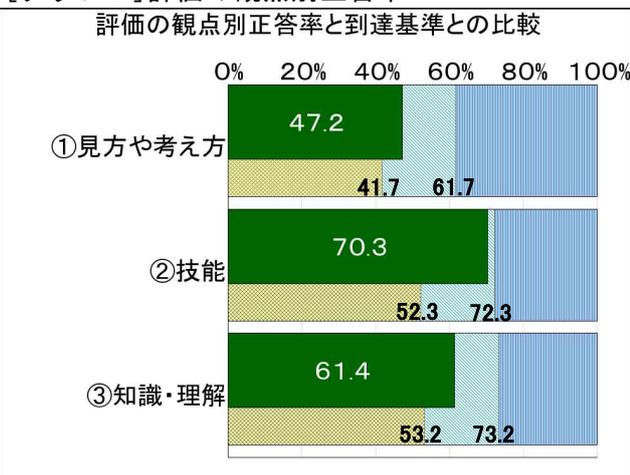
[グラフ3] 設問ごと正答率



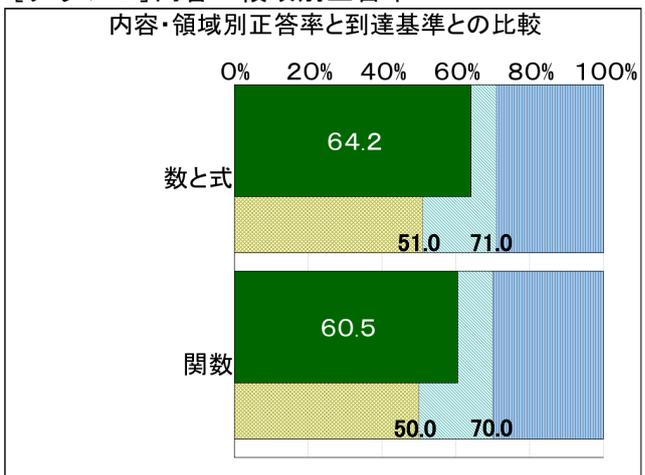
[グラフ4] 教科正答数度数分布



[グラフ5] 評価の観点別正答率



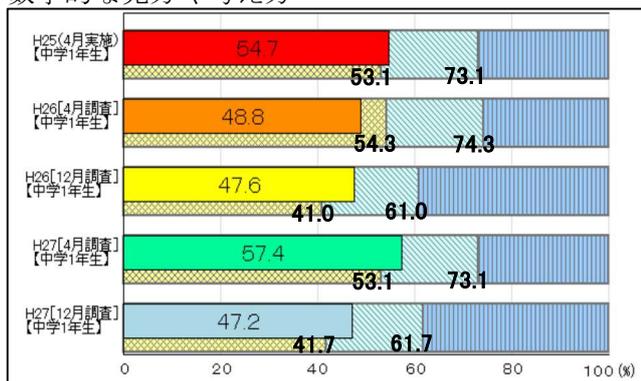
[グラフ6] 内容・領域別正答率



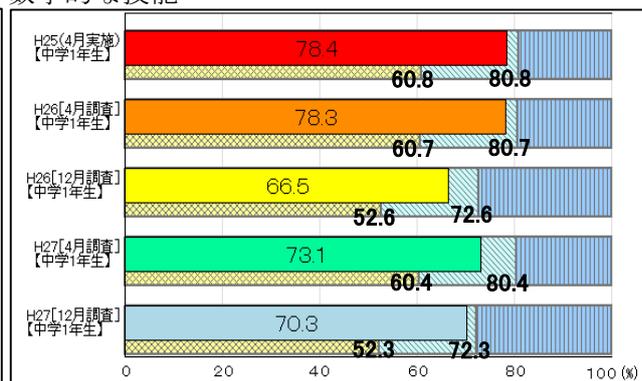
[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成26年度[4月調査]までと平成27年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

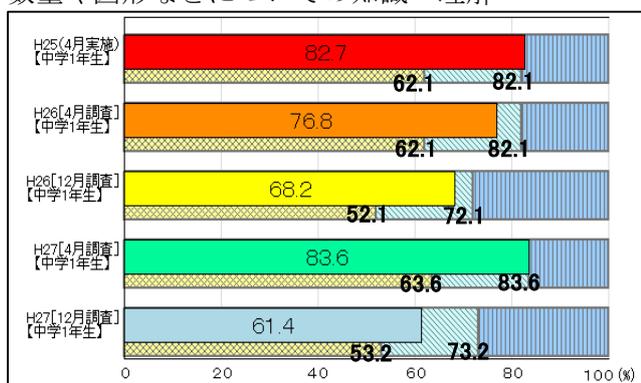
数学的な見方や考え方



数学的な技能



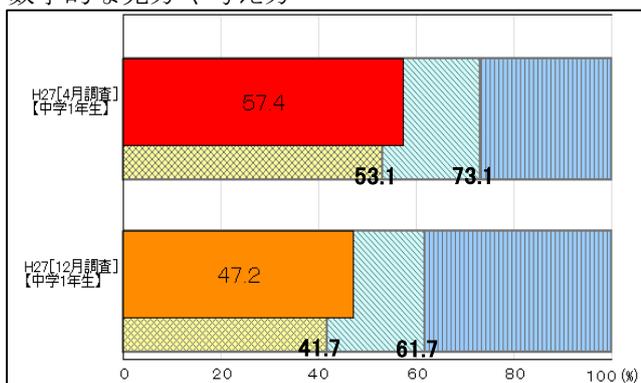
数量や図形などについての知識・理解



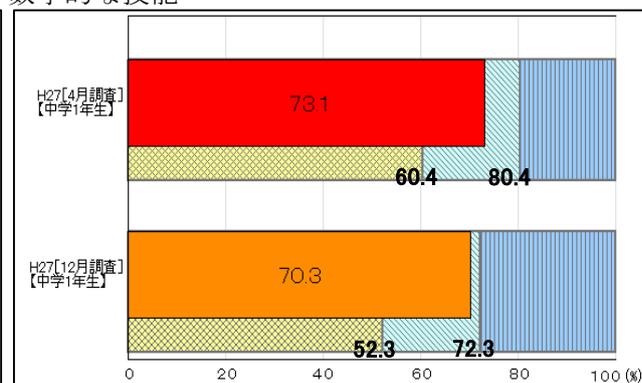
[グラフ8] 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

※ 平成27年度[4月調査]は、小学6年生までの内容で調査。

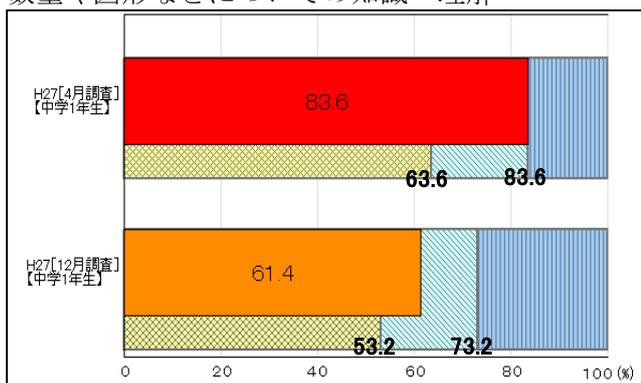
数学的な見方や考え方



数学的な技能

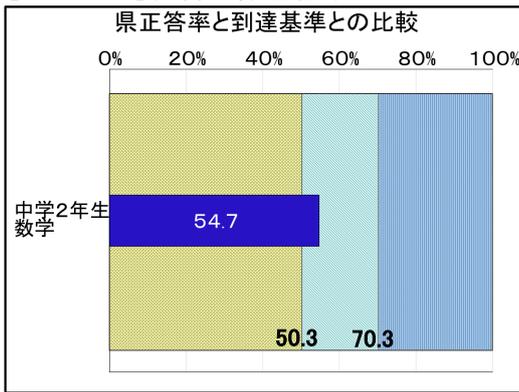


数量や図形などについての知識・理解

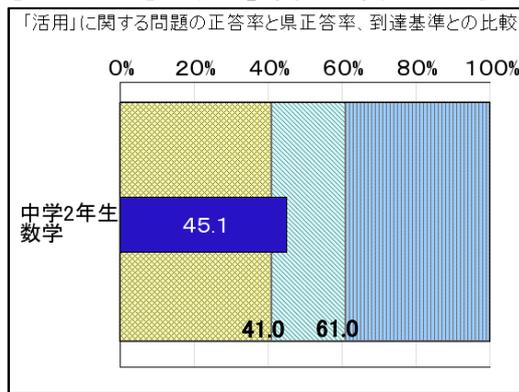


② 中学2年生

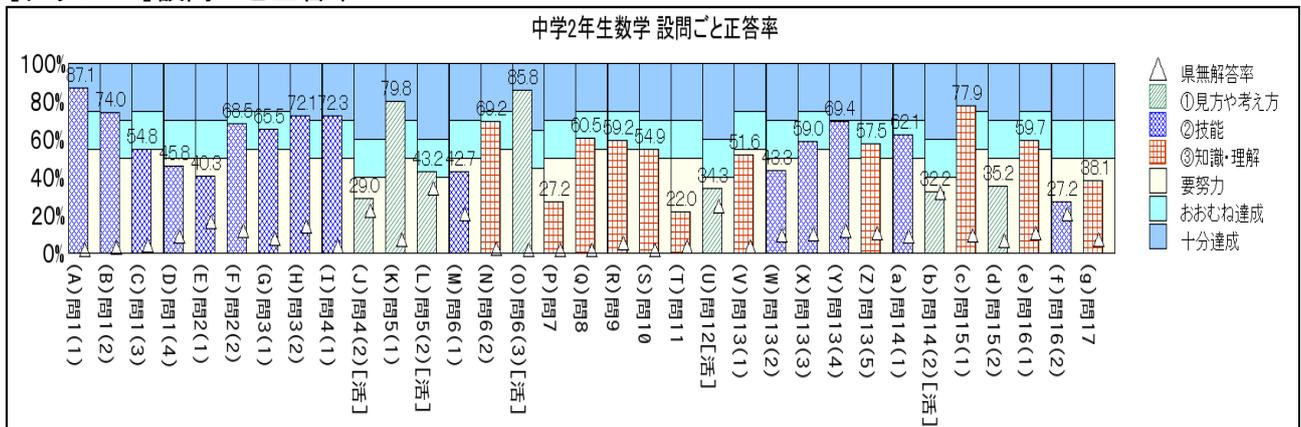
[グラフ9]教科全体正答率



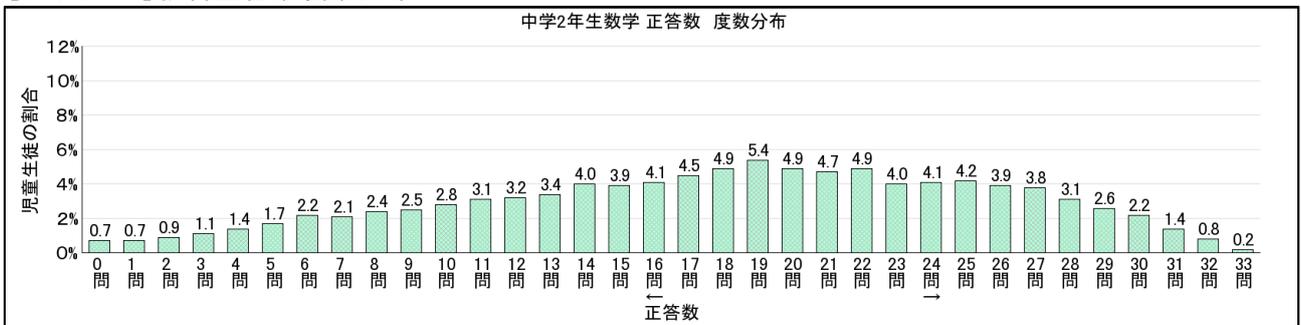
[グラフ10]「活用」に関する問題の正答率



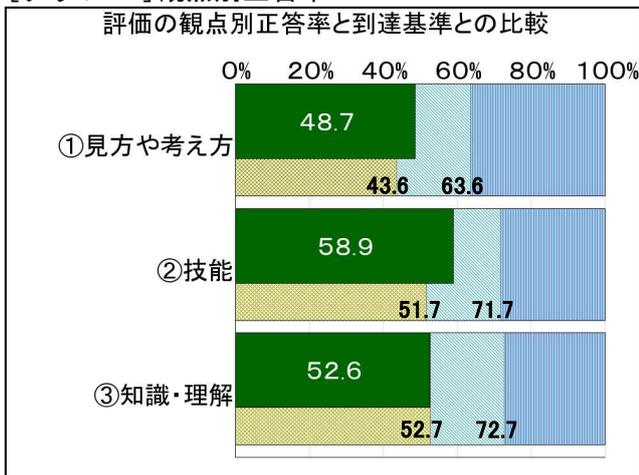
[グラフ11]設問ごと正答率



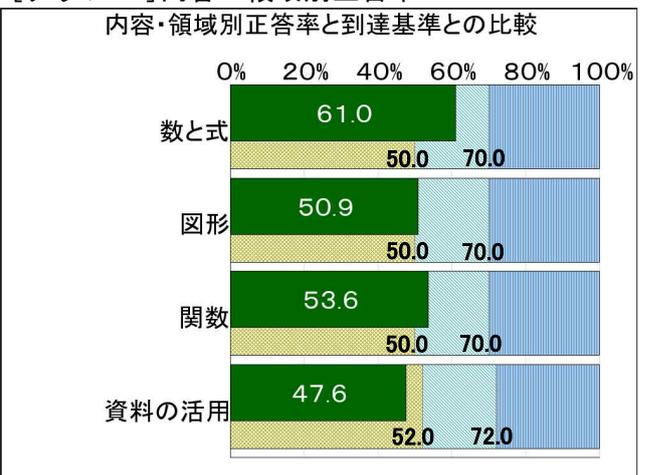
[グラフ12]教科正答数度数分布



[グラフ13]観点別正答率



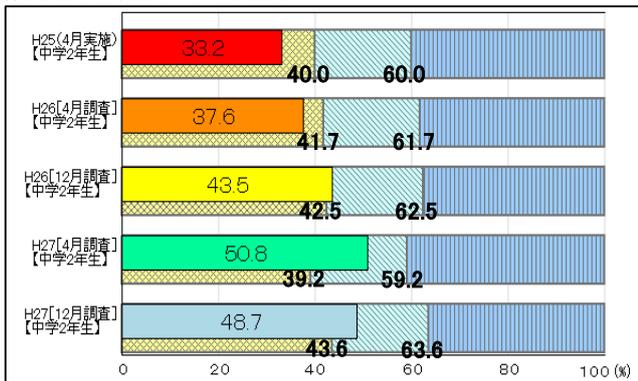
[グラフ14]内容・領域別正答率



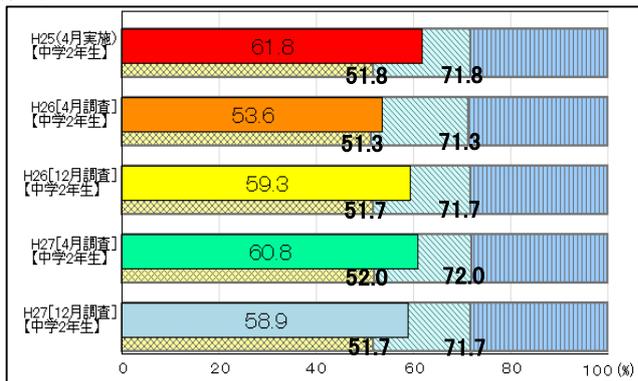
[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成 26 年度[4 月調査]までと平成 27 年度[4 月調査]は、中学 1 年生までの内容で調査。

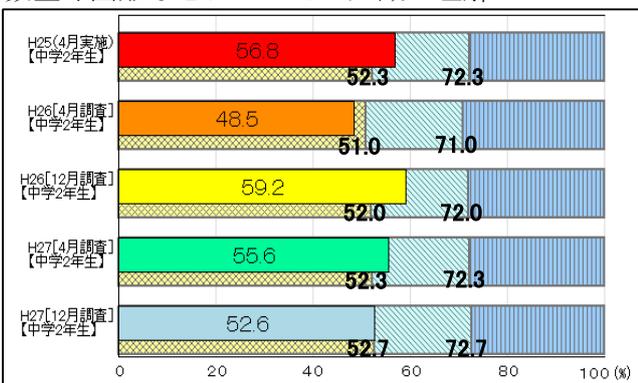
数学的な見方や考え方



数学的な技能



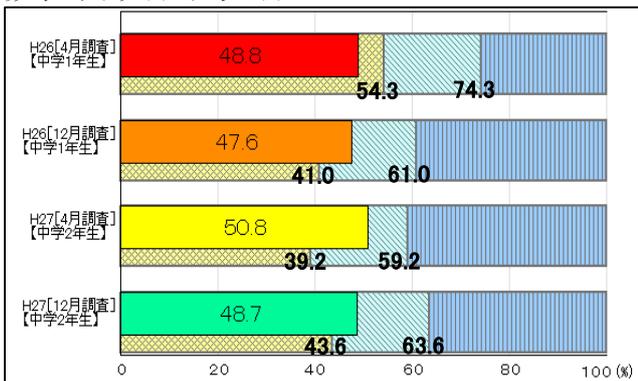
数量や図形などについての知識・理解



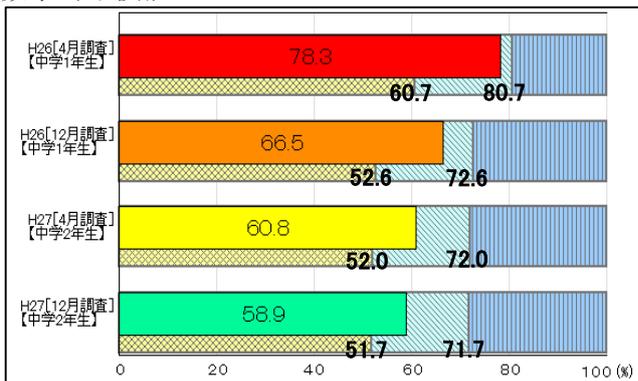
[グラフ 16] 評価の観点別正答率(同一生徒)

※ 平成 26 年度[4 月調査]は小学 6 年生までの内容、平成 27 年度[4 月調査]は中学 1 年生までの内容で調査。

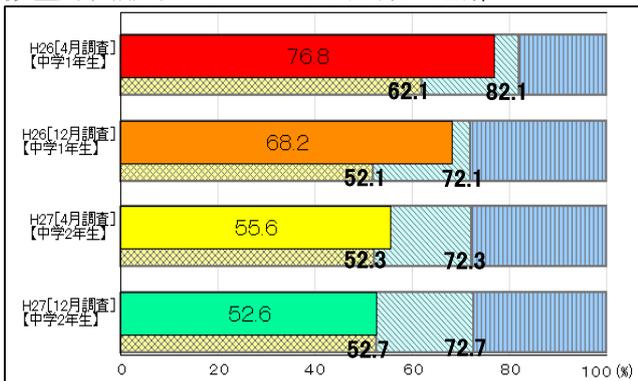
数学的な見方や考え方



数学的な技能



数量や図形などについての知識・理解



1 小学校理科

(1) 各学年の調査結果

① 小学4年生

〔表1〕設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然現象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	「活用」に関する問題					
1 (1)	チョウの育ち方には、一定の順序があることを理解している	○			○	○				91.5	0	85	65	◎	
1 (2)	昆虫の体のつくりについて理解している	○			○		○			25.0	2.4	80	60	▼	
2 (1)	風が強くなるほど、物を動かす働きが大きくなることを理解している	○			○	○				94.1	0.2	85	65	◎	
2 (2)	ゴムは、長く伸ばすほど、物を動かす働きが大きくなることを理解している	○			○	○				84.4	0.2	85	65		
3 (1)①	一定の方向から光が当たると、影の向きはどれも同じになることを理解している		○		○	○				92.1	0.1	85	65	◎	
3 (1)②	影の向きが時間が経つにつれて変わっていくことを、太陽の動きと関係付けて考えることができる		○	○				○		85.6	0.8	80	60	◎	
3 (2)①	温度計の目盛りを正しく読むことができる		○	○				○		90.4	0.3	85	65	◎	
3 (2)②	日なたの地面は、日光によって温められていることを理解している		○		○			○		53.3	0.9	80	60	▼	
4 (1)	鉄は磁石に引き付けられることを理解している	○			○	○				89.9	0.2	85	65	◎	
4 (2)	磁石の同極同士が退け合うことで車が動くということを説明することができる	○		○				○	○	65.5	1.3	75	55		
5 (1)①	動物の活動、植物の成長を捉えるための記録を取ることができる		○		○			○		94.7	0.3	85	65	◎	
5 (1)②	動物の活動や植物の成長の様子から、そのときの季節を考えることができる		○	○				○		67.5	0.4	80	60		
5 (2)	グラフからツルレイシの成長の様子を読み取ることができる		○		○			○		94.4	0.4	80	60	◎	
6	光電池が南の空を向くように置いてある理由を説明することができる	○		○				○	○	64.5	3.5	75	55		
7 (1)	骨と骨のつなぎ目で体を曲げることができる部分を関節ということを理解している		○		○			○		79.6	0.6	80	60		
7 (2)	腕を曲げ伸ばしするときの筋肉の様子を理解している		○		○	○				65.8	0.6	80	60		
8 (1)①	電気を通すものが金属であることを理解している	○			○	○				73.8	0.9	80	60		
8 (1)②	乾電池の向きを逆にすると、モーターの回転の向きは逆になり、同じ速さで回することを理解している	○			○	○				70.1	0.9	85	65		
8 (2)①	乾電池の向きを変えずに直列つなぎをすると、回路に流れる電流の向きは変わらず、電流の大きさは乾電池1個のときよりも大きくなることを理解している	○			○	○				67.0	1.8	80	60		
8 (2)②	乾電池2個を使った並列つなぎの回路のつなぎ方を考えることができる	○		○				○		39.8	8.0	75	55	▼	
8 (2)③	並列つなぎの場合、乾電池を1個外しても、モーターの回り方は変わらないことを考えることができる	○		○				○		33.3	1.3	75	55	▼	
9 (1)	金属球が輪を通ることを、温度による体積変化と関係付けて考えることができる	○		○				○		86.8	1.1	80	60	◎	
9 (2)	空気を温めると体積が増えることを基に、ピンの口に乘せた一円玉が動く仕組みを説明することができる	○		○				○	○	40.4	3.1	70	50	▼	
10 (1)①	百葉箱の名称を理解している		○		○			○		75.2	6.0	80	60		
10 (1)②	条件を整えて、正確に気温を測ることができる		○	○				○		71.6	1.9	85	65		
10 (2)	晴れの日と雨の日の気温の違いを理解し、天気と気温を関係付けて考えることができる		○	○				○		47.5	2.4	75	55	▼	
11 (1)①	閉じ込めた空気を押し縮めて体積が小さくなると、押し返す力が大きくなることを理解している	○			○	○				72.0	2.2	85	65		
11 (1)②	閉じ込めた空気は、圧されると元に戻ろうとする性質があることを理解している	○			○	○				76.5	2.3	80	60		
11 (2)	水は空気と違って押し縮められないことを基に、実験の結果を考えることができる	○		○				○	○	71.0	2.8	75	55		
12 (1)	方位磁針を使って、方位を調べることができる		○		○			○		69.1	3.9	80	60		
12 (2)①	月は太陽と同じように東から南の方へ見える位置が変わることを理解している		○		○			○		85.0	3.9	80	60	◎	
12 (2)②	同じ日に同じ場所で見える月は、傾きは変わるが、形は変わらないことを理解している		○		○	○				61.0	3.7	80	60		

② 小学5年生

【表2】設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点		問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式						
1	(1)	アルコールランプの適切な使い方を身に付けている	○		○		○			84.5	0.1	85	65	
1	(2)	傾きがある場合でも、棒状の金属の温まり方は、熱せられた部分から遠くの方へと温まっていくことを理解している	○			○	○			82.9	0	80	60	◎
1	(3)	金属板は、熱せられた部分から同心円状に温まっていくことを理解している	○			○	○			66.2	0	80	60	
2	(1)	水を冷やし続けたときの温度の下がり方のグラフと水の様子とを関係付けて考えることができる	○		○		○			14.9	0.2	75	55	▼
2	(2)	温度計の0℃以下の目盛りを正しく読むことができる	○		○		○			54.1	0.5	80	60	▼
2	(3)	容器のふたが開いた現象と、水が氷になるときの体積変化とを関係付けて説明することができる	○		○			○	○	55.9	3.5	70	50	
3	(1)	冬に見られる代表的な星座の名称を理解している	○			○		○		83.4	2.3	85	65	
3	(2)	星座の観察における適切な記録方法を身に付けている	○		○			○		56.7	3.4	80	60	▼
3	(3)	時間が経過しても、星座の並びは変わらないことを理解している	○			○	○			80.8	0.2	80	60	◎
4		空気の温まり方を基に、温められた空気の動き方を考え、説明することができる	○		○				○	24.3	7.3	70	50	▼
5	(1)	メダカの雄と雌の体の特徴の違いを理解している	○			○	○			78.2	0.4	80	60	
5	(2)あ	受精のために、雄が精子を出すことを理解している	○			○		○		82.7	2.6	85	65	
5	(2)い	卵と精子が結び付くことを受精ということを理解している	○			○		○		78.6	2.5	85	65	
5	(2)う	子メダカの成長に必要な養分が、卵の中やお腹の膨らみにあることを理解している	○			○		○		54.4	2.1	80	60	▼
6	(1)	インゲンマメの発芽に水、日光、肥料が必要かどうかを調べる実験を計画することができる	○		○		○			37.0	0.9	80	60	▼
6	(2)	実験結果から、インゲンマメの発芽条件を考えることができる	○	○			○			77.6	1.1	75	55	◎
6	(3)	日常の現象と結び付けて、種子の発芽には適当な温度が必要であることを考えることができる	○	○				○	○	60.5	3.1	75	55	
7	(1)①	インゲンマメの種子のつくりや発芽後の子葉の様子を理解している	○			○	○			46.0	0.6	85	65	▼
7	(1)②	ヨウ素液を使って、でんぷんの有無を調べることができる	○		○			○		71.1	5.5	85	65	
7	(1)③	インゲンマメは種子の中の養分を基にして発芽することを理解している	○			○			○	57.7	4.6	80	60	▼
7	(2)	インゲンマメが条件の違いによってどのように成長していくかを考えることができる	○	○			○			56.7	0.8	80	60	▼
8	(1)	アサガオの花のつくりを理解している	○			○	○			75.0	0.6	85	65	
8	(2)	顕微鏡を適切に使ってアサガオの花粉を観察することができる	○		○		○			58.4	0.6	80	60	▼
8	(3)	アサガオの結実の条件を確かめる実験を分析し、日のアサガオにも実ができる理由として考えられることを説明することができる	○	○					○	36.0	6.6	75	55	▼
9	(1)	資料から、雲の動きを読み取ることができる	○		○			○		63.2	1.1	85	65	▼
9	(2)	雲の量や動きなどと天気の変化を関係付けて考えることができる	○	○			○			69.3	1.4	75	55	
9	(3)	夕焼けの次の日は晴れると予想できる理由を、雲の動きによる天気の変化と関係付けて考えることができる	○	○			○		○	55.0	1.5	70	50	
10	(1)	川原の石は、丸みをもった石が多いことを理解している	○			○		○		68.5	2.6	80	60	
10	(2)	川の流れの速さと堆積の動きとを関係付けて考え、川の内側に川原ができる理由を説明することができる	○	○					○	48.8	5.6	75	55	▼
10	(3)	雨が多量に降ったとき、侵食や運搬の動きが大きくなることを理解している	○			○	○			20.2	2.3	80	60	▼
11		洪水を防ぐ工夫の一つとしてのダムについて、その働きを理解している	○			○	○			71.8	2.0	85	65	

③ 小学6年生

[表3]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		物質・エネルギー	生命・地球	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式							
1	(1)	電磁石にも永久磁石と同じように極があることを理解している	○			○		○				55.4	0.1	85	65	▼
1	(2)	電流の向きが変わると電磁石の極が変わることを理解している	○			○		○				82.1	0.1	85	65	
1	(3)①	電流の大きさと電磁石の強さの関係を調べる実験を計画することができる	○		○			○				36.7	0.2	80	60	▼
1	(3)②	条件制御をして、電磁石の強さを調べる実験を適切に行うことができる	○			○			○			61.9	2.9	80	60	
1	(4)	クレーンで電磁石を使う理由を電磁石の性質と関係付けて説明することができる	○		○				○	○		40.9	2.1	70	50	▼
2	(1)	母親の体内で、胎児が育つところを子宮ということを理解している		○			○		○			72.4	6.5	85	65	
2	(2)	人は、受精後およそ38週間で生まれてくることを理解している		○			○	○				72.4	0.2	85	65	
2	(3)	胎児は、胎盤からへその緒を通して母親から運ばれてくる養分をもらって成長することを理解している		○			○		○			71.9	0.9	80	60	
3	(1)①	メスシリンダーを適切に操作し、水の量を調べることができる	○			○			○			91.6	0.1	80	60	◎
3	(1)②	ピペットやスポイトを適切に操作し、水の量を調節することができる	○			○			○			85.8	2.4	85	65	◎
3	(2)①	物が水に溶けて見えなくなっても、溶かした物の重さは変わらないことを理解している	○				○	○				70.0	0.2	80	60	
3	(2)②	物が水に溶ける量は、水の量や温度によって違うことを理解している	○				○	○				80.3	0.1	80	60	◎
4	(1)	振り子が10往復する時間を複数回測り、平均をとることで、1往復する時間をより正確に調べることができる	○			○			○			52.4	4.9	80	60	▼
4	(2)	振り子が1往復する時間は、おもりの重さでは変わらず、振り子の長さによって変わることを理解している	○				○	○				44.2	1.2	80	60	▼
4	(3)	メトロノームは、おもりを下に動かすと、音を出す間隔が短くなることを、振り子の性質と関係付けて説明することができる	○		○				○	○		42.4	1.8	70	50	▼
5	(1)	蓋をした瓶の中では、燃焼に伴って酸素が使われて減っていくので、ろうそくの火は次第に小さくなり消えることを理解している	○				○	○				67.9	0.1	85	65	
5	(2)	線香の煙の動きから、周囲の空気が瓶の底から中に入っていくことを考えることができる	○		○					○		55.8	2.6	75	55	
5	(3)	実験結果から、物を燃やした後の空気には、二酸化炭素よりも酸素の割合の方が大きいことを考えることができる	○		○				○			46.0	0.2	75	55	▼
5	(4)	酸素には物を燃やす働きがあり、窒素や二酸化炭素には物を燃やす働きがないことを理解している	○				○	○				74.2	0.3	85	65	
6		物が燃えるときには酸素が必要であることと火消し壺を関係付けて考えることができる	○		○				○	○		64.2	1.4	70	50	
7	(1)	人は呼吸により酸素を取り入れ二酸化炭素を出すことを理解している		○			○	○				69.8	0.4	80	60	
7	(2)①	唾液によるでんぷんの分解を調べる実験を、適切に行う方法を身に付けている		○		○				○		58.4	5.0	80	60	▼
7	(2)②	食べ物が唾液の働きにより、体に吸収されやすい養分に変化することを消化ということを理解している		○			○		○			58.2	9.8	85	65	▼
7	(3)①	肝臓の位置を理解している		○			○	○				94.3	0.5	80	60	◎
7	(3)②	小腸の働きを理解している		○			○	○				41.2	0.5	80	60	▼
8	(1)	植物の葉にでんぷんがあるかどうかを調べる実験を、安全に行う方法を身に付けている		○		○			○			57.8	0.8	80	60	▼
8	(2)	実験結果から、植物に日光が当たるとでんぷんがつけられることを考えることができる		○	○					○		78.3	3.1	75	55	◎
9	(1)	食べ物のもとをたどっていくと全て植物につながっていることを理解している		○			○	○				71.7	0.8	85	65	
9	(2)	生物には食う食われるという関係があり、バランスが保たれていることを考えることができる		○	○					○	○	73.2	3.2	70	50	◎
10	(1)	月の見え方を調べるモデル実験を適切に行うことができる		○		○			○			92.5	1.3	85	65	◎
10	(2)	月は太陽の光を反射し、太陽と月の位置関係によって見える形が違うことを理解している		○			○	○				46.1	1.5	80	60	▼
10	(3)	月の形の見え方は、太陽と月の位置関係によって変わることを考えることができる		○	○				○			73.2	1.7	75	55	

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 全ての学年において、教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ1、グラフ8、グラフ16]
- 全ての学年において、内容・領域別正答率の「生命・地球」は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ6、グラフ13、グラフ21]
- 事象の仕組みや、変化の理由等を説明する記述式の設問において、小学4年生で6問中3問、小学5年生で6問中4問、小学6年生で9問中4問が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表1、表2、表3]
- 小学5年生と小学6年生の評価の観点別正答率について、到達基準を1として正答率を算出し、経年比較をすると、同一学年、同一児童共に、「自然事象についての知識・理解」で平成26年度[12月調査]より下回っている。[グラフ14、グラフ15、グラフ22、グラフ23]
- 教科正答度数分布において、「おおむね達成」の基準を下回っている児童の人数の割合が小学5年生45.7%、小学6年生40.0%である。[グラフ11、グラフ19]

② 小学4年生

- 評価の観点別正答率で見ると、全ての観点において、「おおむね達成」の基準を上回っており、「観察・実験の技能」においては、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ5]
- 評価の観点別正答率について、到達基準を1として正答率を算出し、同一学年で経年比較をすると、全ての評価の観点において、平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ7]
- 評価の観点「自然事象についての知識・理解」において、「昆虫の体のつくりについて理解していること」を問う設問の正答率は25.0で、「おおむね達成」の基準60.0を35.0ポイント下回っており、課題が見られる。[表1]（4年生問1(2)）
- 「活用」に関する問題の正答率は60.4で、「おおむね達成」の基準53.8を6.6ポイント上回っているが、「変化とその要因を関係付けて言葉で説明すること」を問う設問に課題が見られる。[グラフ2、表1]（4年生問9(2)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問1 (2)	昆虫の体のつくりについて理解している (短答式)	昆虫の体について、その特徴を説明する文章中の()に、「腹」と「胸」を記入する。	25.0	2.4	80.0	60.0

- ・ 誤答・無解答の原因として考えられること
昆虫の体が、頭、胸、腹の3つに分けられることは理解していても、それぞれの特徴については正しく理解できていないことが考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
教科書の資料等で知識を獲得させるのではなく、観察・実験において、複数の昆虫の体のつくりを比較させる活動等を通して、児童自らが昆虫の体は頭、胸、腹の3つに分かれていることや、胸から6本の足が出ていることなどを発見することができるような授業を行う。さらに、発見したことを交流する活動を取り入れることで、昆虫の体のつくりについて、より確かな知識として獲得させることができる。また、そうすることで、実感を伴った理解を図ることができ、知識を定着させることができるだけでなく、比較して考える力も育むこと

ができると考える。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
4年生 問9 (2)	空気を温めると体積が増えることを基に、ビンの口に乘せた一円玉が動く仕組みを説明することができる (記述式)	冷たくしておいた空のビンの口に一円玉を乗せ、ビンを手で握ると一円玉が動く理由を説明する。	40.4	3.1	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

ビンの中の空気に着目し、その体積変化と温度変化とを関係付けて考えることができなかつたり、考えることはできていても言葉で説明することができなかつたりすることが考えられる。

・ 改善・充実に向けて

導入でペットボトルに閉じ込めた空気を温めて、ペットボトルの口に付けた栓を飛ばすなどの事象提示を行い、栓が飛んだ要因を予想させることを通して問題を見いださせ、問題解決を図っていくような授業を行う。実験結果は図や表を用いてまとめさせ、温度変化とそれに伴う体積変化とを関係付けて考えやすいようにする。授業の終末では、学習したことを使って、導入での事象を説明する活動を取り入れる。その際、温められた空気の体積が大きくなり、外に出ようとする力で栓を飛ばしたことを言葉できちんと記述するように指導することが大切である。このような授業を繰り返し行うことで、自然の事物・現象の変化とそれに関わる要因とを関係付ける能力や、学習したことを使って、その他の事象について考え、その仕組みを言葉で説明する力を育てることができると考える。

③ 小学5年生

○ 評価の観点「自然事象についての知識・理解」の正答率は67.6で、「おおむね達成」の基準62.1を5.5ポイント上回っている。「傾きがある場合でも、棒状の金属の温まり方は、熱せられた部分から遠くへと温まっていくことを理解している」「時間が経過しても、星座の並びは変わらないことを理解している」を問う設問の正答率は、「十分達成」の基準を上回っている。[グラフ12、表2]
○ 評価の観点「観察・実験の技能」において、到達基準を1として正答率を算出し、同一学年で経年比較をすると、平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ14]
● 評価の観点「科学的な思考・表現」の正答率は49.9で、「おおむね達成」の基準54.0を4.1ポイント下回っている。特に、「水を冷やし続けたときの温度の下がり方のグラフと水の様子とを関係付けて考えること」を問う設問の正答率は14.9で、「おおむね達成」の基準55.0を40.1ポイント下回っており、課題が見られる。[グラフ12、表2]（5年生問2(1)）
● 「活用」に関する問題の正答率は48.9で、「おおむね達成」の基準51.3を2.4ポイント下回っている。特に、「空気の温まり方を基に、温められた空気の動き方を考え、説明することができること」を問う設問の正答率は24.3で、「おおむね達成」の基準50.0を25.7ポイント下回っており、課題が見られる。[グラフ9、表2]（5年生問4）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問2 (1)	水を冷やし続けたときの温度の温度の下がり方のグラフと水の様子とを関係付けて考えることができる (選択式)	水の温度の下がり方のグラフから、5つの時点での水の状態を読み取り、会話文の内容に合う点を選ぶ。	14.9	0.2	75.0	55.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

水が凍り始めてから全てが氷になるまでの間、水の温度は一定であることを、正しく理解することができていないことや、グラフを正しく読み取ることができていないことが考えられる。また、複数の情報を関係付けて考えることができていないということも考えられる。

・ 改善・充実に向けて

水を冷やし続けたときの温度変化を表だけでなくグラフに書かせ、その中にその時々の水の状態を書き入れてまとめさせる。そして、グラフを基に考察をさせることで、学習内容を正しく理解させることができるだけでなく、資料を読み取る力を高めることができる。また、書いたグラフを用いて結果を交流させることで、複数の情報を関連付けて考える力を高めることもできる。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
5年生 問4	空気の温まり方を基に、温められた空気の動き方を考え、説明することができる (記述式)	回り灯籠において、内側を回転させる空気の流れができる理由を説明する。	24.3	7.3	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

無解答率が7.3であることから、初めて見る事象について、既習の知識を活用してその仕組みを考え、説明することができなかつたと考えられる。また、問われていることではなく、「上昇気流でどうして紙コップが回転するのか」を解答してしまったことが考えられる。

・ 改善・充実に向けて

日常生活に見られる事象から、学習問題を導き出したり、学習した内容を使って、日常生活に見られる事象の説明をしたりすることを繰り返すことで、知識を活用して考える力を育てることができる。また、授業では、観察・実験の結果を基に、学習問題に対する答えを考察するという活動を繰り返し、学習問題に則した説明する力を育むことが大切である。

④ 小学6年生

○ 評価の観点別正答率で見ると、全ての観点において、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ20]
○ 評価の観点「観察・実験の技能」において、到達基準を1として正答率を算出し、同一児童の経年比較をすると、平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ23]
● 身の回りの自然事象について、その特性を既習事項と関連付けて考え、説明する力を問う「活用」に関する設問において、4問中2問が「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表3] (6年生問4(3))
● 平成26年度[12月調査]で課題として挙げられていた、「科学的な思考・表現」において、観察・実験の結果から結論を導き出すことについては、引き続き課題が見られる。[表3] (6年生問5(3))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問4 (3)	メトロノームは、おもりを下に動かすと、音を出す間隔が短くなることを、振り子の性質と関係付けて説明することができる (記述式)	メトロノームの棒が1往復する時間を短くするには、おもりを上と下のどちらに動かせばいいかを選び、その理由を説明する。	42.4	1.8	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

1往復する時間は振り子の長さによってのみ変わるという既習の知識を、メトロノームの特性と関係付けて考えることができなかつたと考えられる。おもりを上に動かした方が、おもりの動くスピードが速くなるため、音を出す間隔が短くなるという考えや、おもりを下に動かすと、「振り子の振れ幅が小さくなる」「おもりが軽くなる」という考えをもち、それらの誤った考えを理由として説明したことが考えられる。

・ 改善・充実に向けて

振り子の学習においては、おもりが動く速さと1往復する時間とを混同して考えやすく、誤った概念をもちやすい。授業では、条件制御を伴った計画的な実験を通して、振り子のきまりについて実感を伴った理解を図ることができるようにする。その際に、1往復する時間とおもりが動く速さとは違うことや、振れ幅やおもりの重さは、他の要因によって変化しないことも確認しておく。また、メトロノームやおもちゃ等のものづくりを行うことも実感を伴った理解を図る上で有効な手立てである。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
6年生 問5 (3)	実験結果から、物を燃やした後の空気には、二酸化炭素よりも酸素の割合の方が大きいことを考えることができる (選択式)	ろうそくを燃やした後の空気について、気体検知管で酸素と二酸化炭素の割合を調べた結果から、何が分かるかを考え、選択する。	46.0	0.2	75.0	55.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

実験結果の図から読み取ったデータをしっかりと分析し、そこから何が言えるのかを考えることなく、図の見た目の印象やもともと持っていた概念だけで解答したと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

児童は、物が燃えたあとの空気について、酸素が減り、二酸化炭素が増えることについてはよく理解しているが、酸素よりも二酸化炭素の方が多くなったり、全てが二酸化炭素になったりするといった誤った概念をもっていることが多い。授業では、気体検知管を使って、物を燃やした前後での酸素と二酸化炭素の割合を調べる実験を行い、その結果を根拠として、物が燃えても酸素が全部使われるわけではなく、その一部が二酸化炭素に変わるだけであるということを自分の言葉で説明する活動を取り入れることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 児童が主体的に問題解決に取り組む授業を行うこと（４年生間１（２））

- ・ 授業の導入での事象提示を工夫することで、興味・関心を高めることや問題意識をもたせることができ、児童の主体的な問題解決を促すことができる。児童が自ら問題を見だし、予想や仮説のもとに観察・実験を行い、結果を整理し、考察し、結論として科学的な見方や考え方をもちょうな授業を行うことで、科学的な思考力等を育むことができる。
- ・ 児童に観察・実験の方法を考えさせる。そうすることで、観察・実験の方法から結果、考察までの見通しをもたせることができ、問題解決の能力を育成することにつながる。と考える。
- ・ 児童が、主体的に観察・実験を行うことで、道具の使い方を身に付けることができるとともに、学習内容について、実感を伴った理解をさせることができる。

② 思考したことを図や言葉で表現させる活動の充実を図ること（５年生間４）

- ・ 児童が事象に対する解釈とその理由、問題の解決方法などの考えを自分の言葉で表現する場が必要である。児童は、自分の考えを実際に書いたり友達と交流したりすることで、自分の「分かっている点」「曖昧な点」「間違っている点」などを整理することができる。それらを自覚し、再び思考することで探究活動がより充実したものになると考える。また、言語に限らず、図や絵などを用いて表現させることも、児童の思考を助けるために効果的である。

③ 観察・実験の結果を踏まえた考察を行わせること（５年生間２（１）、６年生間５（３））

- ・ 観察・実験の結果と考察を区別して指導する。考察では、結果を根拠として考えを表現させることで、自然の事象・現象の解釈をしたり、理由について考えを述べたりする力を高めることができる。
- ・ 観察・実験の結果を表やグラフにまとめさせる。そうすることで、結果をイメージ化したり、自分なりの解釈を表現したりすることができるようになる。また、友達同士での結果の交流がしやすくなり、表やグラフを読み取る力や複数の情報を関連付けて考える力を育むこともできると考える。

④ 日常生活との関連を図った問題解決に取り組ませること（４年生間９（２）、６年生間４（３））

- ・ 日常生活の中での事象を学習に取り上げることで、児童の学習への興味・関心を高めたり、問題意識をもたせたりすることができる。そうすることで、児童が主体的に問題解決に取り組む授業を行うことができる。
- ・ 学習内容が、自分達の生活と深く関わっていることや、生活の中で生かされていることを知らせることは、理科を学ぶ意義や有用性を感じさせることや実感を伴った理解を図ることにつながる。また、そうすることで、日常生活の中でも、学習内容と自然事象を関連させて考えようとする意識や態度を育むことができる。

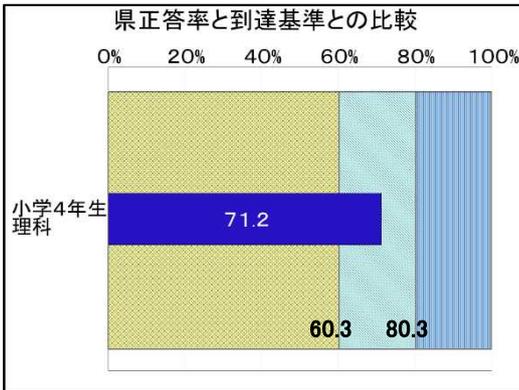
◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、理科力向上サポートチームを組織し、公開授業研究会、観察・実験講習会、教材提供及び授業支援活動を通して、科学的な思考力・表現力を高める学習モデルの提案や授業における観察・実験の充実をサポートする取り組みを行っています。Webページには、授業づくりの考え方や過去の実践例等も紹介しております。3月末には、今年度公開授業研究会で行った、「物質・エネルギー」領域での5本の授業実践についてWebアップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

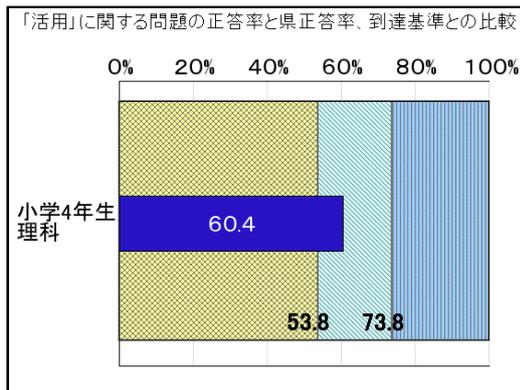
<資料>

① 小学4年生

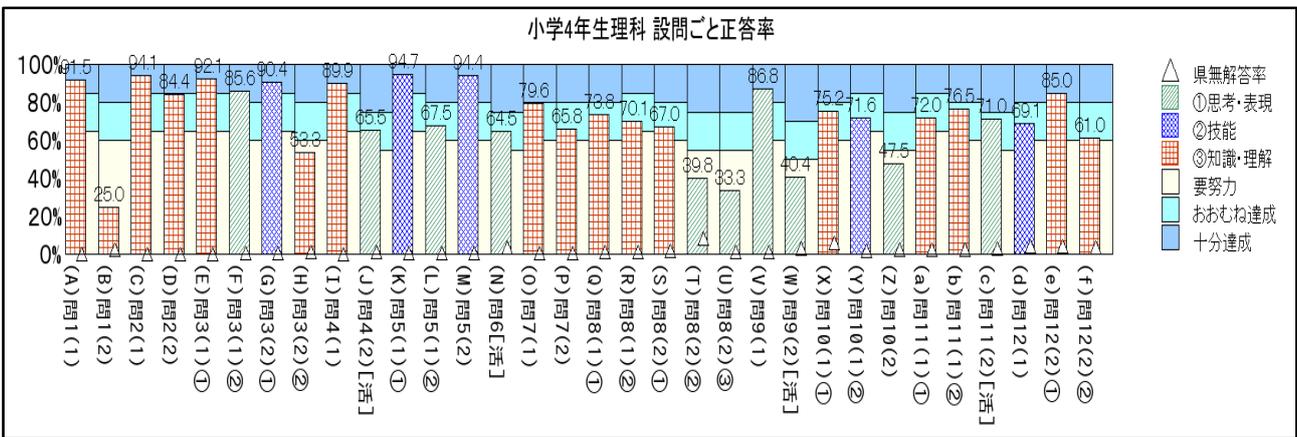
[グラフ1]教科全体正答率



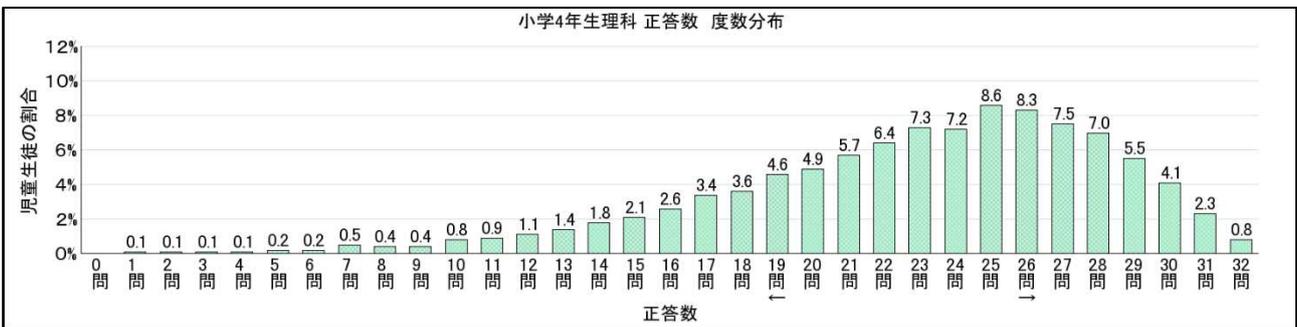
[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



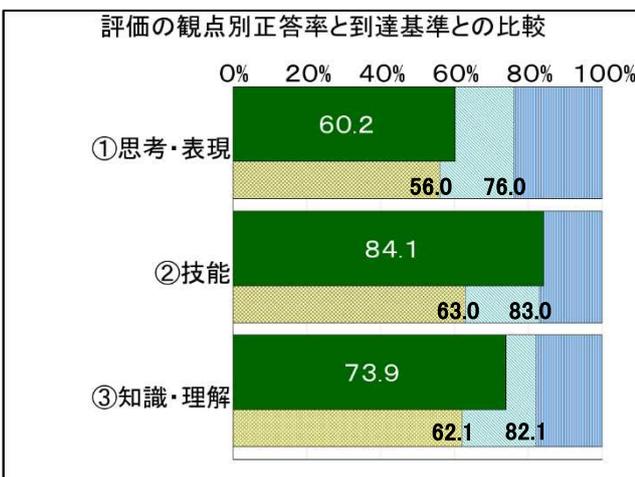
[グラフ3]設問ごと正答率



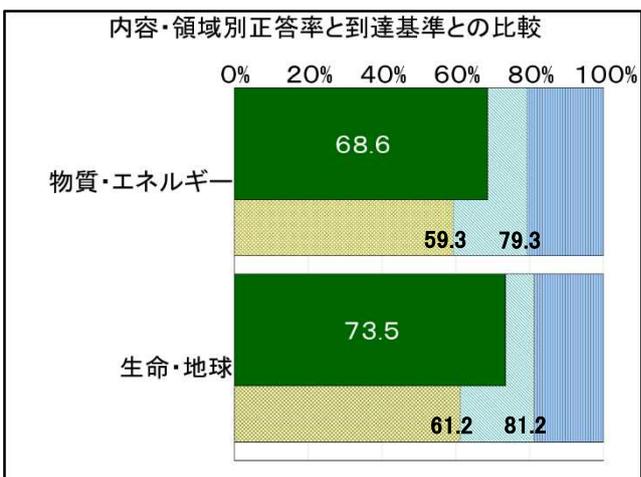
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率

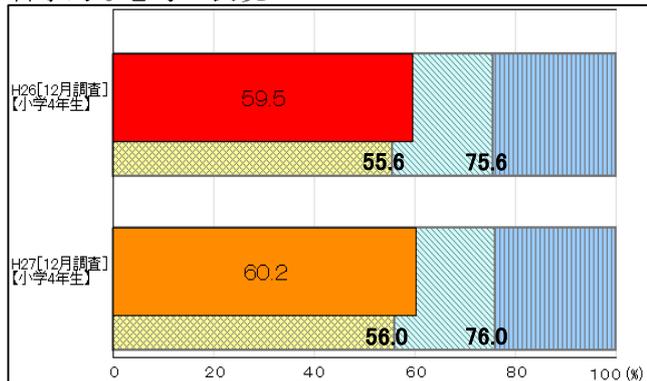


[グラフ6]内容・領域別正答率

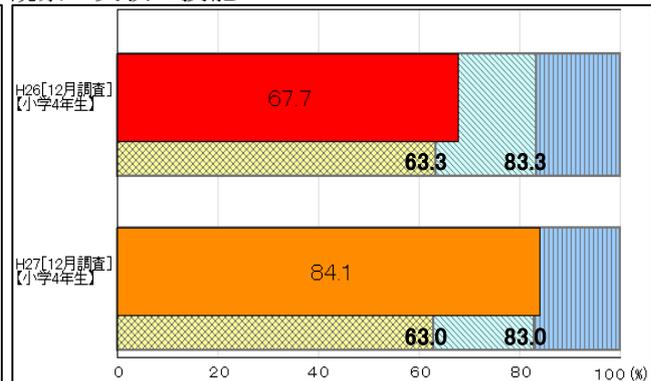


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

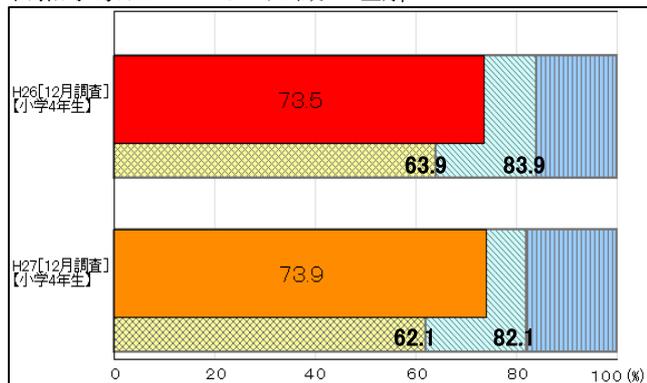
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

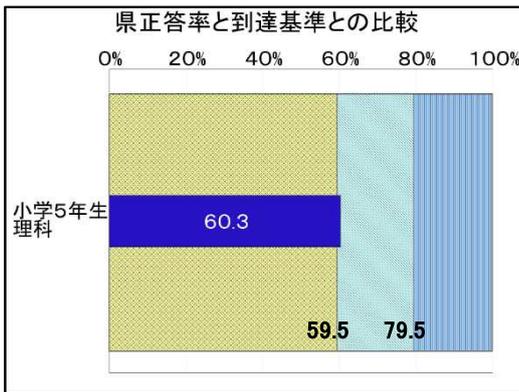


自然事象についての知識・理解

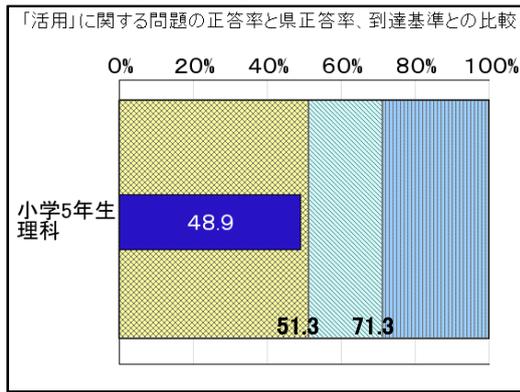


② 小学5年生

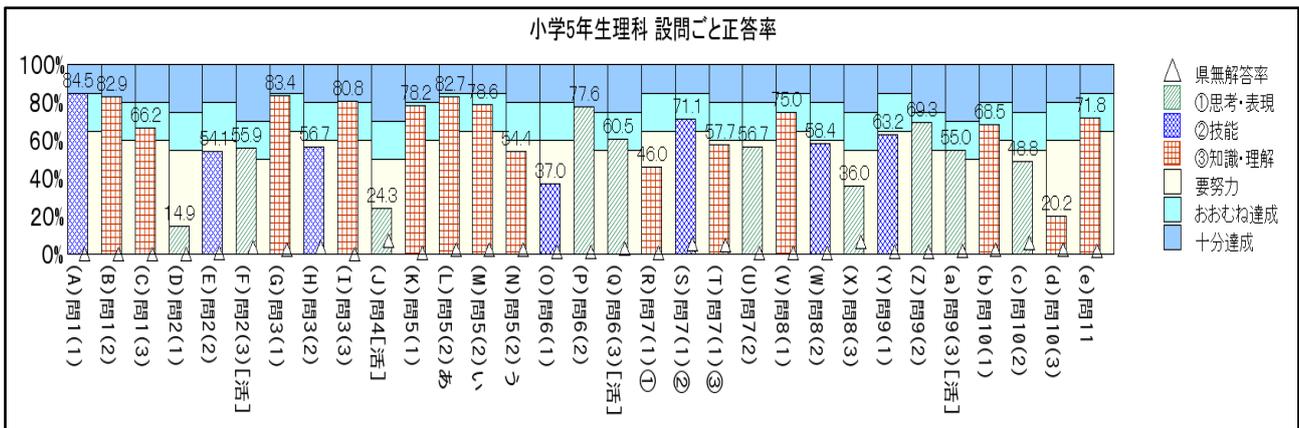
[グラフ8] 教科全体正答率



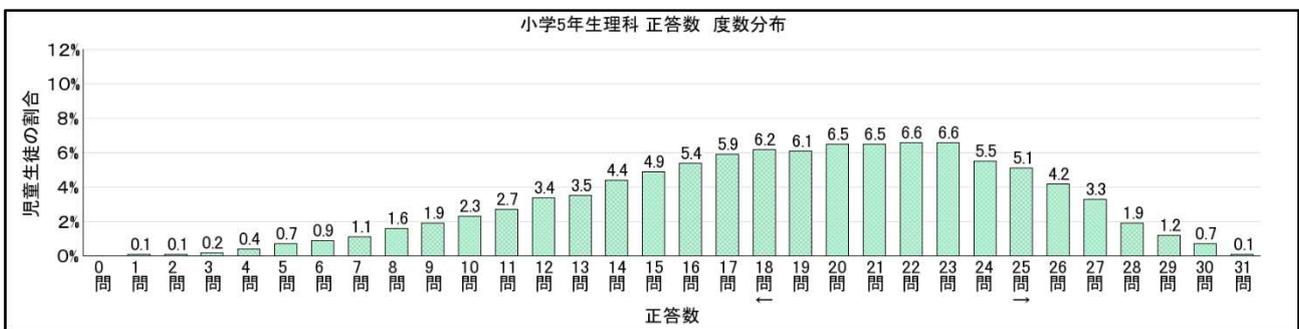
[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



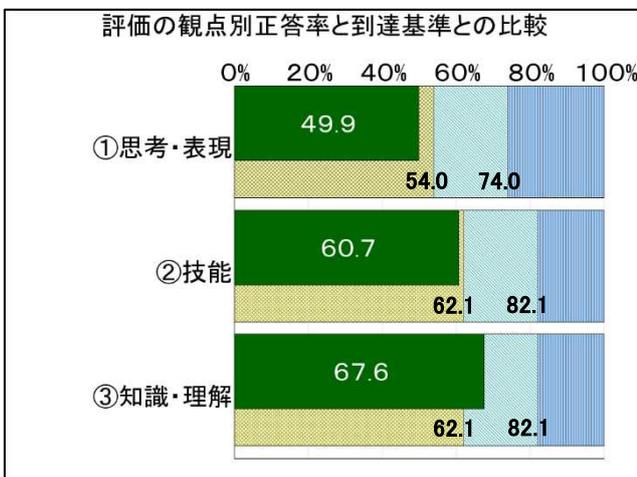
[グラフ10] 設問ごと正答率



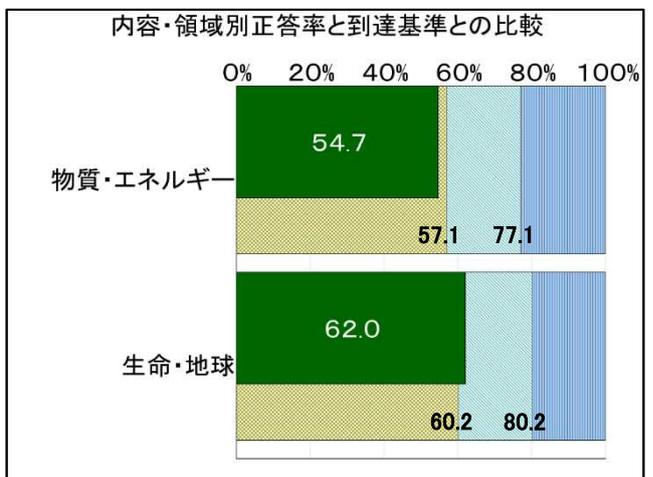
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 評価の観点別正答率



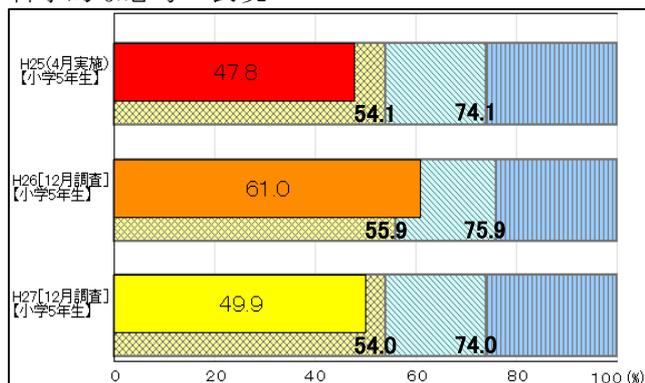
[グラフ13] 内容・領域別正答率



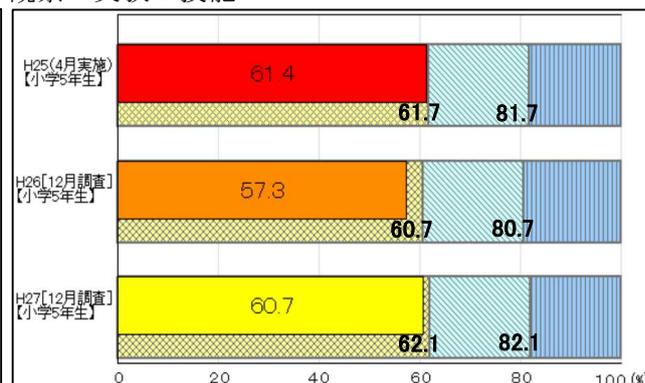
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 25 年度 (4 月実施) は、小学 4 年生までの内容で調査。

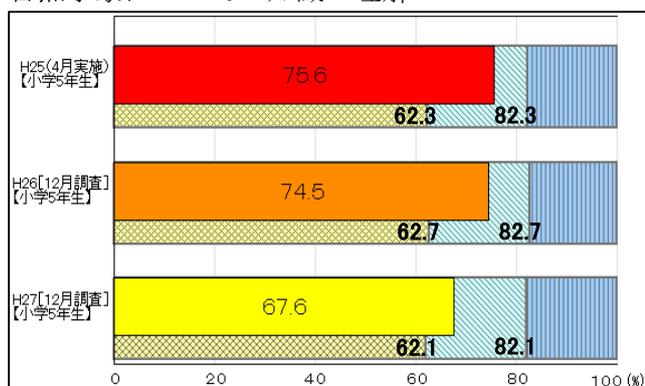
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

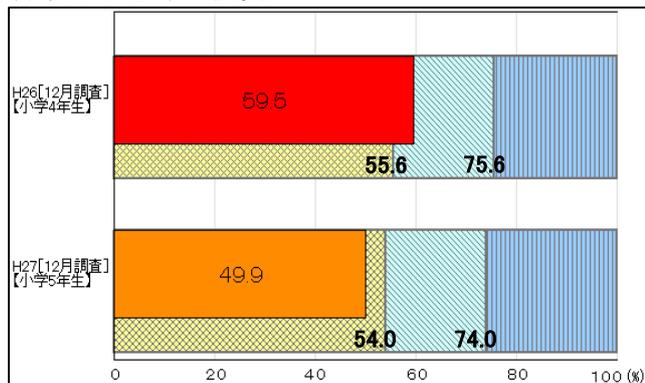


自然事象についての知識・理解

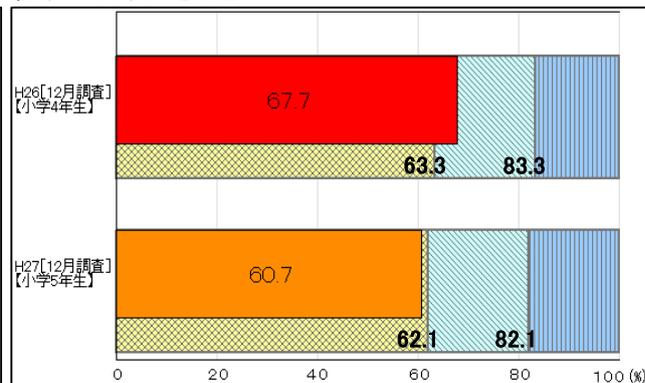


[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

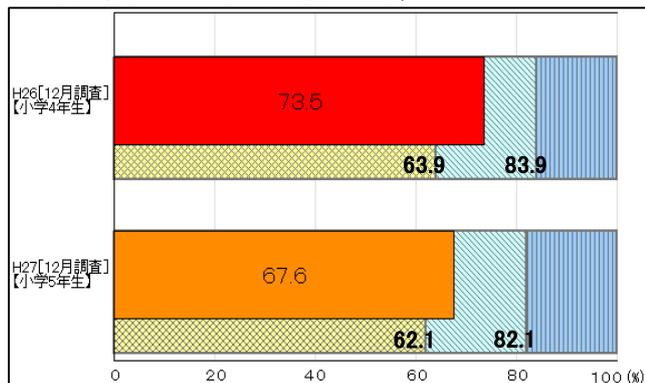
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

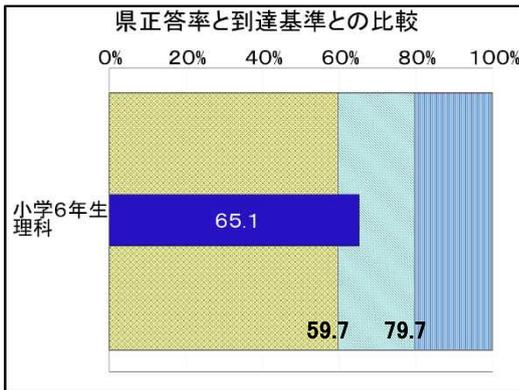


自然事象についての知識・理解

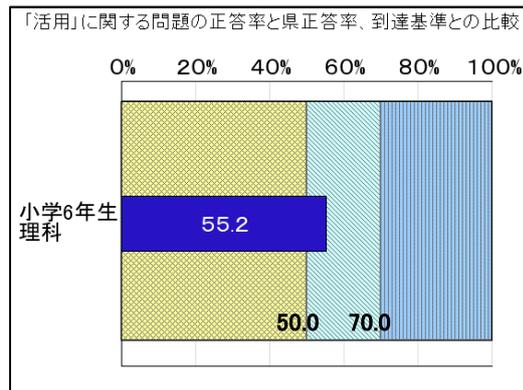


③ 小学6年生

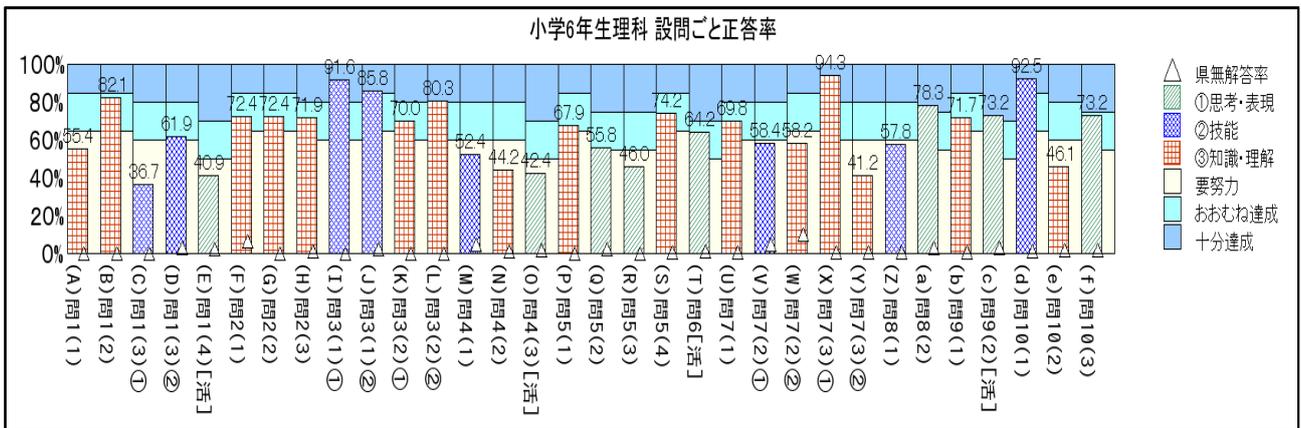
[グラフ16]教科全体正答率



[グラフ17]「活用」に関する問題の正答率



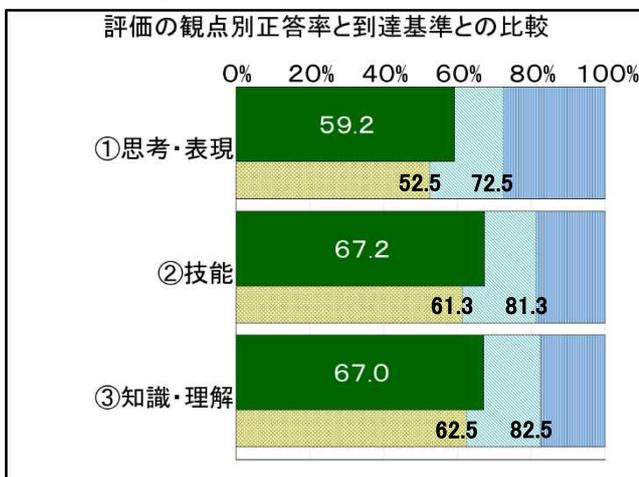
[グラフ18]設問ごと正答率



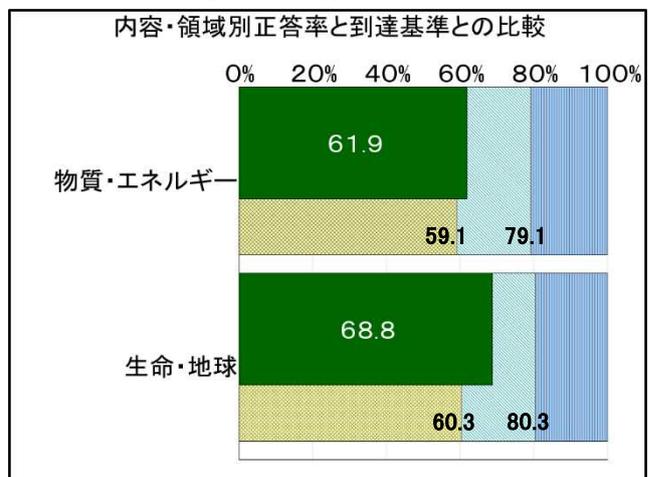
[グラフ19]教科正答数度数分布



[グラフ20]評価の観点別正答率



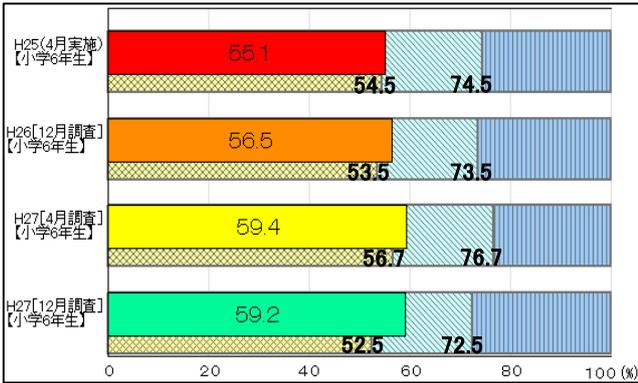
[グラフ21]内容・領域別正答率



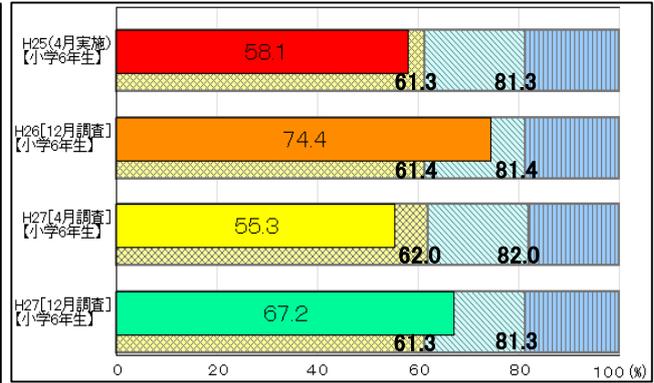
[グラフ 22] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 25 年度 (4 月実施) と平成 27 年度 [4 月調査] は、小学 5 年生までの内容で調査。

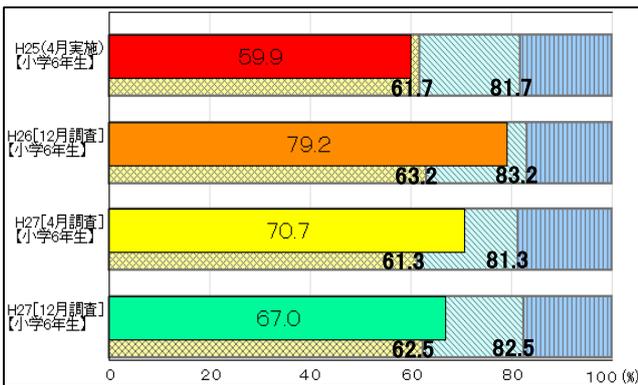
科学的な思考・表現



観察・実験の技能



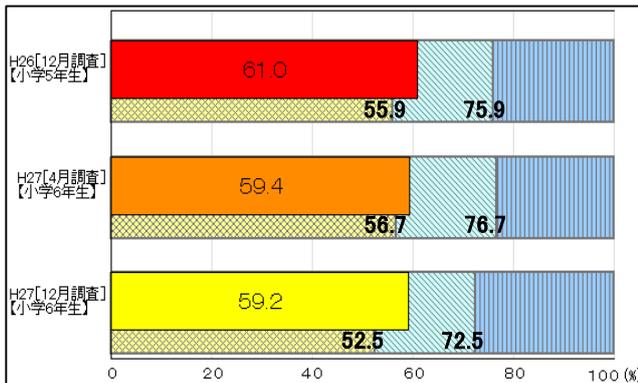
自然事象についての知識・理解



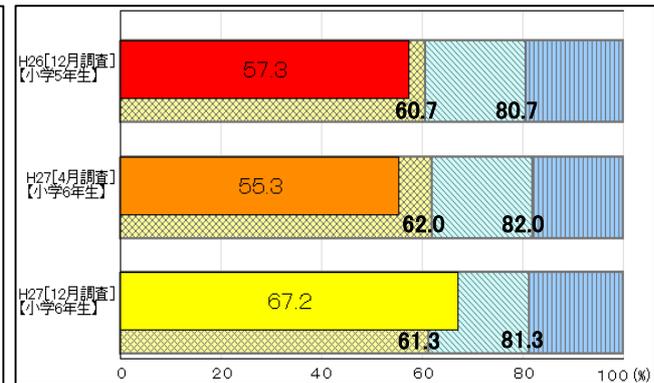
[グラフ 23] 評価の観点別正答率の推移 (同一児童)

※ 平成 27 年度 [4 月調査] は、小学 5 年生までの内容で調査。

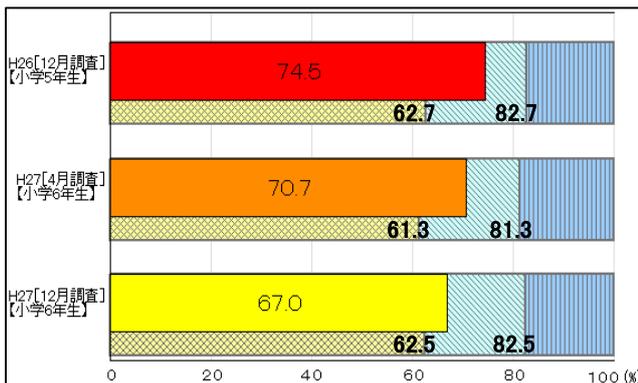
科学的な思考・表現



観察・実験の技能



自然事象についての知識・理解



2 中学校理科

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果 (到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等		評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		植物の生活と種類	身の回りの物質	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1)	顕微鏡を操作する技能を身に付けている	○		○		○				83.0	0.2	75	55	◎
1	(2)	プレパラートをつくる技能を身に付けている	○		○		○				90.4	0.1	70	50	◎
1	(3)	顕微鏡を操作する技能を身に付けている	○		○		○				27.7	0.4	70	50	▼
2	(1)	ルーペを使う技能を身に付けている	○		○		○				48.9	0.3	75	55	▼
2	(2)	ルーペを安全に使う技能を身に付けている	○		○		○				91.9	1.6	70	50	◎
3	(1)	シダ植物やコケ植物の体の胞子のうと胞子について理解している	○				○		○		52.2	6.5	70	50	
3	(2)	シダ植物とコケ植物それぞれについて、水の吸収の仕方を理解している	○				○		○		22.7	5.1	70	50	▼
3	(3)	シダ植物の仲間を理解している	○				○	○			46.3	1.0	75	55	▼
4	(1)	ヨウ素液を加えた葉の細胞を観察する場面において、光合成が行われている場所を指摘することができる	○		○			○			46.2	0.8	65	45	
4	(2)	光合成で二酸化炭素が使われることを調べる場面において、光合成における二酸化炭素濃度の変化について、推定することができる	○		○			○			69.2	0.7	65	45	◎
4	(3)	光合成で二酸化炭素が使われることを調べる場面において、実験結果から光合成に必要なものを考えることができる	○		○			○			59.2	4.0	65	45	
4	(4)	対照実験について理解している	○				○		○		62.4	17.3	70	50	
5	(1)	葉からの蒸散量を調べる実験の技能を身に付けている	○			○			○		63.9	7.6	70	50	
5	(2)①	蒸散について理解している	○			○			○		72.2	9.0	75	55	
5	(2)②	実験結果と調べたことを分析して解釈し、水の減少量を、葉の裏表にある気孔の数と関連付けて説明することができる	○		○				○	○	60.4	12.9	60	40	◎
6	(1)	状態変化について理解している	○				○		○		79.6	10.5	75	55	◎
6	(2)	物質の状態変化を粒子のモデルと関連付けて考えることができる	○	○				○			83.0	1.0	65	45	◎
7	(1)	融点について理解している	○				○		○		70.0	9.1	75	55	
7	(2)	状態変化の表を分析して解釈し、130℃のときの液体の状態にある物質を指摘することができる	○	○				○		○	27.4	15.7	65	45	▼
8	(1)	溶解度について理解している	○				○		○		43.0	20.1	75	55	▼
8	(2)	質量パーセント濃度を求める方法を理解している	○				○	○			58.7	1.6	75	55	
8	(3)	再結晶について理解している	○				○		○		81.3	10.5	75	55	◎
8	(4)	溶解度曲線を分析して解釈し、再結晶によって現れる結晶の量を推定することができる	○	○				○			38.5	2.7	65	45	▼
9		身の回りの物質の性質に着目して、物質を区別する実験を計画することができる	○	○					○	○	47.2	25.3	55	35	
10	(1)	密度について理解している	○				○		○		49.7	13.6	70	50	▼
10	(2)	異なる密度の2つの物質を上皿てんびんでつり合わせる場面において、同一質量当たりの体積を推定することができる	○	○					○		31.1	16.6	65	45	▼
10	(3)	物体の体積と質量から密度を求める方法を理解している	○				○		○		57.6	17.6	70	50	
10	(4)	水、氷それぞれの密度を分析し、水と氷の体積を比較することができる	○	○					○	○	22.8	19.9	60	40	▼
10	(5)	PETとPPを分別する場面において、密度の違いを活用してPPのみを取り出す方法を考えることができる	○	○					○	○	36.9	32.7	60	40	▼

② 中学2年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「○」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		身近な物理現象	大地の成り立ちと変化	化学変化と原子・分子	動物の生活と生物の変遷	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	自然事象についての知識・理解	選択式	短答式						
1 (1)	実験結果を基にグラフを作成する技能を身に付けている	○				○			○			74.8	2.5	70	50	◎
1 (2)	おもりをつり下げたときのばねの伸びを求める場面において、グラフを用いて、質量から重力への変換を正しく行い、ばねの伸びを推定することができる	○				○			○			51.8	8.6	65	45	
1 (3)	フックの法則について理解している	○							○			42.6	5.4	70	50	▼
1 (4)	ばねばかりを作る場面において、力の大きさとばねの伸びとの関係を活用して、正しく測定できるばねばかりを作る方法を考えることができる	○				○			○	○		44.1	1.9	65	45	▼
2	他者の考察を検討して改善し、目的に対して適切な考察を記述することができる	○				○				○	○	52.3	18.4	60	40	
3 (1)	主要動について理解している		○						○			37.4	18.0	75	55	▼
3 (2)	ある地点での地震計の記録をまとめた表を基に、初期微動継続時間を求めることができる		○						○			55.3	5.9	70	50	
3 (3)	各地点での地震計の記録を分析して解釈し、初期微動継続時間と震源からの距離との関係を説明することができる		○				○					56.6	10.0	65	45	
3 (4)	ある地点での地震計の記録を分析して解釈し、S波が伝わる速さを求めるための式を考えることができる		○				○					10.6	37.7	65	45	▼
4 (1)	炭酸水素ナトリウムを加熱する実験を安全に行う技能を身に付けている			○			○			○		79.0	5.9	70	50	◎
4 (2)	塩化コバルト紙の色の変化を理解している			○					○			64.4	2.5	75	55	
4 (3)	気体を化学式で表す方法と、その気体を確認する方法を身に付けている			○					○			29.1	5.9	70	50	▼
4 (4)	炭酸水素ナトリウムと炭酸ナトリウムの性質の違いを理解している			○					○	○		33.1	2.0	70	50	▼
4 (5)	炭酸水素ナトリウムの熱分解の場面において、質量保存の法則を活用して、発生した気体の質量を推定することができる			○			○			○		65.1	9.2	65	45	◎
5 (1)	スチールウールが燃焼した後の物質を理解している			○					○			43.6	14.2	70	50	▼
5 (2)	スチールウールを燃焼させる場面において、燃焼後の質量が変化した理由を説明することができる			○			○			○		43.2	5.6	65	45	▼
5 (3)	スチールウールの燃焼で、燃焼前後の性質の違いを調べるための技能を身に付けている			○					○			26.5	4.8	70	50	▼
5 (4)	反応後の物質を更に加熱する場面において、化合する物質の質量の比は一定であるという知識を活用して、質量の増加が見られないことを考えることができる			○					○			58.7	2.3	65	45	
5 (5)	木炭を燃焼させる場面において、化学変化の知識を活用して、燃焼後の質量が変化した理由を説明することができる			○			○			○		19.5	9.2	55	35	▼
6 (1)①	脊椎動物の骨格の働きについて理解している				○				○			89.8	3.3	70	50	◎
6 (1)②	相同器官について理解している				○				○			67.6	11.3	75	55	
6 (2)①	始祖鳥について理解している				○				○			73.1	11.5	75	55	
6 (2)②	資料を分析して解釈し、始祖鳥が鳥類と爬虫類の両方の特徴をもつ生物であることを指摘することができる				○	○				○		62.8	6.5	65	45	
6 (2)③	進化について理解している				○				○			87.2	7.6	75	55	◎
7 (1)	脊椎動物がもつ共通の特徴を理解している				○				○			68.0	9.4	75	55	
7 (2)	節足動物の体のつくりについて理解している				○				○			72.0	6.7	75	55	
7 (3)	魚類と両生類の子の生まれ方や育ち方の特徴を理解している				○				○	○		89.6	1.8	70	50	◎
7 (4)	鳥類と哺乳類の体温の特徴を理解している				○				○			67.4	9.9	70	50	
7 (5)	魚類、両生類、爬虫類のそれぞれの呼吸方法を分析して、生活場所の変化と進化との関係について説明することができる				○	○				○		57.2	12.6	60	40	

(2) 調査結果の分析（「○」は成果、「●」は課題、（ ）内は関係する設問を示す。）

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ1、グラフ8]
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点別正答率は、全ての評価の観点において「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ5、グラフ12]
- 平成26年度[12月調査]で課題として挙げられていた、実験結果などの表やグラフを分析して解釈することについては、中学1年生及び中学2年生共に、引き続き課題が見られる。[表1、表2]
- 「活用」に関する問題の、日常生活や社会の特定の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することを問う記述式の設問については、中学1年生及び中学2年生共に課題が見られる。[表1、表2]

② 中学1年生

- 評価の観点「観察・実験の技能」の正答率は67.7で、「おおむね達成」の基準51.7を16.0ポイント上回っている。該当する設問において、6問中3問が「十分達成」の基準を上回っている。[表1、グラフ5]
- 平成26年度[12月調査]で課題として挙げられていた、実験結果などの表やグラフを分析して解釈することを問う設問については、4問中3問が「おおむね達成」の基準を下回っている。「状態変化の表を分析して解釈し、130℃で液体の状態にある物質を指摘すること」を問う設問の正答率は27.4で、「おおむね達成」の基準45.0を17.6ポイント下回っており、課題が見られる。[表1]（1年生問7(2)）
- 「活用」に関する問題の「PETとPPを分別する場面において、密度の違いを活用してPPのみを取り出す方法を考えること」を問う設問の正答率は36.9で、「おおむね達成」の基準40.0を3.1ポイント下回っており、課題が見られる。[表1]（1年生問10(5)）

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問7 (2)	状態変化の表を分析して解釈し、130℃のときの液体の状態にある物質を指摘することができる (選択式)	物質の融点と沸点をまとめた表より、130℃のときに液体の状態にある物質を全て選ぶ。	27.4	15.7	65.0	45.0

- ・ 誤答・無解答の原因として考えられること
物質が融点、沸点を境にどのような状態にあるかという知識と関係付けて、表の分析・解釈ができなかったと考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
融点や沸点は、物質の種類によって決まっていることを理解させると同時に、物質は融点や沸点を境に状態が変化することについての理解を深めることが大切である。
指導に当たっては、物質の融点を測定する実験で、測定温度とともにその温度での物質の状態をよく観察させるようにする。次に、観察結果から言えることをグループで意見交換させ、物質の状態とその時の温度についての様々な表現に触れさせることで、「融点以上の温度では、物質は固体の状態ではいられなくなる」「それ以上の温度では液体としてしか存在できなくなる境の温度を融点という」等と言い換えて表現できるように指導することが大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
1 年生 問 10 (5)	PETとPPを分別する場面において、密度の違いを活用してPPのみを取り出す方法を考えることができる (記述式)	PETとPPの破片からPPだけを効率よく取り出す方法を、いろいろな物質の密度をまとめた表を参考に説明する。	36.9	32.7	60.0	40.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

プラスチックが水に浮くか沈むかで、プラスチックと水の密度の比較をすることができることに気付かなかつたと考えられる。また、密度の意味を理解できておらず、表を用いてPETとPPの密度の値をそれぞれ水の密度と比較することができなかつたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

食品容器や菓子袋などの表示から、プラスチックが幅広く利用されていることや、プラスチックの種類によって性質が異なることを見た目や実験で確かめさせることが大切である。

指導に当たっては、プラスチックの種類によって水に浮くか沈むかの実験を行う際に、密度を水と比較するための実験であるという目的意識をはっきりともたせる。その上で、「PPは水に浮くので密度の値が水より小さい」というように根拠のある考察ができるように指導していくことが大切である。また、水以外にも、食塩水やエタノールでも同様の実験を行い、物質による密度の違いについて理解を深めることも大切である。

③ 中学2年生

○ 平成26年度[12月調査]における教科全体正答率は45.6で、「おおむね達成」の基準49.7を4.1ポイント下回っていたが、本調査における教科全体正答率は55.9で、「おおむね達成」の基準48.6を7.3ポイント上回っている。[グラフ8]
○ 評価の観点別正答率について、到達基準を1として正答率を算出し同一学年の経年比較をすると、全ての評価の観点で平成26年度[12月調査]より上回っている。[グラフ14]
○ 内容・領域「動物の生活と生物の変遷」において、10問中3問が「十分達成」の基準を上回っており、10問中7問が「おおむね達成」の基準を上回っている。[表2]
● 「表を分析して、地震の揺れを起こす波の速さを求める式を考えること」を問う設問における正答率は10.6で、「おおむね達成」の基準45.0を34.4ポイント下回っており、課題が見られる。[表2](2年生問3(4))
● 平成26年度[12月調査]で課題として挙げられていた「活用」に関する問題の、日常生活や社会の特定の場面において、基礎的・基本的な知識・技能を活用することについては、引き続き課題が見られる。[表2](2年生問5(5))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね 達成
2 年生 問 3 (4)	ある地点での地震計の記録を分析して解釈し、S波が伝わる速さを求めるための式を考えることができる (短答式)	震源からの距離、P波が届いた時刻、S波が届いた時刻をまとめた表を基に、S波が伝わる速さの式を表す。	10.6	37.7	65.0	45.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

距離とP波、S波の到着時刻の関係を示した表を、地震発生時刻と関係付けて分析・解釈ができなかったと考えられる。また、速さの求め方を理解できていなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

地震は、プレートや断層の動きなどが関係するスケールの大きな現象であるため、実際の動きを再現できない。そのため、地震に対するイメージをもたせることが大切である。

指導に当たっては、地震の構造を説明した動画などを活用するなどして、地震に対する生徒のイメージを形成していくことが大切である。地震に対するイメージをもたせた上で、地震に関する様々なデータを情報として取り扱い、データを基に地震の特徴を考えていくような活動を位置付けることで、科学的な思考を深めることができる。また、単位を付けて計算させることで、式が正しく立てられたかを確認させるよう指導していくことも大切である。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
2年生 問5 (5)	木炭を燃焼させる場面において、化学変化の知識を活用して、燃焼後の質量が変化した理由を説明することができる (記述式)	2つの木炭を棒でつるしてつり合った状態から片方を加熱したとき、棒の傾きを選択肢から選び、その理由を説明する。	19.5	9.2	55.0	35.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

開放系で炭素を加熱し、気体（二酸化炭素）が生成する場合の質量変化を、スチールウールを加熱し気体が生成しない場合と混同してしまったと考えられる。また、炭素の燃焼で起こる化学変化についての理解が十分でなかったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

物質に起こる全ての変化について質量保存の法則が成り立つ。気体が生成する化学反応と気体が生成しない化学反応とを、質量について対比させながら考えさせていく中で、開放系と閉鎖系では結果に違いがあることを経験的に導き出させることが大切である。

指導に当たっては、気体が生成する化学変化について、開放系、閉鎖系の両方で実験を行い、質量保存の法則を説明する活動を充実させることが大切である。例えば、塩酸と炭酸水素ナトリウムの反応によって二酸化炭素が生成する化学変化について、まず開放系で実験を行い、質量が減少することを確認させる。次に、ペットボトル等を用いて閉鎖系で実験を行い、質量が変化しないことを確認させる。その後、2つの実験結果を考察させる際に、自分なりの解釈を図や文章で表させ、グループ内の交流をさせる。そこで、「(開放系では)発生した二酸化炭素の分だけ質量が減少する」「発生した気体が空気中に逃げないようにすると、化学変化の前後で全体の質量は変化しない」など、解釈をより妥当性のあるものにさせることで科学的な思考力・表現力を高めることが大切である。

(3) 改善のポイント

① 問題を見だし、観察や実験を計画する学習活動を充実させること

- 全ての科学的な探究で、直接的な体験から問題を見だしさせることは難しい。そこで、図版などを利用し、「あれ・どうして・なぜだろう」などの疑問をもたせるような事象を提示したり、2つの事象を比較させたりすることから、解決すべき問題を見付けさせることが大切である。

- 生徒が自ら学習問題を立てたり、その解決の見通しをもったりすることは、観察や実験の結果を分析し解釈する活動を充実させることにつながる。そのためにも、生徒の発達の段階や実態などに応じて、観察・実験を計画する場面で、考えを発表したり、検証方法を検討したりしながら考えを深め合う学習活動を設定することが大切である。

② 観察や実験の結果を分析して解釈するような学習活動を充実させること

(1年生問7(2)、2年生問3(4))

- 実験結果の分析は、思考力や表現力を育成するために重要である。そのためには、データを図、表、グラフなどで表させたり、結果について考察させたりする時間を十分に確保することが大切である。観察・実験の結果を分析し解釈する場面では、必要に応じて分析の視点や解決する課題を提示し、生徒が科学的に探究できるようにする。また、グループ内の交流活動を仕組み、生徒に自分の考えを発表させたり意見交換させたりして、解釈をより妥当性のあるものにさせることで、科学的な思考力や表現力を育成することが大切である。

③ 科学的な概念を使用して考えたり表現したりする学習活動を充実させること

(2年生問5(5))

- 科学的な思考力や表現力を育成するために、観察・実験における予想や考察などの自分の考えを他者に伝える学習活動を取り入れた授業を展開することが大切である。
- 身近な事象について、理科の学習を通して習得した知識や技能を使って考える機会を設ける。例えば、数種類の未知の白い粉や岩石の種類を判定する、明日の天気を予想する、家庭の配線にはどれだけの電流が流れているかを調べるなどについて、レポートの作成や発表、討論する活動を設定し、科学的に探究する能力や態度を育成することが大切である。

④ 基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために、評価を充実させること

- 重要語句や計算など基礎的・基本的な知識・技能については、確認テスト等の評価を行い定着させていきたい。指導と評価の一体化の視点から、授業の始まりに前時を振り返る活動を取り入れたり、授業中の観察やノートの点検、授業の終わりに確認テストを実施したりすることで評価を行い、達成できていない場合は補充的な指導を確実に行うようにする必要がある。このような授業ごとによるものと、定期テスト・実力テストなどの単元ごとによるものを組み合わせる行うことが大切である。また、実態に応じた継続的な取り組みを、学校全体で共通認識をもって行っていくことも大切である。

⑤ 日常生活や社会と関連した学習活動を充実させること (1年生問10(5))

- 科学技術が日常生活や社会を豊かにしていることや安全性の向上に役立っていること、理科で学習することが様々な職業と関係していることなど、日常生活と社会との関連を重視した学習を通して、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、科学への関心を高めるような学習活動を取り入れることが大切である。

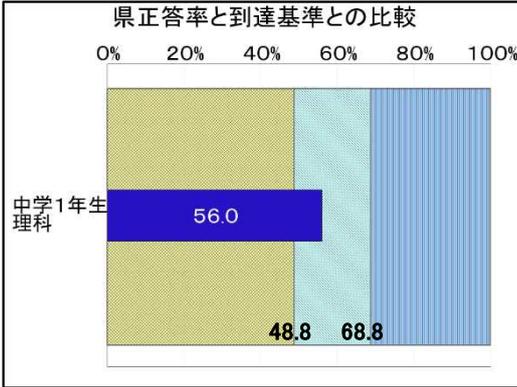
◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、理科力向上サポートチームを組織し、公開授業研究会、観察・実験講習会、教材提供及び授業支援活動を通して、科学的な思考力・表現力を高める学習モデルの提案や授業における観察・実験の充実をサポートする取り組みを行っています。特に提案している学習モデルは、小中連携の視点からもスムーズな接続ができるよう工夫されています。教育センターWeb ページには、授業づくりの考え方や過去の実践例等も紹介しています。3月末には、今年度、公開授業研究会で行った、第1学年「物理的領域」、第3学年「化学的領域」での計5本の授業実践についてWeb アップする予定です。ぜひご活用ください。

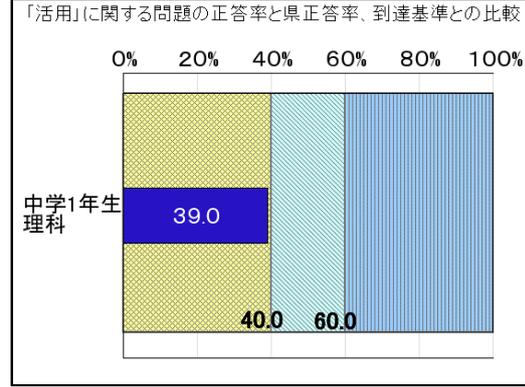
<資料>

① 中学1年生

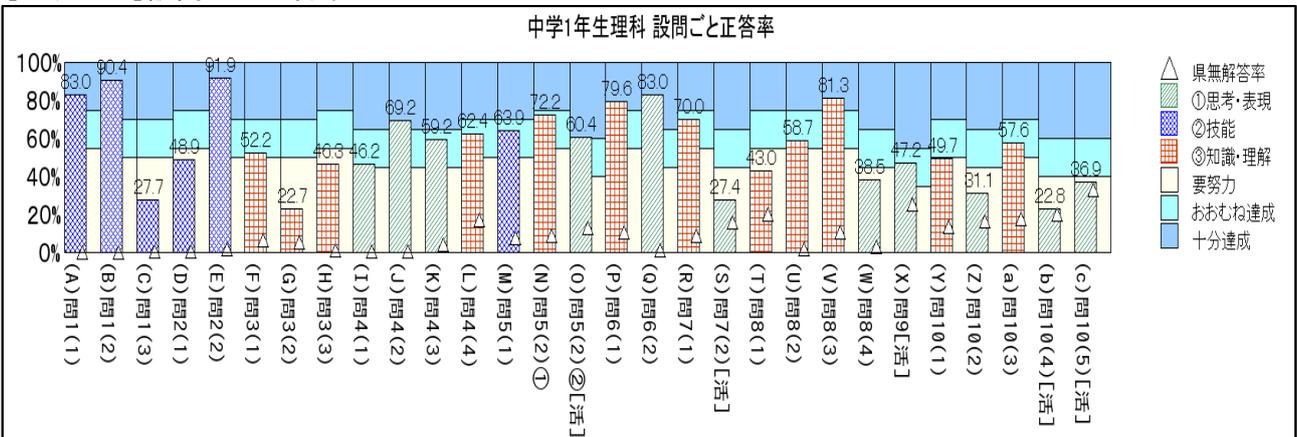
[グラフ1]教科全体正答率



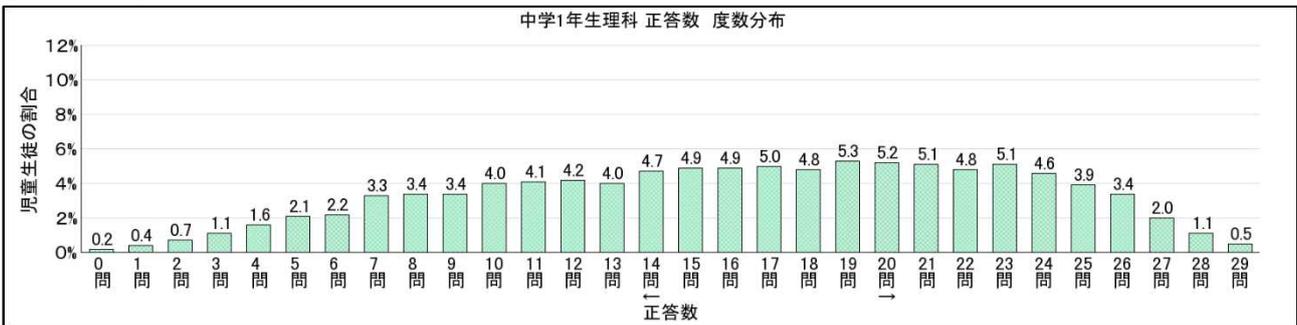
[グラフ2]「活用」に関する問題の正答率



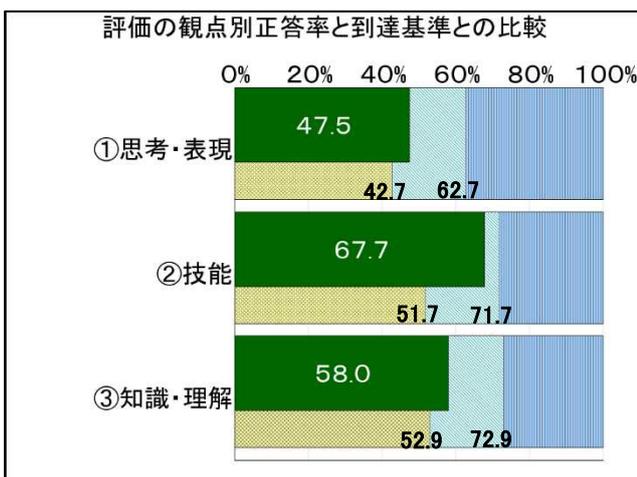
[グラフ3]設問ごと正答率



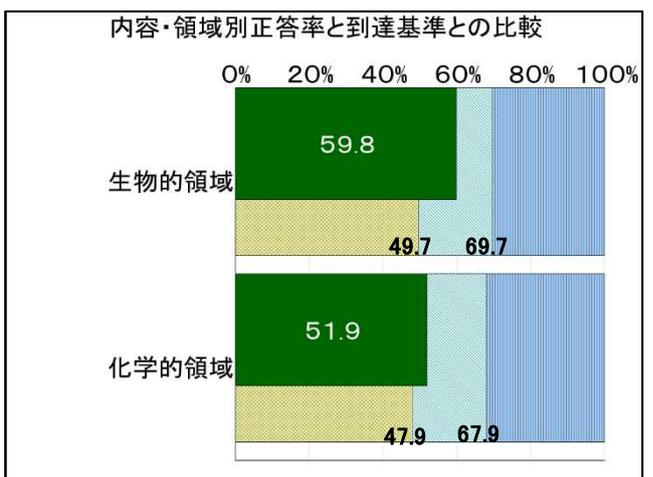
[グラフ4]教科正答数度数分布



[グラフ5]評価の観点別正答率



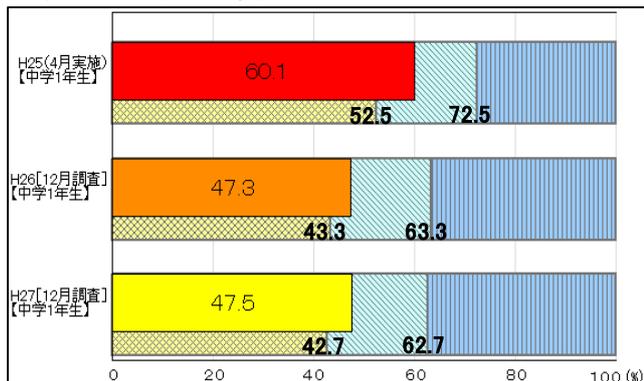
[グラフ6]内容・領域別正答率



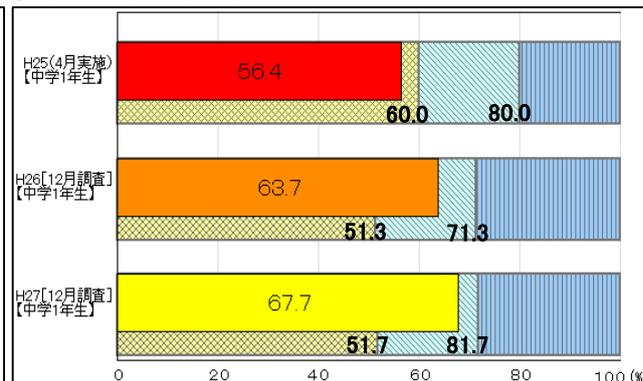
[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成25年度(4月実施)は、小学6年生までの内容で調査。

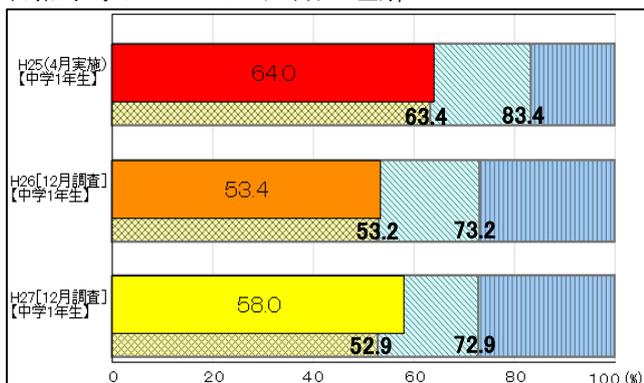
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

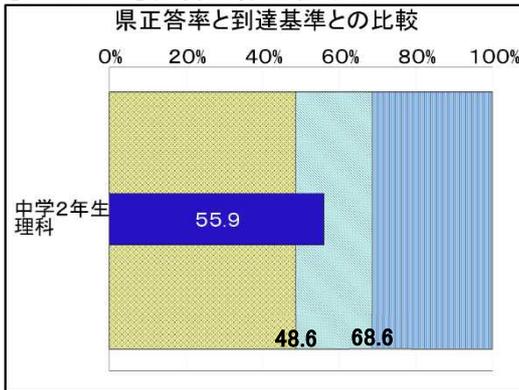


自然事象についての知識・理解

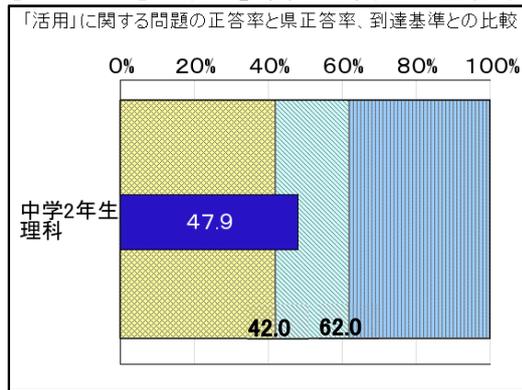


② 中学2年生

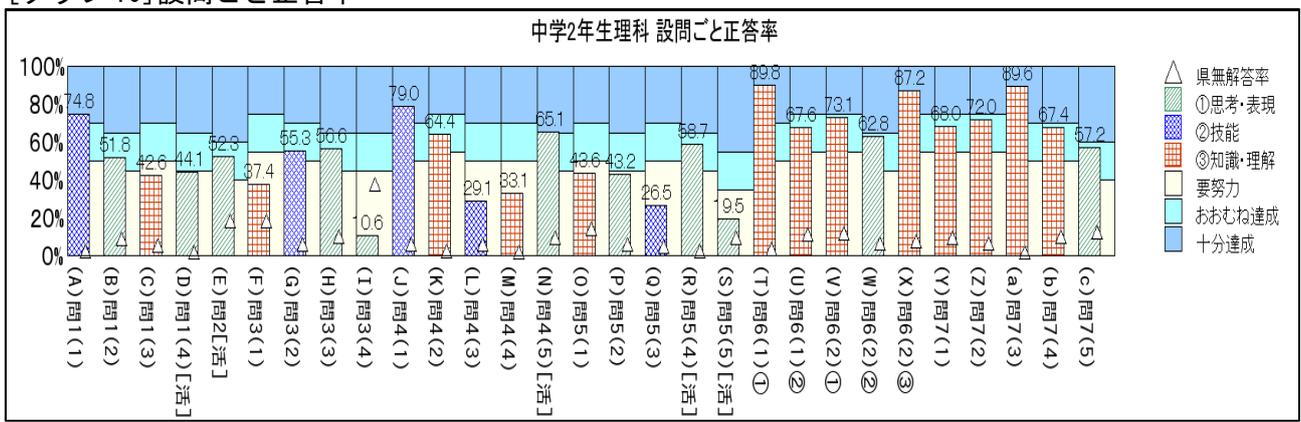
[グラフ8] 教科全体正答率



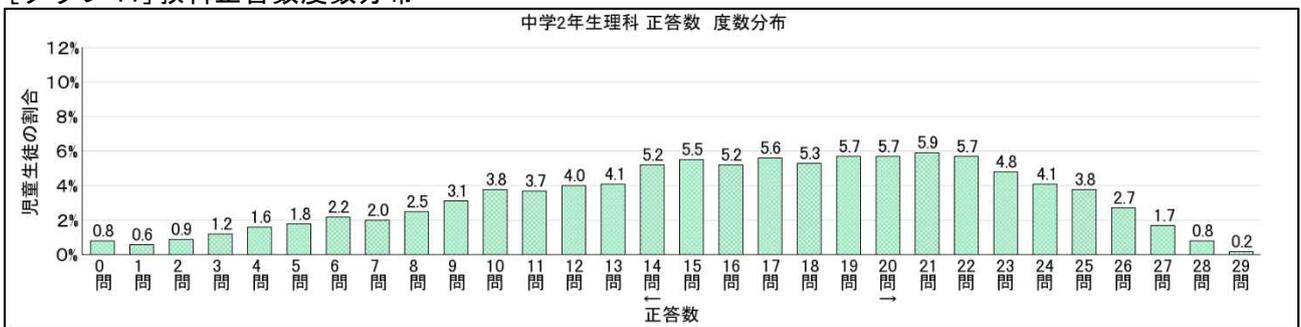
[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



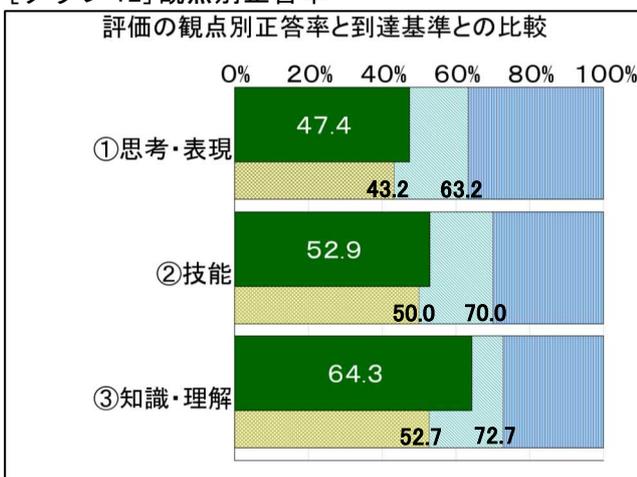
[グラフ10] 設問ごと正答率



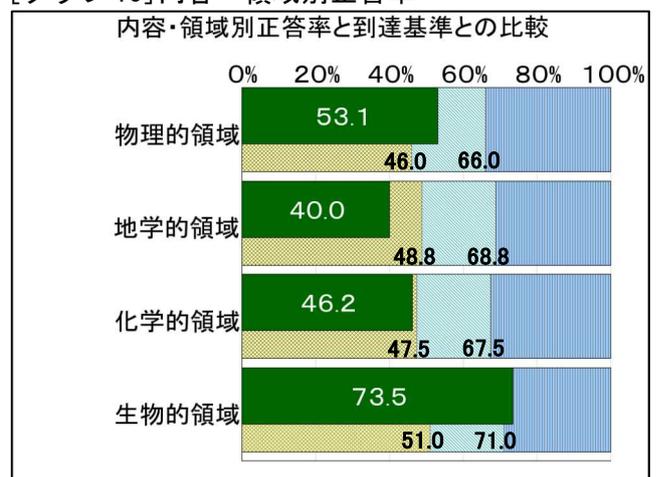
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 観点別正答率



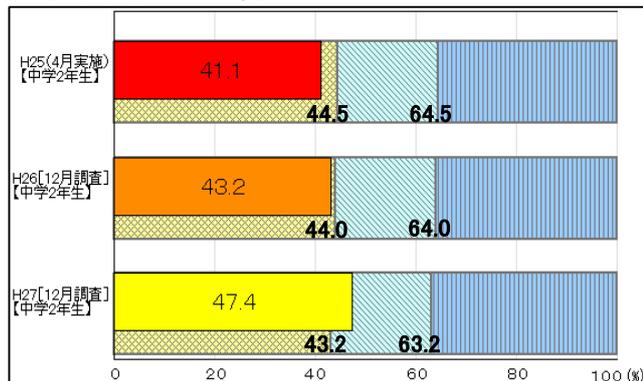
[グラフ13] 内容・領域別正答率



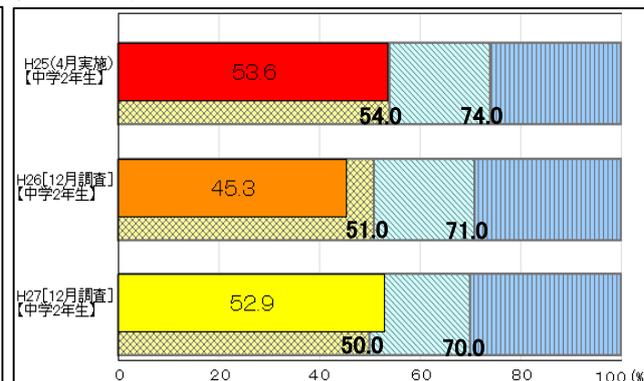
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移 (同一学年)

※ 平成 25 年度 (4 月実施) は、中学 1 年生までの内容で調査。

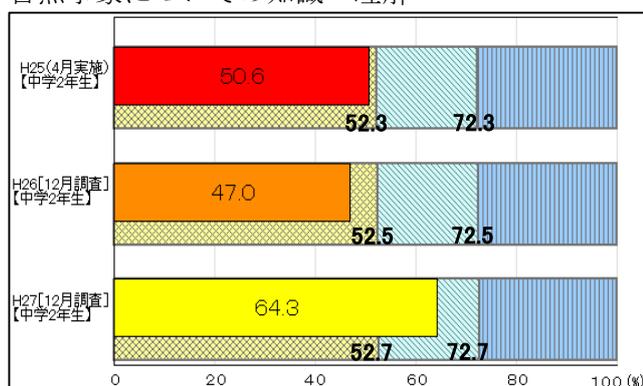
科学的な思考・表現



観察・実験の技能

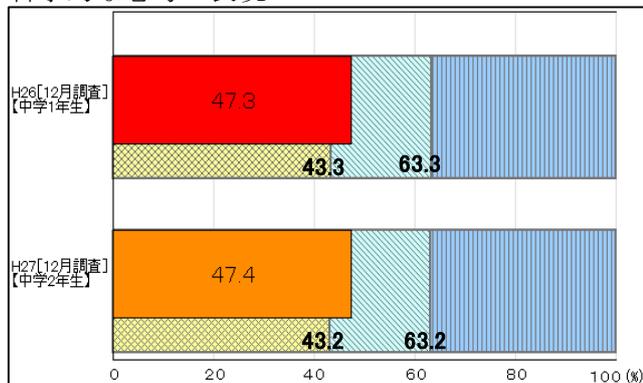


自然事象についての知識・理解

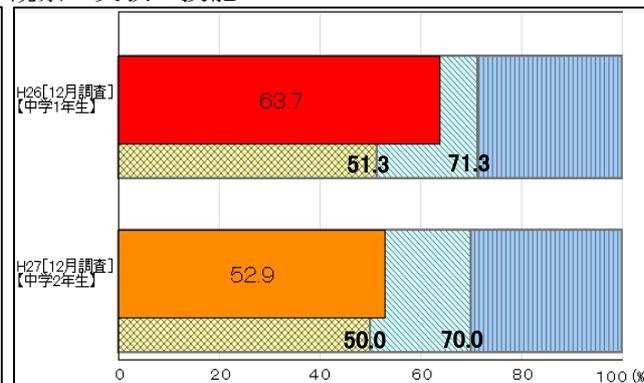


[グラフ 15] 評価の観点別正答率 (同一生徒)

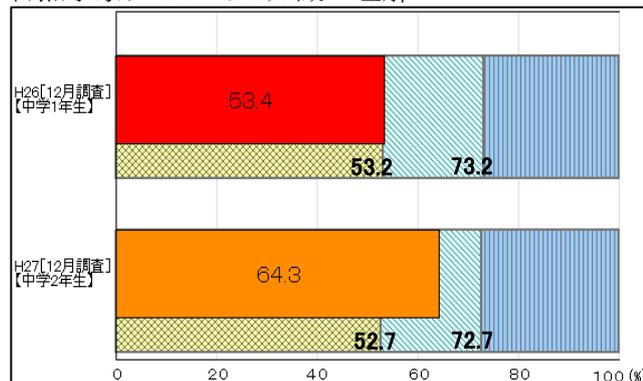
科学的な思考・表現



観察・実験の技能



自然事象についての知識・理解



2 中学校英語

(1) 各学年の調査結果

① 中学1年生

[表1] 設問別調査結果（到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。）

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○					97.2	0.1	75	55	◎
1 (2)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○					81.8	0.1	70	50	◎
2 (1)	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○				○	○					97.1	0.1	75	55	◎
2 (2)	対話を聞いて、概要を理解する	○			○		○					96.8	0.1	70	50	◎
3 (1)	対話を聞いて、概要を理解する	○			○		○					93.3	0.2	70	50	◎
3 (2)	聞いて得た複数の情報を関連付けながら理解する	○			○		○		○			62.5	0.2	60	40	◎
4 (1)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					97.1	0.1	65	45	◎
4 (2)	聞いて得た情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					95.7	0.2	65	45	◎
5 (1)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	○			○		○					80.2	0.6	65	45	◎
5 (2)	対話文を読んで、相手の意向を理解し、適切に応じる	○			○		○					69.3	0.6	65	45	◎
6	説明文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					81.3	0.8	70	50	◎
7 (1)	対話文を読んで、大切な部分を理解する	○			○		○					95.0	0.5	65	45	◎
7 (2)	対話文を読んで、話がどのように展開していくのか、大まかな流れを理解する	○			○		○					72.1	0.9	60	40	◎
8 (1)	対話文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する	○			○		○					76.5	1.0	65	45	◎
8 (2)	対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する	○			○		○					75.3	1.2	65	45	◎
9 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○				○			○		38.8	12.5	75	55	▼
9 (2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く		○				○			○		46.7	12.2	70	50	▼
10 (1)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○	○	○				○			60.9	8.2	65	45	
10 (2)	対話文を読んで内容を理解し、適切な語を書く	○	○	○	○				○			47.8	11.4	65	45	
11 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		55.7	3.2	65	45	
11 (2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く		○				○			○		56.7	2.9	65	45	
12 (1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○	○	○	○			○			61.4	7.6	75	55	
12 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○	○	○	○			○			70.5	9.2	70	50	◎
12 (3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く		○	○	○	○			○	○		52.4	13.0	65	45	
13	テーマについて、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く		○	○						○	○	65.4	12.8	60	40	◎

② 中学2年生

[表2]設問別調査結果(到達状況の「◎」は「十分達成」、「▼」は「要努力」を示す。)

問題番号	出題の趣旨	内容・領域等			評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題	正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成	到達状況
		聞くこと	読むこと	書くこと	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	選択式	短答式	記述式						
1	(1)①	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			98.1	0.3	75	55	◎
1	(1)②	強勢、イントネーション、区切りなどに気を付けて、音声を的確に聞き取る	○					○	○			92.1	0.3	75	55	◎
1	(2)	聞いて得た情報とグラフから読み取った情報を関連付けながら理解する	○				○		○			93.5	0.3	65	45	◎
2	(1)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			87.5	0.4	65	45	◎
2	(2)	対話を聞いて、適切に応じる	○				○		○			73.8	0.4	65	45	◎
3		まとまりのある英語を聞いて、話し手が伝えたいことや聞き手として必要な情報を理解する	○				○		○			96.9	0.3	65	45	◎
4	(1)	対話を聞いて、複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○				○		○		○	43.4	0.8	60	40	
4	(2)	対話を聞いて、複数の必要な情報を関連付けながら理解する	○				○		○		○	75.5	0.6	60	40	◎
5		対話文を読んで、大切な部分を正確に理解する		○			○		○			71.8	0.7	60	40	◎
6	(1)	説明文を読んで得た複数の情報と図表から読み取った情報を関連付けながら理解する		○			○		○			90.3	0.7	65	45	◎
6	(2)	説明文を読んで、大切な部分を理解する		○			○		○			74.2	0.7	60	40	◎
7	(1)	対話文を読んで、大切な部分を理解する		○			○		○			78.7	0.7	60	40	◎
7	(2)	対話文を読んで、大切な部分を理解する		○			○		○			72.0	0.9	60	40	◎
7	(3)	対話文を読んで、話がどのように展開していくのか、大まかな流れを理解する		○			○		○		○	69.3	0.9	55	35	◎
8	(1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○	67.6	10.5	75	55	
8	(2)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く			○			○			○	30.8	16.9	70	50	▼
9	(1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○	48.2	1.5	70	50	▼
9	(2)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○	63.2	1.7	70	50	
9	(3)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く			○			○			○	30.0	2.1	70	50	▼
10	(1)	前後の関係に注意して一文を書く			○	○			○			57.5	0.9	65	45	
10	(2)	前後の関係に注意して一文を書く			○	○			○			52.8	1.0	65	45	
11	(1)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○	75.0	8.8	75	55	◎
11	(2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○	39.4	14.8	65	45	▼
11	(3)	質問の答えを適切な表現を用いて書く			○	○		○			○	28.3	13.9	65	45	▼
12		テーマについて、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く			○	○					○	45.3	16.6	55	35	

(2) 調査結果の分析 (「○」は成果、「●」は課題、()内は関係する設問を示す。)

① 全体の概要

- 中学1年生及び中学2年生の教科全体正答率は、「十分達成」の基準を共に上回っている。
[グラフ1、グラフ8]
- 中学1年生及び中学2年生の評価の観点「理解の能力」は、「十分達成」の基準を共に上回っており、評価の観点「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ5、グラフ12]
- 中学1年生及び中学2年生の内容・領域「聞くこと」「読むこと」では、「十分達成」の基準を共に上回っており、内容・領域「書くこと」は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ6、グラフ13]
- 平成26年度[12月調査]において課題として挙げられていた「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問においては、平成27年度[12月調査]では、中学1年生で「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。中学2年生では、一般動詞を含む「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問が、「おおむね達成」の基準を下回っており、引き続き課題が見られる。[表1、表2]

② 中学1年生

- 評価の観点「理解の能力」の正答率は78.9で、「十分達成」の基準65.4を13.5ポイント上回っている。評価の観点「表現の能力」「言語や文化についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を上回っている。[グラフ5]
- 内容・領域「聞くこと」「読むこと」は、「十分達成」の基準を共に上回っており、内容・領域「書くこと」の正答率は55.6で、「おおむね達成」の基準47.5を8.1ポイント上回っている。[グラフ6]
- 内容・領域「書くこと」の「活用」に関する問題である「テーマについて、内容的にまとまりのある一貫した文章を書くこと」を問う設問の正答率は65.4で、「十分達成」の基準60.0を5.4ポイント上回っている。[表1] (1年生問13)
- 内容・領域「書くこと」において、「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表1] (1年生問9(1)、(2))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
1年生 問9 (1)	疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書く (記述式)	be動詞を含む現在形の平叙文を、対話の流れに応じて疑問文にする。	38.8	12.5	75.0	55.0
1年生 問9 (2)		一般動詞を含む3人称単数現在形の平叙文を、対話の流れに応じて疑問文にする。	46.7	12.2	70.0	50.0

- ・ 誤答・無解答の原因として考えられること
対話の流れの中で平叙文を疑問文に変えることに気付くこと、あるいは、疑問文の構造の理解に課題があったと考えられる。be動詞を含む文の構造と一般動詞を含む文の構造の理解があいまいになっていることが考えられる。
- ・ 改善・充実に向けて
学習した文法事項については、実際のコミュニケーションの中で文法の操作ができるよう

に授業を仕組む。また、誤りについては、習得が進む中で起こり得るものと捉え、誤りの質に応じたフィードバックを行う。具体的には、次のような指導が効果的である。

i 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。

ii 活動例として、クイズショーが挙げられる。クイズショーには1人称と2人称でやりとりを行う **What am I?** と3人称でのやりとりの必然性を仕組む **Who is ○○?** がある。まずは、**What am I?** でクイズショーに慣れさせ、段階的に **Who is ○○?** に移行していく。手順としては、

1) 発表者が **He is 129.3 cm tall. He sleeps in the closet. He always helps his friend. Can you guess?** などのクイズを出題する。

2) 聞き手が、情報を聞き出すために **Is he a student? What color does he like? Does he like dorayaki?** などの質問を行う。

3) 発表者は、質問に応答する。

4) 最後に、聞き手が **Is he ○○?** などと質問してクイズの答えを当てる。

グループ対抗などで制限時間を設定して行うと活動が活性化する。また、帯学習として短時間で繰り返し継続的に行うのが望ましい。

iii 学習した文法事項を活用する際、慣れ親しんだ既習事項や日本語が影響することがある。音声練習によって慣れ親しんだために強い音声結合を起こして生じる誤り、言語形式が影響を及ぼす誤り及び日本語の影響による誤りなどである。何が要因となっているのかを考え、音声による指導、文字の確認及び日本語と対比させての指導などを丁寧に行っていく。

③ 中学2年生

○ 評価の観点「理解の能力」の正答率は77.2で、「十分達成」の基準61.7を15.5ポイント上回っている。評価の観点「表現の能力」「言語・文化についての知識・理解」は、「おおむね達成」の基準を共に上回っている。[グラフ12]
○ 内容・領域「聞くこと」「読むこと」は、「十分達成」の基準を共に上回っている。内容・領域「書くこと」の正答率は48.9で、「おおむね達成」の基準47.7を1.2ポイント上回っている。[グラフ13]
● 内容・領域「書くこと」において、「対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書くこと」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。[表2] (2年生問9(1)、(3))
● 内容・領域「書くこと」において、「質問の答えを適切な表現を用いて書くこと」を問う設問は、「おおむね達成」の基準を下回っており、課題が見られる。(2年生問11(2)、(3))

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
2年生 問9 (1)	対話文を読んで、語と語のつながりに注意して正しい語順で書く (記述式)	対話の流れを理解し、疑問詞を含む疑問文を正しい語順で書く。	48.2	1.5	70.0	50.0
2年生 問9 (3)		対話の流れを理解し、不定詞を含む平叙文を正しい語順で書く。	30.0	2.1	70.0	50.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

(1)については、What do you like sport? という誤答例が考えられる。(3)については、want と went を混同して、went to の後に動詞 study を書いたと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

語順や修飾関係などにおける英語と日本語の違いに配慮しながら、関連のある文法事項についてはより大きなカテゴリーとして整理して理解させたい。また、学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。具体的には次のような指導が効果的である。

- i 文法事項は一方的な説明を行うのではなく、生徒とのやり取りの中で言語への気付きを促すようにする。その際、関連のある文法事項と合わせて整理をする。
- ii 学習した文法事項を活用する言語活動を仕組み、活動の中で生じた誤りについては、全体や個への適切なフィードバックを行う。
- iii 使用場面に配慮した活動例として、Small Output 活動の一つである Read Between the Lines and Write がある。生徒は、本文音読終了後、本文の行間を読み取り、対話文が自然な流れになるように英文を書き加える。行間には、つなぎ言葉や相づち、相手の発話を促すような表現及び質問への応答に更に一文を加えるなどして、対話文がより豊かになるようにする。

・ 課題が見られる設問について

	出題の趣旨 (問題形式)	設問の内容	県正答率	無解答率	十分達成	おおむね達成
2年生 問11 (2)	質問の答えを適切な表現を用いて書く (記述式)	質問に対する自分自身の答えを3語以上で答える。	39.4	14.8	65.0	45.0
2年生 問11 (3)		質問に対する自分自身の答えを3語以上で答える。	28.3	13.9	65.0	45.0

・ 誤答・無解答の原因として考えられること

自分の日常生活について説明することや体験を踏まえて自分の考えや気持ちを書いて表現することに課題があったと考えられる。

・ 改善・充実に向けて

学習した文法事項は、使用場面に配慮をした上で活用させることが大切である。活動例としては、Chat が挙げられる。教師は既習事項を基に質問カードを準備する。質問内容は生徒にとって身近な内容にする(What sport do you like? What did you do yesterday? など)。手順としては、

- 1) 生徒が、ペアをつくりじゃんけんで勝った方がカードを取りに来る。
- 2) じゃんけんで勝った方から会話を始める。
- 3) 立って会話をを行い、途中4秒くらいの間が空いたら座る。
- 4) 座ってから時間も時間いっぱい会話を続ける(教師は、生徒の実態に応じて時間を設定する)。
- 5) 振り返りカードに何を話したかを記録する。

この活動は毎時間の授業の始めに行い、慣れてきたら、毎回違うパートナーと毎回違う話題で会話を続ける。なお、会話を続けるためには、つなぎ言葉や相づちの表現などを適宜、指導する。詳細については中学校学習指導要領解説外国語編〔言語の働きの例〕を参照する。

(3) 改善のポイント

① 文法指導は、使用場面と言語の働きを十分に理解させた上で言語形式への気付きを促し、習得していく段階で起こる誤りについては適切にフィードバックを行うこと

- ・ 新出の文法事項を指導する際には、言語形式の説明で終わらないようにする。生徒は、使用場面と言語の働きの理解があつて初めて意味を理解することができ、その文法事項が必要であることが分かる。場面設定では、生徒が興味をもつ話題を選ぶ。生徒にとってなじみのある生活の一場面や地域の特徴及び旬な話題を利用する。学習した文法事項を活用する必然性をもたせるような仕掛けを取り入れることもポイントである。
- ・ 「疑問文の構造を理解し、語と語のつながりに注意して正しく書くこと」を問う設問で、課題となった3つの設問の共通点は、対話文中で3人称に関わる文法の操作ができるかということである。中学2年生の同じ趣旨の設問でも2人称に関わるものについては「おおむね達成」の基準を上回っていることから、ペアによるQ&A形式の言語活動は充実しているものの、第三者について言及するための場面設定やグループによる言語活動が不足していることが考えられる。以上のことから、即興で話す対話形式の活動を、学習形態の工夫を含めて系統立てて行っていくことが求められる。また、be動詞と一般動詞を混同した誤答については、音声練習の結果による音声結合の影響、既習事項の影響及び日本語の影響などを整理した上で、音声による指導、文字による構造の確認を丁寧に行う。誤りに対しては寛容な姿勢で、使わせながら適切にフィードバックする。

② 英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるよう工夫すること

- ・ 文法事項を指導する際には、まず、関連する既習の文法事項を提示する。次に、生徒に既習の文法事項を意識させてから新出の文法事項を提示する。そうすることで、生徒は既習の文法事項と新出の文法事項を対比して、それぞれの形式、意味及び機能の違いに気付く。教科書では、関連する文法事項が順番に連続して配列されているわけではないので、教師自身が3年間で指導する文法事項を頭に入れておく必要がある。その上で、関連する文法事項を適宜、まとめて整理して体系的に理解させるようにする。
- ・ 例えば、修飾構造に関して言えば、3年間で学習する名詞の修飾は、以下のようなものがある。まず、**a white dog**、**a big white dog** など、形容詞1語や2～3語による日本語と同じ語順の前置修飾を学習する。次いで、現在分詞や過去分詞が1語の場合も、前述したものと同様に **a running dog** のような前置修飾として学習する。後置修飾の構造になっているものは、1年生では **a dog in the yard** のような前置詞句、2年生では **a dog to feed** のような to 不定詞を用いた動詞句、3年生では **a dog running in the yard**、**a dog loved by children** のような現在分詞や過去分詞を用いた動詞句を学習する。3年生の最後には、**the dog I saw in the town**、**a dog that leads a blind person** など、より複雑で長い修飾を可能にする接触節や関係代名詞を用いた節による後置修飾の構造を学習する。関係代名詞については、2文を1文にするという指導法や練習が広く行われてきたが、「どんな犬なのか」という「修飾」の視点をもたせることで、名詞の修飾について体系的に理解させることができる。既習の文法事項と新出の文法事項を黒板で対比させながら口頭による英作文に取り組みせたり、既習の文法事項については、教科書を使って確認させたりする。時間制限をすると活動が活性化する。教科書は前の学年で使用したものも持たせておき、常に振り返りができるようにしておくといよい。前の学年の教科書の準備が難しければ、ワークシートを工夫するなどして、教科書を参照できるようにする。

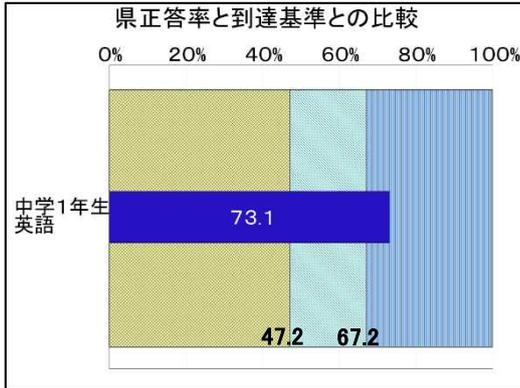
◎ ぜひ ご活用ください！ → [ここをクリック](#)

佐賀県教育センターでは、「4技能『聞く・話す・読む・書く』を関連付けた中学校英語科学習指導の工夫」という研究テーマで、「書くこと」の指導の充実を目指した授業実践を提案しています。また、3月末には、プロジェクト研究で取り組んだ「読むこと」を軸とした授業改善について、Web アップする予定です。ぜひ、ご活用ください。

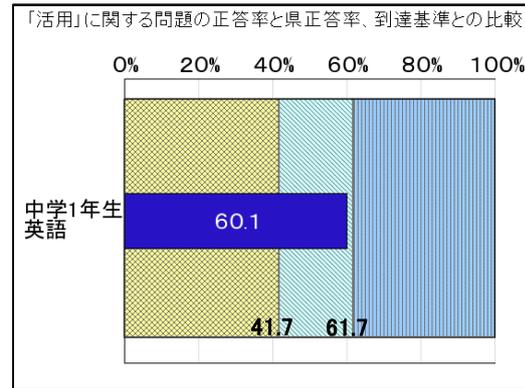
<資料>

① 中学1年生

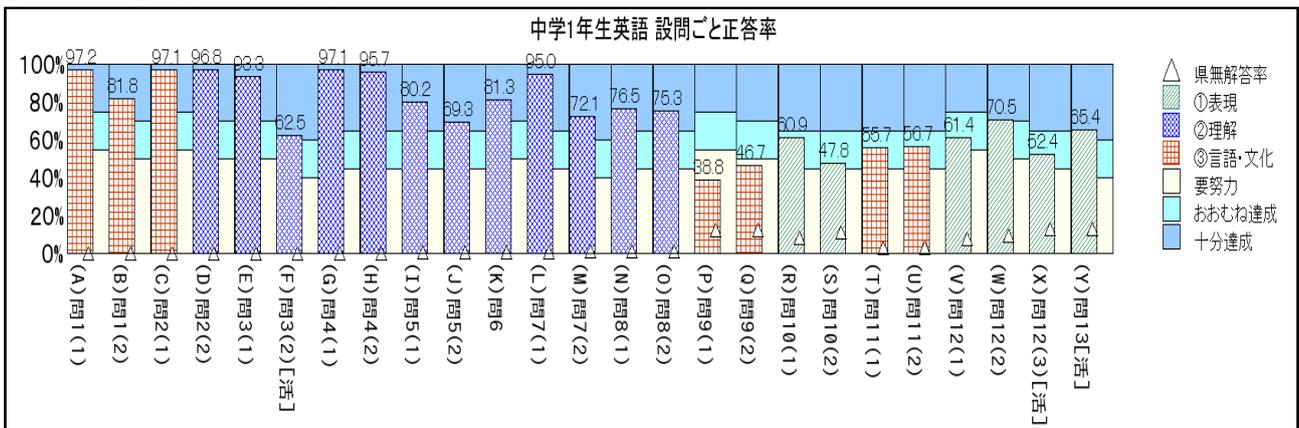
[グラフ1] 教科全体正答率



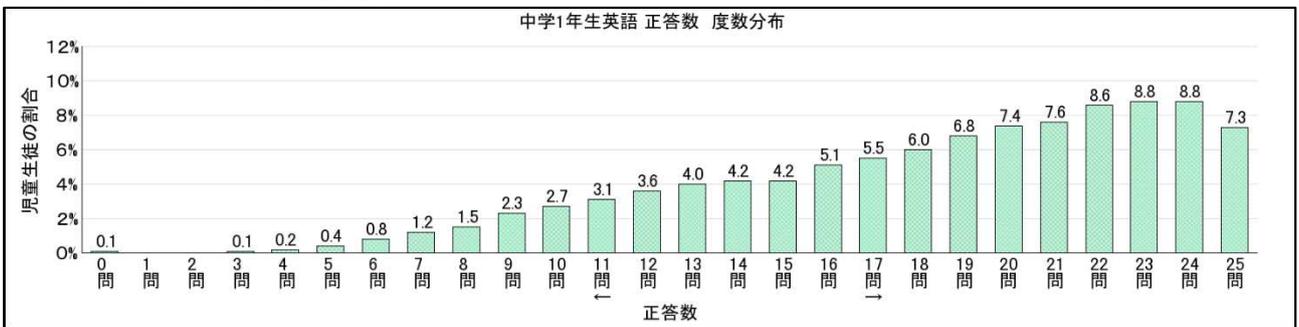
[グラフ2] 「活用」に関する問題の正答率



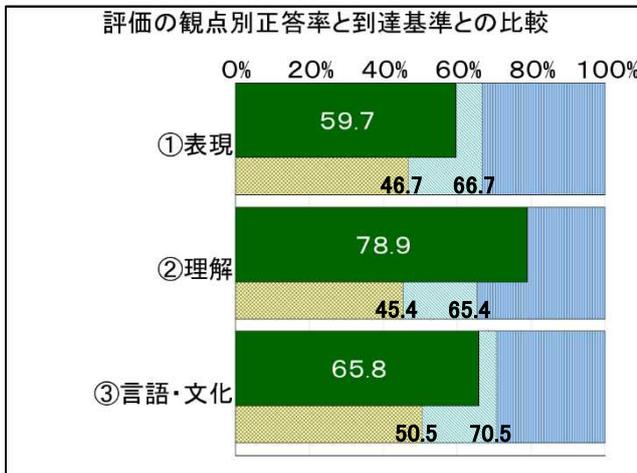
[グラフ3] 設問ごと正答率



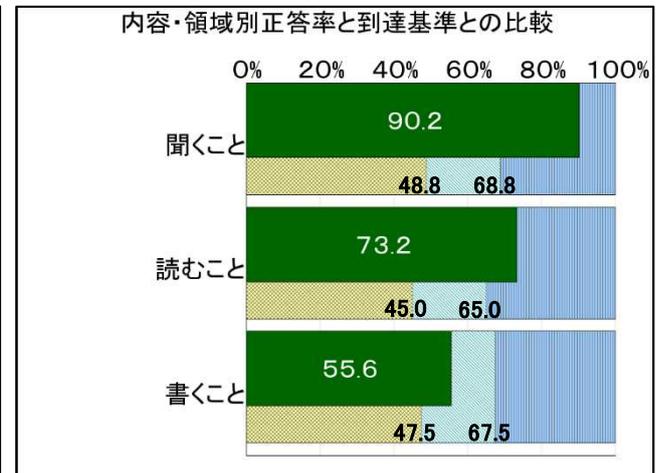
[グラフ4] 教科正答数度数分布



[グラフ5] 評価の観点別正答率

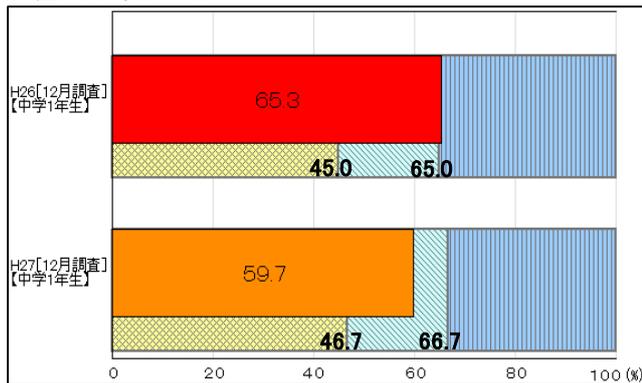


[グラフ6] 内容・領域別正答率

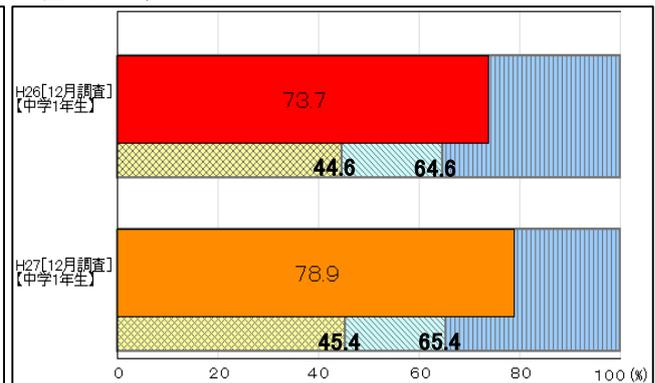


[グラフ7] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

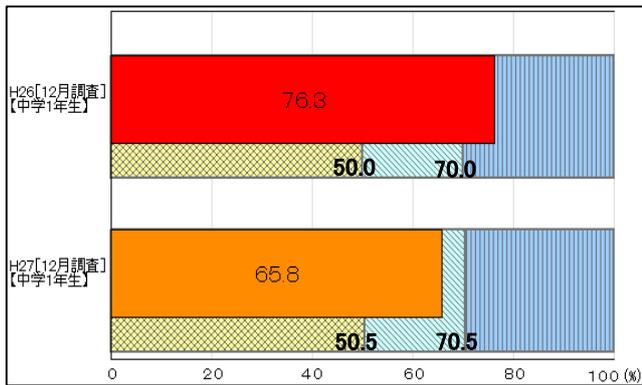
外国語表現の能力



外国語理解の能力

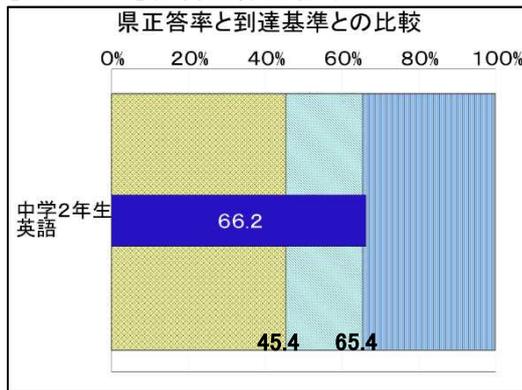


言語や文化についての知識・理解

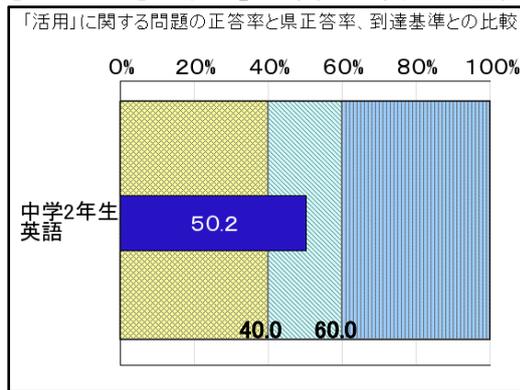


② 中学2年生

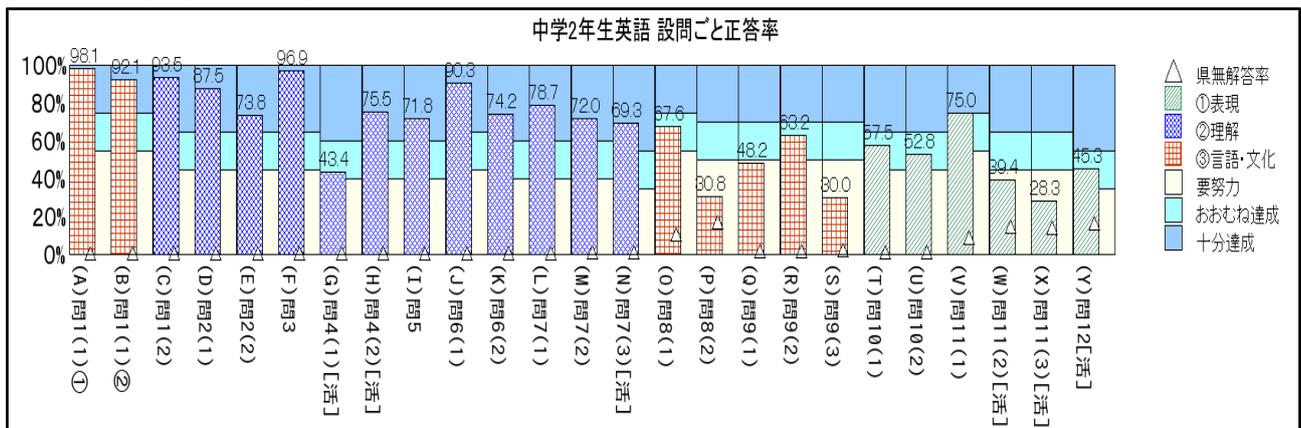
[グラフ8] 教科全体正答率



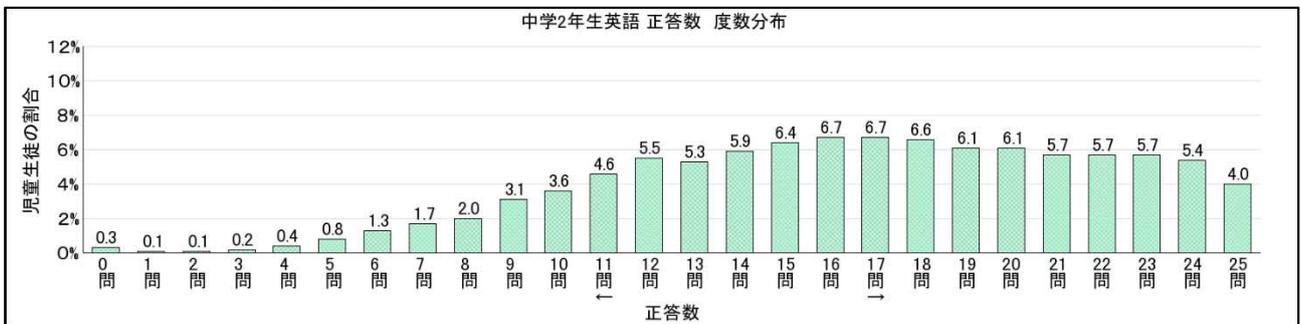
[グラフ9] 「活用」に関する問題の正答率



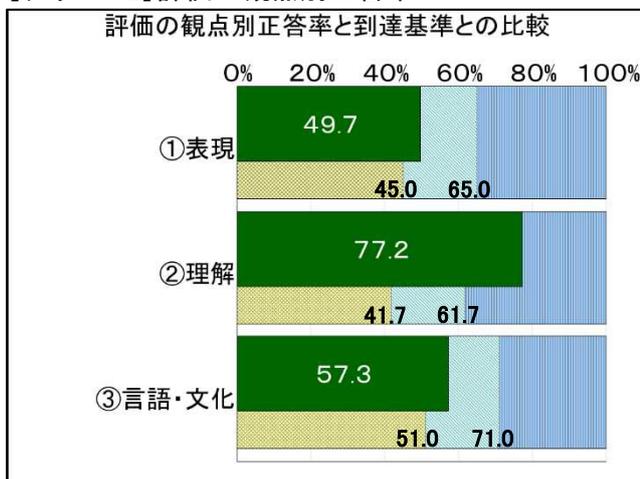
[グラフ10] 設問ごと正答率



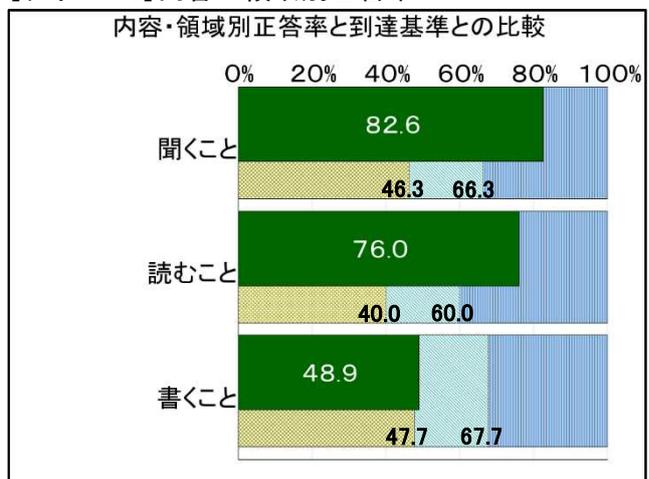
[グラフ11] 教科正答数度数分布



[グラフ12] 評価の観点別正答率



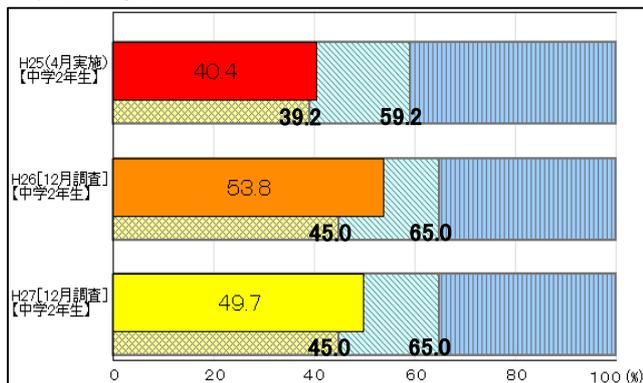
[グラフ13] 内容・領域別正答率



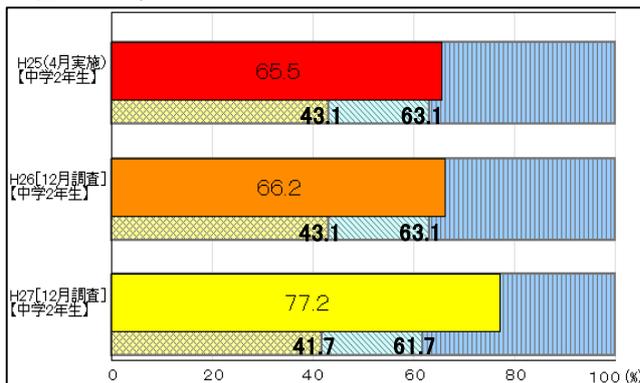
[グラフ 14] 評価の観点別正答率の推移(同一学年)

※ 平成 25 年度(4 月実施)は、中学 1 年生までの内容で調査。

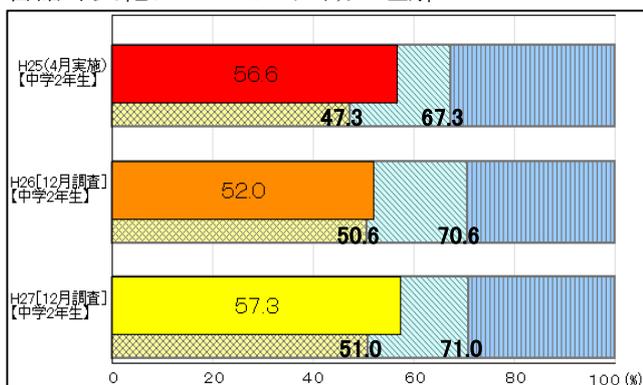
外国語表現の能力



外国語理解の能力

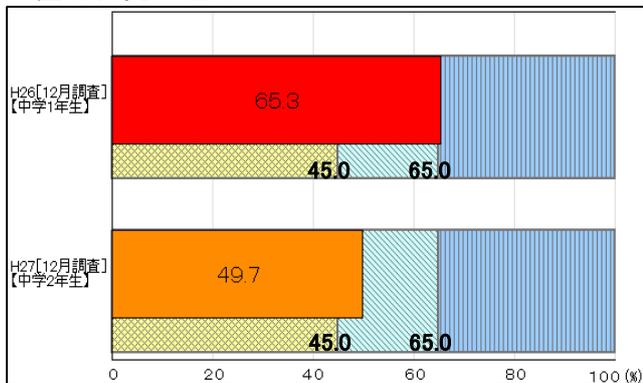


言語や文化についての知識・理解

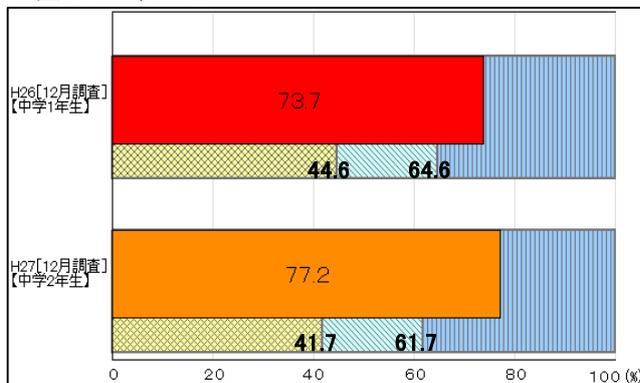


[グラフ 15] 評価の観点別正答率の推移(同一生徒)

外国語表現の能力



外国語理解の能力



言語や文化についての知識・理解

